

HP OpenView Performance Insight

管理ガイド

ソフトウェアバージョン : 5.1.1

HP-UX、Linux、Solaris、Windows オペレーティングシステム用



Manufacturing Part Number: J5223-99038

2005 年 6 月

© Copyright 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company

United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

Copyright Notices

© Copyright 1992 -2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Trademark Notices

HP、Hewlett-Packard Company、および HP のロゴは Hewlett-Packard Company の商標または登録商標です。Microsoft®、Windows®、MS Windows®、Windows NT® は、Microsoft Corporation の米国の登録商標です。Oracle® は Oracle Corporation, Redwood City, California の米国の登録商標です。

その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承認されています。

原典

本書は『*HP OpenView Performance Insight Administration Guide Software Version: 5.1 Service Pack 1*』 Manufacturing Part No. J5223-90038 (March 2005) を翻訳したものです。

リビジョン

このドキュメントのタイトルページにあるバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示しています。このタイトルページにある印刷日付は、このドキュメントが更新されるたびに変更されます。

該当する製品サポートサービスをご契約になれば、更新版または新しい版を受け取ることができます。詳細については、HP にお問い合わせください。

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://openview.hp.com/> (英語)

<http://www.hp.com/jp/openview/> (日本語)

これらのサイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。

直接、以下のサポートサイトにアクセスすることもできます。

<http://support.openview.hp.com/>

HP OpenView のオンラインソフトウェアサポートでは、お客さまが自己解決できるための方法をご提供しています。サポートサイトでは、お客さまのビジネスの運用に役立つ対話形式の技術サポートツールに手早く効率的にアクセスできます。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースを登録 / トラッキングする
- サポート契約を管理する
- HP サポートの問合わせ先を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のお客様とのディスカッションに参加する
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次の URL で確認してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport ID のご登録は、次の URL で行ってください。

<https://passport.hp.com/hpp2/newuser.do> (英語)

目次

第 1 章	Performance Insight の概要	19
	OVPI の動作のしくみ.....	19
	データ収集機能.....	21
	収集するデータの種類の決定.....	21
	収集するデータのソースの決定.....	22
	レポートの準備.....	23
	ポーリングパラメータ.....	24
	データ処理機能.....	24
	データレポート機能.....	25
	OVPI レポートパックの使用.....	26
	カスタムレポートの作成.....	27
第 2 章	OVPI の設定	29
	インストール後の設定作業.....	29
	その他の設定作業.....	38
	ユーザーアクセスの設定.....	38
	ユーザーアカウントの作成.....	39
	フィルターを持つユーザーグループの作成.....	41
	データベースの変更の管理.....	44
	SNMPv3 ノードからのデータ収集.....	44
	SNMPv3 ノードの設定.....	46
	brass_v3_seed ユーティリティの使用.....	46
	SNMPv3 ノードのインポート.....	47
	コミュニティ文字列プロファイルの作成.....	48

タイプグループへのノードの割り当て.....	49
SNMPv3 ノードに対応するためのリモートポーラーの設定.....	50
分散型構成の設定	50
リモートポーラーに対応するためのポーリングポリシーの設定.....	50
ポーリングシステムの変更.....	51
複数のポーラー用の新しいポリシーの作成	52
第 3 章 インストールした OVPI の管理	57
インストール後の管理作業	57
OVPI が動作していることの確認.....	58
レポートのスケジュール設定.....	59
ユーザーアカウントの変更.....	60
ユーザーグループの変更	60
ユーザーグループフィルターの変更	61
ユーザーグループフィルターの削除	62
毎日実行する管理作業.....	63
データのステータスの確認.....	63
毎週実行する管理作業.....	63
Oracle データベースのバックアップ	63
不定期に実行する管理作業	64
システムのバックアップ	64
OVPI のプロセスの開始および停止.....	65
Windows でのプロセスの開始および停止	65
サービスの開始.....	66
UNIX でのプロセスの開始および停止.....	67
OVPI データベースの再配置の確認.....	68
HTTP プロキシまたはポータル環境での OVPI のセットアップ.....	69
例 : Apache プロキシサーバーのセットアップ.....	75
第 4 章 管理コンソールの使用	77
管理コンソールの起動.....	79
UNIX システム.....	79
Windows システム	79

ログオン	80
[管理コンソール] インタフェース	81
メニューバー	82
[ファイル] メニュー	83
[編集] メニュー	83
[ツール] メニュー	84
[ウィンドウ] メニュー	85
[ヘルプ] メニュー	85
ツールバー	86
データベースサーバーの変更	87
ユーザー設定の保存	87
オンラインマニュアルの表示	89
第 5 章	
ネットワークの検出	91
検出プロセスの使用	92
SNMP 検出ウィザードの使用	92
タイプ検出プロセスの使用	100
タイプ検出ウィザードの起動	100
第 6 章	
レポートパックのインストール	103
パッケージの概要	104
レポートパック	104
データパイプ	104
レポートパックとデータパイプの依存関係	105
[パッケージマネージャ] の起動	105
Windows デスクトップ	105
OVPI 管理コンソール (UNIX および Windows)	105
コマンド行 (UNIX および Windows)	106
パッケージのインストール	107
パッケージのアンインストール	115
第 7 章	
ポーリングポリシーの管理	119
ポーリングストラテジ	120
ポーリンググループ	121

ポーリング頻度.....	122
指定インスタンスポーリング.....	123
ポーリングポリシーマネージャの起動.....	124
機能の表示.....	125
列のソート.....	125
列のサイズの変更.....	126
ポリシーリストの更新.....	126
項目の選択.....	126
ポーリングポリシーの表示.....	127
現在のポーリングポリシーの表示.....	127
収集の作成.....	128
ポーリングポリシーの作成.....	151
ポーリングポリシーの編集.....	154
ポーリングポリシーの削除.....	156
ポーリンググループの管理.....	157
ポーリンググループの作成.....	159
単一ノードのグループの作成.....	159
同じタイプのすべてのノードグループの作成.....	160
同じビューにあるすべてのノードグループの作成.....	161
タイプとビューの組み合わせグループの作成.....	162
特定のインスタンスグループの作成.....	164
ポーリンググループの編集.....	167
ノードの管理.....	168
ノードの検索.....	169
ノードの作成.....	169
ノードの編集.....	171
ノードの削除.....	171
ノードのインポート.....	172
インポートファイルの作成.....	172
ファイルのインポート.....	175
コミュニティ文字列プロファイルの管理.....	176
コミュニティ文字列プロファイルの作成.....	177
コミュニティ文字列プロファイルの編集.....	177

コミュニティ文字列プロファイルの削除.....	178
SNMP プロファイルの管理.....	179
SNMP プロファイルの作成.....	179
SNMP プロファイルの編集.....	180
SNMP プロファイルの削除.....	181
データパイプのインストールの管理.....	182
データパイプのインストールの作成.....	182
データパイプのインストールの編集.....	183
データパイプのインストールの削除.....	184
プロパティテーブルの値の変更.....	184
第 8 章	
管理対象オブジェクトの管理	189
管理対象オブジェクトの表示.....	190
オブジェクトのビューの変更.....	192
特定のオブジェクトの検索.....	193
ログ情報の表示.....	194
オブジェクトツリーの表示の変更.....	195
ノードのインポート.....	198
インポートファイルの作成.....	198
ファイルのインポート.....	198
ノードのエクスポート.....	198
フォームの使用.....	199
データベースの変更.....	199
新しい管理対象オブジェクトの作成.....	200
第 9 章	
管理対象オブジェクトのグループ化	203
グループのタイプ.....	204
グループ化の方法.....	205
ノードのグループ化.....	205
その他の管理対象オブジェクトのグループ化.....	206
グループカテゴリ.....	206
管理対象オブジェクトグループの表示.....	206
グループビューの変更.....	208
特定グループの検索.....	209

グループの作成	210
列挙リストグループの作成	211
派生グループの作成	212
プロパティグループの作成	214
フォルダーグループの作成	217
グループのインポート	219
グループのエクスポート	219
グループの管理	220
グループの表示	220
グループの編集	221
グループの削除	223
ログ情報の表示	223
表示オプションの設定	224
グループポーリングポリシーの管理	225
グループポーリングポリシーの作成	225
グループポーリングポリシーの変更	228
ポーリングポリシーの削除	229
ポーリングポリシービューの変更	229
レポートでのグループの使用	230
第 10 章 システムの管理	231
システム/ネットワークの管理アプリケーションの起動	232
[システム/ネットワークの管理] ウィンドウ	233
システム情報の表示	234
表示ペインにおける Web アクセスサーバーの表示の変更	236
詳細表示の変更	236
Web アクセスサーバーシステムの管理	237
Web アクセスサーバーの追加	238
Web アクセスサーバーのプロパティの表示および変更	241
Web アクセスサーバーの同期化	245
Web アクセスサーバーの変更	246
Web アクセスサーバーの削除	246
データベースの管理	247
データベースの追加	247

データベースプロパティの表示	249
データベースの初期化パラメータの変更	252
データベースサイズの拡張	253
データベースコンポーネントのサイズ設定のガイドライン	253
データベースのサイズの拡張	254
データベースサーバーの変更	257
第 11 章 保持期間テーブルの管理	259
テーブルマネージャの起動	260
データベースの情報と統計の表示	261
データベース情報の表示	261
データベース統計の表示	262
データベースの使用状況の監視	263
テーブル情報の表示	263
表示機能	264
情報のソート	264
列のサイズの変更	264
情報の更新	264
エイリアス名の検索	264
データテーブルのタイプ別またはカテゴリ別での表示	265
プロパティテーブルの表示	267
テーブル列の表示の変更	268
データと内部テーブルの詳細の表示	269
データテーブルの情報の表示	270
データテーブルの保存期間の設定	271
データテーブルの説明の追加	271
データテーブルの情報の表示	272
データテーブルのインデックス情報の表示	273
プロパティテーブルの詳細の表示	274
プロパティテーブル情報の表示	275
プロパティテーブルの説明の追加	275
プロパティテーブルの列情報の表示	276
プロパティテーブルのインデックス情報の表示	277

テーブルデータの表示.....	277
レポートの表示.....	278
メニューの使用.....	279
データの管理.....	281
テーブルデータの印刷.....	281
テーブルデータの保存.....	282
テーブルデータのエクスポート.....	284
データのフォーマット設定.....	285
統計のフォーマット設定.....	285
セルのフォーマット設定.....	286
列のフォーマット設定.....	288
行のフォーマット設定.....	290
テーブルクエリの変更.....	291
統計の選択.....	291
レポート内のデータのソート.....	291
期間の変更.....	293
制約の追加.....	295
制約値の変更.....	299
制約の変更.....	300
制約および句の削除.....	300
ノードとインタフェースの選択.....	300
返される最大行数の変更.....	303
テーブルの作成.....	304
データテーブルの作成.....	304
プロパティテーブルの作成.....	319
テーブルのデフォルトの設定.....	321
データテーブルのデフォルトの設定.....	322
期間テーブルのデフォルト.....	323
表示オプションの設定.....	324
第 12 章 カタログマネージャの使用.....	327
カタログマネージャの起動.....	328
[カタログ/レポートリンクの管理] ウィンドウ.....	329

[配布済み項目] カタログの管理	330
レポートの配布	330
レポートの配布解除	336
[削除] メニューオプションによるレポートの配布解除	336
[レポートの配布] ウィザードによるレポートの配布解除	336
URL の配布	338
カタログ内のディレクトリの新規作成	339
レポートおよびディレクトリの移動	339
レポートおよびディレクトリのコピー	340
ディレクトリプロパティの表示および変更	341
配布項目プロパティの表示および変更	342
レポートプロパティの表示および変更	342
URL プロパティの表示および変更	344
レポートおよび URL の削除	344
カタログの更新	345
[リンク] カタログの管理	345
リンクグループの作成	345
レポートリンクの作成	347
レポートからレポートへのリンク	347
レポートからアプリケーションへのリンク	356
レポートから URL へのリンク	362
レポートリンクを開く	369
表示ペインでのリンクの変更	371
リンクのコピー	372
リンクの移動	373
リンクの削除	373
リンクのプロパティの表示と変更	373
リンクのエクスポートとインポート	375
リンクグループのエクスポート	375
リンクのインポート	376
リンクカタログの更新	376

第 13 章	Web アクセスサーバーの使用	377
	Web アクセスサーバーへのアクセス	378
	Web アクセスサーバーの概要	380
	[管理] リンク	381
	[ユーザーアカウント]	382
	[サービスの構成]	383
	[診断]	384
	[ログファイル]	385
	[Java の設定]	386
	[配布済み項目]	387
	[カタログ] リンク	389
	ユーザーアカウントの管理	391
	パスワードの有効期限ルール有効期限ルールの設定	392
	ユーザーアカウントの作成	394
	ユーザーアカウントの変更	398
	ユーザーアカウントの削除	399
	ユーザーアカウントに電子メールを送信	399
	ユーザーグループの管理	400
	ユーザーグループとは	401
	ユーザーグループの作成	401
	ユーザーグループの変更	405
	ユーザーグループの削除	405
	ユーザーグループのフィルターの作成	406
	ユーザーグループのフィルターの変更	407
	ユーザーグループのフィルターの削除	408
	例: グループを使用したデータのフィルタリング	408
	Diagnostics の表示	411
	ログファイルの設定の変更	412
	ログファイルの表示	414
	Java 設定の変更	415
	配布項目の設定の変更	416
	ビューの作成	419
	ビューの作成	420

ビューの変更	422
Web アクセスサーバーの外観の変更	423
サイトのオプションの変更	423
リンクバーのオプションの変更	424
リンクバーの別名の変更	426
ナビゲーションフレームのオプションの変更	428
結果フレームのオプションの変更	429
レポートの配布	430
サービスの設定の変更	431
Web アクセスサーバー設定の変更	432
管理者権限のリセット	435
SSL サービス設定の変更	436
デジタル証明書のインポート	439
証明書署名要求 (CSR) の生成	439
署名入りデジタル証明書のインポート	440
システムマネージャの設定の変更	441
[Performance Insight システム] ページの表示	441
デフォルトシステムの変更	442
システムの追加	442
システムの設定の変更	445
システムの削除	449
メールサーバーの設定の変更	449
グラフの X 軸の時刻フォーマットの変更	451
第 14 章 システムの調整	455
ハードウェアでの検討事項	455
プロセッサのタイプとクロック速度	456
プロセッサの数	456
メモリー	456
共有メモリー/スワップファイルのサイズ	457
ディスクドライブのインタフェース	458
物理ディスクデバイスの数	459
オペレーティングシステムのパラメータの設定	460

Oracle パラメータの設定.....	460
第 15 章 MIB の管理	461
MIB ブラウザの起動.....	462
MIB ブラウザウインドウ	464
ナビゲーションペイン.....	465
表示ペイン.....	465
メニューバーとツールバー.....	467
[ファイル]メニュー.....	468
[表示]メニュー.....	468
[アクション]メニュー.....	469
[ヘルプ]メニュー.....	469
MIB のロード.....	470
考慮すべき問題.....	470
MIB ツリーの最上位を含める.....	470
オブジェクトタイプを検証する.....	471
MIB のロード.....	472
MIB のアンロード.....	475
SNMP データのクエリ.....	476
ノードの設定.....	477
コミュニティ文字列の設定.....	477
MIB マップでのグループまたはオブジェクトの検索	477
データの表示.....	479
SNMP 値の設定.....	481
収集テーブルの作成.....	482
収集テーブルの機能.....	482
SNMPv1 における 64 ビット値.....	483
収集テーブルの要件.....	484
収集テーブルの作成.....	485
第 16 章 ログファイルの解釈	501
OVPI ログファイル.....	501
ログファイルの表示.....	503
ログファイルのメッセージフォーマット.....	503

timestamp	504
time_zone	504
GMT_offset	504
appl_name	505
module_name	505
severity	505
process_ID	506
parent_proc_ID	506
message_ID	506
message	506
ログファイルメッセージの例	506
WARNING と INFO メッセージ	506
ERROR メッセージ	507
audit.log ファイル	507
ログファイルのフォーマット	507
metrics.log ファイル	510
ログファイルのフォーマット	510
mw_collect メッセージ	512
bcp_gateway メッセージ	513
trendcopy メッセージ	514
builder.log ファイルと viewer.log ファイル	515
付録 A	
トラブルシューティング	517
OVPI クライアントアプリケーション	517
Oracle がサービス名を解決できない	517
Web アクセスサーバーのナビゲーションフレームの表示	519
website.log ファイルに Java スタックトレースのエントリーがある	520
Web アクセスサーバーのヘルプが正しく表示されない	520
索引	521

以下では各機能について説明します。

- データ収集

この機能は、ネットワーク内のノード（ネットワークデバイスまたはシステム）を認識し、それらのノードを直接ポーリングするか、または各ノードで抽出されたフラットファイルをインポートすることで、ノードからデータを取得します。フラットファイルとは、ノードの履歴情報であり、ノード自体の内部に格納されており、ネットワークデバイスユーティリティによって定期的に生成されます。いずれの場合も、収集されたデータはシステムによってデータベースに保存されます。詳細は、[21 ページの「データ収集機能」](#)を参照してください。

- データ処理

この機能は、未処理のデータを割合データに変換し、データに対して要約ルーチンを実行し、保持期間を過ぎたデータをデータベースから排除します。要約ルーチンは、割合データを時間単位、週単位、月単位、四半期単位、および年単位のデータに変換します。また、要約ルーチンは予測データも生成します。ユーザーは予測データに基づいて、過去のパフォーマンスから、何が起こる可能性があるかを知ることができます。詳細は、[24 ページの「データ処理機能」](#)を参照してください。

- データレポート

この機能は、要約されたデータからレポートを生成します。この機能は、レポートバックと呼ばれるレポート機能に基づいて、レポートを自動的に生成します。レポートバックは、特定の種類の機能に対応するための、レポートテンプレートとすべてのサポート用ファイルおよびスクリプトを提供するものです。

これらのレポートは、**Web** ベースのインタフェース (**Web** アクセスサーバー)を使用するか、またはクライアントアプリケーション (レポートビューア)を使用して、表示できます。また、もう 1つのクライアントアプリケーション (レポートビルダ)を使用して独自のカスタムレポートを作成することもできます。ただし、この機能を使用する場合は **HP** の担当者にお問い合わせください。詳細は、[25 ページの「データレポート機能」](#)を参照してください。

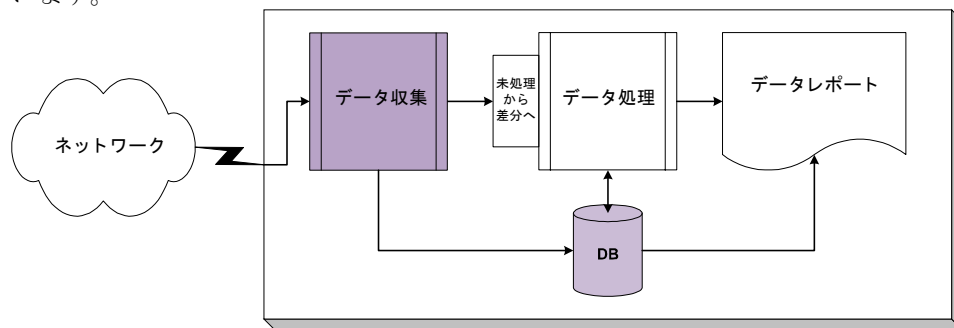
以上の機能の実行はすべて、OVPIの **trendtimer** プログラムによって管理されます。このプログラムは、サービス (Windows)、またはデーモン (UNIX) によって、実行されます。**trendtimer** は、OVPI システムの一部である各種のプロセスを起動します。**trendtimer** の詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語)を参照してください。

データ収集機能

OVPI は、データを収集するときに、どの種類のデータを収集するかに加えて、いつ、どこからデータを収集するかを決定する必要があります。OVPI は、以下のソースからデータを収集できます。

- Simple Network Management Protocol (SNMP) タイプデバイス
- OpenView パフォーマンスエージェント (OpenView Performance Agent および OpenView Operations Agent)
- 非 SNMP デバイス

ここでいう SNMP タイプデバイスは、Remote Monitoring (RMON) デバイスを含んでいます。次の図は、OVPI システム全体におけるデータ収集機能を示しています。



収集するデータの種類の決定

OVPI は、SNMP タイプデバイスから取得されるオブジェクト識別子 (OID) のリストを使用して、どのデータを収集するかを決定します。OID は、定義済みオブジェクトの集まりである管理情報ベース (MIB) テーブル内にあります。これらのテーブルは、レポートパックのインストール時に OVPI によって自動的に提供されます。

独自の収集方法を設定するには、MIB ブラウザを使用するか、または TEEL というデータ定義言語と `datapipe_manager` を使用して、テーブルを定義します。

OVPI は、非 SNMP デバイスからデータを収集するときは、TEEL ファイルを使用してデバイスからのデータをインポートおよび保存します。対応するテーブルとデータの定義ファイルは、レポートパックのインストール時に OVPI によって自動的に提供されます。独自の収集方法を定義する場合は、テーブルマネージャまたは `datapipe_manager` を使用してテーブルを定義できます。すると、適切な収集ツール (たとえば `ee_collect` や `pa_collect`) を使用してデータをインポートできるようになります。独自の機能を設ける場合は、HP の担当者にお問い合わせください。

収集するデータのソースの決定

SNMP タイプデバイスの場合、データはノードから取得します。以下のいずれかの方法で、どのノードをポーリングするかをシステムに知らせることができます。

- **SNMP 検出。** ウィザードを使用してネットワークアドレスの範囲を ping することで、応答元となるノードを検索できます。詳細は、[92 ページの「検出プロセスの使用」](#)を参照してください。
- **ポーリングポリシーマネージャ。** ノードを 1 つずつ入力できます。詳細は、[第 7 章「ポーリングポリシーの管理」](#)を参照してください。
- **node_manager。** このユーティリティを使用すると、既存のノードリストをシステムにインポートできます。この場合は、必要な情報をもとにユーザーが ASCII ファイルを 1 つ作成し、次にこのユーティリティを使用してノードをインポートします。node_manager コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語)を参照してください。

ノードを指定した後はタイプ検出プロセスを使用して、ノードを検索しグループに割り当てることができます。通常、ノードは、レポートパックのデータまたはデバイスの固有のグループに分類されます。このグループをタイプリストと呼びます。ただし、特定のノードセットだけをポーリングする必要がある場合は独自のグループを作成できます。そのようなグループをビューリストと呼びます。ノードリストの定義の詳細は、[159 ページの「ポーリンググループの作成」](#)を参照してください。ポーラーはこれらのリストにあるノードをポーリングし、そのときに取得したデータをデータテーブルに格納します。

SNMP が有効になっている OpenView パフォーマンスエージェントからのデータ収集を有効にするには、SNMP 検出をすることでこれらのノードを検出します。OpenView パフォーマンスエージェントのある非 SNMP 対応システムの場合は、`node_manager` を使用してノードリストをインポートします。

非 SNMP デバイスの場合、データはフラットファイルから取得します。これらのフラットファイルからデータを取得するには、データをインポートする手順を提供する TEEL ファイルを設定する必要があります。TEEL ファイルではまた、これらのファイルからのデータを保存するためのテーブルも定義します。TEEL ファイルを使用すると、SNMP テーブルと非 SNMP テーブルを作成できます。非 SNMP データは、データを正しく収集するために、パフォーマンスマネージャコンポーネントのあるサーバー上に配置する必要があります。一方、SNMP データはソースノードから直接に収集されます。データがデータベースに格納された後は、すべてのデータが、その収集方法に関係なく同様に処理されます。

レポートの準備

レポートパックではプロパティインポートデータパイプが提供されることがあります。これを使用すると、ネットワークに固有の情報を使用してレポートパックを準備できます。このプロセスは、以下のいずれかの方法で、ネットワークに固有の静的データをインポートします。

- スプレッドシートプログラムから、またはファイルを自動生成するネットワーク準備データベースから、独自のフラットファイルを作成する。
- 既存のデータをデータベースからエクスポートする。
- ポーリングポリシーマネージャを使用して、選択したフィールドを対話形式で変更する。

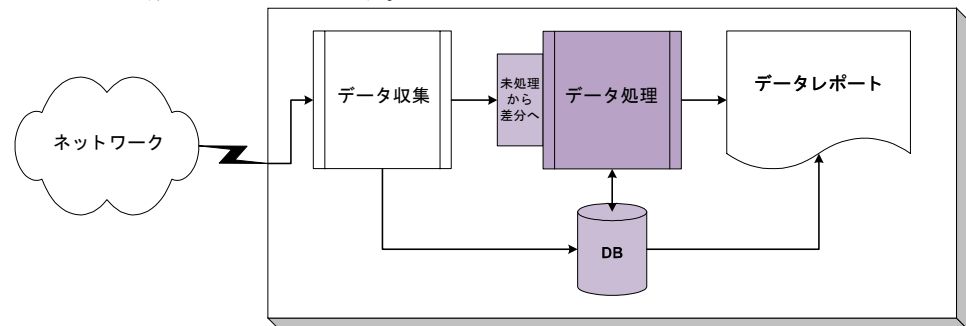
既存のファイルの変更は、初めてのタイプ検出プロセスを実行した後、他の処理を行う前に行うことをお勧めします。この時点でファイルを作成または変更し、そのあと適切な場所にそのファイルをインポートして戻します。これらのファイルの変更およびインポートの手順については、各種レポートパックのマニュアルを参照してください。

ポーリングパラメータ

システムは、ポーリングするノードを特定した後、どのデータをどのくらいの頻度で収集するかを知る必要があります。システムはこれらの指定をポーリングポリシーから取得します。レポートパックにはポーリングポリシーの定義が含まれています。ただし、分散環境をセットアップする場合は、既存のポーリングポリシーを変更しなければならないか、または新しいポーリングポリシーを作成しなければならない場合があります。ポーリングポリシーの詳細は、[第7章「ポーリングポリシーの管理」](#)を参照してください。

データ処理機能

OVPI は、主に時系列データを管理します。したがって、データベースに保存される各レコードには、タイムスタンプが関連付けられている必要があります。また、タイムスタンプに加えて、そのデータに関連付けられた **管理対象オブジェクト** を示すインジケータが、各レコードにあります。典型例は、ルーター、インタフェース、カスタマ、場所などです。次の図は、OVPI システム全体におけるデータ処理機能を示しています。



データが収集されると、システムがレコードにタイムスタンプを割り当て、データをデータテーブルに保存します。そして、システムが未処理データを差分（またはレート）データに変換します。差分データは、時間による2つの値の違いです。

差分データができあがると、続いて集約プロセスが実行されます。集約プロセスでは、システムがデータをソース（入力）テーブルから読み取り、集約した後、宛先（出力）テーブルに保存します。集約プロセスによって、各種の統計情報に対応したさまざまな宛先テーブルが作成されます。統計情報には、時間単位、週

単位、月単位、四半期単位、および年単位の要約があります。また、30日、60日、90日の各予測があり、百分率、および平均があります。レポートパックには、複数の集約を実行するための必要な手順がすべて含まれています。

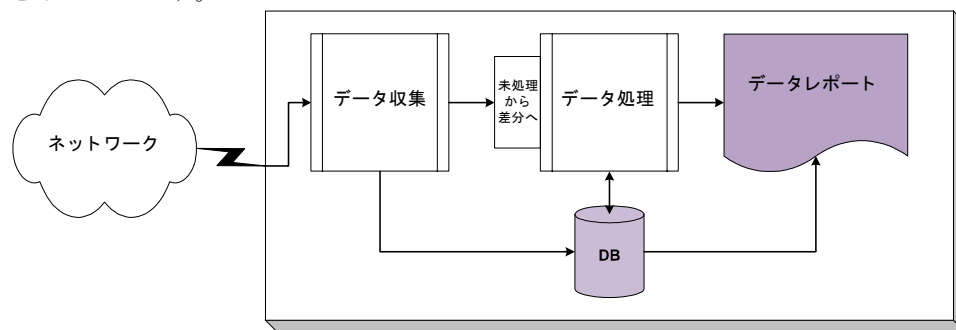
データが過度にテーブルに蓄積するのを防ぐため、OVPIは保持期間を過ぎたデータの排除（エージング）を実行します。エージングには保持期間の概念があります。これは、データをテーブルに保持する日数です。エージングプロセスでは、テーブル内のデータがテーブルに対して指定されている保持期間を超えている場合、そのデータを削除します。テーブルにはそれぞれデフォルトの保持期間があります。保持期間はテーブルマネージャを使用して変更できます。テーブルに対する保持期間の変更の詳細は、321ページの「テーブルのデフォルトの設定」を参照してください。

データレポート機能

データが処理されると、そのデータを使用してレポートを生成できます。レポートは以下のいずれかの方法で生成できます。

- 自動。**この方法では、OVPIのレポートパックを使用して、レポートの作成、配布、スケジュール設定、および生成を実行します。26ページの「OVPIレポートパックの使用」を参照してください。
- カスタム。**この方法では、レポートビルダを使用してカスタムレポートを作成できます。27ページの「カスタムレポートの作成」を参照してください。

いずれの方法でも、レポートを記述する手順セットであるレポートテンプレートが作成されます。次の図は、OVPIシステム全体におけるデータレポート機能を示しています。



レポートは以下のフォーマットで使用できます。

- レポート定義ファイル(.rep ファイル拡張子)には、複数のテーブル、グラフ、グラフィック、およびテキストがあり、データをデータベースから取得します。
- データセットファイル(.srep ファイル拡張子)はレポート定義ファイルとほぼ同じですが、データセットレポートを表示するときにデータベースからではなくレポートからデータを取得します。データセットレポートは、レポートの生成時に取得されたデータのスナップショットです。スナップショットはバッチ生成プロセスによって実行されます。通常、バッチ生成プロセスは管理者が設定します。レポート定義ファイルと同様に、データセットレポートについても表示属性の多くを変更できます。
- フォーム(.frep ファイル拡張子)は特殊な種類のレポートです。フォームを使用すると、1つのデータベーステーブルに格納されているデータを変更できます。レポートにある要素はすべて、フォームにもあります。また、フォーム要素を追加できます。そうすることで、データベーステーブルのデータを変更できます。フォームを使用すると、データベースのデータの修正や新規作成が簡単に行えます。たとえば、データベース内のカスタマを更新するフォームや、特定のレポートパックについて新しいカスタマをデータベースに追加するフォームを作成できます。

OVPI レポートパックの使用

特定のテクノロジーに対応したレポートパックをインストールすると、レポートの作成、スケジュール設定、および生成ができるよう、システムが自動的にセットアップされます。

レポートパックは以下のものを提供します。

- データを保存するためのテーブル定義
- データを収集するための収集情報(スクリプト、ポーリングポリシー、コマンドなど)
- 要約データを生成するための集約手順
- レポートを生成するためのレポートテンプレート
- レポートテンプレートの場所を特定するための配布手順
- レポートのスケジュール設定と生成を自動化するための手順とコマンド

カスタムレポートの作成

レポートビルダを使用してレポートテンプレートを作成できます。レポートテンプレートを作成するときは、データの表示方法、データベースのどの情報を使用するか、データをレポートにリンクする方法を、それぞれ定義します。データをレポートテンプレートに表示するときは、グラフまたはテーブルを使用できます。また、グラフィックやテキストを含めることもできます。したがって、完成したレポートには、グラフ、テーブル、グラフィック、およびテキストなどが表示されます。

レポートを作成した後、レポートの表示にどのアプリケーションを使用するかを決め、レポート生成のスケジュールを設定することができます。レポートは **Web** アクセスサーバーまたはレポートビューアのいずれかのアプリケーションを使用して表示できます。



Web アクセスサーバーを使用してレポートを表示するには、先にそのレポートを **Web** アクセスサーバーに配布する必要があります。レポートの配布には、**Web** アクセスサーバー、**Deployment Wizard** (レポートビルダ、およびレポートビューアの各アプリケーションから使用できるオプション)、またはコマンド行インタフェースである配布ツール (**Deployment**) を使用して行えます。

レポートを表示する準備が整ったら、**Web** アクセスサーバーアプリケーションを使用して表示します。その際、レポートの最新のデータが取得されます。さらに、ある静的な一点の時間におけるデータをレポートに反映させる必要がある場合や、レポートを **.pdf** または **.csv** フォーマットで生成する必要がある場合は、レポート生成のスケジュールを設定することもできます。スケジュール設定された生成時間に従ってレポートを生成することも、スケジュール設定された生成時間に関係なくレポートを生成することもできます。レポート生成のスケジュール設定は、**Web** アクセスサーバー、またはコマンド行インタフェースであるスケジュールツール (**Schedule**) を使用して行えます。レポートの生成プロセスでは、定義済みのレポートテンプレートと、データベースからのデータとが組み合わされ、最終的なレポートが作成されます。

レポートビルダ、レポートビューア、**Web** アクセスサーバーの各アプリケーションの詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。カスタムレポートを作成する場合は、**HP** の担当者にお問い合わせください。

OVPI の設定

この章では、OVPI をスタンドアロン環境または分散環境に正常にインストールした後に実行する、OVPI の設定方法について説明します。

インストール後の設定作業

この項では、OVPI をスタンドアロン環境または分散環境に正常にインストールした後に実行する、設定作業について説明します。

OVPI の設定作業には以下のものがあります。

- データベースの調整
- ネットワークの検出、またはノードのインポート
- レポートパックのインストール
- デバイスタイプの検出
- ポーリングポリシーの変更
- 収集の確認
- バックアップサーバーのセットアップ
- データベースのバックアップ

タスク 1: データベースを調整する

データベースの調整に関する推奨事項を実行します (Oracle)。

Oracle

Oracle 9i は自動的に最適化する機能を備えています。このため、OVPI ではいくつかのパラメータを設定するだけで、データベースが十分に最適化されます。

OVPI のインストール時に、これらのパラメータのデフォルト値を変更する機会があります (詳細は『*Performance Insight* インストールガイド』の第 4 章、「特定の Oracle 構成パラメータの変更」を参照してください)。

インストール時にこれらのパラメータの値を変更せず、現時点で変更を行いたい場合は Oracle の **Enterprise Manager Console** を使用して変更できます。調整に関するその他の推奨事項は、Oracle のマニュアルを参照してください。


タスク 2: ネットワークを検出する

OVPI でデータを収集できるようにするには、どのデバイスを管理するかを OVPI が知る必要があります。この情報を取得するため、ネットワークを検出する必要があります。以下のいずれかの方法で、ネットワークを検出できます。

- ノードの検出

この方法は、管理対象ノードのリストを準備していない環境や、NNM、またはその他の障害管理プラットフォームが存在しない環境の場合に便利です。大規模な環境の場合は、ノードの検出プロセスに時間がかかることがあります。その場合は、先にノードをインポートすることを検討してください。

OVPI は、検出ウィザードで使用可能なノードを検出します。検出ウィザードは [管理コンソール] から実行できます。このウィザードは、ネットワークにあるノードを検索し、それらが SNMP で管理できるかどうかを判断します。

 デバイスが多数存在するネットワークでは、この方法が好ましくない場合があります。そのような場合は、代わりにノードをインポートしてください。

- ノードのインポート

この方法は、監視する管理対象オブジェクトのリストをすでに準備してある場合に便利です (NNM、または **Cisco Works** など、他のネットワーク準備ソフトウェアがある場合)。たとえば、ルーターが 5 台しかない場合は、それらのルーターの情報がすでにわかっていることが十分考えられます。したがって、ポーリングする必要のあるオブジェクトだけを検出の対象にすることができます。

他のソース (たとえば準備データベース) からのノードをインポートできません。

▶ レポートパックによっては、ネットワークを検出する前に何らかの設定を必要とするものがあります。そのため、検出プロセスを開始する前に、使用するレポートパックのマニュアルを参照してください。レポート機能に関するマニュアルについては、『*Performance Insight* リリースノート』を参照してください。

ノードの検出

- 1 [管理コンソール] の [ツール] メニューから、[SNMP 検出] を選択します。検出ウィザードが開きます。
- 2 開始 IP アドレス、終了 IP アドレス、サブネットマスクを入力し、[次へ] をクリックします。

▶ サブネットマスクの設定は、ネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを調べるためだけのものです。マスクが正しくない場合でも検出プロセスは実行されますが、ノードが正しく追加されない可能性があります。

- 3 SNMP デバイスのコミュニティストリング (1 つまたは複数) を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 SNMP ポートが 161 以外の場合はそのポートを入力し、[次へ] をクリックします。
- 5 [検出] をクリックします。

検出ウィザードによって、各 IP アドレスでのデバイスの存在が確認され、GET 要求が各アドレスに転送されます。要求への応答があれば、そのデバイスは SNMP で管理できます。

詳細は、92 ページの「[検出プロセスの使用](#)」を参照してください。または、`trend_discover` コマンドを使用することもできます。詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

ノードのインポート

ノードをインポートする手順は 2 段階になります。まず、インポートするノードを含む ASCII ファイルを作成し、それからそのファイルをインポートする必要があります。ASCII ファイルのフォーマット方法の詳細は、173 ページの表 1 を参照してください。

ノードのリストをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューの [**ノードのインポート**] を選択します。
[インポート元] ダイアログボックスが開きます。
- 2 インポートするノードを含むファイルに移動します。
- 3 ファイル名をダブルクリックします。または、ファイル名を選択し [**開く**] をクリックします。

または、コマンド行を使用してノードをインポートすることもできます。これには、`node_manager` コマンドを使用します。`node_manager` コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

タスク 3: レポートパックをインストールする

この手順では、RNS の CD を使用してレポートパックをインストールする方法を示します。



この手順に進む前に、インストールする各レポートパックのユーザーガイドを必ず入手して **お読みください**。これらのガイドには、レポートパックのインストール前に読んでおく必要のある、レポートパックに関する重要な設定情報（たとえば分散環境におけるインストール）が記載されています。これらのガイドの入手については、『*Performance Insight* リリースノート』を参照してください。

- 1 ローカルシステムにログオンします。
 - *Windows* の場合:
管理者権限を持つユーザーとしてログオンします。
 - *UNIX* の場合:
root としてログオンします。
- 2 RNS の CD を CD-ROM ドライブに挿入します。UNIX ユーザーの場合は、挿入した CD をマウントします。
次の表に、各 UNIX プラットフォームでの CD のマウント方法を示します。

オペレーティング システム

コマンド

Sun Solaris	<p>CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、CD は自動的にマウントされます。CD-ROM が自動的にマウントされると、ファイルマネージャウィンドウが開きます。自動でウィンドウが開かない場合は、root として次のように入力します。</p> <pre>mkdir /cdrom mount -r /dev/dsk/cd_devicename /cdrom</pre> <p>このインスタンスで、cd_devicename は CD-ROM デバイスの名前です。</p>
HP-UX	<p>SAM ユーティリティを使用して CD-ROM をマウントするか、または次のコマンドを入力します。</p> <pre>mkdir /cdrom mount /dev/dsk/cd_devicename /cdrom</pre> <p>このインスタンスで、cd_devicename は CD-ROM デバイスの名前です。</p>

- 3 *Solaris* システムの場合のみ: 以下を実行します。
 - a **cd_label** を表示するには、次のコマンドを入力します。


```
ls -l /cdrom
```
 - b ディレクトリを変更するには、次のコマンドを入力します。


```
cd /cdrom/cd_label
```

この場合で、**cd_label** は CD 名です。

- 4 インストールプログラムが自動的に起動します。自動的に起動した場合は、**34 ページの手順 6**に進みます。起動しない場合は、**手順 5**に進みます。
- 5 以下のいずれかを実行してセットアッププログラムを起動します。
 - *Windows* の場合：
CD の最上位のフォルダーから `setup.exe` をダブルクリックします。
 - *UNIX* の場合：
セットアッププログラムを検索し、以下のコマンドを入力して起動します。

```
./setup
```

メニューが開きます。
- 6 **[OV Performance Insight Report Pack のインストール]** を選択します。インストールスクリプトによってすべてのパッケージがシステムの **Packages** ディレクトリにコピーされると、インストールスクリプトによって**[パッケージマネージャ]**が起動されます。
- 7 **[次へ]** をクリックして続行します。
- 8 **[インストール]** をクリックし、デフォルトをレポートパックのインストール先としない場合は希望のインストール先ディレクトリを指定してから、**[次へ]** をクリックします。
- 9 以下のいずれかを実行します。
 - **[レポートの配布]** ボックスを選択します。このオプションを選択した場合は、レポートが **Web** アクセスサーバーに公開され、そこでレポートを表示できるようになります。

OVPI 管理者のユーザー名とパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックします (デフォルトの OVPI 管理者アカウントである `trendadm` を使用できます。これはインストール時に作成されたものです)。
 - **[レポートの配布]** ボックスをオフにし、**[次へ]** をクリックします。

場合によっては、レポートを **Web** アクセスサーバーに配布したくないが、それらのレポートパックのデータは収集したいということがあります。そのような場合はレポートを後で配布できます。この場合は、すでに収集済みのすべてのデータが表示されます。

- 10 インストールするレポートパックとデータパイプを選択し、[次へ]をクリックします。

依存するパッケージがレポートパックと同じディレクトリにある場合は、それらのパッケージが自動的に選択されます。同じディレクトリにない場合は、インストールを続けることができません。インストールするレポートパックに必要なデータパイプの詳細は、レポートパックのユーザーガイドを参照してください。

- 11 [OVPI タイプ検出の実行]を選択、またはオフにし、[次へ]をクリックします。

[OVPI タイプ検出]は、インストールしようとしている各レポートパックについて、ネットワークにあるどのデバイスをポーリングできるのかを調べます。

インストールしようとしているすべてのレポートパックに、タイプ検出を実行することをお勧めします。

レポートパックによっては、ユーザーにとって必要がないかもしれないタイプを追加するものがあります。お使いの環境にどのタイプが存在するかを理解している上級ユーザーは、このオプションをオフにし、後でタイプ検出ウィザードを実行するということができます。

- 12 [概要]ウィンドウに表示される情報を確認し、[インストール]をクリックします。

インストールした1つまたは複数のレポートパックのためのデータを収集するよう、システムが設定されます。

35 ページの手順 11 でタイプ検出を実行しなかった場合は、データを収集するために、必ずタイプ検出ウィザードを使用してタイプ検出を実行する必要があります。

タスク 4: デバイスタイプを検出する

この検出によって、検出済みノードのデバイスタイプが調べられ、その情報がデータベースに記録されます。OVPIはこの情報に基づいて、特定のタイプのデバイスをデータ収集の対象にすることができます。

以下のいずれかを実行します。

- レポートパックのインストール時 (35 ページの手順 11 を参照) にタイプ検出を実行しなかった場合は、タイプ検出ウィザードを使用して手動でタイプ検出を実行できます。このウィザードは [管理コンソール] から実行できます。
- タイプ検出を実行した場合は、**タスク 5** に進みます。

タイプ検出を実行するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール] の [ツール] メニューから、[**タイプの検出**] を選択します。タイプ検出ウィザードが開きます。
- 2 検出するタイプを選択します。複数のタイプを選択するには、**Ctrl** キーを押しながらタイプを 1 つずつクリックしていきます。
- 3 すべてのタイプを検出する場合、またはどのタイプを検出するべきか不明な場合は、[**既知のタイプをすべて検出する**] を選択し、[**次へ**] をクリックします。
- 4 [**検出**] をクリックします。

あるいは、`trend_discover -t` コマンドを使用することもできます。詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

タスク 5: ポーリングポリシーを変更する

ポーリングポリシーは、定義されたタイプのデータを収集する頻度を定義したものです。また、ローカルシステムでデバイスのデータをポーリングするかどうかを指定したり、ポーリングをリモートポーラーに割り当てるかどうかを指定するのにも使用します。



ポーリングポリシーを変更する際は注意が必要です。通常は、ポリシーのポーリング頻度だけを変更してください。テーブルやグループを変更した場合、インストールしたシステムに悪影響することがあります。

スタンドアロン環境では、ポーリングポリシーの頻度を調整できます。たとえば、何台かの新しいデバイスがネットワークに追加されるために、ネットワークが1日で頻繁に変更されることがわかっていると仮定します。現在のポーリングポリシーにおいてネットワークが1日に1回ポーリングされるようになっている場合は、新しいデバイスが使用可能になった時点でポーリングされるよう、ポリシーのポーリング頻度を1時間に1回に変更することができます。そして、ネットワークが安定した後に、ポーリング頻度を1日に1回に戻します。



ポリシーを変更したためにデータの収集頻度が高くなりすぎた場合、OVPIとネットワークのパフォーマンスに深刻な影響を及ぼす可能性があります。

リモートポーターに対応するようなポーリングポリシーの設定の詳細は、[50 ページの「リモートポーターに対応するためのポーリングポリシーの設定」](#)を参照してください。

ポーリングポリシーを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール]を起動し、ナビゲーションペインの[**ポーリングポリシー**]アイコンをクリックします。
- 2 表示ペインで[**ポーリングポリシー**]ページを選択し、現在のすべてのポーリングポリシーを表示します。
- 3 変更するポリシーを探しダブルクリックします。[ポーリングポリシーの編集]ダイアログボックスが開きます。
- 4 ポーリング間隔を変更するには、[ポーリング間隔]リストから間隔を選択します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 各ポーリングポリシーについて手順3～手順5を繰り返します。

ポーリングポリシーの詳細は、[第7章「ポーリングポリシーの管理」](#)を参照してください。

タスク 6: システムをバックアップする

OVPI のインストールと設定を実行した後に、システムをバックアップすることをお勧めします。ファイルシステムのバックアップに通常使用する手順を実行してください。



システムをバックアップする前に、すべての OVPI サービスとデータベースを停止させることをお勧めします。OVPI サービスの停止の詳細は、[65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」](#)を参照してください。Oracle の停止の詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。

タスク 7: データベースをバックアップする

OVPI のインストールと設定を実行した後にデータベースをバックアップし、それ以降はデータベースを毎週バックアップすることをお勧めします。詳細は、[63 ページの「Oracle データベースのバックアップ」](#)を参照してください。

その他の設定作業

この項では、OVPI を設定するために実行できるその他の作業について説明します。

ユーザーアクセスの設定

OVPI のすべてのクライアントアプリケーション (レポートビルダ、レポートビューア、Web アクセスサーバー、および [管理コンソール]) で、ユーザーのログオンが必要です。これらのアプリケーションへのユーザーアクセスは Web アクセスサーバーを使用して設定します。

デフォルトでは、OVPI のインストール時に、OVPI によってユーザーアカウントが 1 つ作成されます。これは trendadm というアカウントです。ユーザーアカウントは、OVPI のクライアントアプリケーションを使用するユーザーごとに作成してください。

たとえば業務分野別や会社別といったように、グループを作成してユーザーを分類することもできます。すると、そのグループに対してフィルターを適用できます。そうすることで、ユーザーがアクセスできる情報を制限できます。



分散環境のためのユーザーとグループを作成するとき、それらは現在ログオンしている Web アクセスサーバーで作成されます。以降、この Web アクセスサーバーが、Web アクセスサーバーアプリケーションと管理コンソールのログオン認証を提供します。Web アクセスサーバーが複数ある場合は、ユーザーと、ユーザーがアクセスを必要としている各 Web アクセスサーバーを、必ず監視する必要があります。たとえば、2 つの異なる Web アクセスサーバーへのアクセスを必要としている複数のユーザーがいる場合は、ユーザーがアクセスを必要としている各 Web アクセスサーバーで、アカウントを 1 つ作成する必要があります。

異なるデータベースサーバーのデータによるレポートを、表示するのみの場合は、ビューを作成できます。ビューは、配布済みレポートの特定なリストを表示します。そのビューは、ユーザーがアクセスするすべてのデータベースに適用されます。ビューの作成の詳細は、[419 ページの「ビューの作成」](#)を参照してください。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 Web アクセスサーバーにアクセスします。詳細は、[378 ページの「Web アクセスサーバーへのアクセス」](#)を参照してください。
- 2 リンクバーの [管理] を選択します。
- 3 [管理] ツリーで [ユーザーアカウント] を展開し、[ユーザー] をクリックします。[ユーザーの管理] ページが開き、現在のユーザーアカウントが一覧表示されます。
- 4 [新規ユーザーの追加] をクリックします。[新規ユーザーの追加] ページが開きます。
- 5 [ユーザー名] から [電子メールアドレス] までのすべてのボックスに、要求された情報を入力します。そのとき以下の制約に注意してください。

このページの全フィールドで、以下の文字を使用しないでください。アンパサンド (&)、円記号 (¥)、カンマ (,)、二重引用符 (")、スラッシュ (/)、疑問符 (?)、パーセント (%)、および単一引用符 (') です。

有効な入力はこのとおりです。

- すべての英字 (大文字と小文字)、すべての数字、および、上記のものを除くすべての特殊文字。
 - ユーザー名は、1 文字以上、最大 255 文字まで入力できます。英数字、スペース (空白)、アンダースコア (_)、およびハイフン (-) だけを使用できます。
 - ユーザーの実名と会社 / 部門は、最小 0 文字 (したがって空欄にできます)、最大 255 文字までです。
 - パスワードは、最小 4 文字、最大 255 文字まで入力できます。スペース (空白) は使用できません。
 - 電話番号のフォーマットは自由ですが、255 文字を超えることはできません。
 - 電子メールアドレスのフォーマットは自由ですが、255 文字を超えることはできません。
- 6 ユーザーに管理者役割がある場合にのみ [**管理者である**] チェックボックスをオンにします。このオプションを選択しない場合、アカウントには自動的にユーザー役割が与えられます。
- 7 [データベース] リストで、ユーザーがアクセスするデータベースを選択します。現在のリストに別のデータベースを追加する方法の詳細は、[441 ページ](#)の「システムマネージャの設定の変更」を参照してください。
- 8 [表示] リストで、ユーザーがアクセスするデータベースを選択します。ビューの作成方法の詳細は、[420 ページ](#)の「ビューの作成」を参照してください。
- 9 ユーザーアカウントのパスワードの期限を設定するには、以下のいずれかを実行します。
- [**無期限**] オプションをクリックします。このアカウントのパスワードは無期限になります。
 - [**パスワードの期限切れ**] オプションをクリックしてから日数を入力することで、パスワードの期限を設定します。

パスワードの期限が切れると、アカウントのパスワードの期限が切れたことを通知するページが表示され、そのアカウントのパスワードを変更するオプションが表示されます。

このオプションに加えて、以下を実行できます。

- パスワードの有効期限ルールを設定します。たとえば、パスワードの猶予期間を設定できます。このオプションにより、アカウントのパスワードの期限が切れた後も、指定回数だけそのアカウントにログオンできます。この猶予期間が経過すると、そのアカウントはロックされます（使用不能になります）。詳細は、[392 ページの「パスワードの有効期限ルール有効期限ルールの設定」](#)を参照してください。
- アカウントがロックされるまでにユーザーに許されるログオン試行の失敗回数を指定します。詳細は、[432 ページの「Web アクセスサーバー設定の変更」](#)を参照してください。

10 [適用] をクリックします。

11 [OK] をクリックして、新しいユーザーアカウントを確認します。

新しいユーザーアカウントを確定すると、[ユーザーの管理] ページに新しいユーザーアカウントの情報が表示されます。ユーザーアカウントはナビゲーションツリーにも表示できます。

ユーザーを作成するコマンド (`userimport`) と、ユーザーの管理に使用できるコマンド (`userctl`) もあります。これらのコマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

フィルターを持つユーザーグループの作成

グループとは以下のものを指します。

- ユーザーアカウントの集まり

たとえば、**Thunderbolt** 社という会社のすべてのユーザー用に、**Thunderbolt** というグループを作成することができます。これは、サービスプロバイダにおいて、特定の会社の表示できるデータを制限する場合に便利です。

- ユーザーアカウントとグループの集まり

たとえば、**All** というグループを作成し、その中にいくつかのユーザーアカウントと、**North**、**East**、**South**、**West** という 4 つのグループを含めることができます。

North、**East**、**South**、**West** の各グループのユーザーに制約を設定することで、それらのユーザーが特定の地域のデータしか表示できないようにすることが可能です。

All グループのユーザーは、*North*、*East*、*South*、*West* の各グループのユーザーが表示できるデータをすべて表示できます。なぜなら、最上位のグループには、階層内の下位のグループの制約が継承されるからです。

グループを作成する際は、想定されるグループ数が少なくなるように、グループの制約を効果的に作成するよう心掛けることをお勧めします。たとえば、interface を制約として使用し各インタフェースに **1000** 以上のグループを持たせるのではなく、cust-id を制約として使用します。グループの数が多いと、データベースに送られるクエリの効率やサイズに影響することがあります。



レポートがあり、1 人のユーザーしかそのレポートを表示する必要がない場合は、ビューを使用するのではなく、ユーザーフォルダーの下位にあるそのユーザーのレポートディレクトリにレポートを配布します。詳細は、**430 ページ**の「**レポートの配布**」を参照してください。

フィルターを持つグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1** Web アクセスサーバーを起動します。詳細は、**378 ページ**の「**Web アクセスサーバーへのアクセス**」を参照してください。
- 2** Web アクセスサーバーのリンクバーから **[管理]** を選択します。
- 3** [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、**[グループ]** をクリックします。[グループの管理] ページが開きます。
- 4** **[新規グループの追加]** をクリックします。[新規グループの追加] ページが開きます。
- 5** 新しいグループを作成するには、以下を実行します。
 - a** [グループ] ボックスに、作成するグループの名前を入力します。



すでに存在するグループ名を入力したり、"Group" という名前を**使用しないでください**。

グループ名は以下の制約に従う必要があります。


以下の文字をグループ名で**使用しない**でください。

アンパサンド (&)、アスタリスク (*)、円記号 (¥)、コロン (:)、カンマ (,)、二重引用符 (")、感嘆符 (!)、スラッシュ (/)、大なり記号 (>)、開き角かっこ (()、小なり記号 (<)、ピリオド (.)、シャープ記号 (#)、疑問符 (?)、閉じ角かっこ ()、単一引用符 (')、パーセント (%)、スペース (空白)

グループ名に対して有効な文字は以下のとおりです。

- 名前には、すべての英字（大文字と小文字）、すべての数字、および、上記のものを除くすべての特殊文字を、含めることができます。
- 1文字以上、最大は255文字です。

- b** この新しいグループに属するユーザーおよびグループ（いずれも1つまたは複数）を[使用可能なユーザー/グループ]リストから選択し、[追加]をクリックします。ユーザー名、グループ名、またはその両方が、[メンバー]リストに移動します。
- c** [次へ]をクリックします。[グループフィルター]ページが開きます。

 フィルターは、テーブル列名、数値演算子、および統計情報の値を必要とする、比較手段です。

6 フィルターを作成するには、以下の手順に従います。

- a** [列]フィールドに、フィルター対象のテーブル列名を入力します。

テーブル列を探すには、テーブルマネージャを使用します。これは管理コンソールから実行できます。このフィールドで有効な値は、プロパティテーブルからのテーブル列だけです。詳細は、[270 ページの「データテーブルの情報の表示」](#)を参照してください。

- b** [演算子]フィールドの矢印をクリックし、演算子を選択します。
- c** [値]フィールドに、値を入力します。

たとえば、**ABC Company** というクライアントを持つサービスプロバイダを考えてみましょう。**ABC Sales** というグループを作成し、それに**ABC**のレポートしか表示を許可しないフィルターを付けるとします。これをするには、以下のようなフィルターを作成します。

```
cust_id = 05
```

`cust_id` はテーブル列名です。

`=` は数値演算子です。

`05` は**ABC**のカスタマ識別番号です。この値は、レポートパックのインストール時に作成したものです。詳細は、レポートパックのマニュアルを参照してください。

- d** [フィルタの追加]をクリックします。

7 [完了] をクリックします。

[グループの管理] ページに新しいグループが一覧表示されます。それらのグループは [グループ] フォルダーの下にあるナビゲーションフレームにも表示されます。

グループを作成するコマンド (**groupimport**) と、グループの管理に使用できるコマンド (**groupctl**) もあります。これらのコマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語) を参照してください。

データベースの変更の管理

データベースの管理はシステム/ネットワークの管理アプリケーションを使用して実行できます。このアプリケーションは管理コンソールから実行できます。

このアプリケーションを使用するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール] を起動します。79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。
- 2 [システム] アイコンをクリックします。

システム/ネットワークの管理アプリケーションを使用したデータベース管理の詳細は、以下を参照してください。

- 247 ページの「データベースの追加」
- 249 ページの「データベースプロパティの表示」
- 252 ページの「データベースの初期化パラメータの変更」
- 253 ページの「データベースサイズの拡張」
- 257 ページの「データベースサーバーの変更」

SNMPv3 ノードからのデータ収集

OVPI は、SNMPv3 ノードからデータを収集できますが、これらのノードを検出できません。したがって、それらのノードからのデータ収集をサポートするよう OVPI を設定する必要があります。

SNMPv3 ノードからデータを収集するよう OVPI を設定するには、以下を実行する必要があります。

- 1 SNMP セキュリティパックのバージョン 16.1.0.35 以降を、OVPI をインストールしたシステムにインストールします。

SNMP セキュリティパックは、SNMP Research 社の製品です。購入については、SNMP Research 社にお問い合わせください。詳細は、<http://www.snmp.com> を参照してください。

このパックの BRASS 製品を使用すると、v3 のコミュニティ文字列プロファイルを持つ SNMPv3 ノードを、OVPI のポーラーで特定できます。OVPI には `brass_v3_seed` というユーティリティがあり、これを使用して認証パスワードと秘匿パスワードを指定できます。

▶ 分散型の OVPI 構成では、データを収集する予定のすべてのシステムに、SNMP セキュリティパックをインストールする必要があります。したがって、すべてのリモートポーラーと、OVPI のパフォーマンスマネージャコンポーネントをインストールしたすべてのシステムに、このパックをインストールする必要があります。

- 2 SNMP セキュリティパックの SNMPv3 設定ウィザードを使用して、各エージェントを SNMPv3 ノードに対応するよう設定します。詳細は、SNMP セキュリティパックのマニュアルを参照してください。
- 3 `brass_v3_seed` ユーティリティを使用して、ノードの認証パスワードと秘匿パスワードを指定します。
- 4 ノードをインポートします。
- 5 ノードのコミュニティ文字列を作成します。
- 6 ノードをタイプグループに割り当てます。
- 7 リモートポーラーを設定します。

SNMPv3 データを収集するためにこの項で説明した手順では、以下をすでにインストールしたと仮定しています。

- OVPI。OVPI のインストールの詳細は、『*Performance Insight* インストールガイド』を参照してください。
- SNMP セキュリティパック。

SNMPv3 ノードの設定

SNMPv3 設定ウィザードを使用して、各エージェントを **SNMPv3** ノードに対応するよう設定します。詳細は、**SNMP セキュリティパック**のマニュアルを参照してください。

brass_v3_seed ユーティリティの使用

SMMPv3 ノードから実際のデータ収集を開始できるようにするには、その前に **brass_v3_seed** ユーティリティを使用する必要があります。このユーティリティはノードのパスワードを、暗号化されたフォーマットで格納します。このユーティリティは、**OVPI** のインストールディレクトリの **bin** フォルダーにあります。

brass_v3_seed コマンドには以下のオプションがあります。

```
brass_v3_seed  -f ファイル名  
                [-d デバッグレベル]  
                [-E ]
```

-f オプション

-f オプションは必須です。入力ファイルの名前を指定します。この入力ファイルは以下のフォーマット順で表示されます。

```
< ホスト名 >, < ポート番号 >, < ユーザー名 >, < 認可プロトコル >, < 認可パスワード >  
>, < 秘匿プロトコル >, < 秘匿パスワード >
```

ホスト名、ポート番号、ユーザー名の各フィールドは必須です。認可プロトコルは **MD5** または **SHA** です。秘匿プロトコルは **DES** です。

-d オプション

-d オプションは省略可能であり、デバッグメッセージの表示に使用します。サポートされているデバッグレベルは、**1**、**2**、**3** です。レベル **1** では最も少量のデバッグ情報が表示され、レベル **3** では最も多量の詳細なデバッグ情報が表示されます。

-E オプション

-E オプションは、入力ファイルで指定されたノードの可用性をテストします。

たとえば、**neast1** という名前のホストを **snmpv3_node.txt** という入力ファイルに追加する場合、このファイルの内容は次のようになります。

```
neast1,161,ewing,MD5,cat,DES,dog
```

ユーティリティのコマンド行は次のようになり、デバッグオプションやテストオプションを選択するかどうかにより異なります。

```
brass_v3_seed -f snmpv3_node.txt -d 1 -E
```

SNMPv3 ノードのインポート

brass_v3_seed ユーティリティを実行した後、ASCII ファイルを作成することで SNMPv3 ノードを **ksi_managed_node** テーブルにインポートし、次に、ポーリングポリシーマネージャまたは **node_manager** コマンドを使用してそのファイルをインポートする必要があります。

たとえば、**neast1** というノードをインポートすると仮定します。このノードをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 **snmpv3_node.txt** という ASCII ファイルを作成します (詳細は、[172 ページの「ノードのインポート」](#)を参照してください)。

このファイルの内容は次のようになります。

```
neast1, public, private,,,,1,,smp_1, 161,10,500,20,50
```

- 2 以下のいずれかを実行することでファイルをインポートします。
 - ポーリングポリシーマネージャの [ファイル] メニューから、[ノードのインポート] を選択します。[インポート元] ボックスで、**snmpv3_node.txt** を見つけて選択し、[OK] をクリックします。
 - **node_manager** コマンドを使用してファイルをインポートします。詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語)を参照してください。このコマンドは次のようになります。

```
node_manager -import -file snmpv3_node.txt
```

コミュニティ文字列プロファイルの作成

各ノードのパスワードを格納した後、それらのノードのコミュニティ文字列プロファイルを作成する必要があります。

- 1 管理コンソールを起動します。79 ページの「管理コンソールの起動」。
- 2 ポーリングポリシーマネージャアプリケーションを開きます。
詳細は第 7 章「ポーリングポリシーの管理」を参照してください。
- 3 以下を実行してノードのコミュニティ文字列プロファイルを作成します。
 - a ポーリングポリシーマネージャの [編集] メニューから、[コミュニティ文字列プロファイル] を選択します。
[コミュニティ文字列プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。
 - b [作成] をクリックします。[コミュニティ文字列プロファイルの作成] ダイアログボックスが開きます。
 - c プロファイルの名前を [プロファイル名] ボックスに入力します。この名前は最大 64 文字です。

v3 対応の SNMP Get 要求を有効にするため、コミュニティ文字列の始めに以下のいずれかを含める必要があります。

- 3N (認証なし、秘匿なし)
- 3A (認証あり、秘匿なし)
- 3P (認証あり、秘匿あり)

コミュニティ文字列には、上記のいずれかと、SNMPv3 設定ウィザードを使用してエージェントを設定した際に割り当てた SNMPv3 ユーザー名を使用してください。


たとえば、SNMPv3 エージェントが admin というユーザー名であり、認証ありと秘匿なしの権限にする場合の、そのエージェントのコミュニティ文字列は、3A/admin です。同様に、ユーザー名、認証権限、秘匿権限の、別の組み合わせも可能です。

- d 読み取り権限の値を [読み取り] ボックスに入力します。
 - e 書き込み権限の値を [書き込み] ボックスに入力します。
 - f [OK] をクリックします。
- 4 以上の手順を、各 SNMPv3 ノードに繰り返します。

タイプグループへのノードの割り当て

SNMPv3 ノードが、自動的にタイプ別に検出されて特定のグループに配置されることはありません。ポーリングポリシーマネージャアプリケーションを使用して、手動でノードをグループに割り当てる必要があります。

ノードを各グループに割り当てるには、以下の手順に従います。

- 1 ポーリングポリシーマネージャアプリケーションを開きます。
詳細は第7章「ポーリングポリシーの管理」を参照してください。
- 2 [編集] メニューの [ポーリンググループ] を選択します。
[ポーリンググループの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 3 [グループの種類を選択] ボックスから [同じタイプのすべてのノード] を選択します。
- 4 1つまたは複数のノードを追加するグループを、[ポーリング元とするグループの選択] ボックスから選択します。
- 5 [編集] をクリックします。
- 6 グループのノードを選択するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード] ボックスでノードを選択し、 をクリックしてノードを [グループ内のノード] ボックスに追加します。
 - [他のノード] ボックスでノードをダブルクリックします。ノードが [グループ内のノード] ボックスに移動します。
- 7 完了したら、[OK] をクリックします。
- 8 [閉じる] をクリックします。

SNMPv3 ノードに対応するためのリモートポーラーの設定

リモートポーラーは、SNMPv3 ノードを自動的にポーリングできません。すべてのリモートポーラーに SNMP セキュリティパック製品をインストールする必要があります。詳細は、SNMP セキュリティパックのマニュアルを参照してください。

分散型構成の設定

この項では、OVPI をインストールした後に、分散型構成を設定するために実行できる作業について説明します。分散型構成では、OVPI のコンポーネントが、物理的に別々のシステムにインストールされ、全体が 1 つの分散型システムとして稼働します。分散型構成の詳細は、『*Performance Insight* インストールガイド』を参照してください。

リモートポーラーに対応するためのポーリングポリシーの設定

リモートポーラーは、ネットワークノードからデータを収集し、そのデータを OVPI データベースに格納するシステムです。このデータベースはリモートポーラーシステム上には存在しません。リモートポーラーは、ネットワーク内のノードからデータを収集し、OVPI データベースが動作しているサーバーにそのデータを格納します。

リモートポーラーをインストールした後に、レポートパック用のポーリングポリシーを設定する必要があります。ポーリングポリシーはデータベースサーバー上に配置されますが、データの収集元となるリモートポーラーを識別できるようにポーリングポリシーをセットアップする必要があります。データベースサーバーは、対象期間の収集が完了した後に、リモートポーラーからデータを転送します。

この項では、分散型構成においてポーリングポリシーを変更する可能性のある以下の方法について説明します。

- ポーリングポリシーを実行するシステムを変更する。
- 複数のポーラー用の新しいポリシーを作成する。

ポーリングシステムの変更

レポートバックをサテライトサーバーにインストールすると、インストールされたシステムからポーリングするよう、それらのレポートバック用のポーリングポリシーが最初にセットアップされます。したがって、リモートポーラーからポーリングするよう、それらのレポートバックのポーリングポリシーを編集する必要があります。

以下の手順では、ポーリングポリシーのポーリングシステムを、サテライトサーバー (**neast1** と仮定) からリモートポーラー (**neast2** と仮定) に変更する方法を示します。

- 1 [管理コンソール] を起動し、ナビゲーションペインの [**ポーリングポリシー**] アイコンをクリックします。
- 2 表示ペインで [**すべて**] ページを選択することで、現在のすべてのポーリングポリシーを表示します。
- 3 変更するポリシーを探し、そのポリシーをダブルクリックします。[**ポーリングポリシーの編集**] ダイアログボックスが開きます。[**ポーリングの割り当て先**] ボックスの値は **neast1** です。
- 4 リモートポーラーを追加するには、以下を実行します。
 - a [**データパイプの使用**] ボックスの横にある [**作成**] をクリックします。[**データパイプインストールの作成**] ダイアログボックスが開きます。
 - b リモートポーラーにするシステムの名前 (この例では **neast2**) を [**ホスト名**] ボックスに入力します。
 - c [**OK**] をクリックします。
- 5 ポーリングシステムを変更するには、[**ポーリングの割り当て先**] リストから [**neast2**] を選択します。
- 6 [**OK**] をクリックします。
- 7 各レポートバックに関連するすべてのポーリングポリシーについて、**手順 3** と **手順 5** を繰り返します。

ポーリングポリシーの詳細は、[第7章「ポーリングポリシーの管理」](#)を参照してください。

複数のポーラー用の新しいポリシーの作成

異なるデバイスをポーリングする複数のポーラーがある場合は、それらのポーラー用に新しいポリシーを作成する必要があります。たとえば、**Common Properties** および **Interface Reporting** の各レポートパックをサテライトサーバーにインストールしてあって、**Poller A** および **Poller B** という 2 つのポーラーがあると仮定します。**Poller A** には 10 台のデバイスとそれらすべてのインタフェースをポーリングさせ、**Poller B** には別の 10 台のデバイスとそれらすべてのインタフェースをポーリングさせる必要があるとします。



そのためのポーリングポリシーを作成する前に、2 つのデバイスセットに対応したポーリンググループを作成する必要があります。

デバイスのグループ化

この例に必要な 2 つのグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール] を起動します。79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。
- 2 [グループ] アイコンをクリックします。



[グループ管理] ウィンドウが [管理コンソール] に表示されます。ウィンドウの左側にはグループ管理ツリーが表示され、そこには選択したビューの種類に対応したすべてのグループが一覧表示されます。

1 つまたは複数の管理対象オブジェクトを選択することで、グループを作成します。

- 3 [グループ化] フォルダーを展開し、それから [管理対象オブジェクト] フォルダーを展開します。
- 4 グループ化する管理対象オブジェクトのあるフォルダーを右クリックします。ショートカットメニューが開き、列挙、派生、プロパティ、フォルダーの、いずれかの種類のグループについて、その新しいインスタンスを作成できます。

この例では 2 つのグループを作成する必要があります。1 つは、10 台のデバイスとそれらすべてのインタフェース用のグループであり、もう 1 つは別の 10 台のデバイスとそれらすべてのインタフェース用のグループです。

- 5 フォルダーを右クリックし、メニューから [列挙グループの作成] を選択します。[グループの作成] ダイアログボックスが開きます。

- 6 グループの名前を [グループ名] ボックスに入力します (たとえば DevicesA)。
- 7 グループの説明を [説明] ボックスに入力します。
- 8 ノードをグループに追加するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード] ボックスでノードをダブルクリックして [グループ内のノード] ボックスに移動します。
 - [他のノード] ボックスでノードまたはインタフェースを選択し、 をクリックしてそのノードを [グループ内のノード] ボックスに追加します。
- 9 グループを作成する前にグループからノードを削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [グループ内のノード] ボックスでノードをダブルクリックして [他のノード] ボックスに移動します。
 - [グループ内のノード] ボックスでノードを選択し、 をクリックしてそのノードを [他のノード] ボックスに戻します。
- 10 完了したら、[OK] をクリックします。
- 11 この手順の手順 5 ~ 手順 10 を繰り返すことで、2 番目のグループ (たとえば DevicesB) を作成します。

グループマネージャの詳細は、第 9 章「管理対象オブジェクトのグループ化」を参照してください。

1 番目のポーリングポリシーの作成

この手順では、必要となる 1 番目のポーリングポリシーの作成方法を示します。ポーリングポリシーを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール] を起動します。79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。
- 2 [ポーリングポリシー] アイコンをクリックします。
- 3 [ファイル] メニューの [ポーリングポリシーの作成] を選択します。
[ポーリングポリシーの作成] ダイアログボックスが開きます。

- 4 以下のオプションの値を変更します。
 - a ポーリングポリシーの名前として、明確に区別できる一意の名前 (Policy 1 と仮定) を、[ポリシー名]ボックスに入力します。
 - b ポーリング対象のデータを選択します。
 - c [データの収集元]リストから [カスタムグループ] を選択します。
 - d 1 番目のグループの名前 (この例では **DevicesA**) を [ポーリング元とするグループの選択]リストから選択します。
 - e ポーリング間隔を選択します。
 - f データパイプを選択します。
 - g デバイスからデータを収集するポーラーの名前 (この例では **Poller A**) を [ポーリングの割り当て先]リストから選択します。
 - h このポーリングポリシーの説明を [説明]ボックスに入力します。
 - i [OK] をクリックします。

これで、Policy 1 という 1 番目のポーリングポリシーが作成されました。

2 番目のポーリングポリシーの作成

この手順では、2 番目のポーリングポリシーの作成方法を示します。

2 番目のポーリングポリシーを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール] を起動します。79 ページの「[管理コンソールの起動](#)」を参照してください。
- 2 [ポーリングポリシー] アイコンをクリックします。
- 3 [ファイル] メニューの [ポーリングポリシーの作成] を選択します。
[ポーリングポリシーの作成] ダイアログボックスが開きます。
- 4 以下の手順に従います。
 - a ポーリングポリシーの名前として、明確に区別できる一意の名前 (この例では **Policy2**) を、[ポリシー名]ボックスに入力します。
 - b ポーリング対象のデータを選択します。
 - c [データの収集元]リストから [カスタムグループ] を選択します。

- d 2番目のグループの名前(この例では **DevicesB**)を[ポーリング元とするグループの選択]リストから選択します。
- e ポーリング間隔を選択します。
- f データパイプを選択します。
- g デバイスからデータを収集するポーラーの名前(この例では **Poller B**)を[ポーリングの割り当て先]リストから選択します。
- h このポーリングポリシーの説明を[説明]ボックスに入力します。
- i **[OK]**をクリックします。

これで、**Policy 2** という 2番目のポーリングポリシーが作成されました。

インストールした OVPI の管理

この章では、インストールした OpenView Performance Insight (OVPI) を維持管理するために特定の間隔で実行する必要がある管理作業について説明します。

インストール後の管理作業

OVPI を正常にインストールした後、それに続いていくつかの管理作業を、その日から実行する必要があります。以下の管理作業を、OVPI を初めてインストールした日から実行する必要があります。

- OVPI が動作していることの確認
- レポートのスケジュール設定
- ユーザー、グループ、およびグループフィルターの変更

OVPI が動作していることの確認

OVPI が正常に動作していることを確認するには、以下を実行します。

- 1 データベースのエラーログファイルを確認して、データベースの損傷やハードウェアの問題がないことを調べます。

Oracle のログファイルは通常は \$ORACLE_BASE/admin/<SID> にあります。

- 2 準備したノードのデータが収集されていることを確認します。これを確認するには、trend.log ファイルを確認することで、SNMP のセッションエラーがないことと、SNMP のタイムアウトエラーを継続的に引き起こしているノードがないことを確かめます。

ログファイルの検索

trend.log ファイルには、OVPI のすべてのバックエンドプロセス (たとえば trendtimer) のメッセージが格納されています。メッセージはそれぞれ、ログに記録されたプロセスの開始時間と終了時間を示しています。

OVPI のインストール時にログファイルのデフォルトの場所を使用した場合は、ログファイルは OVPI インストールディレクトリ配下の log フォルダーにあります (Windows システムの場合は、たとえば C:\OVPI\log)。

ログファイルがデフォルトの場所がない場合に、その所在を調べるには、使用しているオペレーティングシステムに応じて以下のいずれかを実行します。

Windows の場合

- a Windows のタスクバー上の [スタート] ボタンをクリックし、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。[コントロールパネル] ウィンドウが開きます。
- b [システム] をダブルクリックします。[システムのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- c [詳細] タブをクリックし、[環境変数] ボタンをクリックします。
- d システム環境変数のリストで TREND_LOG 変数を探します。たとえば次のようになっています。

```
TREND_LOG          C:\OVPI\log
```

UNIX の場合

オペレーティングシステムのユーザー (trendadm) として、コマンド行で以下を入力します。

```
echo $TREND_LOG
```

このコマンドによって、ログフォルダーの場所が表示されます。

SNMP エラーの解決

SNMP エラーが見つかった場合は、trendtimer.sched ファイルの **mw_collect** エントリを変更する必要があります。特に、**mw_collect** コマンドに指定する値について、**-o** オプション (タイムアウト) や **-r** オプション (再試行) を使用して調整する必要があります。**mw_collect** コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』 (英語) を参照してください。

- 3 テーブルマネージャ ([管理コンソール] から実行できます) を使用して、データ収集をしているかどうかを確認めます。詳細は、[267 ページの「プロパティテーブルの表示」](#) を参照してください。

レポートに内容が正しく記載されていない様子である場合は、Web アクセスサーバーをデバッグモードにすることで、レポートの生成に使用されている SQL 文を表示します (Web アクセスサーバーをデバッグモードにする方法の詳細は、[432 ページの「Web アクセスサーバー設定の変更」](#) を参照してください)。SQL 文の確認が済んだら、Web アクセスサーバーのデバッグモードを必ずオフにしてください。さもないとシステムのパフォーマンスが低下することがあります。

レポートのスケジュール設定




スケジュールを設定は、すべてのレポートパックのすべてのレポートについては、**行わないでください**。

特定の状況においてのみ、一度に少数のレポートに、スケジュール設定することをお勧めします。たとえば、PDF フォーマットの要約レポートを毎週生成するよう上司が求めたといった場合に、スケジュール設定をします。Web アクセスサーバーを使用してレポートを対話形式で表示すれば、レポートのスケジュールを設定せずに済みます。レポートのスケジュール設定の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

ユーザーアカウントの変更

場合によっては、ユーザーアカウントの変更が必要になることがあります。たとえば、ユーザーをアカウントからロックしなければならない場合などです。

ユーザーアカウントを変更するには **Web** アクセスサーバーを使用し、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーの **[管理]** を選択します。
- 2 **[管理]** ツリーで、**[ユーザーアカウント]** を展開し、**[ユーザー]** をクリックします。**[ユーザーの管理]** ページが開き、ユーザーアカウントが一覧表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - **[ユーザーの管理]** ページでユーザーアカウントをクリックします。
 - 変更するユーザーアカウントの横にある **[編集]** アイコン () をクリックします。

[編集 Username] ページが表示されます。

- 4 変更を加え、**[適用]** をクリックします。


たとえば、ユーザーアカウントをロックするには、**[ユーザーのログインを許可しない]** チェックボックスをオンにします。
- 5 **[OK]** をクリックして変更を確定します。

ユーザーアカウントの変更の詳細は、**391** ページの「ユーザーアカウントの管理」を参照してください。

ユーザーグループの変更

ユーザーグループを変更するには、以下の手順に従います。


- 1 リンクバーの **[管理]** を選択します。
- 2 **[管理]** ツリーで、**[ユーザーアカウント]** を展開し、**[グループ]** をクリックします。**[グループの管理]** ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [グループの管理] ページでユーザーグループをクリックします。
 - ユーザーグループの横にある  ([編集]アイコン) をクリックします。このオプションを選択した場合は、この手順の手順 5 に進みます。

[次の項目の内容:<グループ名>] ページが開き、ユーザーグループのリストと、そのユーザーグループに含まれているユーザーが表示されます。
- 4 [グループの編集] をクリックします。[グループの変更] ページが表示されます。このページは [新規グループの追加] ページとまったく同じです。
- 5 ユーザーグループに追加する場合、ユーザーまたはユーザーグループを [使用可能なユーザー/グループ] リストから選択し、[追加] をクリックします。ユーザーまたはユーザーグループが [メンバー] リストに追加されます。
- 6 ユーザーグループから削除する場合、ユーザーまたはユーザーグループを [メンバー] リストから選択し、[削除] をクリックします。ユーザーまたはユーザーグループが [使用可能なユーザー/グループ] リストから削除されます。
- 7 [次へ] をクリックし、[完了] をクリックします。

ユーザーグループフィルターの変更

ユーザーグループフィルターを変更するには、以下の手順に従います。


- 1 リンクバーの [管理] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、[グループ] をクリックします。[グループの管理] ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [グループの管理] ページでユーザーグループをクリックします。
 - ユーザーグループの横にある  ([編集]アイコン) をクリックします。

[次の項目の内容:<グループ名>] ページが表示され、ユーザーグループのリストと、そのユーザーグループに含まれているユーザーが表示されます。
- 4 [フィルターの編集] をクリックします。[グループフィルター] ページが開きます。

- 5 フィルターを選択し、[**編集**] をクリックします。フィルターの値が、[列]、[演算子]、[値] の各ボックスに表示されます。
- 6 必要な値を編集し、[**フィルタの追加**] をクリックします。
- 7 [**完了**] をクリックします。

ユーザーグループフィルターの削除

ユーザーグループフィルターを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーの [**管理**] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、[**グループ**] をクリックします。[グループの管理] ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - ナビゲーションフレームでユーザーグループを選択します。
 - [グループの管理] ページでユーザーグループをクリックします。
 - ユーザーグループの横にある  ([**編集**] アイコン) をクリックします。

[次の項目の内容 : < グループ名 >] ページが表示され、ユーザーグループのリストと、そのユーザーグループに含まれているユーザーが表示されます。
- 4 [**フィルターの編集**] をクリックします。[グループフィルター] ページが開きます。
- 5 [グループフィルター] ボックスで、削除するフィルターを選択し、[**削除**] をクリックします。
- 6 [**完了**] をクリックします。

毎日実行する管理作業

プロセスや要約が正しく完了していることを確かめることで、データのステータスを確認してください。

データのステータスの確認

プロセスと要約のステータスを確認するには、`audit.log`、`trend.log`、および `metrics.log` の内容を表示し、オペレーティングシステムのプロセスリストを確認します。ログファイルに含まれている情報の詳細は、[第16章「ログファイルの解釈」](#)を参照してください。

毎週実行する管理作業

毎週実行する必要がある管理作業を以下に示します。

- データベースのバックアップ

バックアップの頻度を増やすほど、致命的なエラーやディスク障害の際にデータを損失する可能性が減ります。

Oracle データベースのバックアップ

Oracle データベースを使用している場合は、以下のいずれかを実行できます。

- オフラインバックアップ。このバックアップを実行する場合は、**Oracle** と **OVPI** をシャットダウンする必要があります。
OVPI をシャットダウンするには、**OVPI HTTP Server** サービスと **OVPI Timer** サービスを停止させる必要があります。詳細は、[65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」](#)を参照してください。
- オンラインバックアップ。このバックアップを実行する場合は、ファイルのバックアップ中もデータベースを使用できます。

以上のそれぞれのバックアップの詳細は、**Oracle** のマニュアルを参照してください。

不定期に実行する管理作業

不定期に実行する必要がある管理作業を以下に示します。

- システムおよびデータベースのバックアップ

以下の時点で、インストールされている OVPI とデータベースの両方をバックアップする必要があります。

- OVPI を初めてインストールした後。

OVPI を初めてインストールした後に、システムとデータベースの完全なバックアップを実行することが重要です。

- インストールされているソフトウェアに大規模な変更を加えたときの、前と後。

たとえば、OVPI とレポートパックを初めてインストールした後に、追加のレポートパックをインストールする場合は、レポートパックをインストールする **前**と、した **後**に、システムとデータベースをバックアップしてください。

- 詳細は、63 ページの「Oracle データベースのバックアップ」を参照してください。
- OVPI のプロセスの開始および停止
- プロキシサーバーのセットアップ

システムのバックアップ

ファイルシステムのバックアップを通常使用する手順で実行してください。

OVPI のプロセスの開始および停止

OVPI には以下のプロセスがあります。

- **OVPI HTTP Server**

このプロセスは、OVPI データベースへの OVPI クライアントによるアクセスを制御します。Web アクセスサーバー、レポートビューア、レポートビルダの各アプリケーションを正しく動作させるには、このプロセスがシステム上で常に稼動している必要があります。

OVPI のインストール時に Web アクセスサーバーをインストールした場合（つまり、Web アクセスサーバーのオプションを選択した場合は）、Web アクセスサーバーを使用して OVPI HTTP Server プロセスの設定を変更できます。それらの設定として、ポート番号、レルム、ログファイルパス、ロギング、デバッグ、ゲートウェイパッチ機能、タイムアウト値、認証方法、およびアカウント ID があります。詳細は、432 ページの「[Web アクセスサーバー設定の変更](#)」を参照してください。

- **OVPI Timer**

このプロセスは、`trendtimer.sched` ファイルの内容を処理することで、特定の時点で、または定期的な間隔で、実行される必要のある他の OVPI アプリケーションを起動します。

trendtimer コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

Windows でのプロセスの開始および停止

OVPI をインストールしたとき、OVPI HTTP Server と OVPI Timer はサービスとして自動的に開始するよう設定されます。これらが何らかの理由で自動的に開始しなかった場合や停止した場合は、手動で開始する必要があります。

サービスのステータスの確認

Windows においてサービスの開始を試みる場合は、その前に以下を実行することで、そのサービスが稼動しているかどうかを確かめてください。


サービスのステータスを確認するには、以下の手順に従います。

- 1 **Windows** のデスクトップで [スタート] ボタンをクリックし、[設定]、[**コントロール パネル**] の順に選択します。[コントロール パネル] ウィンドウが開きます。
- 2 [**管理ツール**] をダブルクリックし、[**サービス**] をダブルクリックします。
[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 以下のサービスについて、状態が [開始] であり、かつスタートアップの種類が [自動] であり、それぞれウィンドウに表示されていることを確認します。

OVPI HTTP Server

OVPI Timer

サービスの停止と、サービスを自動的に開始するための設定の詳細は、[66 ページの「サービスの開始」](#)を参照してください。

- 4 [サービス]、[管理ツール]、[コントロールパネル] の各ウィンドウの右上隅にある  をクリックして、それらのウィンドウを閉じます。

サービスの開始

通常、**Windows** ではサービスがインストールされた場合、それらのサービスはシステムが再起動されるたびに自動的に開始されます。しかし場合によっては、サービスを手動で開始または停止しなければならない場合があります。

サービスの開始または停止は、それらのサービスがインストールされているシステムから実行する必要があります。コントロールパネルから、サービスを開始または停止できます。あるいは、**Windows** エクスプローラまたはコマンドプロンプトウィンドウから、**OVPI HTTP Server** サービスを開始することもできます。

コントロールパネルの使用

コントロールパネルを使用してサービスを開始または停止するには、以下の手順に従います。

- 1 **Windows** のデスクトップで [スタート] ボタンをクリックし、[設定]、[**コントロール パネル**] の順に選択します。[コントロール パネル] ウィンドウが開きます。

- 2 [管理ツール] をダブルクリックし、[サービス] をダブルクリックします。
[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 サービス (OVPI HTTP Server または OVPI Timer) を右クリックします。
- 4 ショートカットメニューから [開始] または [停止] を選択します。[状態] 列に、選択したサービスが正常に開始または停止したかどうかが表示されます。

UNIX でのプロセスの開始および停止

OVPI をインストールしたとき、OVPI HTTP Server と OVPI Timer は、デフォルトではデーモンとして自動的に開始するよう設定されます。デーモンサービスはシステムが再起動されるたびに自動的に開始されます。しかし場合によっては、サービスを手動で開始または停止しなければならない場合があります。

デーモンの開始は、それらのデーモンがインストールされているシステムから実行する必要があります。

デーモンを開始するには、以下の手順に従います。

- 1 アプリケーションがインストールされているシステムで新しいシェルを開きます。
- 2 root としてログオンします。
- 3 以下のいずれかのコマンドを入力して OVPI HTTP Server プロセスを開始します。
 - HP-UX の場合：

```
/sbin/init.d/ovpi_httpd start
```
 - Solaris の場合：

```
/etc/init.d/ovpi_httpd start
```

4 以下のいずれかのコマンドを入力して OVPI Timer プロセスを開始します。

- HP-UX の場合：
`/sbin/init.d/ovpi_timer start`
- Solaris の場合：
`/etc/init.d/ovpi_timer start`

▶ コマンド行で **start** の部分を **stop** に置き換えることで、デーモンを手動で停止させることができます。

OVPI データベースの再配置の確認

データベースの再配置を完了した後、ホスト B で以下の項目を必ず確認してください。

- ポーリング要求
ポーリングポリシーマネージャを使用して、新しいホストでデータをポーリングするよう各ポーリング要求を変更する必要があります。ポーリング要求の中でどのシステムでデータをポーリングする必要があるかを変更する方法の詳細は、第 7 章「ポーリングポリシーの管理」を参照してください。ポーリングされるシステムを変更したら、**ping** コマンドを使用して変更を確認できます。
- ovpi およびその他のすべてのユーザーの環境変数
以下のファイルが（新規インストールまたは編集によって）変更されて、特に **DISPLAY** および **DSQUERY** について新しい設定になったことを確かめます。

```
$DPIPE_HOME/data/Cshrc  
$DPIPE_HOME/data/Profile
```

- データベースのリビジョン
この作業は以下の **isql** コマンドを使用して実行できます。

```
isql -Udsi_dpipe -Pdsi_dpipe  
1> update tl_groups set dsquery = Sybase-DSQUERY-value,  
2> data_db = Sybase-DSQUERY-value  
3> go
```

- レポートバック

レポートバックについて、必ず以下を実行します。

- レポートバックを [パッケージマネージャ] を使用してインストールした場合や、レポートを追加した場合は、以下のファイルとディレクトリをホスト A からホスト B にコピーします。

\$DPIPE_HOME/data/print.* ファイル

\$DPIPE_HOME/data/*.info ファイル

\$DPIPE_HOME/reports ディレクトリ

\$DPIPE_HOME/scripts ディレクトリ

- カスタムレポートファイル (.qss、.qgr、または .gos) がホスト A のいずれかのディレクトリに存在する場合は、必ずそれらをホスト B にコピーします。
 - カスタムスクリプトがいずれかのホスト A のディレクトリに存在する場合は、必ずそれらをホスト B にコピーします。
 - ホスト B の trendtimer.sched ファイルを編集して、ホスト A の trendtimer.sched ファイルの時間およびエントリーと同じになるようにします。特に、パッケージの trend_proc -f xxx.pro に関する行と、カスタムレポートまたはカスタムスクリプトに関する行について、この作業を行います。
 - 分散型構成のみ: trendcopy を使用してデータをサテライトサーバーから中央サーバーにコピーしようとする場合は、新しいホスト名が反映されるよう、各レポートバックの該当する .pro ファイルを変更する必要があります。

HTTP プロキシまたはポータル環境での OVPI のセットアップ

OVPI の Web アクセスサーバーコンポーネントと実際のサーバーとの間に HTTP プロキシサーバーが存在する場合は、OVPI をインストールした後に、OVPI の Web アクセスサーバーコンポーネントへの適切な認証を設定しなければならない場合があります。どの種類の認証が最適かを判断するには、使用しているプロキシサーバーのユーザー名の変換機能を知る必要があります。

理想的には、以下のいずれかを実行できるプロキシサーバーを使用することが最適です。

- 着信プロキシまたは着信ポータルของผู้ใช้名を受け取り、いずれかを適切な HTTP ヘッダエンコードを使用して、パスワードとともに OVPI に直接渡す。
- 何らかの変換手法で、着信名を OVPI アカウント名に変換する。



ポータルとプロキシを区別して扱うとわかりやすくなります。プロキシは、トラフィックを強制的に処理し、ログインの可能性によって、HTTP トラフィックをあるシステムから別のシステムに、渡します(主にセキュリティの区分化)。ポータルは、より広範な目的を持ったアプリケーション統合として機能し、数多くの付加的な機能を提供します。

HTTP ベースのアプリケーションは、パケットを生成するときに HTTP ヘッダを作成します。(たとえば HTTP ヘッダの作成を下位層に依存しているためなどの理由で、)ユーザー名とパスワードをヘッダの中で指定できる機能がプロキシサーバーにない場合、そのプロキシサーバーは、igeorges のようなプロキシユーザー名を受け取り、HTTP 1.1 の基本認証を使用してそれを変換しさらにクリアテキストで OVPI の Web アクセスサーバーコンポーネントに渡すことができない場合があります。したがって、Tomcat に頼って自身の HTTP ヘッダを作成する Service Information Portal (SIP) と統合する必要がある場合は、HTTP の基本認証を使用できません。この目的のために、OVPI にはユーザー名とパスワードを OVPI に渡すための他の認証方法があります。それらのオプションを以下に示します。

- [HTTP 基本]。この方法では、自分のユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを指定することで、Web アクセスサーバーにログオンする必要があります。
- [URL]。この方法では、URL を使用してレポートを表示するときにユーザー名を指定する必要があります。

- [なし]。この方法では認証は必要ありません。



HTTP の基本認証と URL 認証を同時には使用できません。たとえば、Network Operations Center 内のユーザーに対して、各自の Web ブラウザを Network Node Manager (NNM) から起動できるようにし、ログオンせずに OVPI に接続できるようにしたいと仮定します。ただし、他のすべてのユーザーアカウントに対しては標準の OVPI セキュリティのままよいと仮定します。

この事例のための設定をするには、2 つの Web アクセスサーバーシステムを使用します。一方のサーバーを [HTTP 基本] の認証オプションで実行し、他方のサーバーを [なし] の認証オプションで実行することができます。この場合、OVPI の管理者は 2 つ目の Web アクセスサーバーにレポートを再配布する必要があります。この作業は **deploytool** ユーティリティを使用して実行できます。このユーティリティの使用法についての詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

Web アクセスサーバーに対する認証をセットアップするには、以下の手順に従います。

- 1 Web ブラウザを起動します。
- 2 以下の URL をブラウザの [アドレス] または [場所] フィールドに入力し、[Enter] キーを押します。

`http://server_name.organization.type:port_number`

`server_name` は Web アクセスサーバーの名前です。

`organization` は自分が所属する組織の名前です。

タイプはドメインの種類です (たとえば com、org、net)。

`port_number` はデフォルトの Web アクセスサーバーのポート番号です。

- ▶ Web アクセスサーバーでポート 80 を使用している場合はポート番号を入力する必要はありません。

[ログイン] ページが開きます。

- 3 [ログオン] をクリックします。
[ネットワーク パスワードの入力] ダイアログボックスが開きます。

- 4 管理者のユーザー名とパスワードを入力して **[OK]** をクリックします。

OVPI では、インストール時に trendadm というデフォルトの管理者アカウントが作成されます。このアカウントを使用するか、または、管理者権限を持つ別のアカウントがあればそれを使用します。

Web アクセスサーバーが開きます。

- 5 リンクバーの **[管理]** を選択します。[管理] ページが開きます。
- 6 [管理] ツリーで、[サービスの構成] を展開し、**[Web アクセスサーバー]** をクリックします。**[Web アクセスサーバーの設定]** ページが開きます。
- 7 [レルム] ボックスに、サーバーのレルム名を入力します。最大 50 文字です。

レルムとは、Web アプリケーション (複数もありうる) の有効なユーザーを識別するユーザー名とパスワードのデータベースであり、有効な各ユーザーに関連付けられた役割の列挙リストを提供します。役割は UNIX オペレーティングシステムのグループに似ています。なぜなら、関連付けられたユーザー名のリストを列挙するのではなく、特定の Web アプリケーションリソースへのアクセスが、特定の役割を所有しているすべてのユーザーに許可されるからです。ある特定の 1 ユーザーについて、任意の個数の役割をそのユーザー名に関連付けることができます。通常は、ポータル管理の要求に応答してレルム値を変更するだけで済みます。

レルム名はユーザーの認証に使用されます。ユーザーのログオン情報 (ユーザー名とパスワード) は、それらが割り当てられたレルムに対してのみ有効になります。Web アクセスサーバーの前面でプロキシサーバーを使用している場合は、レルム名を変更する必要があります。

たとえば、プロキシサーバーのレルム名が realm1 であり、Web アクセスサーバーのレルム名が tw-app である場合、ユーザーは 2 回ログオンする必要があります。Web アクセスサーバーのレルム名を realm1 に変更すれば、ユーザーは 1 回ログオンするだけで済みます。

レルム名は [ネットワーク パスワードの入力] ダイアログボックスに表示されます。このダイアログボックスは Web アクセスサーバーの **[ログオン]** ボタンをクリックした後に表示されます。

- 8 [Web サイトのドキュメントルート] ボックスに、ホームページのディレクトリ階層を再配置するためのディレクトリを入力します。これにより、Web アクセスサーバーのコンポーネントが配置される URL が変更されます。

Web サイトのドキュメントルートは、OVPI の URL 階層の最上位になっています。デフォルトでは、この階層は / (ルート) であり、すべての OVPI コンポーネントが Web アクセスサーバーのルートレベルに配置されています。

このオプションは、プロキシサーバーが存在し、OVPI がプロキシ内のコンポーネントのうちの 1 つである環境において役に立ちます。つまり、統合されたすべてのアプリケーションで一意の合理的なドキュメントルートが必ず使用されるよう、URL を変更できます。

ユーザーアプリケーションが複数あり、その 1 つが OVPI である場合は、この URL を /ovpi に変更できます。たとえば、デフォルトの URL を `http://hostname/reports/home` から以下の URL に変更します。

`http://hostname/ovpi/reports/home`

- 9 [認証方法] の矢印をクリックし、以下のいずれかを選択します。
- [HTTP 基本]。この方法では、自分のユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを [ネットワーク パスワードの入力] ダイアログボックスに入力することで、Web アクセスサーバーにログオンする必要があります。ブラウザは、ユーザー入力を受け付けると、その情報を、そのサーバーへのセッションに対する以降のすべての HTTP ヘッダに追加します。ユーザー名とパスワードは Base64 でエンコードされます。
 - [URL]。この方法では、URL を使用してレポートを表示するときにユーザー名を指定する必要があります。

このオプションは、ユーザー名を HTTP ヘッダの中でエンコードする能力を持たないアプリケーション群 (たとえば SIP など比較的初期のプロキシサーバー) か、またはユーザー名の概念がないアプリケーション群 (たとえば Network Node Manager) について、それらを統合するためのものです。この場合は、何らかの汎用の Network Operation Center アカウントのためのブラウザ要求を OVPI サーバーに送り、OVPI でカタログ表示のマスク処理を実行できるようにするだけです。

このオプションではパスワードは必要ありません。引数はコマンド行 (URL) でクリアテキストを使用して渡されるため、パスワードをクリアテキストで渡すことは意味がありません。したがって、URL 認証を使用する場合は、OVPI サーバーが信頼ある環境の中で動作しているとみなされます。なぜなら、ユーザーはパスワードの入力を求められることがなく、誰もが Web ブラウザで &ov_user 引数の URL 値を変更することで任意のユーザーのデータにアクセスできるからです。

URL を使用したレポートの表示の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight* レポートの作成および表示ガイド』を参照してください。

- [なし]。この方法では認証は必要ありません。ただし、ユーザーは [アカウント ID] ボックスで指定したユーザーアカウントと同じ権限でシステムにアクセスします。このオプションではユーザーがログオン情報の入力を求められることはありません。基本レベルのフィルターリングとアクセス制御を実現するため、OVPI サーバーでは、ログオンが [なし] となるデフォルトの OVPI アカウントを [アカウント ID] ボックスで指定できます。

▶ 管理者権限を持っていないユーザーアカウントを [アカウント ID] ボックスに指定した場合は、それ以降 [管理] リンクにアクセスできなくなります。管理者権限をリセットする方法の詳細は、[435 ページ](#)の「[管理者権限のリセット](#)」を参照してください。

- 10 [アカウント ID] ボックスに、認証オプション [なし] を関連付けるユーザーアカウントの名前を入力します。他のすべてのユーザーアカウントは、Web サーバーへのアクセス時にこのアカウントと同じ権限を取得します。
- 11 [適用] をクリックします。
- 12 変更が完了したら、Web アクセスサーバーをいったん終了し、起動します。この手順の詳細は、[65 ページ](#)の「[OVPI のプロセスの開始および停止](#)」を参照してください。

例 : Apache プロキシサーバーのセットアップ

Apache プロキシサーバーをセットアップするには、いくつかの行を httpd.conf ファイルに追加する必要があります。httpd.conf ファイルは、Apache をインストールしたディレクトリの conf サブディレクトリにあります。

サーバーをセットアップするには、以下の行を httpd.conf ファイルに追加します。

```
ProxyPass /images http://<hostname>/images
ProxyPass /reports http://<hostname>/reports
ProxyPass /jsp http://<hostname>/jsp
ProxyPass /webview http://<hostname>/webview
ProxyPass /system http://<hostname>/system
ProxyPass /results http://<hostname>/results
ProxyPass /index.jsp http://<hostname>/index.jsp
ProxyPass /help.html http://<hostname>/help.html
ProxyPassReverse /images http://<hostname>/images
ProxyPassReverse /webview http://<hostname>/webview
ProxyPassReverse /system http://<hostname>/system
ProxyPassReverse /results http://<hostname>/results
ProxyPassReverse /index.jsp http://<hostname>/index.jsp
ProxyPassReverse /help.html http://<hostname>/help.html
ProxyPassReverse /reports http://<hostname>/reports
ProxyPassReverse /jsp http://<hostname>/jsp
```

この例で、<hostname> は Web アクセスサーバーサービスが動作しているシステムの名前です。

この例では基本 HTTP 認証がデフォルトになっているため、認証を変更する必要はありません。

管理コンソールの使用

OVPI システムのほとんどの機能は、[管理コンソール]で管理できます。OVPI には、さまざまな機能を管理するもう 1つのアプリケーションとして、Web アクセスサーバーもあります。Web アクセスサーバーの詳細は、第 13 章「Web アクセスサーバーの使用」を参照してください。

[管理コンソール]を使用すると、以下のアプリケーションにアクセスできます。

- **MIB ブラウザ**。このアプリケーションでは、ノードのステータスや構成の情報について、ノード上で稼動しているエージェントに要求を出すことで、それらをクエリ、または変更できます。さらに、ノードから異なるオブジェクトセットを選択して収集する必要がある場合は、カスタムの収集テーブルを作成することもできます。詳細は、第 15 章「MIB の管理」を参照してください。
- **SNMP 検出**。このアプリケーションでは、ネットワークにあるノードを検索し、それらが SNMP で管理可能かどうかを判断できます。詳細は、92 ページの「検出プロセスの使用」を参照してください。
- **タイプ検出**。このアプリケーションでは、ノードのデバイスタイプ（たとえば、ルーター、ハブ、スイッチ）を調べることができます。詳細は、100 ページの「タイプ検出プロセスの使用」を参照してください。

- [パッケージマネージャ]。このアプリケーションでは、パッケージのインストールとアンインストール、**Web** アクセスサーバーへのレポート配布および配布解除ができます。詳細は、[第 6 章「レポートパックのインストール」](#)を参照してください。
- オブジェクトマネージャ。このアプリケーションでは、システム上の管理対象オブジェクトの特定のプロパティを表示および変更できます。また、ノードオブジェクトをデータベースにインポートしたり、ノードを含んだエクスポートファイルを作成したりすることもできます。詳細は、[第 8 章「管理対象オブジェクトの管理」](#)を参照してください。
- グループマネージャ。このアプリケーションでは、自社のポーリングポリシーによって参照される管理対象オブジェクトのグループを作成および維持できます。詳細は、[第 9 章「管理対象オブジェクトのグループ化」](#)を参照してください。
- ポーリングポリシーマネージャ。このアプリケーションでは、データを収集するポーリングポリシーのセットアップと変更、ノードのインポートと管理、ポーリンググループの管理を実行できます。また、プロパティテーブル内の値を更新することもできます。詳細は、[第 7 章「ポーリングポリシーの管理」](#)を参照してください。
- テーブルマネージャ。このアプリケーションでは、データベーススキーマにあるすべてのテーブルを機能タイプ別に表示し、プロパティ、収集可能（未処理およびレート）、要約の各テーブルを調べることができます。詳細は、[第 11 章「保持期間テーブルの管理」](#)を参照してください。
- システムマネージャ。このアプリケーションでは、**OVPI** のデータベース、汎用のデータベース、および **Web** アクセスサーバーを管理できます。詳細は、[第 10 章「システムの管理」](#)を参照してください。
- カタログマネージャ。このアプリケーションでは、**OVPI** のレポートカタログとリンクカタログを管理できます。レポートカタログを使用すると、レポートをレポートカタログに**配布**でき、それによってユーザーは **Web** アクセスサーバーを使用してレポートを表示できるようになります。また、頻繁に使用する **URL** をカタログに配布することもできます。リンクカタログを使用すると、レポートカタログにある任意のレポートから、レポート、サードパーティ製アプリケーション、または **URL (Uniform Resource Locator)** のいずれにもリンクを設けることができます。

管理コンソールの起動

管理コンソールは UNIX または Windows のいずれかのオペレーティングシステムで使用できます。サポートされているオペレーティングシステムの一覧は、『*HP OpenView Performance Insight 管理ガイド*』を参照してください。

UNIX システム

UNIX システムで管理コンソールを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 アプリケーションがインストールされているシステムで新しいシェルウィンドウを開きます。
- 2 以下のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

```
piadmin
```

piadmin コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

Windows システム

Windows システムで管理コンソールを起動するには、以下のいずれかを実行します。

- Windows のタスクバー上の [スタート] ボタンをクリックし、メニューから [プログラム]、[HP OpenView]、[Performance Insight]、[管理コンソール] の順に選択します。
- Windows のコマンドプロンプトウィンドウから表示される MS-DOS コマンドプロンプトで、以下のコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

```
piadmin
```

piadmin コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

- Windows エクスプローラを使用する場合は、以下を実行します。

- a 次のディレクトリに移動します。

installation_directory\bin

この場合、*installation_directory* は OVPI がインストールされているディレクトリです。

- b 次のファイルをダブルクリックします。

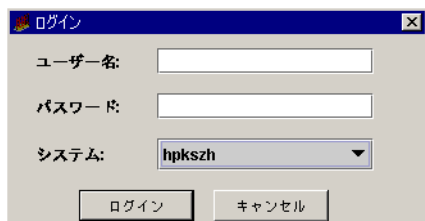
piadmin.exe

ログオン

管理コンソールにログオンするには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール]を起動します。

[ログイン]ダイアログボックスが開きます。



- 2 ユーザー名とパスワードを入力し、アプリケーションを使用するシステムを選択します。

ユーザーアカウントの詳細は、[391 ページ](#)の「ユーザーアカウントの管理」を参照してください。

- 3 [ログイン]をクリックします。

[管理コンソール] インタフェース

図1に、[管理コンソール]ウィンドウを示します。

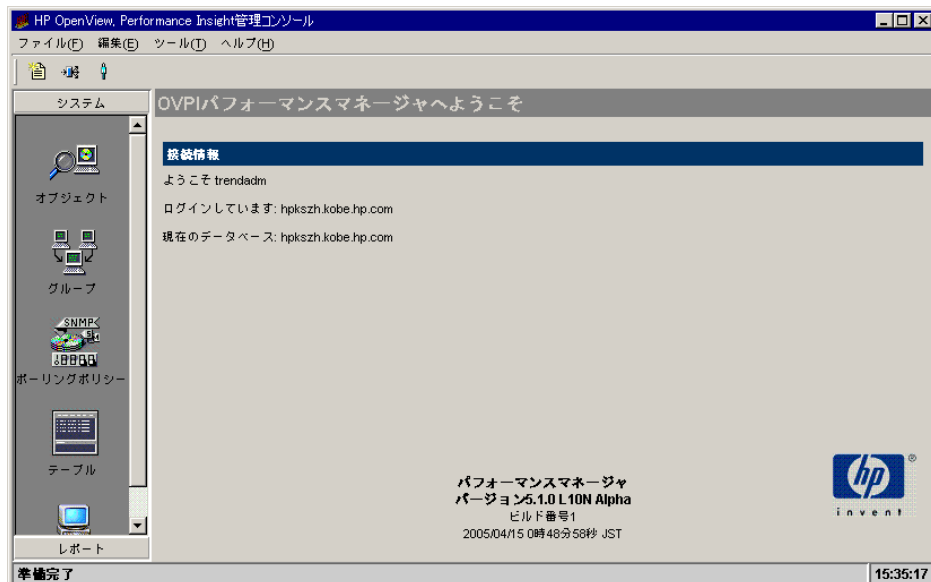


図1 [管理コンソール]ウィンドウ

インタフェースは、メニューバー、ツールバー、[システム]ペイン、および表示ペインで構成されています。

管理ペインには[システム]ボタンと[レポートを生成しています]ボタンがあります。それぞれのボタンからは異なるアイコンセットが表示されます。これらは管理コンソールの各アプリケーションに対応しています。それらは次のとおりです。

- [システム]
 - [オブジェクト](オブジェクトマネージャ)
 - [グループ](グループマネージャ)
 - [ポーリングポリシー](ポーリングポリシーマネージャ)
 - [テーブル](テーブルマネージャ)
 - [システム](システムマネージャ)

- [レポートを生成しています]
 - [カタログ](カタログマネージャ)

管理ペインから実行できる任意のアプリケーションを開いた後、または[ツール]メニューから実行できる MIB ブラウザを開いた後、アプリケーションのウィンドウには以下のペインが表示されます。

- ナビゲーション。ナビゲーションペインでは、項目を選択できます。
ナビゲーションペインの階層レベルは、Windows エクスプローラで Windows システムの内容を表示するときとまったく同様に展開できます。フォルダーを展開することで、その中のページやフォルダーをさらに表示できます。また、階層レベルを折りたたむこともできます。
- 表示。表示ペインには、ナビゲーションペインで実行した選択の結果が表示されます。

ペインを分割している縦線をいずれかの方向に移動することで、ペインのサイズを調整できます。オペレーティングシステムに応じて以下のいずれかを実行します。

- Windows の場合。ペインを分割している縦線の上にカーソルを置き、両方向の矢印(⇄)を表示します。そして、いずれかの方向に縦線をドラッグします。
- UNIX の場合。ペインを分割している縦線の上にボックスを置き(☐)、左クリックしたまま、いずれかの方向に縦線をドラッグします。

メニューバー



メニューバーは、どのアプリケーションを開いているかによって異なります。使用しているアプリケーションのメニューバーの詳細は、そのアプリケーションの章を参照してください。

[管理コンソール]にあるメニューは、[ファイル]、[編集]、[ツール]、[ウィンドウ]、[ヘルプ]です。

[ファイル]メニュー

表 1 に、[ファイル]メニューのオプションを示します。

表 1 [管理コンソール]の[ファイル]メニューのオプション

メニュー オプション	説明
[サーバーの変更]	[管理サーバーの選択]ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、別の管理システムを選択できます。詳細は 87 ページの「データベースサーバーの変更」を参照してください。
[ログアウト]	システムからログオフしますが、管理コンソールは稼働中のままです。引き続き、[ヘルプ]メニューや他のいくつかの基本機能にアクセスできます。ログオフ後、このオプションは[ログイン]に変わり、選択すると再びシステムにログオンします。
[終了]	[管理コンソール]を終了します。

[編集]メニュー

表 2 に、[編集]メニューのオプションを示します。

表 2 [管理コンソール][編集]メニューのオプション

メニュー オプション	説明
[オプション]	[オプション]ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、管理コンソールのオプションと、各アプリケーションに固有のオプションを変更できます。

[ツール] メニュー

表 3 に、[ツール] メニューのオプションを示します。

表 3 [管理コンソール] の [ツール] メニューのオプション

メニュー オプション	説明
[データベース チューナー]	システムパフォーマンスを向上させるために Sybase 構成パラメータを表示および変更できます。
[MIB ブラウザ]	MIB ブラウザアプリケーションを表示します。このアプリケーションでは、SMI(管理情報構造) に準拠した SNMP MIB を分析、クエリ、およびトラブルシューティングできます。
[SNMP 検出]	SNMP 検出ウィザードを表示します。このウィザードでは、特定の IP アドレスでのデバイスの存在を確認し、そのデバイスが SNMP で管理可能かどうかを判断できます。
[タイプの検出]	タイプ検出ウィザードを表示します。このウィザードでは、検出したノードのタイプを調べることができます。
[パッケージマ ネージャ]	[パッケージマネージャ] アプリケーションを表示します。このアプリケーションでは、パッケージ (レポートパック) のインストールとアンインストール、および Web アクセスサーバーへのレポートの配布を実行できます。詳細は、 第 6 章「レポートパックのインストール」 を参照してください。



クライアントのみのインストールでは、OVPI の完全なインストールをした場合に [ツール] メニューから通常実行できるアプリケーションが、使用できません。また、新しいデータテーブルまたはプロパティテーブルの登録、データベースへの収集の自動追加もできません。

[ウィンドウ]メニュー

表4に、[ウィンドウ]メニューのオプションを示します。このメニューは、オブジェクトマネージャアプリケーションおよびグループマネージャアプリケーションが開いているときだけ表示されます。このメニューのオプションは、複数のフォームまたはレポートを開いているときにアクティブになります。

表4 [管理コンソール]の[ウィンドウ]メニューのオプション

メニューオプション	説明
[並べて表示]	ウィンドウをタイル表示します。つまり、開いている複数のウィンドウを等しいサイズに変更し、表示領域全体に重ならないようタイル状に並べます。
[縦に並べて表示]	ウィンドウをタイル表示し、開いているウィンドウを表示領域内で並列に配置します。
[横に並べて表示]	ウィンドウをタイル表示し、開いているウィンドウを表示領域内で上下に配置します。
[カスケード]	ウィンドウを重ねて表示します。1番目のウィンドウは表示領域の左上隅に配置され、それ以降の各ウィンドウは表示領域内で右下にずれて表示されます。

[ヘルプ]メニュー

表5は、[ヘルプ]メニューのオプションの一覧です。








表5 管理コンソールの[ヘルプ]メニューのオプション

メニューオプション	説明
[ヘルプトピック]	OVPIのオンラインマニュアルにアクセスできます。89ページの「オンラインマニュアルの表示」を参照してください。
[バージョン情報]	OVPIのバージョン情報と著作権情報を表示します。

ツールバー

ツールバーに表示されるボタンは、使用しているアプリケーションによって異なります。表 6 に、ツールバーのボタンを示します。

表 6 管理コンソールのツールバーのボタン

ボタン	メニュー オプション	説明
	[新規]	新しい項目（たとえばオブジェクトやグループ）を作成できます。
	[開く]	既存のグループを開くことができます。この操作はグループマネージャアプリケーションにのみ表示されます。
	[削除]	項目（たとえばグループやポーリングポリシー）を削除できます。
	[更新]	表示を更新します。
	[サーバー の変更]	[管理サーバーの選択] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、別の管理システムを選択できます。詳細は 87 ページの「データベースサーバーの変更」 を参照してください。
	[ビュー]	項目の表示形態を変更できます。大きいアイコン、小さいアイコン、一覧、または詳細から、選択できます。
	[ログアウト] または [ログイン]	管理コンソールからログオフできます。または管理コンソールにログオンできます。

データベースサーバーの変更

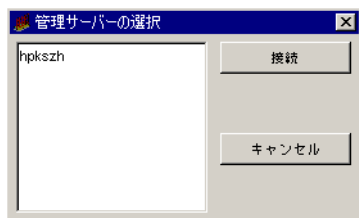
OVPI では、ネットワークにあるすべての OVPI サーバーのデータを、読み取りおよび格納できます。すべてのサーバーのポーリングを、1 箇所から実行できます。接続するデータベースサーバーを変更することで、1 箇所から各サーバーにログオンできます。

他のシステムへの接続の確立、変更、および削除の詳細は、432 ページの「Web アクセスサーバー設定の変更」を参照してください。

データベースサーバーを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューの [サーバーの変更] を選択します。

[管理サーバーの選択] ダイアログボックスが開き、使用可能な OVPI サーバーが表示されます。



- 2 サーバーを変更するには、サーバー名を選択し [接続] をクリックします。

すると、選択したサーバーのデータベースから取得された情報が管理コンソールに表示されます。

新しいデータベースサーバーにアクセスしていることを確かめるには、[ポーリングポリシー] アイコンまたは [テーブル] アイコンをクリックします。ナビゲーションツリーの最上位にあるフォルダーラベルに、現在のサーバーが表示されます。

ユーザー設定の保存

OVPI では、レポートビルダ、レポートビューア、管理コンソールの各アプリケーションにおいて、1 組の一意のユーザー設定を維持できます。

OVPI ではその設定が .ini ファイルに保存されます。 .ini ファイルはユーザーごとに 1 つ維持されます。アプリケーションの設定を変更すると、OVPI はそれらの設定を該当する .ini ファイルに自動的に保存します。

たとえば、OVPI では管理コンソールのログファイルを保存するディレクトリを指定できますが、その設定は管理コンソールアプリケーションの設定を行ったユーザーの .ini ファイルに保存されます。

ユーザーの .ini ファイルは以下の命名規則に従ってユーザーのホームディレクトリに格納されます。

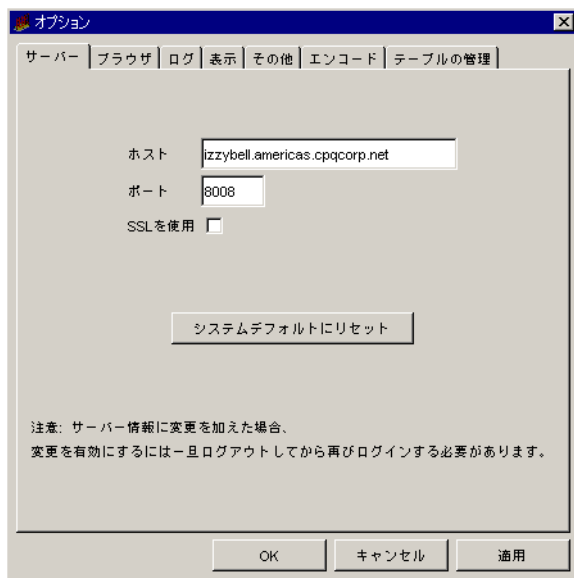
.ovpi/ アプリケーション名 /defaults.ini

.ovpi/ アプリケーション名 /preferences.ini

ユーザー設定を保存するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[オプション]を選択します。

[オプション]ダイアログボックスが開きます。



- 2 タブをクリックし、必要な値を変更します。

管理コンソールのアプリケーションである、オブジェクトマネージャ、グループマネージャ、またはテーブルマネージャを使用しているときは、そのアプリケーションに固有のタブが表示されます。たとえば、上の図では [テーブルの管理] タブが表示されています。

- 3 [OK] をクリックします。

オンラインマニュアルの表示

OVPI で参照できるオンラインマニュアルを表示するには、**Acrobat Reader** をシステムにインストールしておく必要があります。**Acrobat Reader** をまだインストールしていない場合は、docs フォルダからインストールできます。このフォルダは **OVPI** をインストールしたディレクトリにあります。


オンラインマニュアルを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 [ヘルプ] メニューの [ヘルプトピック] を選択します。

以下のいずれかが実行されます。

- 使用しているクライアントアプリケーション (たとえば管理コンソールやレポートビルダ) 用のブラウザをまだ選択していない場合は、[オプション] ダイアログボックスが開き、[ブラウザ] タブが表示されます。**手順 2** に進みます。
- 使用しているアプリケーション用のブラウザをすでに選択してある場合は、ブラウザウィンドウにオンラインマニュアルの一覧が表示されます。**手順 4** に進みます。

- 2 [ブラウザ] タブで、以下のいずれかを実行します。

- **Web** ブラウザのフルパスとアプリケーションファイル名を [ブラウザアプリケーション] ボックスに入力します。
-  をクリックします。[開く] ダイアログボックスが開きます。**Web** ブラウザのアプリケーションファイル名を探しダブルクリックします。

たとえば、**Microsoft Internet Explorer** では、フルパスとアプリケーションファイル名は次のようになります。

```
C:\Program Files\Internet Explorer\IEXPLORE.EXE
```

- 3 [OK] をクリックします。

使用可能なドキュメントの一覧がブラウザウィンドウに表示されます。



Acrobat Reader をシステムにインストールしていない場合は、[**Acrobat Reader**] アイコンをクリックしてインストールしてください。

- 4 開きたいドキュメントのタイトルをクリックします。
PDF (Portable Document Format) ドキュメントが **Acrobat Reader** で開きます。

ネットワークの検出

この章では、ネットワーク上のノードに関する情報を取得する方法について説明します。具体的には、**HP OpenView Performance Insight** の検出プロセスの実行方法を説明します。以下の、ウィザードベースのアプリケーションか、コマンドを使用して実行します。

- **SNMP 検出**。ネットワークにあるノードを検索し、それらが **SNMP** で管理可能かどうかを判断します。詳細は、[92 ページの「検出プロセスの使用」](#)を参照してください。
- **タイプ検出**。ノードのデバイスタイプ（たとえばルーター、ハブ、スイッチ）を調べます。詳細は、[100 ページの「タイプ検出プロセスの使用」](#)を参照してください。



レポートパックをインストールした際にタイプ検出プロセスを実行しなかった場合は、インストール後に、タイプ検出ウィザードを実行する必要があります。

- **trend_discover** コマンド。検出ウィザード (`trend_discover -l`) およびタイプウィザード (`trend_discover -t`) と同じ働きをしますが、さまざまなオプションを指定することで検出プロセスの付加機能も利用できます。

このコマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

node_manager コマンドを使用してノードをシステムに追加することもできます。このコマンドでは、各種のノードテーブルへの書き込みと更新を実行できます。このコマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。



検出ウィザード、タイプウィザード、trend_discover コマンド、および node_manager コマンドは、OVPI サーバーシステム上でのみ使用できます。

検出プロセスの使用

検出プロセスは、IP アドレスの範囲を 1 つずつ ping し、取得した応答を分析および特定します。そしてこの情報で、OVPI データベースのテーブルに書き込みまたは更新をします。検出プロセスで以下のことがわかります。

- 特定の IP アドレスに、デバイスが存在するか？
- そのデバイスは SNMP で管理可能か？
- SNMP で管理可能なデバイスである場合、そのデバイスの種類は何か？

以下のいずれかの方法で、検出を実行してください。

- **管理コンソール。** SNMP 検出ウィザードを使用します。
- **コマンド行。** trend_discover -l コマンドを使用します。trend_discover コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

SNMP 検出ウィザードの使用

SNMP 検出ウィザードを使用すると、検索する IP アドレスの範囲、サブネットマスク、および、1 つまたは複数の読み取りコミュニティ文字列を指定できます。次に、検出プロセスは指定した IP アドレス範囲内の各 IP アドレス（最初のサブネットアドレス [0] とブロードキャストアドレス [255] を除く）を ping します。すると、以下のいずれかの結果が得られます。

- その IP アドレスにデバイスが存在しない場合は、応答はありません。

- ping を認識するデバイスがその IP アドレスに存在する場合は、検出プロセスに応答します。この応答から、検出プロセスはその IP アドレスにデバイスが存在することを知ります。

次に、検出プロセスは以下を実行します。

- 応答のあったデバイスに **SNMP GET** メッセージを送ります。

デバイスが **GET** を認識して応答した場合、検出プロセスはそのデバイスを **SNMP** で管理可能と判断します。

- デバイスのホスト名の検出を試みます (ホスト名変換を指定した場合)。

使用しているシステムで、IP アドレスをホスト名に変換するプロトコルを使用していて、ホスト名が見つかった場合は、検出プロセスはそのホスト名を、検出されたデバイスに関連付けます。ホスト名が見つからない場合、検出プロセスはそのノードを IP アドレスで列挙します。



SNMP 検出ウィザードを起動する前に、[パッケージマネージャ]が稼動していないことを確かめてください。

SNMP 検出を起動するには、以下の手順に従います。

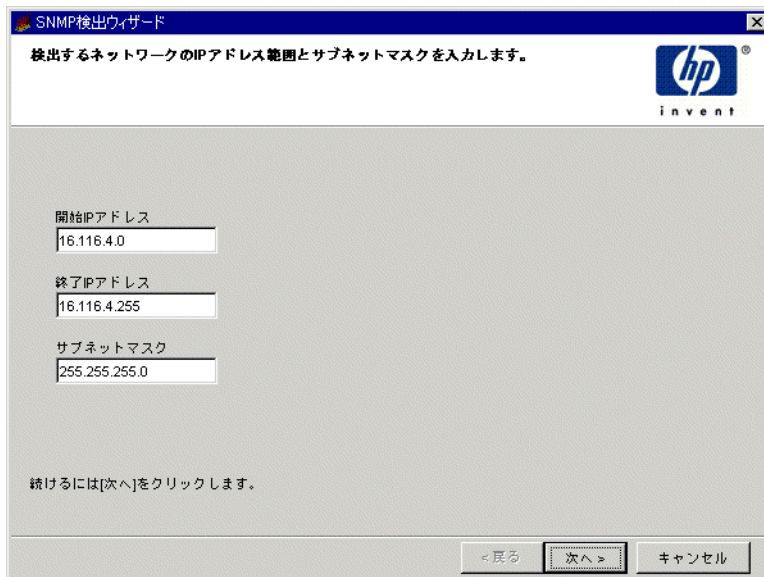
- 1 [管理コンソール]を起動します。詳細は、[79 ページの「管理コンソールの起動」](#)を参照してください。



管理コンソールには、管理者権限を持つアカウントを使用してログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、[391 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください。

- 2 [ツール]メニューの[**SNMP 検出**]を選択します。

以下のウィンドウが開き、検出する IP アドレスの範囲を指定できます。



SNMP検出ウィザード

検出するネットワークのIPアドレス範囲とサブネットマスクを入力します。

hp
invent

開始IPアドレス
16.116.4.0

終了IPアドレス
16.116.4.255

サブネットマスク
255.255.255.0

続けるには[次へ]をクリックします。

< 戻る 次へ > キャンセル

3 以下を実行します。

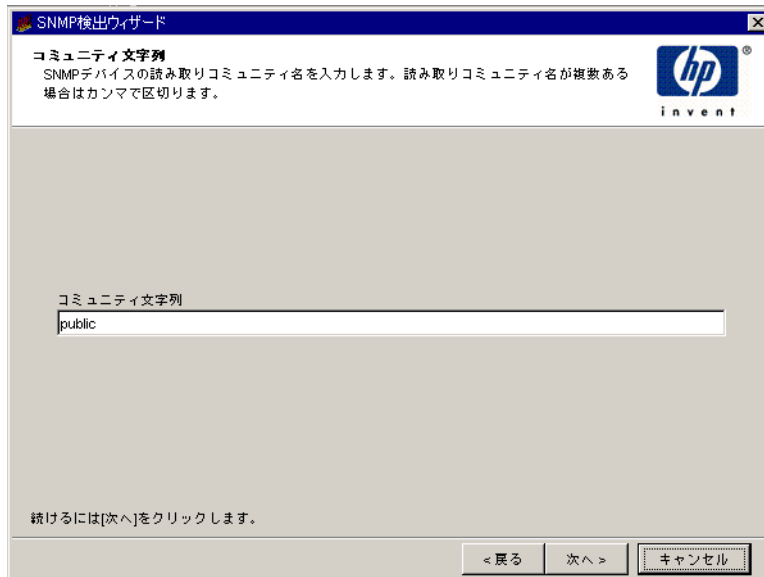
- a** IP アドレスの最小値を [開始 IP アドレス] ボックスで指定します。
- b** IP アドレスの最大値を [終了 IP アドレス] ボックスで指定します。

ローカルサブネットにあるノードを検出する場合は、[開始 IP アドレス] ボックスと [終了 IP アドレス] ボックスの各アドレスを指定するだけで済みます。

▶ 検出できるアドレスの範囲はサブネットマスクによって異なります。[サブネットマスク] ボックスの値を、ネットワークのサブネット構成に合わせて必ず適切に設定する必要があります。

- c** サブネットマスクを [サブネットマスク] ボックスに入力します。
- d** [次へ] をクリックします。

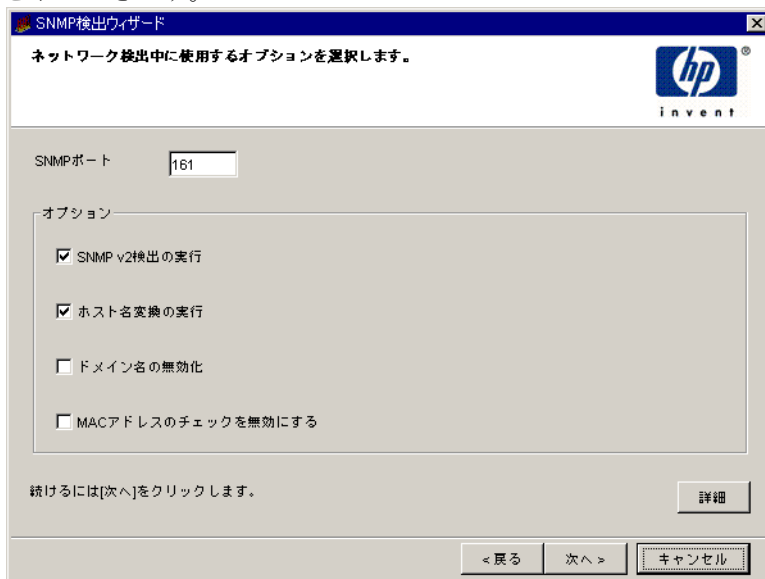
以下のウィンドウが開きます。



SNMP 検出ウィザードによって、指定した IP アドレスでデバイスが見つかったら、SNMP GET が送られて、そのデバイスが SNMP で管理可能かどうか調べられます。この SNMP GET には読み取りコミュニティ文字列が含まれています。対象のデバイスは、デバイスのコミュニティ文字列が GET 内の文字列と一致した場合にのみ、SNMP 検出ウィザードに応答します。

- 4 以下を実行します。
 - a SNMP デバイスのコミュニティストリング (1 つまたは複数) を [**コミュニティストリング**] ボックスに入力します。
複数のコミュニティ文字列はカンマで区切ります。
 - b [**次へ**] をクリックします。

以下のウィンドウが開き、ネットワーク検出中に使用するオプションの選択を求めてきます。



5 以下を実行します。

a SNMP ポートを [SNMP ポート] ボックスに入力します。

b [SNMP v2 検出の実行] ボックスをオンまたはオフにします。

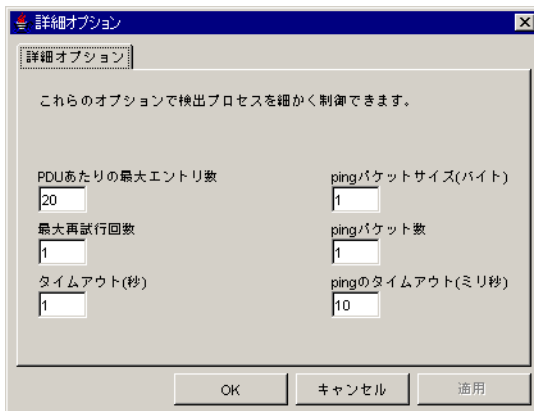
このオプションをオンにすると、SNMP V2 検出ユーティリティが実行されます。SNMP V2 検出ユーティリティの使用法の詳細は、『Performance Insight Reference Guide』（英語）を参照してください。

c [ホスト名変換の実行] ボックスをオンまたはオフにします。

ホスト名は、通常、デバイスの特定に使用されます。このオプションをオンにすると、ウィザードは検出した各ノードについて、その IP アドレスに対応したホスト名の検索を試みます。

この変換の実行方法はシステムによってさまざまに異なります。ウィザードは、システムで可能なあらゆる方法を試みます。ホスト名が検出された場合、ウィザードはそれを使用してデバイスを特定します。対象デバイスのホスト名が見つからない場合は、IP アドレスを使用します。

- d [ドメイン名の無効化] ボックスをオンまたはオフにします。
このオプションをオンにすると、検出プロセスは検出したノードのホスト名だけを表示し、ドメイン名は表示しません。
- e [MACアドレスのチェックを無効にする] ボックスをオンまたはオフにします。
- f [詳細] をクリックします。[詳細オプション] ダイアログボックスが開き、検出プロセスのその他のオプションを指定できます。



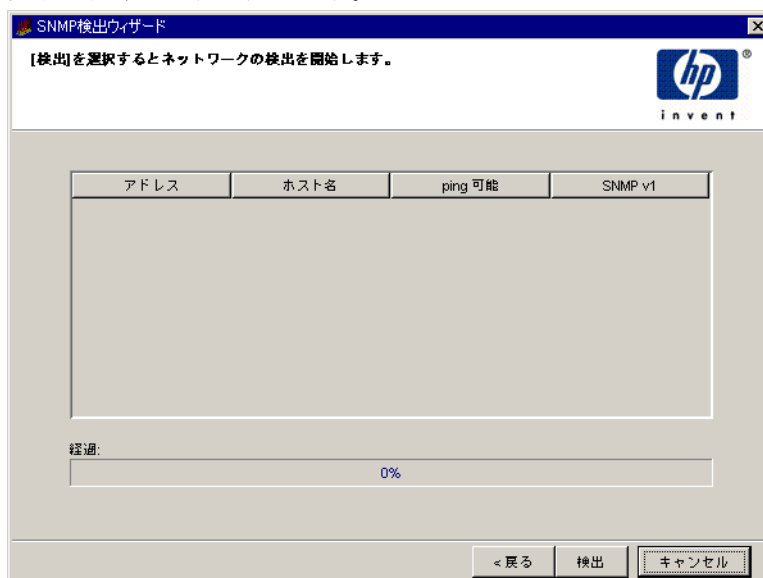
以下を実行します。

- PDU (Protocol Data Unit) に含めることができる最大エントリー数を、[PDUあたりの最大エン트리数] ボックスに入力します。
- 応答がない場合に検出プロセスが SNMP GET 要求を再試行する回数を、[最大再試行回数] ボックスに入力します。
- SNMP GET 要求をタイムアウトとするまでの検出プロセスの待ち時間を、秒単位で [タイムアウト(秒)] ボックスに入力します。
- ping パケットのバイトサイズを、[ping パケットサイズ(バイト)] ボックスに入力します。

- ping に含めることのできるパケット数を、[ping パケット数] ボックスに入力します。
- *Windows* の場合のみ。検出プロセスの実行中に ping をタイムアウトとするまでの時間を、ミリ秒数単位で [ping のタイムアウト (ミリ秒)] ボックスに入力します。
- 完了したら、[OK] をクリックします。

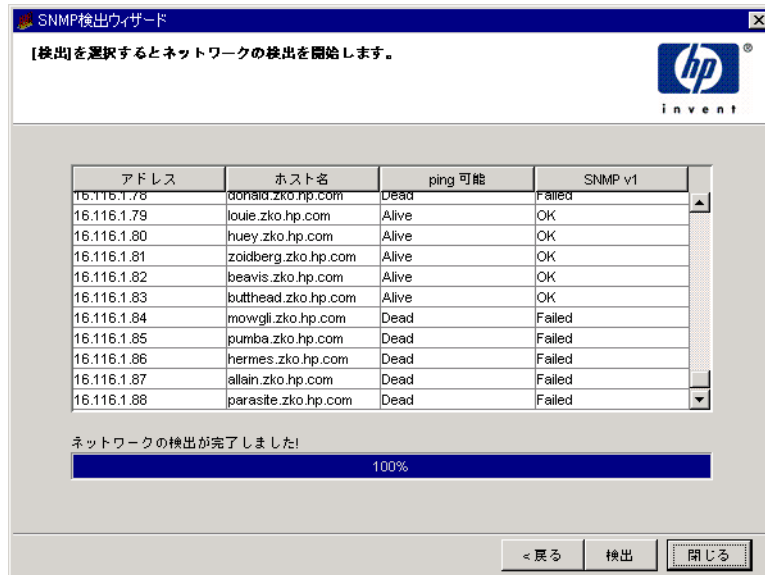
g [次へ] をクリックします。

以下のウィンドウが開きます。

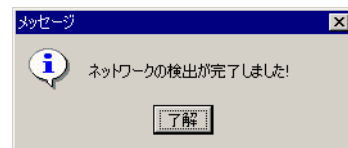


6 [検出] をクリックして検出プロセスを開始します。

検出プロセスの実行中は、リストが表示されます。そこに示されるのは、各ノードのアドレス、ホスト名、ping 可能かどうか、および SNMP V1 であるかどうかです。ページの下部にある進捗バーにはプロセスの経過時間と状態が、たとえば以下のように表示されます。



検出プロセスが完了すると、以下の確認メッセージが表示されます。



- 7 [了解] をクリックします。
- 8 ウィザードウィンドウで [閉じる] をクリックします。

タイプ検出プロセスの使用

タイプ検出ウィザードは、検出されたノードのデバイスタイプを調べ、その情報をデータベースに記録します。OVPIはこの情報に基づいて、特定のタイプのデバイスをデータ収集の対象にすることができます。

▶ レポートパックをインストールした際にタイプ検出プロセスを実行しなかった場合は、インストール後に、タイプ検出ウィザードを実行する必要があります。

以下のいずれかの方法で、タイプ検出を実行してください。

- **管理コンソール**。タイプ検出ウィザードを使用します。
- **パッケージマネージャ**。レポートパックのインストール時にタイプ検出プロセスを起動します。詳細は、[113 ページの手順 7](#)を参照してください。
- **コマンド行**。trend_discover -t コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

デフォルトでは、trendtimer.sched ファイルに trend_discover -t コマンドがあり、1日に1回、現地時間の午前2時に実行するようスケジュール設定されています。

タイプ検出ウィザードの起動

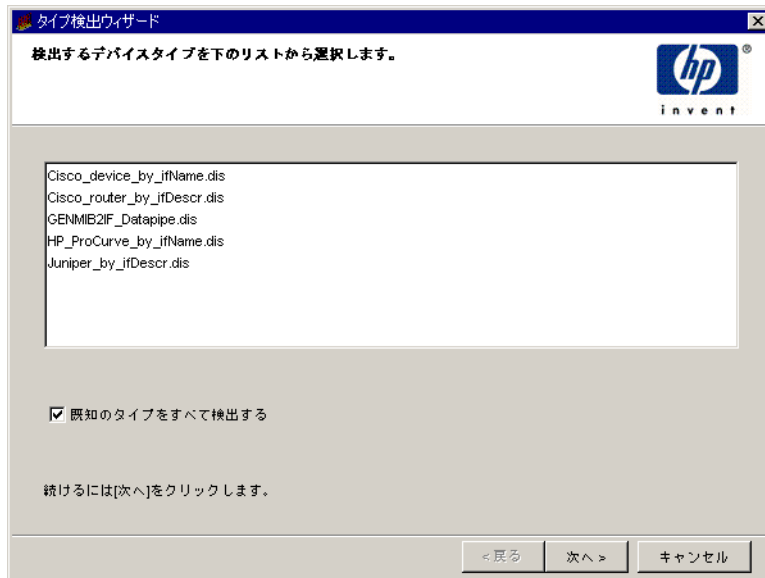
タイプ検出ウィザードを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール]を起動します。詳細は、[79 ページの「管理コンソールの起動」](#)を参照してください。

▶ 管理コンソールには、管理者権限を持つアカウントを使用してログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、[391 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください。

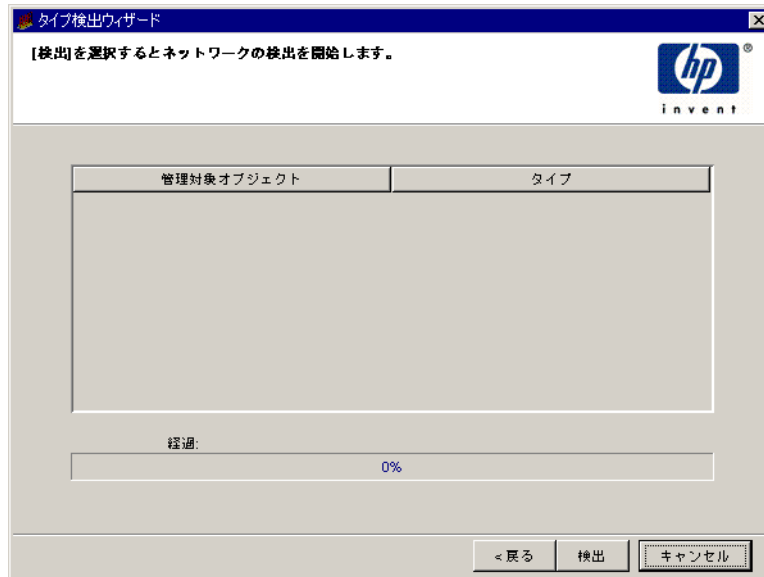
- 2 [ツール]メニューの[タイプ検出]を選択します。

以下のウィンドウが開き、ここで検出するデバイスのタイプを指定できます。



- 3 以下を実行します。
 - a 検出するデバイスタイプをリストから選択します。
 - b デバイスの既知のタイプをすべて検出するには、[**既知のタイプをすべて検出する**] ボックスをオンにします。
 - c [**次へ**] をクリックします。

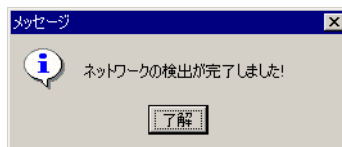
以下のウィンドウが開きます。



- 4 [検出] をクリックしてタイプ検出プロセスを開始します。

検出プロセスの実行中は、各管理対象オブジェクトとそのタイプを示すリストが表示されます。ページの下部にある進捗バーにはプロセスの経過時間と状態が表示されます。

検出プロセスが完了すると、以下の確認メッセージが表示されます。



- 5 [了解] をクリックします。
- 6 ウィザードウィンドウで[閉じる] をクリックします。

レポートパックのインストール

この章では、[パッケージマネージャ]を使用して以下を行う方法について説明します。

- パッケージのインストールとアンインストール (最も頻繁に使用するパッケージはレポートパックとデータパイプです)
- **Web** アクセスサーバーへのレポートの配布 (インストール時) と、**Web** アクセスサーバーからのレポートの配布解除 (パッケージのアンインストール時)

Web アクセスサーバーには、**HP OpenView Performance Insight (OVPI)** の **Web** サイト (**Web** アクセスサーバーアプリケーション) とドメインがあります。

配布したレポートは、**Web** アクセスサーバー、レポートビューア、またはレポートビルダを使用して表示できます。これらのアプリケーションの詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

パッケージの概要

この項では、レポートパック、データパイプ、およびそれらの依存関係について説明します。

レポートパック

レポートパックは、パフォーマンスを分析する対話形式のレポートの集まりです。レポートパックは、特定のタイプのデバイスの現在のパフォーマンスを監視し、パフォーマンスを過去の傾向と比較するのに使用します。この比較によって、異常な状態を発見し問題のトラブルシューティングを実行できます。また、現在のパフォーマンスを将来のパフォーマンスと比較することもできます。それによって、デバイスが重要なパフォーマンスしきい値をいつごろ超えそうであるかを事前に知ることができます。

ほとんどのレポートパックはデモパッケージを含みます。パッケージの内容に慣れておく必要があり、かつ、実際のレポートでデータが収集されるまでの数日から数週間を待てないという場合は、デモパッケージをインストールしてください。デモパッケージは完成したパッケージであり、パッケージのレポートごとに1つずつ例があります。また、実際のレポートとまったく同様に、デモレポートでもテーブル間やグラフ間のリンクが動作します。さらに、オブジェクトを右クリックし別の異なるビューを選択することで、テーブルやグラフのさまざまなビューオプションを試すこともできます。デモレポートのデータは静的なものであり、時間が経過しても変更はされません。

データパイプ

データパイプは収集テーブルを作成するものであり、データを収集してテーブルに格納するための手段となります。また、未処理のデータを、レポートパックで使用できる形式に変換します。

(すべてではなく)一部のデータパイプは、データを **OVPI** と互換性のあるフォーマットに変換するのに使用する、アプリケーション固有のカスタムスクリプトも提供しています。データパイプを使用することで、**OVPI** では **MIB** テーブルとフラットファイルからデータを収集し、データを格納するための1つまたは複数のテーブルを提供することができます。

レポートパックとデータパイプの依存関係

一部のパッケージは他のパッケージに依存しています。たとえば、**Device Resource** レポートパックには **Common Property Tables** パッケージが必要です。[パッケージマネージャ] は依存関係を認識しており、パッケージを常に可能な限り正しい順序でインストールします。つまり、2つのパッケージを同時にインストールしようとしていて、一方のパッケージが他方のパッケージを必要としている場合、[パッケージマネージャ] は、どちらのパッケージを先にインストールするべきかを正しく判断します。さらに、あるパッケージをインストールしようとしていて、そのパッケージよりも先に必要なパッケージがある場合、[パッケージマネージャ] は必要なパッケージを自動的にインストールします。

[パッケージマネージャ] の起動

この項では、[パッケージマネージャ] を Windows および UNIX システムで起動するための方法について説明します。

Windows デスクトップ



[パッケージマネージャ] を起動するには、以下の手順に従います。

Windows のタスクバー上の [スタート] をクリックし、[プログラム]、[HP OpenView]、[Performance Insight]、[パッケージマネージャ] の順に選択します。

[ようこそ] ウィンドウ (107 ページの図 1) が開きます。



OVPI 管理コンソール (UNIX および Windows)

[パッケージマネージャ] を起動するには、オペレーティングシステムに応じて以下のいずれかを実行します。

- Windows の場合
 - a Windows のタスクバー上の [**スタート**] をクリックし、[プログラム]、[HP OpenView]、[Performance Insight]、[**管理コンソール**] の順に選択します。
[管理コンソール] ウィンドウが開きます。
 - b [ツール] メニューの [**パッケージマネージャ**] を選択します。
[ようこそ] ウィンドウ (107 ページの  1) が開きます。
- UNIX の場合
 - a trendadm としてログオンします。
 - b 以下のコマンドを入力します。
piadmin
[管理コンソール] ウィンドウが開きます。
 - c [ツール] メニューの [**パッケージマネージャ**] を選択します。
[ようこそ] ウィンドウ (107 ページの  1) が開きます。

コマンド行 (UNIX および Windows)

[パッケージマネージャ] を起動するには、オペレーティングシステムに応じて以下のいずれかを実行します。

- Windows の場合
コマンド行で以下を入力します。
packagemgr
[ようこそ] ウィンドウ (107 ページの  1) が開きます。
- UNIX の場合
 - a trendadm としてログオンします。
 - b コマンド行で以下を入力します。
packagemgr
[ようこそ] ウィンドウ (107 ページの  1) が開きます。

パッケージのインストール

パッケージをインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 [パッケージマネージャ]を開始します(105 ページの「[パッケージマネージャ]の起動」を参照)。

[ようこそ]ウィンドウ(図 1)が開きます。



図 1 [ようこそ]ウィンドウ

- 2 [次へ]をクリックします。

[OVPI パッケージの場所] ウィンドウ (図 2) が開きます。

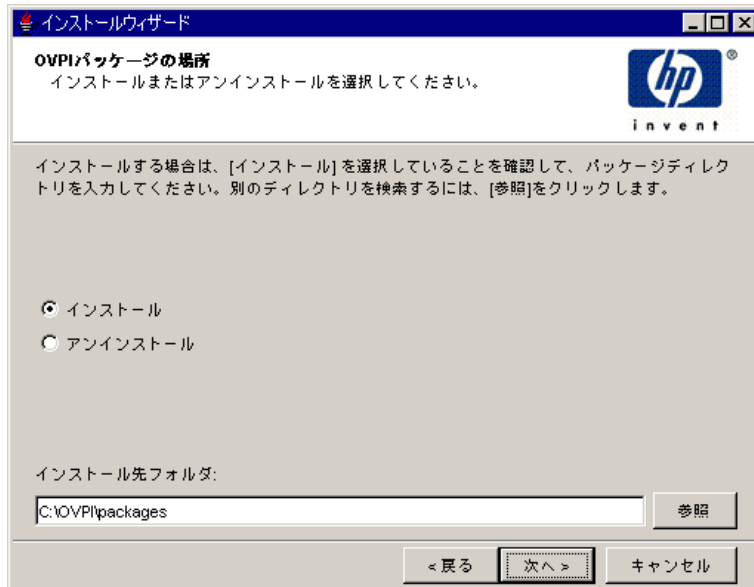


図 2 [OVPI パッケージの場所] ウィンドウ

3 以下を実行します。

- a [インストール] を選択し、パッケージをインストールしたディレクトリを入力します。

通常、このディレクトリは OVPI をインストールしたディレクトリの packages フォルダーにします。たとえば、Windows システムの場合、このディレクトリは C:\OVPI\packages です。

- b [次へ] をクリックします。

[OVPI レポートの配布] ウィンドウ (図 3) が開きます。

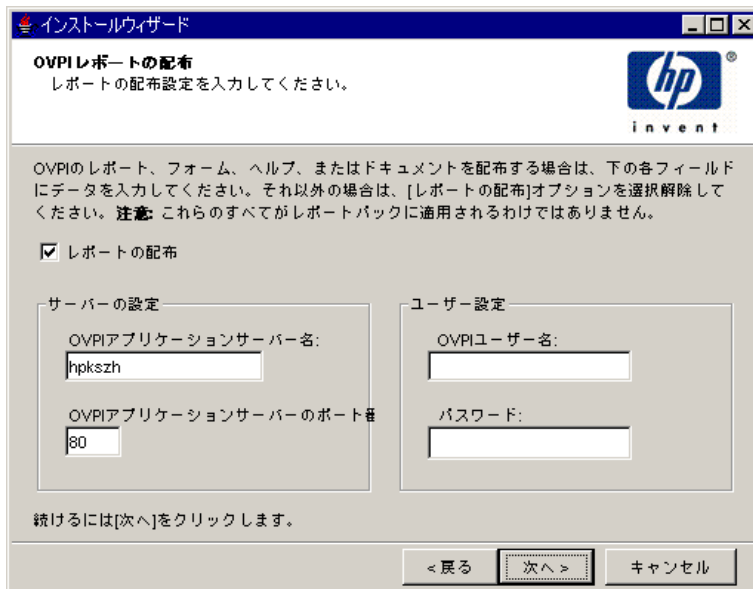


図 3 [OVPI レポートの配布] ウィンドウ

このウィンドウには、パッケージのレポートを Web アクセスサーバーに配布する際のオプションが示されます。レポートを配布すると、ユーザーはクライアントアプリケーション (Web アクセスサーバー、レポートビューア、レポートビルダ) を使用してそれらを表示できるようになります。

レポートパック用のデータを収集し、それを後で配布することもできます。現時点でレポートを配布しない場合は、配布ウィザードまたは配布ツールを使用して後で配布できます。詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

- 4 以下のいずれかを実行します。
 - a パッケージをインストールするがそれらのレポートを Web アクセスサーバーに配布しない場合は、[レポートの配布] チェックボックスをオフにします。

- b レポートを Web アクセスサーバーに配布する場合は、[**レポートの配布**] チェックボックスをオンにし、以下を実行します。
 - [OVPI アプリケーションサーバー名] ボックスに、レポートの配布先とするシステム (Web アクセスサーバーシステム) の名前を入力します。
 - [OVPI アプリケーションサーバーのポート番号] ボックスに、[OVPI アプリケーションサーバー名] ボックスで指定したシステム (Web アクセスサーバーシステム) のポート番号を入力します。
 - 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。パッケージをインストールするには管理者権限を持つアカウントが必要です。

OVPI では、インストール時に Web アクセスサーバー用の trendadm というデフォルトの管理者アカウントが作成されます。このアカウントを使用するか、または、管理者権限を持つ別のアカウントがあればそれを使用します。アカウントの作成の詳細は、[391 ページ](#)の「[ユーザーアカウントの管理](#)」を参照してください。

- ▶ 複数の Web アクセスサーバーシステムが構成に含まれている場合は、パッケージを中央サーバーにインストールした後に、**deploytool** コマンドを使用してレポートを他の Web アクセスサーバーシステムに配布します。**deploytool** コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

あるいは、配布ウィザードを使用してレポートをこれらのシステムに 1 つずつ配布することもできます。配布ウィザードの詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

- 5 [**次へ**] をクリックします。

- ▶ 現在のデータベースにインストールできないレポートパックがある場合、それらが表示されます。

[OVPI パッケージの選択] ウィンドウ (図 4) が開きます。



図 4 [OVPI パッケージの選択] ウィンドウ

このウィンドウには以下を表示します。

- [レポートパッケージ]。現在 **packages** フォルダにあるレポートパックパッケージを一覧表示します。
- [ステータス]。レポートパックパッケージがインストールされているかどうかを表示します。
- [バージョン]。レポートパックパッケージのバージョン番号を表示します。
- [依存関係]。選択したレポートパックが必要とするレポートパックを表示します。[依存関係なし]は、そのレポートパックパッケージが他のレポートパックパッケージを必要としていないことを示しています。

6 以下を実行します。

- a チェックボックスをオンにすると、赤いチェックマーク (✓) が各パッケージの横にあるボックスに表示されます。

▶ 他のパッケージに対して依存関係を持つパッケージを選択した場合は、[パッケージマネージャ]によってそれらのパッケージがインストール対象として自動的に選択されます。各依存パッケージの横にあるボックスに、黒いチェックマークが表示されます。

- b [次へ]をクリックします。

[OVPI タイプ検出] ウィンドウ (図 5) が開きます。

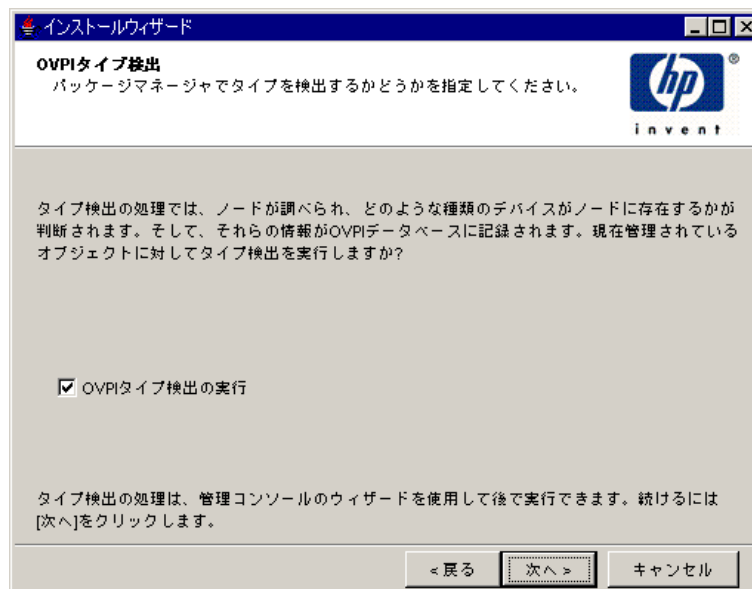


図 5 [OVPI タイプ検出] ウィンドウ

タイプ検出は、管理対象オブジェクトのタイプを調べます。このオプションは、インストールしようとしているすべてのパッケージにおいてタイプ検出をする場合にのみ、使用してください。パッケージによっては、ユーザがタイプ検出しなくてもよいものがあります。したがって、自分の環境にどのタイプが存在するかがわかっている場合は、パッケージをインストールした後にユーザが必要なものだけ、タイプ検出プロセスを実行することもできます。

- 7 以下のいずれかを実行します。
- a パッケージのインストール時にタイプ検出を実行するには、[次へ]をクリックします。
 - b パッケージのインストール時にタイプ検出をしないようにするには、[OVPI タイプ検出の実行]チェックボックスをオフにしてから[次へ]をクリックします。
- ▶ レポートパックのインストール後にタイプ検出プロセスを実行する場合は、ネットワーク検出(92 ページ)を実行し、その後でタイプ検出(100 ページ)を実行してください。

図 6 に示すような [概要] ウィンドウが開きます。

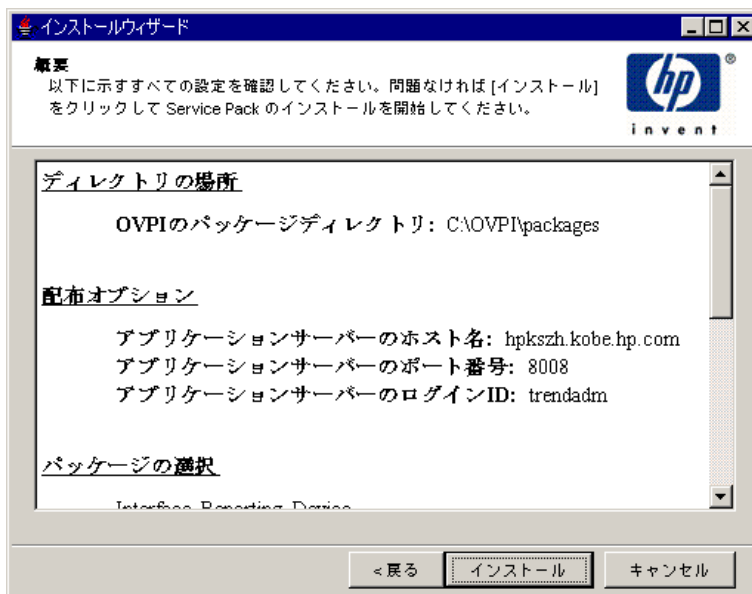


図 6 [概要] ウィンドウ

- 8 [概要] ウィンドウに表示された情報を確認し、以下のいずれかを実行します。
- 情報に問題がなければ、[インストール]をクリックします。
 - 表示された情報を変更する場合は、[戻る]ボタンをクリックして前のいずれかの画面に戻り、変更を加えます。完了したら、[概要] ウィンドウに戻り、[インストール]をクリックします。

[インストールの進捗状況] ウィンドウ (図 7) が開き、インストールの進捗状況と完了に関する情報が表示されます。

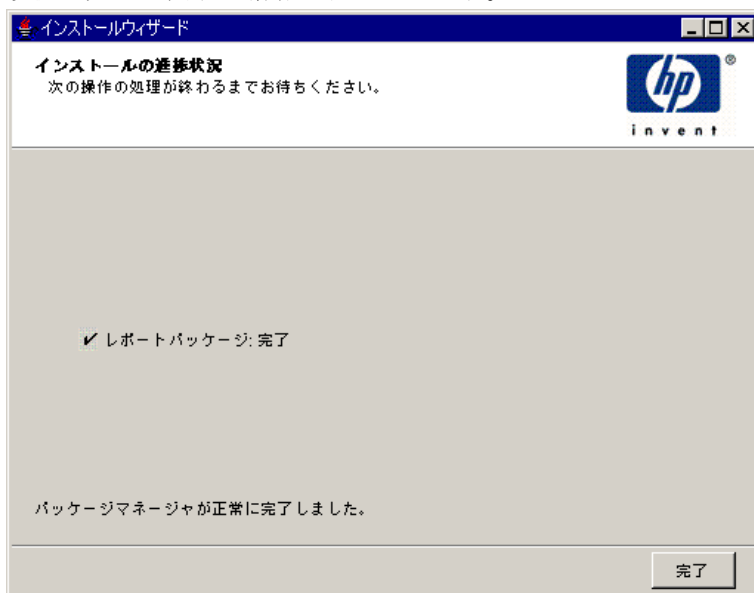


図7 [インストールの進捗状況] ウィンドウ

パッケージのインストールが失敗した場合は、[レポートパックのインストールエラー] ダイアログボックスが表示されます。

[パッケージマネージャ] がインストールできなかったパッケージが表示され、インストールを続行するかどうかをたずねられます。このダイアログボックスが開いた場合は、以下のいずれかを実行します。

- エラーにかかわらず、続けて次のパッケージをインストールするには、[はい] をクリックします。

別のエラーがあってもこのダイアログボックスを表示しないようにするには、[今後は確認しない] チェックボックスをオンにします (残りの各エラーを詳しく調べるには、[インストールの進捗状況] ウィンドウの [詳細] ボタンをクリックします)。

- インストールを終了するには、[いいえ]をクリックします。

▶ 各パッケージにはいくつかの指令がセットになっている場合があります。ここでいう指令とは、そのパッケージのインストール方法を [パッケージマネージャ] に指示する手順です。ある指令によるインストールが失敗した場合は、[パッケージマネージャ] が [レポートパックのインストールエラー] ダイアログボックスを表示することでそのエラーを示します。[はい] を選択して続行すると、そのレポートパックの残りの指令を [パッケージマネージャ] が実行します。

- 9 インストールが正常に完了したら、[インストールの進捗状況] ウィンドウの [完了] をクリックしてインストールを完了します。

パッケージのアンインストール

パッケージをアンインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 OVPI の管理者としてシステムにログオンします。
- 2 [パッケージマネージャ] を起動します (105 ページの「[パッケージマネージャ] の起動」を参照)。[ようこそ] ウィンドウ (107 ページの図 1) が開きます。
- 3 [次へ] をクリックします。
[OVPI パッケージの場所] ウィンドウ (108 ページの図 2) が開きます。
- 4 [アンインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。
[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。108 ページの図 2 を参照してください。

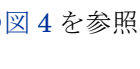
このウィンドウには、パッケージのレポートを Web アクセスサーバーから配布解除 (削除) する際のオプションが示されます。レポートの配布解除を選択すると、それ以降、ユーザーはクライアントアプリケーション (Web アクセスサーバー、レポートビューア、レポートビルダ) を使用してそれらのレポートを表示することができなくなります。

- 5 以下のいずれかを実行します。
 - a レポートを Web アクセスサーバーから配布解除しない場合は、[レポートの配布解除] チェックボックスをオフにします。

b レポートを Web アクセスサーバーから配布解除するには、[**レポートの配布解除**] チェックボックスをオンにし、以下を実行します。


- [OVPI アプリケーションサーバー名] ボックスに、レポートを配布解除するシステム (Web アクセスサーバーシステム) の名前を入力します。
- [OVPI アプリケーションサーバーのポート番号] ボックスに、[OVPI アプリケーションサーバー名] ボックスで、指定したシステム (Web アクセスサーバーシステム) のポート番号を入力します。
- 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。レポートを配布解除するには管理者権限を持つアカウントが必要です。
- OVPI では、インストール時に trendadm というデフォルトの管理者アカウントが作成されます。このアカウントを使用するか、または、管理者権限を持つ別のアカウントがあればそれを使用します。

6 [**次へ**] をクリックします。

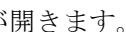
[OVPI パッケージの選択] ウィンドウが開きます。111 ページの  を参照してください。

7 以下を実行します。

a アンインストールする各パッケージの横にあるチェックボックスをオンにすると、赤いチェックマーク (✓) が各パッケージの横にあるボックスに表示されます。

 他のパッケージに対して依存関係を持つパッケージを選択した場合は、[**パッケージマネージャ**] によってそれらのパッケージが削除対象として自動的に選択されます。各依存パッケージの横にあるボックスに、黒いチェックマークが表示されます。

b [**次へ**] をクリックします。

113 ページの  に示すような [**概要**] ウィンドウが開きます。

8 [**概要**] ウィンドウに表示された情報を確認し、以下のいずれかを実行します。

a 情報に問題がなければ、[**アンインストール**] をクリックします。

b 表示された情報を変更する場合は、[**戻る**] ボタンをクリックして前のいずれかの画面に戻り、変更を加えます。完了したら、[**概要**] ウィンドウに戻り、[**アンインストール**] をクリックします。

[アンインストールの進捗状況] ウィンドウ (114 ページの図 7) が開き、アンインストールの全体および個々の進捗状況が表示されます。

- 9 アンインストールが完了したら、[アンインストールの進捗状況] ウィンドウの [完了] をクリックします。

ポーリングポリシーの管理

ポーリングポリシーマネージャでは、データを収集するポーリングポリシーのセットアップと変更、ノードのインポートと管理、ポーリンググループの管理を実行できます。また、プロパティテーブル内の値を更新することもできます。この章では、以下を行う方法を説明します。

- 現在のポーリングポリシーの表示 ([127 ページ](#))
- 新しい収集の作成 ([128 ページ](#))
- 新しいポーリングポリシーの作成 ([151 ページ](#))
- 既存のポーリングポリシーの編集 ([154 ページ](#))
- 既存のポーリングポリシーの削除 ([156 ページ](#))
- ノードのインポート ([172 ページ](#))
- ポーリンググループの管理 ([157 ページ](#))
- ノードの管理 ([168 ページ](#))
- コミュニティ文字列プロファイルの管理 ([176 ページ](#))
- SNMP プロファイルの管理 ([179 ページ](#))
- データパイプのインストールの管理 ([182 ページ](#))
- プロパティテーブルの値の変更 ([184 ページ](#))

ポーリングポリシーを使用すると、適切なポーリングストラテジを採用すれば、最大限の効率でデータが収集されるようデータ収集を設定できます。ポーリングポリシーにはそれぞれ、その定義の中にポーリンググループが必要です。ポーリンググループはそれぞれ、ポーリング対象のノードやインスタンスなどの、デバイスのリストです。これらのポーリンググループを各種のストラテジを使用して定義でき、効率の最大化と管理の簡素化を実現できます。ポーリングストラテジでは、収集するデータのための適切なポーリング頻度を設定する必要もあります。

ポーリングストラテジ

ポーリングストラテジには以下のことを考慮する必要があります。

- ネットワーク内のノードをグループ化する最も効果的な方法
- 各グループをポーリングする必要の頻度

たとえば、すべてのルーターを1時間ごとにポーリングしたいとします。また、特定のデータセンターにあるすべてのデバイスを1日に1回ポーリングしたいとします。この場合、該当するデバイスを含む2つのグループを作成し（一部のデバイスは両方のグループに属する可能性があります）、グループ別にポーリング頻度を定義できます。



[パッケージマネージャ]を使用してデータパイプパッケージをインストールする際はポーリングストラテジが提供されますが、それらのストラテジは収集のニーズに合わせて変更することもできます。

たとえば、**Device Resource Cisco Router Datapipe** をインストールした場合は、15分ごとに収集を行う3つのポーリングポリシーと、1時間ごとに収集を行う1つのポーリングポリシーが設定され、これらのポリシーによってCiscoルーターのグループから収集が行われます。しかし、15分間隔ではなく5分間隔で収集を実行する必要があり、1時間ごとの収集を1日に1回しか実行する必要がない場合は、デフォルトのポリシーを変更する必要があります。または、サテライトシステムごとに、一部のCiscoルーターに対してのみ収集を実行することもできます。この場合はグループも変更する必要があります。

さらに、データパイプによっては指定インスタンスポーリングを設定できるものもあります。指定インスタンスポーリングでは、データ収集対象を一部のインタフェースだけに制限できます。詳細は、[123 ページ](#)の「指定インスタンスポーリング」を参照してください。

ポーリンググループ

OVPI では、ポーリング対象のノードのグループを柔軟に定義できます。

ポーリングポリシーマネージャを使用して作成できるポーリンググループの種類のを以下に示します。

- 機能別グループ
同じ機能を実行するすべてのデバイス（たとえばファイルサーバー）をグループ化できます。
- 使用可能情報別グループ
グループ内のすべてのノードから使用できる特定の情報に従ってノードグループを作成できます。
- 場所別グループ
大規模なネットワークでは、グループをそれらの物理的な場所に基づいて分割することが有効な場合があります。このようにすると、対象のノードが常に最も近くにあるポーリングシステムによってポーリングされます。
- ベンダー別グループ
同じタイプのデバイスが多数あるが、それらが異なるベンダーからのものである場合があります。ベンダー別にタイプのグループを作成できます。たとえば、ベンダー **A** のルーターに使用するタイプと、ベンダー **B** のルーターに使用するタイプとを別々にすることができます。

また、ベンダー機能グループを作成し、同じベンダーからのデバイスをそのタイプに関係なくすべて同じグループに含めることもできます。
- 優先順位別グループ
このグループは、より大きなグループをさらに分割する方法とみなすことができます。たとえば、大規模なネットワークでは、ルーターの数が数十から数百に及ぶことがあります。その場合に、ポーリング目的において中心的なルーターに注目する必要があるとします。そこで、全ルーターを含む**ルーターグループ**を作成し、そのサブセットに**コアルーター**というグループを作成し、中心的なルーターを含め、別々にポーリングすることができます。

ポーリングプロセス `ee_collect`、`mw_collect`、および `rmon_collect` は、ポーリング周期が始まるたびに、ポーリング対象のグループのメンバシップリストを読み取ります。グループに加えられた変更は、実際にデータがポーリングされている、ノードのリストに自動的に反映されます。



レポートバックを使用してデータパイプをインストールすると、グループの定義が追加されます。

ポーリング頻度

ポーリング要求で収集するデータのタイプと、データを収集する理由は、データのポーリング頻度を決定する際に影響します。たとえば、以下のとおりです。

- 変化が減多に発生しないシステム構成データや、徐々に変化するディスク使用率データは、1日に1回だけ収集すればよいでしょう。
- 時間帯によって特性が変化する動的なパフォーマンス統計情報は、正確に把握するには毎日何回も収集する必要があります。
- ポーリングの間隔の時間(分単位)は、データがその間隔の中でどの程度変化しうるかによって決定します。

このほか、ポーリング頻度の決定に影響する要因として、以下のものがあります。

- ポーリングの間隔が広すぎる場合に何らかの情報を見逃してしまう可能性があるかどうか
- ポーリングされる側とポーリングする側のシステムにかかる負荷(および、データ収集によってネットワークにかかる負荷。特に対象ノードがリモートサイトにある場合)
- データ格納用として使用できるデータベース領域の量

ポーリング頻度を10分から5分に変更すると、収集されるデータの量は2倍になります。通常、パフォーマンス統計情報は10分から15分ごとに収集しますが、**RMON**のホストやマトリックスなど比較的多量のデータは1時間ごとに収集します。

また、**OVPI**は、リアルタイム(現在起こっている問題を解決するための統計情報)を確認することを意図したものではありません。それを行うのはダッシュボードやリアルタイムアプリケーションの役割です。これらは、データを高い頻度(一般には秒単位)で収集し、最新のデータを表示し、新しいデータを入手した時点で(または短時間で)、前のデータを破棄します。これらのリアルタイム

ムアプリケーションはトラブルシューティングが目的であり、必要な統計情報を少数のデバイスから収集します。OVPI のポーリングは、トラブルシューティングをサポートするためのベースラインを提供し、数時間、数日、および数週間にわたって頻繁に発生するパターンを特定することを目的としています。

指定インスタンスポーリング

特定のデバイスについて、その一部のコンポーネントをポーリングしたくない場合があります。この状況はインタフェースの場合によく起きます。

たとえば、100 個のインタフェースを持つスイッチがあり、それらインタフェースがすべて異なる PC またはサーバーに接続していると仮定します。標準の SNMP ポーリングでこれらすべてのインタフェースからデータを収集した場合は、各インタフェースから 1 行のデータを収集することになるので、結果は 100 行のデータになります。

多くの場合、各インタフェースについてそのすべてのデータが必要になることはありません。たとえば、個々の PC などの下位が知りたいというのではなく、親スイッチへの接続やサーバーとの接続のみが知りたいと仮定します。このような場合は、100 個の接続からたとえば 4 個をポーリングするだけで済みます。指定インスタンスポーリングでは、データ収集対象を一部のインタフェースだけに制限できます。データ収集対象はルールまたは特定の規定のいずれかで識別されます。

指定インスタンスポーリングの利点は、すべてのインタフェースから収集されるデータが、ほとんど不要な場合に、一部のデータだけを収集することで、規模の大きいネットワークをも管理できることです。また、これによって収集の負荷とネットワークトラフィックが低減します。唯一の欠点は、すべてのインタフェースのデータを保持していないということです。指定インスタンスポーリングの採用を決定した時点で、一部のデータを不要と判断したということです。

Interface Reporting および FrameRelay Service レポートパックには以下のデータパイプがあり、これらを使用して指定インスタンスポーリングをセットアップできます。

- ATM ifEntry データパイプ：詳細は、『*ATM ifEntry Datapipe User Guide*』（英語）を参照してください。
- Frame Relay CPE データパイプ：詳細は、『*Frame Relay CPE Datapipe ユーザーガイド*』を参照してください。

- Interface Reporting ifEntry データパイプ：詳細は、『*Interface Reporting ifEntry Datapipe ユーザーガイド*』を参照してください。

ポーリングポリシーマネージャの起動

ポーリングポリシーマネージャを起動するには、以下の手順に従います。

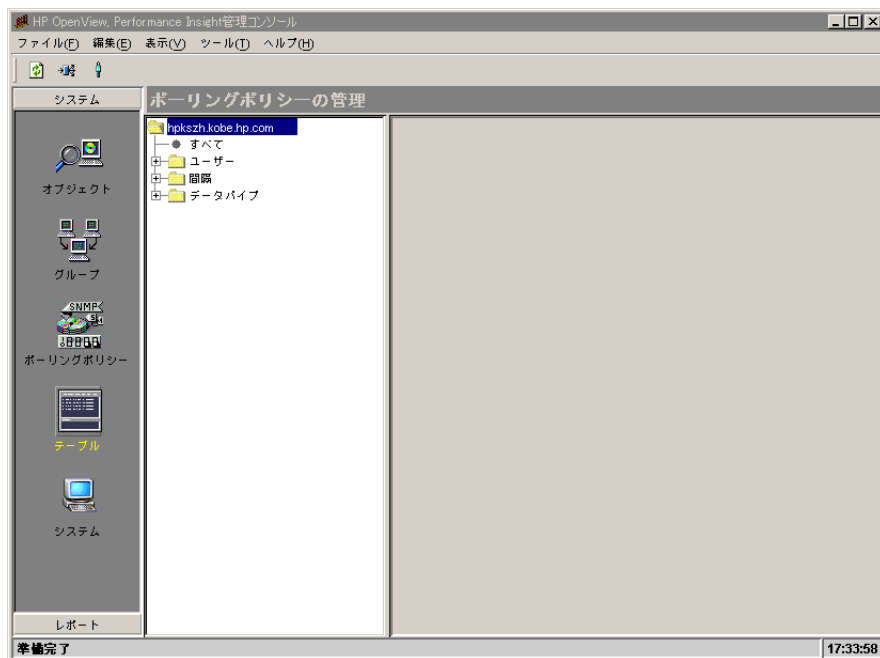
- 1 管理コンソールを起動します。詳細は、79 ページの「[管理コンソールの起動](#)」を参照してください。



管理コンソールには、管理者権限を持つアカウントを使用してログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、391 ページの「[ユーザーアカウントの管理](#)」を参照してください。

- 2 ナビゲーションペインの [**ポーリングポリシー**] アイコンをクリックします。

[**ポーリングポリシーの管理**] ウィンドウが開きます。



[**ポーリングポリシーの管理**] ウィンドウには以下のペインがあります。

- **表示ペイン**：表示ペインはウィンドウの右側にあります。

- **ナビゲーションペイン**：ナビゲーションペインはウィンドウの左側にあります。このペインには、現在表示しているデータベースのツリーが表示されます。ツリーはフォルダーで構成されており、各フォルダーにはページが含まれています。各ページの下に、さらに別のページ、またはフォルダーがある場合があります。

データベースの階層レベルは、**Windows** エクスプローラで **Windows** システムの内容を表示するときとまったく同様に展開できます。フォルダーを展開することで、そのフォルダー内のページやフォルダーを表示できます。また、断層レベルを折りたたむこともできます。

ナビゲーションフレームのツリーは、以下の手順で開きます。

- フォルダーの内容をプレビューするには、プラス記号 (+) をクリックします。
フォルダーの内容が表示フレームに表示されます。
- 開いたフォルダーを閉じるには、マイナス記号 (-) をクリックします。

機能の表示

ポーリングポリシーマネージャプログラムは、情報の表示を変更できる機能を備えています。それらの機能は、昇順または降順でのソート、列のサイズの変更、およびポリシーリストの更新です。

列のソート

列内の情報を昇順にソートするには、ソートする列の見出しの上にカーソルを置いてクリックします。同様に、列内の情報を降順にソートするには、ソートする列の見出しの上にカーソルを置き、**[Shift]** キーを押しながらクリックします。



テキストフィールドで昇順にソートすると、大文字の英字が先にアルファベット順に表示され、それから小文字の英字がアルファベット順に表示されます。また、テキストフィールド内の数値は、標準の **ASCII** ソート順である英数字順に表示されます。たとえば、**1、11、112、3、34、5** の順に表示されます。

列のサイズの変更


列のサイズを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 列の右側の境界線上にカーソルを置きます。
両方向の矢印が表示されます。
- 2 マウスの左ボタンをクリックし、押したままにします。
- 3 列が希望の幅になるまで、矢印を左か右に移動します。
- 4 マウスの左ボタンを放します。

ポリシーリストの更新

ポーリングポリシーマネージャでは、表示ペイン内のポーリングポリシーのリストを更新できます。ポーリングポリシーマネージャでリストを更新すると、列が元の順序にソートされ、列のサイズが元のサイズに戻り、列の強調表示がなくなります。

表示ペインを更新するには、以下のいずれかを実行します。

-  をクリックします。
- [表示]メニューの[更新]を選択します。

項目の選択

以下のいずれかを実行してリスト内の項目を選択できます。

- 連続する行を選択するには、その最初の行を選択してから最後の行で [Shift] キーを押すか、またはマウスの左ボタンを押しながらスクロールします。
- 連続していない行を選択するには、選択する行ごとに [Ctrl] キーを押します。
- 場合によっては、単一の行をダブルクリックしてその特定の行を編集することができます。

上記の方法をいくつか組み合わせることで選択できます。

ポーリングポリシーの表示

表示ペインには以下のページとフォルダーがあります(フォルダーにはさまざまなカテゴリのポーリングポリシーが含まれています)。

- **[すべて]** ページ: このページには、現在のすべてのポーリングポリシーに関する情報が表示されます。
- **[ユーザー]** フォルダー: このフォルダーには、ユーザー名順にソートされたポーリングポリシーが表示されます。trendadm ユーザー用のページがこのフォルダーに表示され、trendadm によって作成されたすべてのポーリングポリシーが表示されます。
- **[間隔]** フォルダー: このフォルダーには、ポーリング間隔順にソートされたポーリングポリシーが表示されます。
- **[データパイプ]** フォルダー: このフォルダーには、データパイプ名順にソートされたポーリングポリシーが表示されます。

現在のポーリングポリシーの表示

現在のポーリングポリシーを表示するには、**[すべて]** ページをクリックします。

以下のポーリングポリシー情報が表示ペインに表示されます。

名前	データパイプ	コレクタ	テーブルのエイリアス名	グループ名	ポーリング元	サーバ	間隔	ユーザー	説明
2005-05-27_11:4...	doipe_snmp	MW	cisco_ATM_pvc	Cisco_ATM...	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	
DevRes3ConRout...	doipe_snmp	MW	DevRes3ConRouter_De...	DevRes3Co...	hpkszh	hpkszh	1時間	trendadm	The system ...
DevRes3ConRout...	doipe_snmp	MW	DevRes3ConRouter_CP...	DevRes3Co...	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	The collectio...
2005-05-27_16:5...	doipe_snmp	MW	Rtc1514_Device	RFC1514	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	
2005-05-27_16:5...	doipe_snmp	MW	Rtc1514_FileSystem	RFC1514	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	
2005-05-27_16:5...	doipe_snmp	MW	Rtc1514_Processor	RFC1514	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	
2005-05-27_16:5...	doipe_snmp	MW	Rtc1514_Systeminterfa...	RFC1514	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	
2005-05-27_16:5...	doipe_snmp	MW	Rtc1514_Storage	RFC1514	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	
2005-05-27_16:5...	doipe_snmp	MW	Rtc1514_System	RFC1514	hpkszh	hpkszh	15分	trendadm	

各列の項目は以下のとおりです。

- [名前]** ポーリングポリシーの名前
- [データパイプ]** データパイプの名前
- [コレクタ]** OVPI の外部にあるソースからデータを収集するプログラムの名前
- [テーブルのエイリアス名]** ユーザーに表示されるテーブルの名前

[グループ名]	ポーリングされるノードまたはインスタンスを含むグループの名前
[ポーリング元]	ポーリングを実行しているマシンの名前
[サーバー]	対象サーバー名 (収集データを含んでいるサーバー)
[間隔]	ポーリング要求の時間間隔
[ユーザー]	ポーリングポリシーを作成したユーザーの名前
[説明]	ポーリングポリシーを説明したテキスト

収集の作成

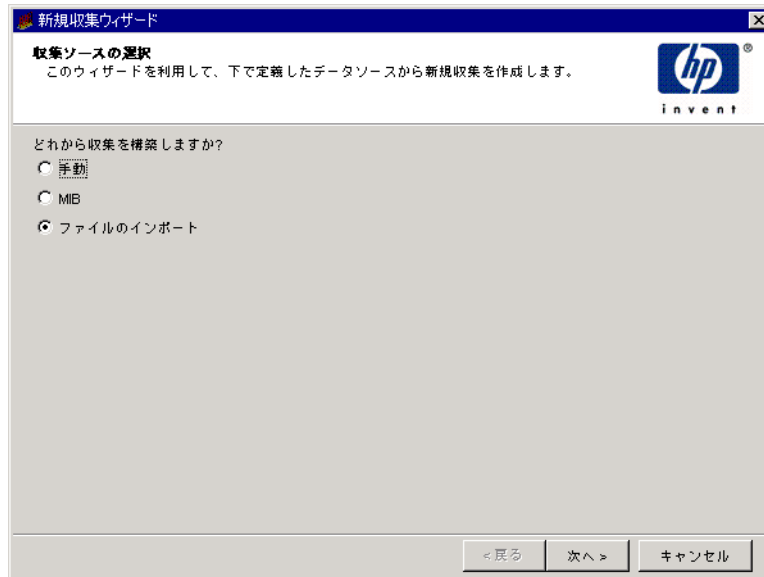
[新規収集]ウィザードでは、ポーリングポリシー用の**収集**を作成できます。収集は、収集したデータを格納するデータベース内のテーブルを識別します。さらに、**MIB** のデータまたは **CSV** (カンマ区切り形式) ファイルのデータに基づく収集も定義することができます。

収集を作成するには、以下の手順に従います。

タスク 1: [新規収集]ウィザードを起動する

[ファイル]メニューから [**収集の作成**] を選択します。

[収集ソースの選択] ウィンドウが開きます。



タスク 2: データソースを選択する

- 1 以下のいずれかを選択します。
 - **[手動]**: ユーザー自身で収集を作成します。
 - **[MIB]**: MIB のデータを基にした収集を定義します。
 - **[ファイルのインポート]**: CSV ファイルのデータを基にした収集を定義します。
- 2 **[次へ]** をクリックします。

タスク 3: 収集の名前、エイリアス、および説明を指定する

[収集名とエイリアスの入力] ウィンドウが開きます。

新規収集ウィザード

収集名とエイリアスの入力

この収集の名前(収集するデータを説明するもの)を入力します。収集名はデータベーステーブル名として使用され、30文字までに制限されています。エイリアス名は255文字に制限されます。

収集名:

収集のエイリアス:

収集の説明:

<戻る 次へ> キャンセル

- 1 [収集名] ボックスに、テーブルの **SQL** 名を入力します。
最大 **30** 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できるのは、大文字 / 小文字のアルファベット、数字、特殊文字のアンダースコア (**_**) です。
- 2 [収集のエイリアス] ボックスに、テーブルのエイリアス名を入力します。
最大 **255** 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できるのは、大文字 / 小文字のアルファベット、数字、特殊文字のハイフン (**-**) とアンダースコア (**_**) です。

- 3 [説明]ボックスに、テーブルの説明を入力します。説明は省略することも可能です。説明は、最大 255 文字までです。
- 4 [次へ]をクリックします。

タスク 4: 収集テーブルのカテゴリを定義する

[カテゴリの定義]ウィンドウが開きます。

- 1 [収集テーブルのカテゴリ]ボックスで、カテゴリ名を入力または選択します。

このカテゴリ名によって、テーブルのセットをグループ化します。どの名前を選択するべきかを判断できない場合は、[デフォルト]を選択します。この名前は、最大 30 文字までです。
- 2 [データパイプ]ボックスで、データパイプ名を入力または選択します。

データパイプ名は、テーブルの収集プロパティを識別するためのものです。この名前は、最大 30 文字までです。

`dpipesnmp` データパイプを使用する場合は、MIB ブラウザを使用してテーブルを作成する必要があります。詳細は、[485 ページ](#)の「[収集テーブルの作成](#)」を参照してください。

3 [時間タイプ] ボックスで、テーブル内のデータの時間特性を選択します。

4 [テーブルタイプ] ボックスでテーブルタイプを選択します。

テーブルタイプは、テーブルに含まれているデータのクラスを指定するものです。テーブルタイプのオプションには、以下のものがあります。

[**ベースライン**] テーブルにはベースラインデータが格納されます。

[**イベント**] テーブルにはイベントデータが格納されます。イベントデータは、独立イベントの付いた非時系列指向のデータです。

[**予測**] テーブルには予測データが格納されます。

[**レート**] テーブルには割合データが格納されます。割合データは、**raw** 入力データからの 1 対の行から算出される差分データです。

[**未処理 (raw)**] テーブルには **raw** (ポーリング時の) データが格納されます。

[**要約**] テーブルには要約データが格納されます。

5 [テーブルの保持(日数)] ボックスで、テーブル内にデータを保持する日数を入力または選択します。

テーブルのデータを永久に削除したくない場合は、[**デフォルト**] を選択します。

6 [**次へ**] をクリックします。


7 [129 ページ](#)の**タスク 2** で選択した収集の作成方法に従って、以下のいずれかの手順を実行します。

- [**手動**]: [133 ページ](#)の**タスク 5** に進みます。
- [**MIB**]: [136 ページ](#)の**タスク 6** に進みます。
- [**ファイルのインポート**]: [142 ページ](#)の**タスク 9** に進みます。

タスク 5: 収集の統計を定義する

[収集に対する統計値を手動で定義する] ページが開きます。



- 1  をクリックし、テーブルに追加する列を作成します。
- 2 [列] ボックスに、統計の名前を入力します。

統計名は最大 30 文字までで、アルファベット、数字、アンダースコアを使用できます。

- 3 [エイリアス] ボックスに、統計のエイリアス名を入力します。

エイリアス名は最大 255 文字までであり、アルファベット、数字、アンダースコア、ハイフンを使用できます。




- 4 [データタイプ] ボックスで値を選択します。

以下に、使用可能なデータパイプのオプションと、対応するデータベース記憶領域タイプを示します。

OVPI データタイプ	データベースのデータタイプ
char_string	varchar
counter	float
counter_high	float

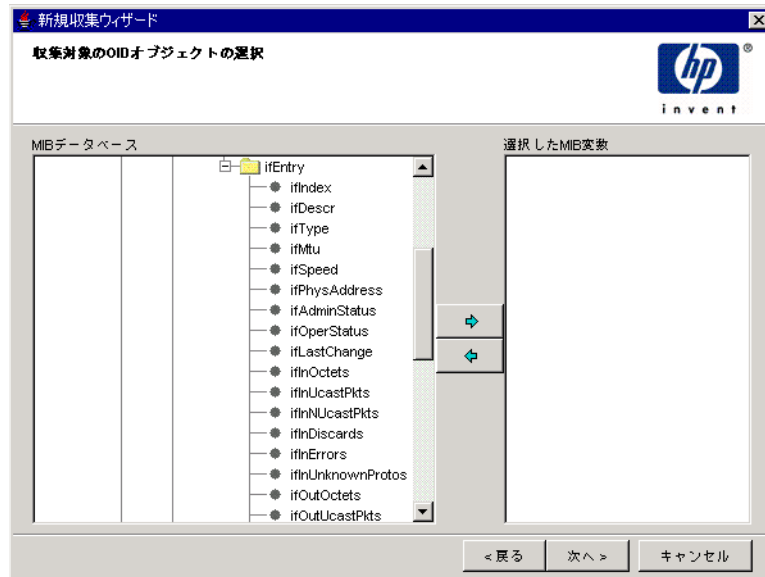
counter_low	float
counter64	float
double	float
enum	integer
float	float
gauge	float
hex_string	varchar
integer	float
ip_address	varchar(15)
numeric	numeric
object_id	varchar(128)
octet_string	varchar(128)
seq_key	integer
smalldatetime	smalldatetime
snm_float	float
snmp_char_string	varchar
snmp_counter	float
snmp_double	float
snmp_enum	integer
snmp_float	float
snmp_gauge	float
snmp_hex_string	varchar
snmp_integer	float
snmp_ip_address	varchar(15)
snmp_object_id	varchar(128)
snmp_octet_string	varchar(128)
snmp_snm_float	float
snmp_timeticks	float

timeticks	float
tinyint	tinyint
unix_time	datetime

- 5 必要に応じて、[長さ]ボックスに数値を入力します。
長さの値が有効なデータタイプは、char_string、hex_string、numeric、octet_string、snmp_char_string、snmp_hex_string、snmp_octet_stringです。
- 6 統計に NULL がありえる場合は、[ヌル可能]をクリックします。
- 7 [デフォルト]ボックスに、統計のデフォルト値を入力します。
値の長さは最大 255 文字までです。
- 8 [説明]ボックスに、統計の説明を入力します。
説明は省略することも可能です。説明は最大 255 文字までです。
- 9 データテーブル内の列の順序を変更する場合は、変更したい列を選択し以下を実行します。
 - 列を上へ移動するには、をクリックします。
 - 列を下へ移動するには、をクリックします。
 - プロパティテーブルから列を削除するには、をクリックします。
- 10 [次へ]をクリックして、144 ページのタスク 11 に進みます。

タスク 6: 収集用 OID オブジェクトを選択する




[収集用 OID オブジェクトの選択] ウィンドウが開きます。




- 1 [MIB データベース] ボックスで、MIB のフォルダを展開してオブジェクトを表示します。
- 2 [選択した MIB 変数] ボックスに追加するオブジェクトを選択します。選択した各オブジェクトは、テーブルの列になります。

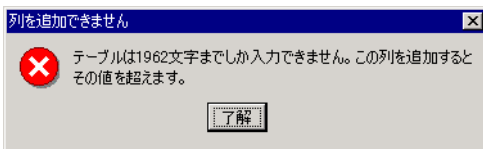
▶ 列は全部で 250 列まで作成できます。デフォルトで既に 13 列あるため、最大 237 列を追加できます。それを超えると、エラーメッセージが表示されます。

以下のいずれかを実行します。

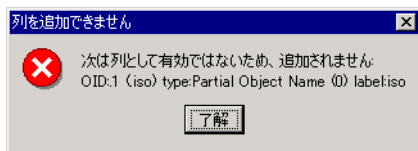
- [MIB データベース] ボックスでオブジェクトを 1 つ選択して、 をクリックします。
- 連続した複数のオブジェクトを選択するには、最初のオブジェクトを選択してから、[Shift] キーを押しながら最後のオブジェクトを選択し、 をクリックします。
- 連続していない複数のオブジェクトを選択するには [Ctrl] キーを押しながらオブジェクトを 1 つずつクリックしながら選択し、 をクリックします。

- 3 必要に応じて、[選択した MIB 変数] ボックスからオブジェクトを削除するには、上記 **タスク 2** のいずれかの方法を実行して、 をクリックします。

全体文字数の制限 (1,962 文字) を超えるオブジェクトを選択した場合、制限を超えるこのオブジェクトは [選択した MIB 変数] フィールドには追加されず、以下のメッセージが表示されます。



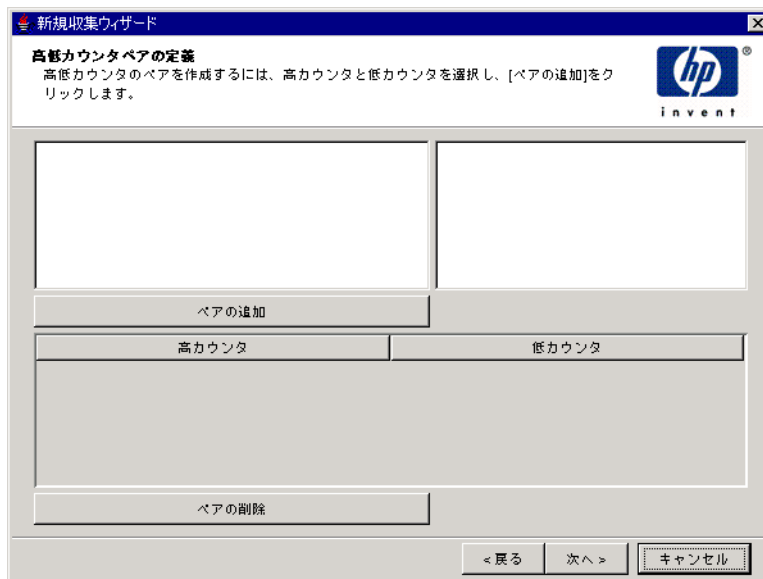
列として有効でないオブジェクト (フォルダーなど) を選択した場合、[列を追加できません] というタイトルのエラーメッセージが表示されます。そのオブジェクトが一覧表示されますが、これらのオブジェクトは [選択した MIB 変数] リストには表示されません。



- 4 [次へ] をクリックします。

タスク 7: 必要に応じて高低カウンタを定義する

[高低カウンタペアの定義] ウィンドウが開きます。



この手順は省略可能です。32 ビットカウンタを使用している場合のみ、このタスクが必要です。64 ビットカウンタの値全体を取得するには、高低カウンタのペアが必要です。2 つの 32 ビットカウンタと 64 ビットカウンタとを AND 演算することで、疑似 64 ビットカウンタを作成できます。

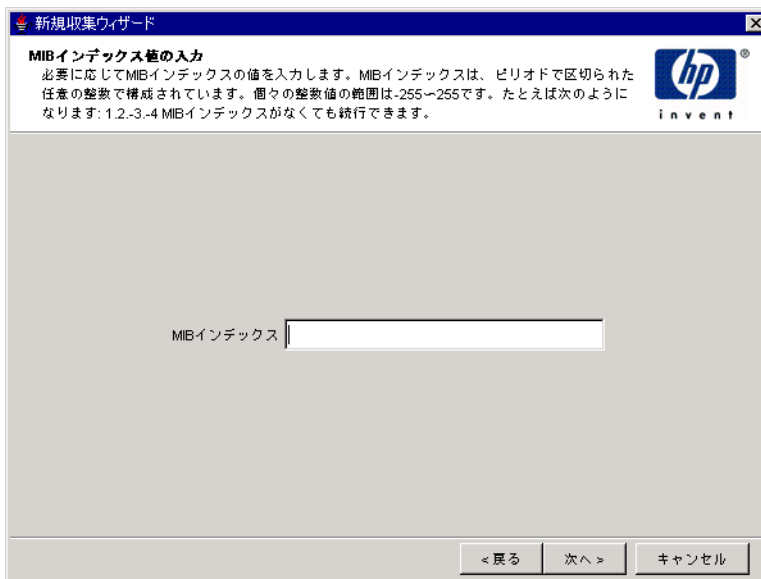
- 1 64 ビットカウンタを定義するには、各列からカウンタを選択し、[**ペアの追加**] ボタンをクリックします。

必要に応じて引き続きこの方法でペアを追加し、新しい収集テーブルに必要なカウンタをすべて定義します。

- 2 誤ってカウンタのペアを追加した場合は、一番下のフィールドでこのペアを強調表示し、[**ペアの削除**] をクリックしてリストからこれを取り除きます。
- 3 [**次へ**] をクリックします。

タスク 8: MIB インデックスの値を指定する

[MIB インデックス値の入力] ウィンドウが開きます。



▶ MIB インデックスはテーブル化されたエントリーにのみ適用されます。テーブル化されていないエントリーはゼロのインデックスを持つこととなります。

- 1 MIB インデックスフォーマットを入力します。ユーザー自身の MIB を参照してフォーマットを決めてください。

たとえば、MIB インデックスフォーマット 1.1 は、2つのインデックスがあってそれぞれの長さが整数であることを示しています。

- 2 [MIB インデックス値の入力] ウィンドウで[次へ]をクリックします。
- 3 144 ページのタスク 11 に進みます。

テーブル化されていないエントリーがある場合、以下のようになります。

- 解析されていないインデックスが `dsi_table_key` に挿入されます。
- 複数のインデックスがある場合、連結されて小数で区切られます(たとえば、1.2)。

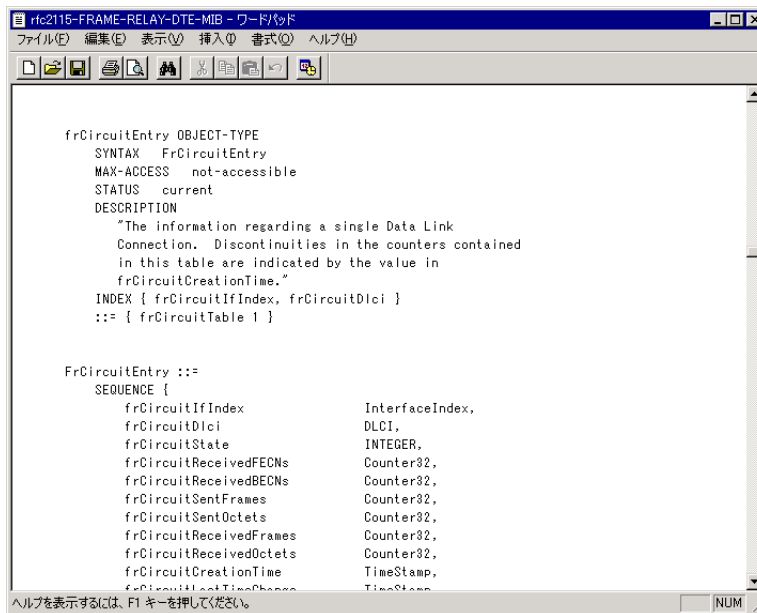
テーブル化されたエントリーに MIB インデックスを付けると、以下のようになります。

- **mw_collect** が、インデックスに関連付けられた各コンポーネントを、ユーザーが作成したプロパティテーブルの列に挿入します。
- **mw_collect** は、コンポーネントを挿入した後、各コンポーネントを取り上げて、アンダースコアで区切ってこれをテーブルキーに挿入します(たとえば、1_2)。

例 : MIB インデックスフォーマットの決定

以下の例は、**rfc2115-FRAME-RELAY-DTE MIB** の **frCircuitTable** グループにある **frCircuitEntry** オブジェクトの MIB インデックスフォーマットを決定するための方法を示しています。

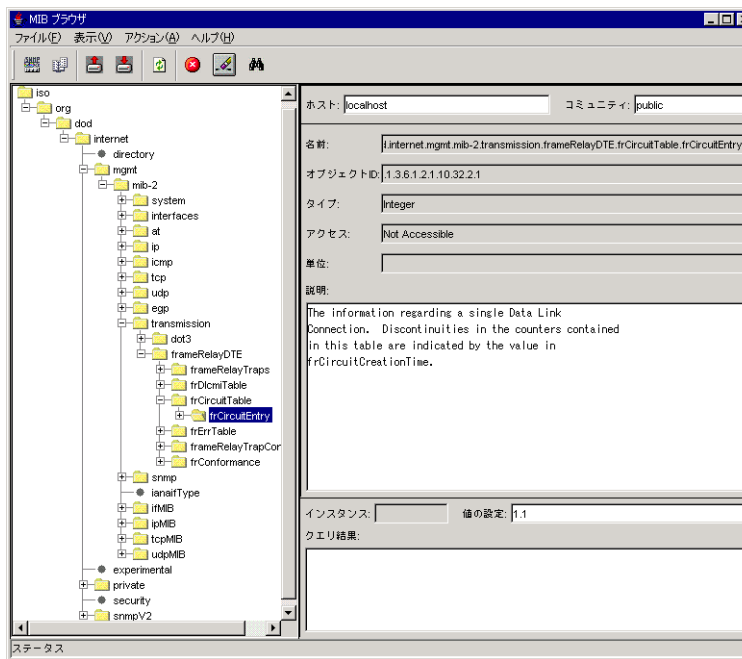
- 1 **MIB ファイルを開きます。** エントリーを見つけて、そのインデックスが **frCircuitIfIndex**、**frCircuitDlci** であることを確認します。これを以下の図に示します。



インデックスは、1つの整数値(**frCircuitIfIndex**)と、それに続くもう1つの整数値(**frCircuitDlci**)で構成されています。

MIB ブラウザで表示すると、インデックスは整数値を使用してフォーマットされ、ピリオドで区切られ、次に2番目の整数値が続いていることがわかります(たとえば、*n.n*)。

- 2 MIB ブラウザを使用して MIB を開き、frCircuitTable グループの frCircuitEntry オブジェクトに移動します。これを以下の図に示します。



オブジェクトを選択し **SNMP Get** 要求を実行すると、そのオブジェクトがポーリングされます。[クエリ結果]に、テーブル内の関連するすべてのオブジェクトのインスタンスと値が表示されます。たとえば、frCircuitIfIndex インスタンスの場合、**MIB インデックスフォーマットは 1.1**です。これは、3 と 20 がそれぞれ単一の整数値だからです。frCircuitEntry オブジェクトの場合、**139 ページの手順 1**の MIB インデックスのボックスに 1.1 を入力できます。

139 ページの手順 1で MIB インデックスフォーマットを入力した場合、以下を実行する必要があります。

- 新しいプロパティテーブル列を作成します。テーブルにはインデックスコンポーネントと同じ名前を付けることをお勧めします (**タスク 11**)。
- 正しいデータ型、および長さ (該当する場合) を設定します (**タスク 12**)。
- 新しい各列をオブジェクト別変数および収集別変数として指定します (**タスク 12**)。

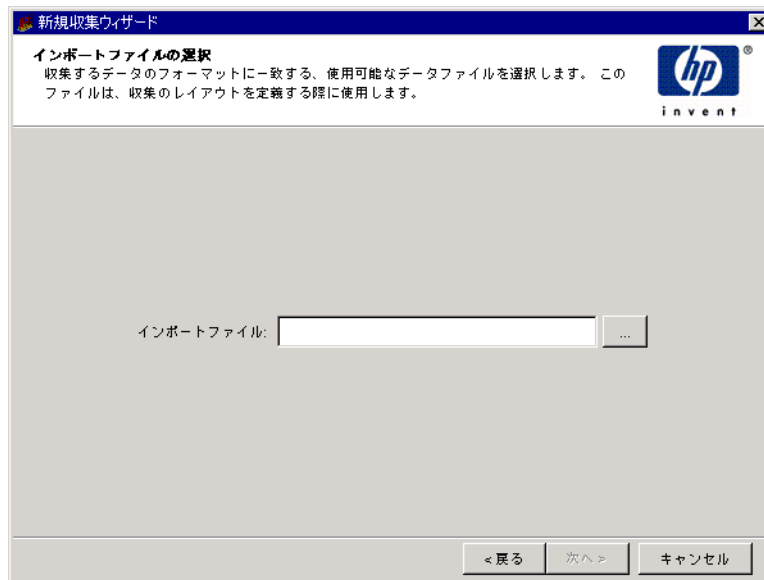
- 列を指定した後、`dsi_table_key` のオブジェクト別と収集別のオプションをクリアします (タスク 12)。



上記の手順を実行しなければ、収集定義は機能しません。

タスク 9: CSV ファイルを選択する

[インポートファイルの選択] ウィンドウが開きます。



- 1 以下のいずれかを実行します。
 - インポートする CSV ファイルのパスを入力します。
 - [参照] ボタンをクリックし、[開く] ダイアログボックスで目的のファイルまで移動してファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- 2 [次へ] をクリックします。

タスク 10: 収集で使用する統計に、ファイルからデータフィールドをマップする

[データフィールドを統計値にマップします] ウィンドウが開きます。



ファイルからデータフィールドを作成したウィンドウが表示され、収集で使用するフィールドを統計にマップすることができます。

- 1 データフィールドを選択して、以下を実行します。
 - a 選択したフィールドを含めない場合は、[インクルード]チェックボックスをオフにします。
 - b [列]ボックスをクリックして、統計の列名を入力します。列名の長さは、最大 **20** 文字です。
 - c [エイリアス]ボックスをクリックして、統計のエイリアス名を選択します。このエイリアス名の長さは、最大 **255** 文字です。
 - d [データタイプ]ボックスをクリックして、統計の列名を選択します。
 - e [データ長]ボックスをクリックして、統計のデータ長を入力します。可能なデータ長は、**1** ~ **255** です。
 - f データがないデータフィールドを許可する場合は、[ヌル可能]チェックボックスをオフにします。

- g [デフォルト] ボックスをクリックして、データが入力されない場合に統計のデータベースに挿入する値を入力します。

[デフォルト] ボックスを **NULL** にしておくと、データは挿入されません。この値の長さは、[データ長] フィールドで指定されている値によって決まります。たとえば、データ長が **5** で統計が数字の場合、デフォルトの値は **99999** までの整数になります。

- h [説明] ボックスをクリックして、この統計の説明を入力します。

- 2 各データフィールドで、**143 ページの手順 1** を繰り返します。
3 [次へ] をクリックします。

タスク 11: データテーブルに関連付けるプロパティテーブルを指定する

[プロパティテーブルとの関連付け] ページが開きます。

- 1 以下のいずれかを実行します。
- [新規プロパティテーブルの作成] を選択し、新しく作成するプロパティテーブルの **SQL** 名を入力します。最大 **30** 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できる文字は、アルファベット、数字、アンダースコア (**_**) です。タスク **12** に進みます。

- [プロパティテーブル] リストからプロパティテーブルを選択します。
タスク 13 に進みます。

2 [次へ] をクリックします。

タスク 12: プロパティ属性を定義する

[プロパティ属性の定義] ページが開きます。



既存の列を使用してプロパティテーブルを作成することも、さらに列を追加することもできます。いずれの場合も、列の属性は変更できます。

プロパティテーブルの列を追加または変更するには、以下の手順に従います。

1 列を追加するには、 をクリックします。

既存のリストの末尾に、新しい列が 1 つ追加されます。[列] および [エイリアス] ボックスにはデフォルトの名前が [Column_n] と表示されます (n は数字であり、列を追加するたびに増えていきます)。

2 列の SQL 名を指定するには、[列] ボックスで名前を選択し新しい名前を入力します。

名前は最大 30 文字までで、アルファベット、数字、アンダースコアを使用できます。

- 3 列のエイリアス名を指定するには、[エイリアス]ボックスで名前を選択し新しい名前を入力します。

名前は最大 **255** 文字までであり、アルファベット、数字、アンダースコア、ハイフンを使用できます。

- 4 [データタイプ]ボックスをクリックし値を選択します。

使用可能なデータタイプのオプションとそれぞれに対応するデータベース記憶領域タイプについては、**133 ページの手順 4**を参照してください。

- 5 必要に応じて、[データ長]ボックスに数値を入力します。

長さの値が有効なデータタイプは、**char_string**、**hex_string**、**numeric**、**octet_string**、**snmp_char_string**、**snmp_hex_string**、**snmp_octet_string**です。

- 6 [オブジェクト別]ボックスをオンまたはオフにします。

このオプションをオンにした場合は、その列が、プロパティテーブル内の、要素を定義するプロパティの、一意な組み合わせに含まれていることとなります。この場合は、[ヌル可能]および[デフォルト値]ボックスは選択するべきではありません。

変数によるオブジェクトとして **dsi_target_name** 以外の列を指定した場合は、変数によるオブジェクトとして **dsi_table_key** は指定できません。変数によるオブジェクトの最初のものとして **dsi_target_name** を指定した場合にのみ、変数によるオブジェクトとして **dsi_table_key** を指定できます。

- 7 [収集別]ボックスをオンまたはオフにします。

このオプションをオンにした場合は、その列が、収集対象要素を定義する列の一意な組み合わせに含まれていることとなります。この場合は、[ヌル可能]および[デフォルト値]ボックスは選択するべきではありません。

変数別収集として **dsi_target_name** 以外の列を指定した場合は、変数別収集として **dsi_table_key** を指定することはできません。ただし、変数別収集の最初のものとして **dsi_target_name** を指定した場合にのみ、変数別収集として **dsi_table_key** を指定できます。

- 8 **[ヌル可能]** ボックスをオンまたはオフにします。

このオプションをオンにした場合は、この列は **NULL** の可能性があります。**[オブジェクト別]** または **[収集別]** ボックスが選択されている場合は、このオプションは選択するべきではありません。

- 9 列のデフォルト値を設定する場合は、**[デフォルト値]** ボックスに値を入力します。




値の長さは最大 **255** 文字までです。この列が、変数によるオブジェクト、または変数別収集である場合は、このフィールドは空白にします。


- 10 以下のいずれかを実行します。

- a この列に外部キー参照を含める場合は、**[外部キー]** リストからそのキーが含まれているプロパティテーブルを選択します。
- b この列に外部キー参照を含めない場合は、**[外部キー]** リストから **[no fk]** を選択します。デフォルトは外部キーなしです。

- 11 列をキー変数として指定する場合は、キー変数の順序で列を挿入する必要があります(たとえば、リスト内の最初の列は **1** 番目のキー変数に対応させ、**2** 番目の列は **2** 番目のキー変数に対応させ、以下同様に列をキー変数に対応させます)。

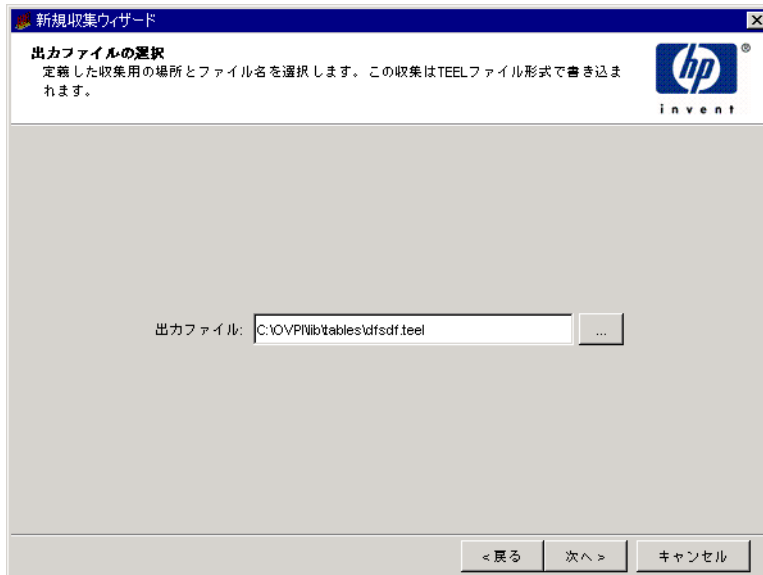
プロパティテーブル内の列の順序を変更する場合は、変更する列を選択して以下を実行します。


- 列を上へ移動するには、 をクリックします。
- 列を下へ移動するには、 をクリックします。
- プロパティテーブルから列を削除するには、 をクリックします。

 オブジェクト別変数と変数別収集とが同じである場合は、プロパティテーブルのデフォルトは **6** 列のみです。

タスク 13: 収集の出力ファイルを指定する

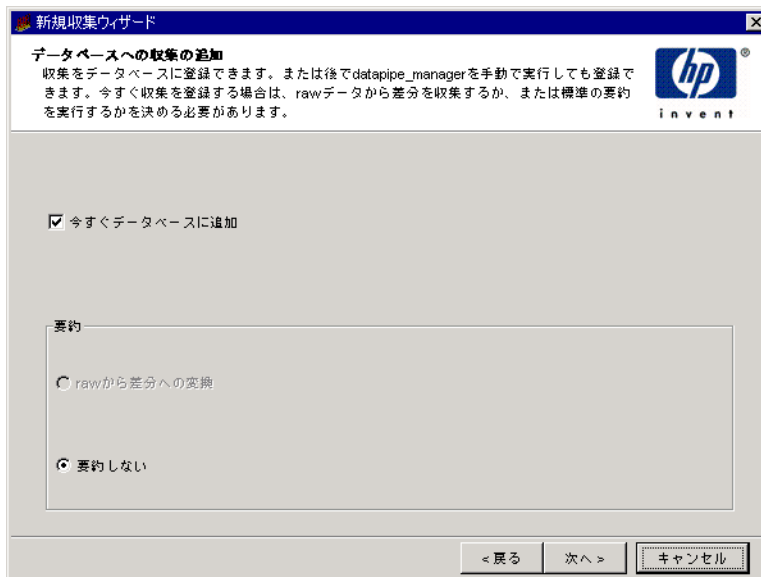
[出力ファイルの選択] ページが開きます。



- 1 出力ファイルの名前と場所が正しいことを確認します。
- 2 ファイルの名前または場所を変更する場合は、以下のいずれかを実行します。
 - [出力ファイル] ボックスに新しい情報を入力します。
 -  をクリックします。[開く] ダイアログボックスが開きます。
ファイルの場所に移動してそのファイルをダブルクリックし、[開く] をクリックします。[出力ファイル] ボックスが、新しいファイル情報で更新されます。
- 3 [次へ] をクリックします。

タスク 14: 収集をデータベースに登録する

[データベースへの収集の追加] ページが開きます。



- 1 すぐにテーブルを生成してデータベースに追加する場合は、[**今すぐデータベースに追加**] を選択します。

このオプションをオフにした場合は、後からコマンド行で以下のコマンドを入力する必要があります。

```
datapipe_manager -p create -a teel_file
```

ここで *teel_file* は、[148 ページのタスク 13](#) で指定した出力ファイルの名前です。

datapipe_manager コマンドについての詳細は、『*Performance Insight TEEL Reference Guide*』（英語）および『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

- 2 [要約] ボックスで、テーブル内のデータに対して実行する要約のタイプを選択します。

以下のオプションのいずれかをクリックします。

- [raw から差分への変換]

raw から差分への変換処理に必要なデータベースオブジェクトが生成されます。

手動で生成する場合は、この手順の**タスク 1** のコマンドに `-r r2d` を付けます。

- [標準の要約]

raw から差分への変換処理とデフォルトの要約に必要なデータベースオブジェクトが生成されます。データベースオブジェクトには、レートテーブルと、時間単位、日単位、および週単位の要約テーブルと、そのための要約プロシージャが含まれます。また、**.sum** ファイルも作成され、`DPIPE_HOME/scripts` ディレクトリに保存されます。

手動で生成する場合は、この手順の**タスク 1** のコマンドに `-r default` を付けます。

- [要約なし]

新しいデータベースオブジェクトは生成されません。

- 3 [次へ] をクリックします。

タスク 15:[概要] ページを確認する

[概要] ダイアログボックスが開きます。



- 1 すべての収集プロパティ値が正しいことを確認します。

必要に応じて、[戻る] をクリックして前のページに戻り、変更を行います。変更が完了したら、[次へ] をクリックして [概要] ページまで戻ります。

- 2 [完了] をクリックするとデータテーブルが作成されます。

データテーブル作成ウィザードが閉じ、TEEL ファイルが作成され、指定した場所に保存されます。

ポーリングポリシーの作成

レポートパックをインストールすると、そのレポートパックにとって必要なポーリングポリシーが提供されます。ただし、新しいポーリングポリシーを作成しなければならない場合もあります。

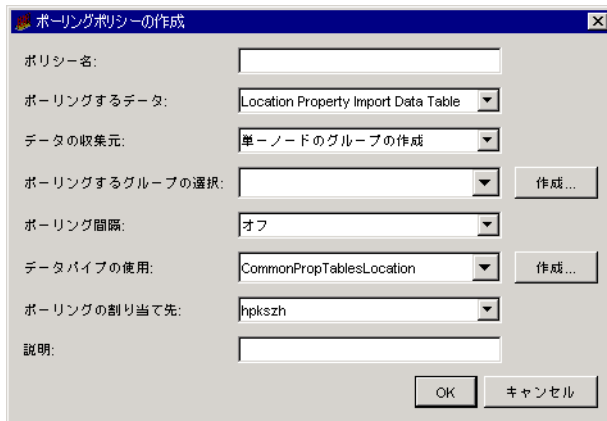
各ポーリングポリシーにはそれぞれ *collection* とポーリンググループが必要です。 **collection** は、収集されたデータを含むデータベースのテーブルを識別します。ポーリンググループは、ポーリンググループは、ポーリングする管理対象

オブジェクトを識別します。ノードのリスト、またはインスタンスのリストを含みます。各ノードには、SNMP プロファイルとコミュニティ文字列プロファイルが必要です。

ポーリングポリシーを作成します。

- 1 [ファイル]メニューの[**ポーリングポリシーの作成**]を選択します。

[ポーリングポリシーの作成]ダイアログボックスが開きます。



- 2 ポーリングポリシーの名前として、明確に区別できる一意の名前を[ポリシー名]ボックスに入力します。
- 3 [ポーリングするデータ]リストから、収集するデータのテーブルを選択します。収集を指定します。

このリストに表示されるテーブルは、[ポーリングポリシーの管理]ウィンドウのナビゲーションペインに表示されている、データベースのものです。

別のサーバーにあるテーブル内のデータを収集する必要がある場合は、[ファイル]メニューの[**サーバーの変更**]を選択してデータベースを変更します。詳細は、[87 ページ](#)の「**データベースサーバーの変更**」を参照してください。テーブル内で収集できる項目を表示する必要がある場合は、テーブルマネージャを使用して、どの列がテーブル内にあるかを表示します。

収集を新しく作成する場合、詳細は、[128 ページ](#)の「**収集の作成**」を参照してください。

- 4 [データの収集元]リストから、以下のいずれかのデータの収集元を選択します。

- **[単一ノードのグループの作成]**: 1つのノードだけを含むグループを表示します。指定したグループにある1つのノードだけがシステムによってポーリングされます。
 - **[同じタイプのすべてのノード]**: 同じタイプとして指定されたノードがあるグループを表示します。指定したグループにあるノードだけがシステムによってポーリングされます。通常、このグループの指定では、ルーターなど類似したデバイスである項目が該当します。
 - **[同じビュー内にあるすべてのノード]**: 同じビューとして指定されたノードがあるグループを表示します。指定したグループにあるノードだけがシステムによってポーリングされます。通常、このグループの指定では、場所別やカスタム別など、特定の用途について関連のある項目が該当します。
 - **[タイプとビューとの組み合わせ]**: タイプとビューの組み合わせとして指示したノードがあるグループを表示します。指定したグループにあるノードだけがシステムによってポーリングされます。
 - **[特定のインスタンス]**: ルールまたは列挙リストによって選択されたプロパティテーブルにあるインスタンスを含むグループを表示します。指定したグループにあるノードだけがシステムによってポーリングされます。
 - **[カスタムグループ]**: ルールベースのグループなど、ポーリングポリシーマネージャアプリケーション以外の何らかの方法で定義された特定のグループを表示します。
- 5 [ポーリング元とするグループの選択] リストで、ポーリング元のデータのソースがあるグループを選択します。

新しいグループを作成するには、**[作成]** をクリックします。詳細は、157ページの「**ポーリンググループの管理**」を参照してください。

- 6 [ポーリング間隔] リストから、ポーリング間隔を選択します。ポーリング間隔は、1回のポーリング要求と次のポーリング要求との間の時間です。

以下のオプションが [ポーリング間隔] リストにあります。

- **[オフ]**: データのポーリングをすべて停止します。
- **[5分]**: 0時から、5分間隔でデータをポーリングします。
- **[10分]**: 0時から、10分間隔でデータをポーリングします。
- **[15分]**: 0時から、15分間隔でデータをポーリングします。

- **[20分]**: 0時から、20分間隔でデータをポーリングします。
- **[1時間]**: 0時から、1時間間隔でデータをポーリングします。
- **[1日]**: 毎日、trendtimer.sched ファイルに指定された時刻にデータをポーリングします。デフォルトのデータポーリング時刻は、毎日午前1時です。

- 7 [データパイプの使用] リストから、データパイプを選択します。データパイプはデータの収集方法を指定しています。

データパイプの詳細は、HP OpenView の営業担当者にお問い合わせのうえ、『Performance Insight TEEL Reference Guide』（英語）を入手してください。

- 8 [ポーリングの割り当て先] リストから、データを収集するサーバーを選択します。

別の収集ステーションをリストに追加するには、**[作成]** をクリックします。詳細は、182 ページの「データパイプのインストールの管理」を参照してください。

- 9 **[説明]** ボックスに、ポーリングポリシーのテキスト説明文を入力します。

- 10 **[OK]** をクリックします。

ポーリングポリシーが作成されます。

ポーリングポリシーの編集

場合によっては、ポーリングポリシーを変更する必要があります。たとえば、一部のノードだけをポーリングしたいと仮定します。この場合、一部のノードだけを含むビューを作成し、そのノードの一覧を代わりに使用するようポーリングポリシーを変更します。



既存のポーリングポリシーを変更すると、インストール済みの機能（レポートパックとデータパイプ）が正常に動作しなくなることがあります。

ポーリングポリシーを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - 表示ペインでポーリングポリシーをダブルクリックします。

- 表示ペインでポーリングポリシーを選択し、[編集]メニューの[ポーリングポリシー]を選択します。

[ポーリングポリシーの編集]ダイアログボックスが開きます。

2 以下のいずれかを実行します。

- 収集するデータを格納するテーブルを変更するには、別のテーブルを [ポーリングするデータ] リストから選択します。
- データの収集元となるグループのタイプを変更するには、別のタイプを [データの収集元] リストから選択します。
- ポーリング元のデータのソースがあるグループを変更するには、別のグループを [ポーリング元とするグループの選択] リストから選択します。

新しいグループを作成するには、[作成]をクリックします。詳細は、[157 ページの「ポーリンググループの管理」](#)を参照してください。

- ポーリング間隔を変更するには、別の間隔を [ポーリング間隔] リストから選択します。
- データの収集方法を指定するデータパイプを変更するには、別のデータパイプを [データパイプの使用] リストから選択します。
データパイプの詳細は、HP OpenView の営業担当者にお問い合わせのうえ、『*Performance Insight TEEL Reference Guide*』（英語）を入手してください。
- データを収集するサーバーを変更するには、別のサーバーを [ポーリングの割り当て先] リストから選択します。

別の収集ステーションをリストに追加するには、[作成]をクリックします。詳細は、182 ページの「データパイプのインストールの管理」を参照してください。

- 3 [OK] をクリックします。

ポーリングポリシーの削除

1 つまたは複数のポーリングポリシーを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 表示ペインに表示されているポーリングポリシーリストから、1 つまたは複数のポーリングポリシーを選択します。

詳細は、126 ページの「項目の選択」を参照してください。

- 2 [編集]メニューの[ポーリングポリシーの削除]を選択します。

削除の確認ウィンドウが表示されます。表示内容は、選択したポーリングポリシーが1つか複数かで異なります。

- 3 以下のいずれかを実行します。

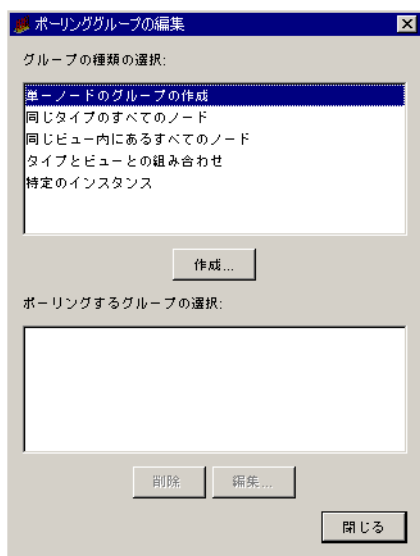
- 1 つのポーリングポリシーだけを選択した場合、ポーリングポリシーを削除するには、[はい]をクリックします。
- 複数のポーリングポリシーを選択した場合は、以下のいずれかを実行します。
 - 選択したポーリングポリシーをすべて削除するには、[すべてはい]をクリックします。
 - 現在確認ウィンドウに表示されているポーリングポリシーを削除するには、[はい]をクリックします。
 - 現在確認ウィンドウに表示されているポーリングポリシーを取り消し、次のポリシーの確認ウィンドウに移るには、[いいえ]をクリックします。
 - 選択したポーリングポリシーをいずれも削除せずにウィンドウを閉じるには、[キャンセル]をクリックします。

ポーリンググループの管理

ポーリンググループを作成、編集、または削除するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[ポーリンググループ]を選択します。

[ポーリンググループの編集]ダイアログボックスが開きます。



- 2 作成、編集、または削除するグループの種類を[グループの種類を選択]ボックスから選択します。

選択したタイプに対応するグループが存在する場合は、それらのグループが[ポーリング元とするグループの選択]ボックスに表示されます。

[グループの種類を選択]ボックスには以下のオプションがあります。

- [単一ノードのグループの作成]: 1つのノードだけを含みます。このグループにある1つのノードだけがシステムによってポーリングされます。
- [同じタイプのすべてのノード]: 同じタイプとして指定されたノードがあります。このグループで指定されたノードだけがシステムによってポーリングされます。通常、このグループの指定では、ルーターなど類似したデバイスである項目が該当します。

- [**同じビュー内にあるすべてのノード**]: 同じビューとして指定されたノードがあります。このグループで指定されたノードだけがシステムによってポーリングされます。通常、このグループの指定では、場所別やカスタマ別など、特定の用途について関連のある項目が該当します。
- [**タイプとビューとの組み合わせ**]: タイプとビューの組み合わせとして指定されたノードがあります。このグループで指定されたノードだけがシステムによってポーリングされます。
- [**特定のインスタンス**]: ルールによって選択されたプロパティテーブルにあるインスタンスを含みます。このグループで指定されたインスタンスだけがシステムによってポーリングされます。

- 3 選択したタイプの新しいグループを作成するには、[**作成**]をクリックします。

選択したグループに対して適用される手順の詳細は、[159 ページの「ポーリンググループの作成」](#)を参照してください。

- 4 選択したタイプのグループを編集するには、以下のいずれかを実行します。
 - 編集するグループを [ポーリング元とするグループの選択] ボックスでダブルクリックします。
 - 編集するグループを [ポーリング元とするグループの選択] ボックスで選択し、[**編集**] をクリックします。

ポーリンググループの編集方法の詳細は、[167 ページの「ポーリンググループの編集」](#)を参照してください。

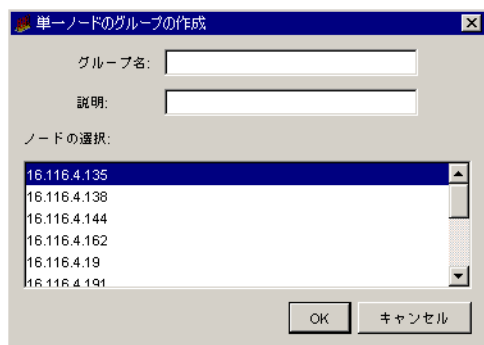
- 5 選択したタイプのグループを削除するには、以下の手順に従います。
 - a 削除するグループを [ポーリング元とするグループの選択] ボックスから選択します。
 - b [**削除**] をクリックします。削除の確認ウィンドウが表示されます。
 - c ポーリンググループを削除するには、[**はい**] をクリックします。
- 6 完了したら、[**閉じる**] をクリックします。

ポーリンググループの作成

ポーリンググループを作成するときは、ポーリングプロセス中にデータの収集元とするノードまたはインスタンスを指定します。作成できるポーリンググループの種類は、単一のノード、同じタイプのノード、同じビューにあるノード、タイプとビューの組み合わせ、および特定のインスタンスです。

単一ノードのグループの作成

[ポーリンググループの編集]ダイアログボックスで[**単一ノードのグループの作成**]オプションを選択し[**作成**]をクリックすると、[単一ノードのグループの作成]ダイアログボックスが開きます。

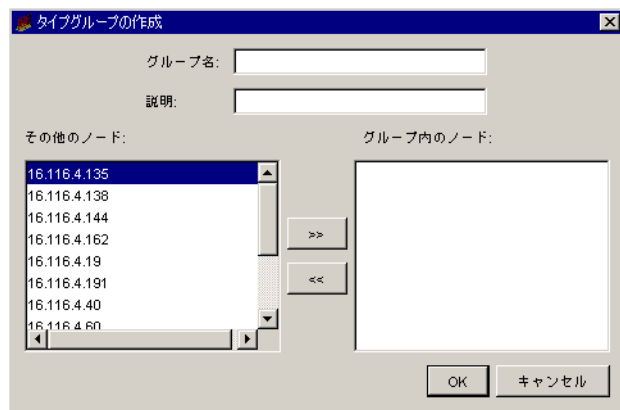


単一ノードのグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 グループの名前を [グループ名] ボックスに入力します。この名前は最大 30 文字までです。
- 2 グループの説明を [説明] ボックスに入力します。説明の長さは最大 255 文字までです。
- 3 1つのノードを [ノードの選択] ボックスから選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

同じタイプのすべてのノードグループの作成

ダイアログボックスで [同じタイプのすべてのノード] オプションを選択し [作成] をクリックすると、[タイプグループの作成] ダイアログボックスが開きます。



同じタイプのノードを含むグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 グループの名前を [グループ名] ボックスに入力します。この名前は最大 30 文字までです。
- 2 グループの説明を [説明] ボックスに入力します。説明の長さは最大 255 文字までです。
- 3 グループのノードを選択するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード] ボックスでノードを選択し、>> をクリックしてノードを [グループ内のノード] ボックスに追加します。
 - [他のノード] ボックスでノードをダブルクリックします。ノードが [グループ内のノード] ボックスに移動します。
- 4 ノードをグループから削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [グループ内のノード] ボックスでノードを選択し、<< をクリックしてノードを [他のノード] ボックスに戻します。
 - [グループ内のノード] ボックスでノードをダブルクリックして、ノードを [他のノード] ボックスに移動します。
- 5 完了したら、[OK] をクリックします。

同じビューにあるすべてのノードグループの作成

ダイアログボックスで [同じビュー内にあるすべてのノード] オプションを選択し [作成] をクリックすると、[ビューグループの作成] ダイアログボックスが開きます。



同じビューにあるすべてのノードを持つグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 グループの名前を [グループ名] ボックスに入力します。この名前は最大 30 文字までです。
- 2 グループの説明を [説明] ボックスに入力します。説明の長さは最大 255 文字までです。
- 3 グループのノードを選択するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード] ボックスでノードを選択し、**>>** をクリックしてノードを [グループ内のノード] ボックスに追加します。
 - [他のノード] ボックスでノードをダブルクリックします。ノードが [グループ内のノード] ボックスに移動します。
- 4 ノードをグループから削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [グループ内のノード] ボックスでノードを選択し、**<<** をクリックしてノードを [他のノード] ボックスに戻します。
 - [グループ内のノード] ボックスでノードをダブルクリックし、ノードを [他のノード] ボックスに移動します。
- 5 完了したら、**[OK]** をクリックします。

タイプとビューの組み合わせグループの作成

ダイアログボックスで [タイプとビューの結合グループの作成] オプションを選択し [作成] をクリックすると、[タイプとビューの組み合わせグループの作成] ダイアログボックスが開きます。

タイプとビューの結合グループの作成

グループ名:

説明:

タイプグループ: DevResCiscoRouter_Memory

かつ

ビューグループ:

結果ノードのリストを表示

ノード:

OK キャンセル

タイプとビューの各ノードグループの組み合わせで構成されるノードグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 グループの名前を [グループ名] ボックスに入力します。この名前は最大 30 文字までです。
- 2 グループの説明を [説明] ボックスに入力します。説明の長さは最大 255 文字までです。
- 3 [タイプグループ] リストからノードのグループを選択します。
- 4 [ビューグループ] リストからノードのグループを選択します。

- 5 [演算子] リストから演算子を選択します。このリストは[タイプグループ] リストと[ビューグループ] リストとの間にあります。

[演算子] リストには以下のオプションがあります。

- **[および]**: 結果として得られるノードリストには、[タイプグループ] と[ビューグループ] の両方にある同じノードが含まれます。たとえば、[タイプグループ] にノード 1、2、3 があり、[ビューグループ] にノード 3、4、5 がある場合、結果として得られるグループにはノード 3 が含まれます。
 - **[または]**: 結果として得られるノードリストには、[タイプグループ] と[ビューグループ] の少なくとも一方にあるすべてのノードが含まれます。たとえば、[タイプグループ] にノード 1、2、3 があり、[ビューグループ] にノード 3、4、5 がある場合、結果として得られるグループにはノード 1、2、3、4、5 が含まれます。
 - **[タイプがビュー内にありません]**: 結果として得られるノードリストには、[タイプグループ] にあって[ビューグループ] にないノードが含まれます。たとえば、[タイプグループ] にノード 1、2、3 があり、[ビューグループ] にノード 3、4、5 がある場合、結果として得られるグループにはノード 1、2 が含まれます。
 - **[ビューがタイプ内にありません]**: 結果として得られるノードリストには、[ビューグループ] にあって[タイプグループ] にないノードが含まれます。たとえば、[タイプグループ] にノード 1、2、3 があり、[ビューグループ] にノード 3、4、5 がある場合、結果として得られるグループにはノード 4、5 が含まれます。
- 6 結果のノードリストを表示する場合は、[結果ノードのリストの表示] をクリックします。
- 7 完了したら、[OK] をクリックします。

特定のインスタンスグループの作成

ダイアログボックスで [特定のインスタンス] オプションを選択し [作成] をクリックすると、[特定のインスタンスグループの作成] ダイアログボックスが開きます。

特定のインスタンスグループの作成

グループ名:

説明:

プロパティグループの選択: K_Customer

ルール: 編集...

結果のインスタンスの表示 インスタンス値の編集...

インスタンス:

選択したインスタンスだけを保存 OK キャンセル

特定のインスタンスグループとルールベースのグループとは、同じタイプのグループを指します。

特定のインスタンスグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 グループの名前を [グループ名] ボックスに入力します。この名前は最大 30 文字までです。
- 2 このグループの説明を [説明] ボックスに入力します。説明の長さは最大 255 文字までです。
- 3 インスタンスがあるプロパティテーブルを [プロパティグループの選択] リストから選択します。

- 4 インスタンスの選択条件を入力するには、[編集]をクリックします。[ルールの作成]ダイアログボックスが開きます。



ルールの定義では、最大2つの列に選択条件を入力できます。

- 5 以下を実行します。
- a 列名を [列の選択] リストから選択します。これらは、選択したプロパティテーブルにある列です。
 - b 選択した列にある値に対する演算子を選択します。以下の演算子が使用できます。

=	等しい
<	より小さい
>	より大きい
>=	以上
<=	以下
<>	等しくない

like

not like

- c 選択した列に対する値を、右側のボックスに入力します。
この値には英数字の文字列を入力できます。

LIKE 演算子を使用するときは、この値を文字列にする必要があり、アンダースコア () およびパーセント (%) をワイルドカード文字として含めることができます。アンダースコア文字は、任意の1文字を表します。パーセント文字は、0個以上の文字を表します。たとえば、以下のとおりです。

_ime は、time、lime、dime にマッチします。

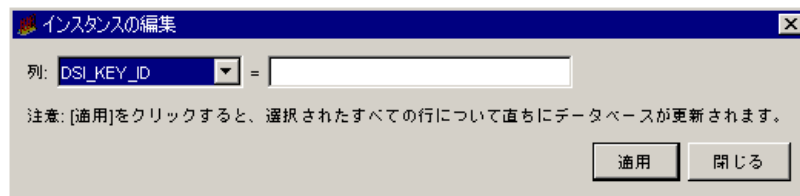
12%3 は、1233、123、1244443 にマッチします。

- d 2つの列を選択した場合、または同じ列名を2回選択した場合は、2つの列の間に表示される [演算子] リストから結合演算子を選択します。
同じ列名を2回選択した場合、その列を部分的に条件付ける、複合ルールを作成できます。
- e 完了したら、[OK] をクリックします。

作成したルールは、[特定のインスタンスグループの作成] ダイアログボックスの [ルールの作成] ボックスに表示されます。

- 6 プロパティテーブルで選択した行に対応するすべての列を表示するには、[結果のインスタンスの表示] をクリックします。
- 7 [インスタンス] にある行の値を変更する場合は、以下を実行します。
 - a 1つまたは複数の行を選択して強調表示します。詳細は、126 ページの「項目の選択」を参照してください。
 - b [インスタンス値の編集] をクリックし、選択した行の1つまたは複数の列にある値を変更します。

[インスタンスの編集] ダイアログボックスが開きます。



- c 変更する列を [列] リストから選択します。
- d 選択した列の値を、[列] リストの右側にある [列] ボックスに入力します。
- e 選択した行について同じ変更を加える必要があることを確認します。
- ▶ [適用] をクリックすると、選択した行についてデータベースがすぐに更新されます。
- f 変更が正しければ、[適用] をクリックして、プロパティテーブルで選択したすべての行をすぐに更新します。

- 8 結果として得られるインスタンスのうち一部だけをグループに含めたい場合は、以下を実行します。
 - a 1つまたは複数の行を選択して強調表示します。詳細は、126ページの「項目の選択」を参照してください。
 - b **[選択したインスタンスだけを保存]** チェックボックスをオンにします。チェックマークがボックスに表示されていることを確認します。
- 9 完了したら、**[OK]** をクリックします。

ポーリンググループの編集

ポーリングポリシーを編集するときは、[グループ名]ボックスの値を除く、ウィンドウ内の全フィールドのすべての値を変更できます。

[タイプとビューの結合グループの編集]ダイアログボックスが開いたとき、ノードのリストは**[結果ノードのリストの表示]** ボタンをクリックするまで表示されません。ノードが多数ある場合は、説明の変更のみでも、ノードの表示が予想より長くなる場合があります。

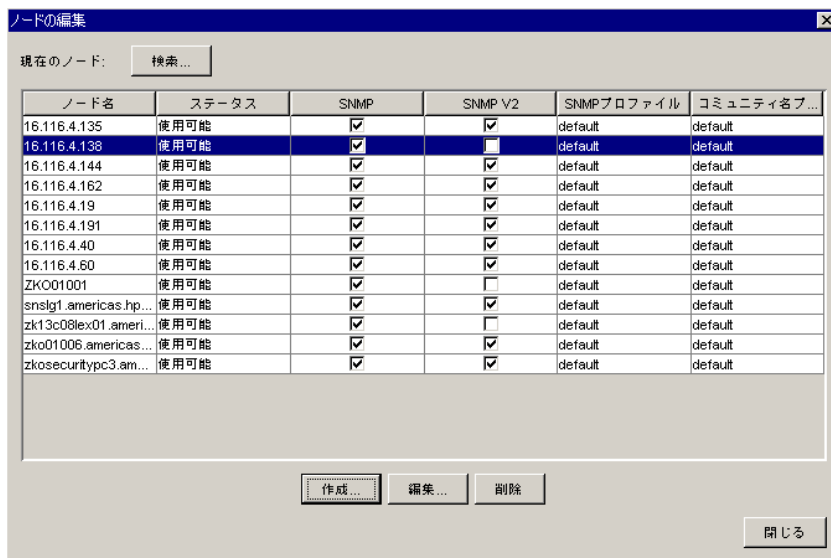
[特定のインスタンスグループの編集]ダイアログボックスが開いたとき、インスタンスのリストは**[結果のインスタンスの表示]** ボタンをクリックするまで表示されません。ただし、**[選択したインスタンスだけを保存]** をクリックした場合は、ルールは保存せず、インスタンスのリストのみを保存し、更新されたノードのリストが表示されます。インスタンスが多数ある場合は、説明の変更のみでも、インスタンスの表示が予想より長くなる場合があります。[ルール]ボックスの値を変更するには**[編集]** ボタンをクリックしてください。

ノードの管理

ノードを作成、編集、または削除するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[ノード]を選択します。

[ノードの編集]ダイアログボックスが開きます。



このウィンドウには、現在のノードのリストが以下のフィールドとともに表示されます。

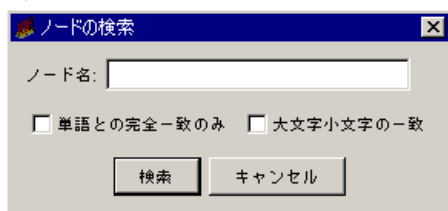
- [ノード名]: ノードの名前です。IP アドレスまたは英数字名です。
- [ステータス]: ステータスは、ノードがポーリング可能かどうかを示します。
- [SNMP]: ボックスがオンであれば、そのノードは **SNMP v1** データをサポートしています。
- [SNMP V2]: ボックスがオンである場合、そのノードは **SNMP v2** データをサポートしています。
- [SNMP プロファイル]: ノードの **SNMP** プロファイルの名前です。
- [コミュニティ文字列プロファイル]: ノードのコミュニティ文字列プロファイルの名前です。

- 2 新しいノードを作成するには、169 ページの「ノードの作成」を参照してください。
- 3 既存のノードを編集するには、171 ページの「ノードの編集」を参照してください。
- 4 既存のノードを削除するには、171 ページの「ノードの削除」を参照してください。
- 5 完了したら、[閉じる]をクリックします。

ノードの検索

既存のノードをリストから検索するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[ノード]を選択します。
[ノードの編集]ダイアログボックスが開きます。
- 2 [検索]をクリックします。[検索]ダイアログボックスが開きます。



- 3 検索するノードの名前を[ノード名]ボックスに入力します。
- 4 名前の語句の一部分だけでなく全体が一致する語句だけを検索する場合は、[完全に一致する単語のみ]チェックボックスをオンにします。
- 5 [ノード名]ボックスで指定した名前で、大文字小文字まで一致するよう検索する場合は、[大文字小文字の一致]チェックボックスをオンにします。
- 6 ノードを検索して強調表示するには、[検索]をクリックします。

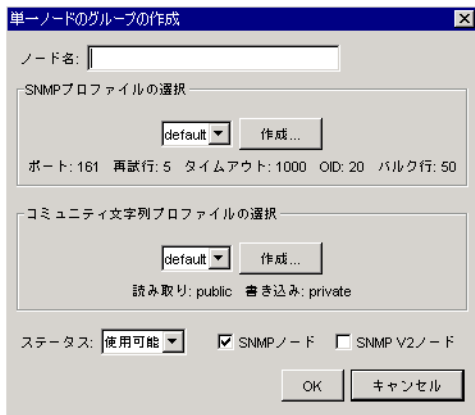
ノードの作成

ノードを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[ノード]を選択します。

[ノードの編集] ダイアログボックスが開きます。

- 2 [作成] をクリックします。[単一ノードのグループの作成] ダイアログボックスが開きます。



- 3 ノードの名前を [ノード名] ボックスに入力します。この名前は最大 64 文字までです。
- 4 SNMP プロファイルを [SNMP プロファイルの選択] リストから選択します。

SNMP プロファイルが存在しない場合は、[作成] をクリックして新しい SNMP プロファイルを作成します。詳細は、179 ページの「SNMP プロファイルの管理」を参照してください。

- 5 コミュニティ文字列プロファイルを [コミュニティ文字列プロファイルの選択] リストから選択します。

コミュニティ文字列プロファイルが存在しない場合は、[作成] をクリックして新しく作成します。詳細は、176 ページの「コミュニティ文字列プロファイルの管理」を参照してください。

- 6 ノードのステータスを [ステータス] リストから選択します。

[ステータス] リストには以下のオプションがあります。

- [使用不可]: この値を使用するのは、ノードを作成したいがまだポーリングはしたくない場合、または、現時点ではそのノードをポーリング不可能にしておきたい場合です。
- [使用可能]: ノードをポーリング可能にする場合に、この値を使用します。

- 7 ノードが **SNMP v1** データをサポートしている場合は、**[SNMP ノード]** ボックスをオンにします。
- 8 ノードが **SNMP v2** データをサポートしている場合は、**[SNMP V2 ノード]** ボックスをオンにします。
- 9 **[OK]** をクリックします。

ノードの編集

既存のノードを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 **[編集]** メニューの **[ノード]** を選択します。
[ノードの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 対応する行を強調表示し、編集するノードを選択します。
または、単一のノードをダブルクリックし、**タスク 4** に進みます。
既存のノードのリストの中でノードを検索する方法の詳細は、**169 ページ**の「**ノードの検索**」を参照してください。
- 3 **[編集]** をクリックします。
[ノードの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 4 **[ノード名]** 以外の、任意の値を変更します。詳細は、**169 ページ**の「**ノードの作成**」を参照してください。
- 5 **[OK]** をクリックします。

ノードの削除

1 つまたは複数の既存のノードを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 **[編集]** メニューの **[ノード]** を選択します。
[ノードの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 対応する行を強調表示することで、削除する **1** つまたは複数のノードを選択します。詳細は、**126 ページ**の「**項目の選択**」を参照してください。
既存のノードのリストの中でノードを検索する方法の詳細は、**169 ページ**の「**ノードの検索**」を参照してください。

3 [削除]をクリックします。

削除の確認ウィンドウが表示されます。表示内容は、選択したノードが1つか複数かで異なります。

4 以下のいずれかを実行します。

- ノードを1つだけ選択した場合、そのノードを削除するには、[はい]をクリックします。
- ノードを複数選択した場合は、以下のいずれかを実行します。
 - ノードをすべて削除するには、[すべてはい]をクリックします。
 - 現在確認ウィンドウに表示されているノードを削除するには、[はい]をクリックします。
 - 現在確認ウィンドウに表示されているノードを取り消し、次のノードの確認ウィンドウに移るには、[いいえ]をクリックします。
 - 選択したノードをいずれも削除せずにウィンドウを閉じるには、[キャンセル]をクリックします。

ノードのインポート

ノードをインポートする手順は2段階になります。まず、インポートするノードを含むASCIIファイルを作成する必要があり、それからそのファイルをインポートする必要があります。

インポートファイルの作成

インポートしたいノードのリストを含むASCIIファイルを作成します。インポートしたい各ノードには、以下のフォーマットの記入事項を、ファイル内に記載する必要があります。

node_name, read_community, write_community, type_name, view_name, snmp_v1_flag, snmp_v2_flag, node_status, desc, snmp_profile, port_num, num_retries, timeout_sec, num_oids, get_bulk_size

データを入力しないパラメータには、カンマを代わりに置きます。カンマを置かない場合は、そのノードデータが省かれます。表 1 に、インポートファイルのパラメータを説明します。

表 1 インポートファイルのパラメータ

パラメータ	説明
<i>node_name</i>	ノードの名前、またはノードの IP アドレス。
<i>read_community</i>	ノードの読み取りコミュニティ文字列。プロファイルが存在しない場合は、システムによって作成されます。
<i>write_community</i>	ノードの書き込みコミュニティ文字列。プロファイルが存在しない場合は、システムによって作成されます。デフォルト値は private です。
<i>type_name</i>	<p>ポーリングするノードの一覧を含むタイプリストの名前です。このフィールドをファイル内で指定する場合は、グループ名を指定する必要があります。この名前が存在しない場合は、指定した名前のタイプリストがポーリングポリシーマネージャによって作成されます。</p> <p>グループ名は、[タイプグループの編集]ダイアログボックスの [グループ名] ボックスに表示されるものと同じです。このダイアログボックスを表示するには、[編集]メニューの [ポーリンググループ] オプションを選択し、[同じタイプのすべてのノード] オプションを選択してから、[編集] をクリックします。</p> <p>このパラメータを空欄にすると、ポーリングポリシーマネージャは、ノードをタイプリストグループに割り当てないか、またはノードをタイプリストグループから削除します。</p>

表 1 インポートファイルのパラメータ (続き)

パラメータ	説明
<i>view_name</i>	<p>ポーリングするノードの一覧を含むビューリストの名前です。このフィールドをファイル内に指定する場合は、グループ名を指定する必要があります。この名前が存在しない場合は、指定した名前のビューリストがポーリングポリシーマネージャによって作成されます。</p> <p>ビュー名は、[ビューグループの編集]ダイアログボックスの[グループ名]ボックスに表示されるものと同じです。このダイアログボックスを表示するには、[編集]メニューの[ポーリンググループ]オプションを選択し、[同じビュー内にあるすべてのノード]オプションを選択してから、[編集]をクリックします。</p> <p>このパラメータを空欄にすると、ポーリングポリシーマネージャは、このノードをビューリストグループに割り当てないか、またはこのノードをビューリストグループから削除します。</p>
<i>snmp_v1_flag</i>	<p>ノードが SNMP プロトコルをサポートしているかどうかを指定します。値を 1(サポートあり)または 0(サポートなし)に設定します。デフォルト値は 1 です。</p>
<i>snmp_v2_flag</i>	<p>ノードが SNMPv2 プロトコルをサポートしているかどうかを指定します。値を 1(サポートあり)または 0(サポートなし)に設定します。デフォルト値は 1 です。</p>
<i>node_status</i>	<p>インポート時のノードの状態を、開始、または停止に指定します。値を 1(開始)または 0(停止)に設定します。デフォルト値は 1 です。</p>
<i>desc</i>	<p>ノードの説明。このパラメータを空欄にすると、値は空になり、エクスポートファイルにはスペースとして表示されます。長さは最大 255 文字までです。</p>

表1 インポートファイルのパラメータ (続き)

パラメータ	説明
<i>snmp_profile</i>	<p>ノードに割り当てられている SNMP プロファイルの名前です。このプロファイルが存在する場合は、そのプロファイルがノードに割り当てられ、<i>snmp_profile</i> パラメータの後のパラメータ (<i>port_num</i>、<i>num_retries</i>、<i>timeout_sec</i>、<i>num_oids</i>、<i>get_bulk_size</i>) は無視されます。</p> <p>このプロファイルが存在しない場合は、ポーリングポリシーマネージャが、<i>snmp_profile</i> パラメータの後のパラメータを使用してプロファイルを作成し、そのプロファイルをノードに割り当てます。</p> <p><i>snmp_profile</i> パラメータが空欄の場合は、値はデフォルトになり、ポーリングポリシーマネージャはその後のパラメータを無視します。</p>
<i>port_num</i>	新しい SNMP プロファイルの SNMP ポート番号。デフォルト値は 161 です。
<i>num_retries</i>	新しい SNMP プロファイルの再試行回数。デフォルト値は 5 です。
<i>timeout_sec</i>	SNMP 要求後のタイムアウトまでのミリ秒数。デフォルト値は 1000 です。
<i>num_oids</i>	新しい SNMP プロファイルの PDU に含める OID の数。デフォルト値は 20 です。
<i>get_bulk_size</i>	SNMPv2 の GetBULK 要求に使用するサイズ。デフォルト値は 50 です。

ファイルのインポート

管理対象のノードを含むファイルをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューの[ノードのインポート]を選択します。
[インポート元]ダイアログボックスが開きます。
- 2 インポートするノードのファイルに移動します。

- 3 ファイル名をダブルクリックします。または、名前を選択し [開く] をクリックします。

または、`node_manager` コマンドを使用してノードをインポートおよびエクスポートすることもできます。`node_manager` コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

コミュニティ文字列プロファイルの管理

[編集] メニューの [コミュニティ文字列プロファイル] を選択すると、[コミュニティ文字列プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。ここでは、既存のコミュニティ文字列プロファイルのリストが、プロファイルの名前、対応する読み取り、および書き込み権限とともに表示されます。



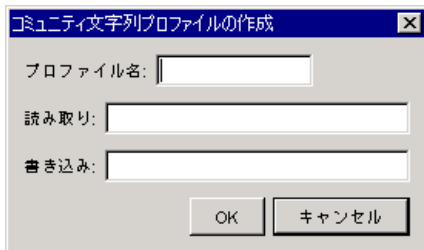
以下を実行できます。

- コミュニティ文字列プロファイルの作成。詳細は、[177 ページの「コミュニティ文字列プロファイルの作成」](#)を参照してください。
- コミュニティ文字列プロファイルの編集。詳細は、[177 ページの「コミュニティ文字列プロファイルの編集」](#)を参照してください。
- コミュニティ文字列プロファイルの削除。詳細は、[178 ページの「コミュニティ文字列プロファイルの削除」](#)を参照してください。

コミュニティ文字列プロファイルの作成

コミュニティ文字列プロファイルを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[コミュニティ文字列プロファイル]を選択します。
[コミュニティ文字列プロファイルの編集]ダイアログボックスが開きます。
- 2 [作成]をクリックします。
[コミュニティ文字列プロファイルの作成]ダイアログボックスが開きます。



- 3 プロファイルの名前を[プロファイル名]ボックスに入力します。この名前は最大 64 文字までです。
- 4 読み取り権限の値を[読み取り]ボックスに入力します。
- 5 書き込み権限の値を[書き込み]ボックスに入力します。
- 6 [OK]をクリックします。

コミュニティ文字列プロファイルの編集

コミュニティ文字列プロファイルを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[コミュニティ文字列プロファイル]を選択します。
[コミュニティ文字列プロファイルの編集]ダイアログボックスが開きます。
- 2 変更するコミュニティ文字列プロファイルを[現在のコミュニティ文字列プロファイル]ボックスから選択します。

- 3 [編集] をクリックします。[コミュニティ文字列プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。



- 4 権限の値を [読み取り] および [書き込み] フィールドで変更します。
▶ プロファイルの名前は変更できません。
- 5 [OK] をクリックします。

コミュニティ文字列プロファイルの削除

コミュニティ文字列プロファイルを削除するには、以下を実行します。

- 1 [編集] メニューの [コミュニティ文字列プロファイル] を選択します。
[コミュニティ文字列プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 削除するコミュニティ文字列プロファイルを [現在のコミュニティ文字列プロファイル] ボックスから選択します。
- 3 [削除] をクリックします。
削除の確認ウィンドウが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。

SNMP プロファイルの管理

SNMP プロファイルを作成、編集、または削除するには、[編集]メニューの[SNMP プロファイル]を選択します。[SNMP プロファイルの編集]ダイアログボックスが開き、既存のSNMP プロファイルが、プロファイルの名前および対応する設定とともに一覧表示されます。

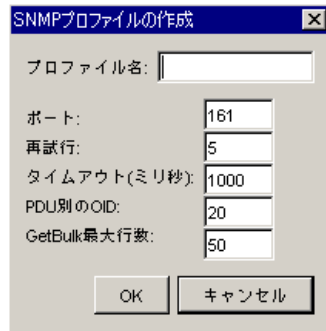


SNMP プロファイルの作成

SNMP プロファイルを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[SNMP プロファイル]を選択します。[SNMP プロファイルの編集]ダイアログボックスが開きます。
- 2 [作成]をクリックします。

[SNMP プロファイルの作成] ダイアログボックスが開きます。



The image shows a dialog box titled "SNMPプロファイルの作成" (SNMP Profile Creation). It contains several input fields: "プロファイル名:" (Profile Name) with an empty text box; "ポート:" (Port) with a numeric field containing "161"; "再試行:" (Retries) with a numeric field containing "5"; "タイムアウト(ミリ秒):" (Timeout in milliseconds) with a numeric field containing "1000"; "PDU別のOID:" (OID per PDU) with a numeric field containing "20"; and "GetBulk最大行数:" (GetBulk maximum rows) with a numeric field containing "50". At the bottom, there are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

- 3 プロファイルの名前を [プロファイル名] ボックスに入力します。この名前は最大 64 文字までです。
- 4 ポート番号の値を [ポート] ボックスに入力します。
- 5 許容する再試行回数を [再試行] ボックスに入力します。
- 6 タイムアウトまで待つ時間をミリ秒数単位で [タイムアウト (ミリ秒)] ボックスに入力します。
- 7 エージェントが PDU ごとにサポートする OID の最大数を [PDU 別の OID] ボックスに入力します。
- 8 1 回の GetBulk 要求で取得される最大テーブル行数を [GetBulk 最大行数] ボックスに入力します。このフィールドは SNMPv2 および SNMPv3 のデバイスでのみサポートされています。
- 9 [OK] をクリックします。

SNMP プロファイルの編集

SNMP プロファイルを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集] メニューの [SNMP プロファイル] を選択します。
[SNMP プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 変更する SNMP プロファイルを [現在の SNMP プロファイル] ボックスから選択します。
- 3 [編集] をクリックします。

[SNMP プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。



- 4 変更したい設定の値を変更します。
プロファイルの名前は変更できません。
- 5 [OK] をクリックします。

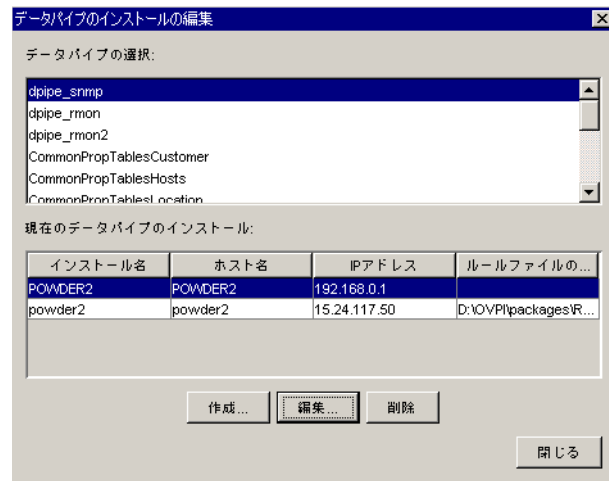
SNMP プロファイルの削除

SNMP プロファイルを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集] メニューの [SNMP プロファイル] を選択します。
[SNMP プロファイルの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 削除する SNMP プロファイルを [現在の SNMP プロファイル] ボックスから選択します。
- 3 [削除] をクリックします。
削除の確認ウィンドウが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。

データパイプのインストールの管理

データパイプのインストールを作成、編集、または削除するには、[編集]メニューの[データパイプのインストール]を選択します。[データパイプのインストールの編集]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには、既存のデータパイプが、それぞれのデータパイプの対応するインストールリストとともに一覧表示されます。

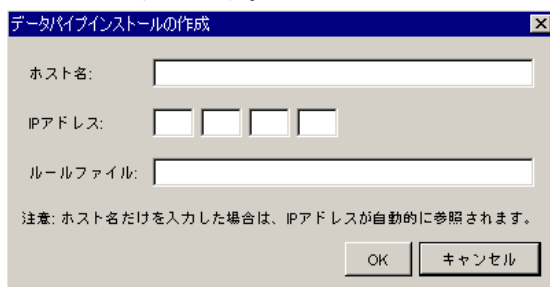


データパイプのインストールの作成

データパイプのインストールを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[データパイプのインストール]を選択します。[データパイプのインストールの編集]ダイアログボックスが開きます。

- 2 [作成] をクリックします。[データパイプインストールの作成] ダイアログボックスが開きます。



- 3 収集ステーションのホスト名を [ホスト名] ボックスに入力します。

ホスト名だけを入力した場合は、システムによって IP アドレスが自動的に参照されます。システムでアドレスが正しく参照されるようにするには、完全修飾のホスト名を入力しなければならない場合があります。ホスト名を入力すると、そのホスト名が収集ステーションの名前になります。

指定したホスト名に対応する IP アドレスを検索できない場合は、アドレスが見つからなかったことを確認するウィンドウが表示されます。

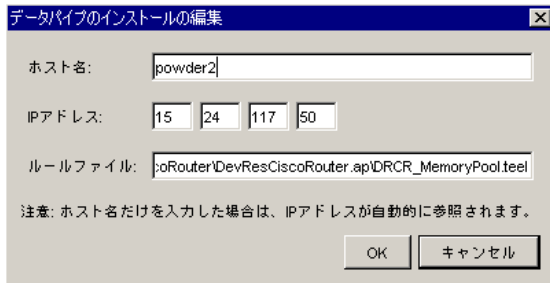
- 4 収集ステーションの IP アドレスを [IP アドレス] ボックスに入力します。
ホスト名に対応するアドレスをシステムが検索できる場合は、このボックスを空欄のままにしておいてかまいません。IP アドレスだけを入力した場合は、そのアドレスが収集ステーションの名前になります。
- 5 収集ステーションの指示を含むファイルの名前を [ルールファイル] ボックスに入力します。このボックスは空欄のままにしておくことができます。
- 6 [OK] をクリックします。

データパイプのインストールの編集

データパイプのインストールを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集] メニューの [データパイプのインストール] を選択します。[データパイプのインストールの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 変更するデータパイプを [データパイプの選択] リストから選択します。
- 3 [現在のデータパイプのインストール] ボックスで、対応するインストールをリストから選択します。

- 4 [編集] をクリックします。[更新文の編集] ダイアログボックスが開きます。



- 5 変更する必要がある設定の値を変更します。
- 6 [OK] をクリックします。

データパイプのインストールの削除

データパイプのインストールを削除するには、以下の手順に従います。

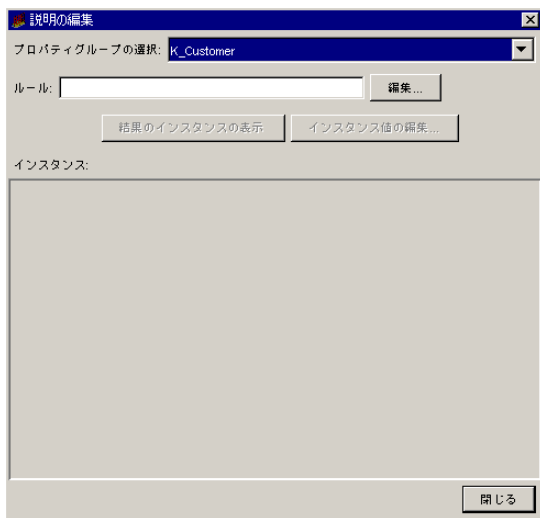
- 1 [編集] メニューの [データパイプのインストール] を選択します。[データパイプのインストールの編集] ダイアログボックスが開きます。
- 2 削除するデータパイプを [データパイプの選択] ボックスから選択します。
- 3 対応するインストールを [現在のデータパイプのインストール] ボックスから選択します。
- 4 [削除] をクリックします。
削除の確認ウィンドウが表示されます。
- 5 [はい] をクリックします。

プロパティテーブルの値の変更

プロパティテーブルの値を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集] メニューの [説明] を選択します。

[説明の編集] ダイアログボックスが開きます。



- 2 変更する値があるプロパティテーブルを [プロパティグループの選択] リストから選択します。
- 3 変更するインスタンスの選択条件を入力するには、[編集] をクリックします。[ルールを作成] ダイアログボックスが開きます。



- 4 ルールの定義では、最大2つの列に選択条件を入力できます。
 - a 列名を [列の選択] リストから選択します。これらは、選択したプロパティテーブルにある列です。

- b** 選択した列にある値に対する演算子を選択します。以下の演算子が使用できます。

=	等しい
<	より小さい
>	より大きい
>=	以上
<=	以下
<>	等しくない

like

not like

- c** 選択した列に対する値を、リストの右側のボックスに入力します。
- d** 2つの列を選択した場合、または同じ列名を2回選択した場合は、2つの列の間にある[演算子]リストから結合演算子を選択します。

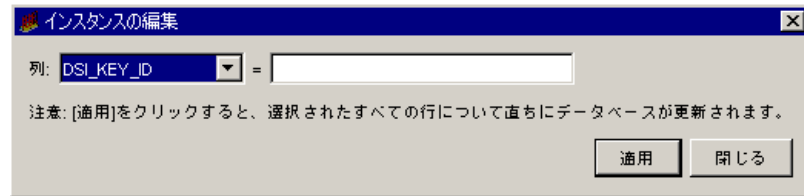
同じ列名を2回選択した場合、その列を部分的に条件付ける、複合ルールを作成できます。

- e** 完了したら、[OK]をクリックします。

入力したルールが[ルール]ボックスに表示されます。

- 5** プロパティテーブルの選択した行に対応するすべての列を表示するには、[結果のインスタンスの表示]をクリックします。
- 6** [インスタンス]にある行の値を変更する場合は、以下を実行します。
 - a** 1つまたは複数の行を選択して強調表示します。連続する行を選択できます。連続していない行のグループを選択するには、選択する行ごとに[Ctrl]キーを押します。

- b [**インスタンス値の編集**] をクリックし、選択した行の 1 つまたは複数の列にある値を変更します。[インスタンスの編集] ダイアログボックスが開きます。



- c 変更する列を [列] リストから選択します。
- d 選択した列に対する値を [列] ボックスに入力します。
- e 選択した行について同じ変更を加える必要があることを確認します。
- ▶ [**適用**] をクリックすると、選択した行についてデータベースがすぐに更新されます。
- f 変更が正しければ、[**適用**] をクリックして、プロパティテーブルで選択したすべての行を **すぐに**更新します。正しくない場合は、[**閉じる**] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、プロパティテーブルの行を変更しないままにします。
- 7 完了したら、[説明の編集] ダイアログボックスの [**閉じる**] をクリックします。

管理対象オブジェクトの管理

オブジェクトマネージャは、管理コンソールから実行できるアプリケーションであり、システム上の管理対象オブジェクトの特定のプロパティを表示および変更できます。また、ノードオブジェクトをデータベースにインポートしたり、ノードを含んだエクスポートファイルを作成したりすることもできます。



管理対象オブジェクトは、レポートパックをインストールするときにシステムに追加されます。したがって、管理対象オブジェクトを表示できるようにするには、それらのレポートパックをインストールする必要があります。

レポートパックのプロパティテーブルはそれぞれ、1つまたは複数のプロパティに関連付けられています。そのため、管理対象オブジェクトはさまざまなプロパティに基づいて表示できます。

管理対象オブジェクトの表示に加えて、以下を実行できます。


- **レポートの表示。** 選択した管理対象オブジェクトのデータを含むレポートのリストを表示できます。選択したオブジェクトについてレポートを生成および表示することもできます。
- **フォームの表示および変更。** 選択した管理対象オブジェクトに関連付けられたフォームのリストを表示できます。フォームを開いてデータを変更し、該当するプロパティテーブルを更新することもできます。

フォームはレポートの一種であり、データベース内のプロパティを更新するためのインタフェースになります。たとえば、フォームを使用してデータベース内のカスタマを更新できます。また、データベース内に新しいオブジェクトを作成するフォームにアクセスすることもできます。

管理対象オブジェクトの表示

管理対象オブジェクトを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 管理コンソールを起動します。詳細は、[79 ページの「管理コンソールの起動」](#)を参照してください。

 管理コンソールには、管理者権限を持つアカウントを使用してログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、[391 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください。

- 2 ナビゲーションペインの[**オブジェクト**]アイコンをクリックします。

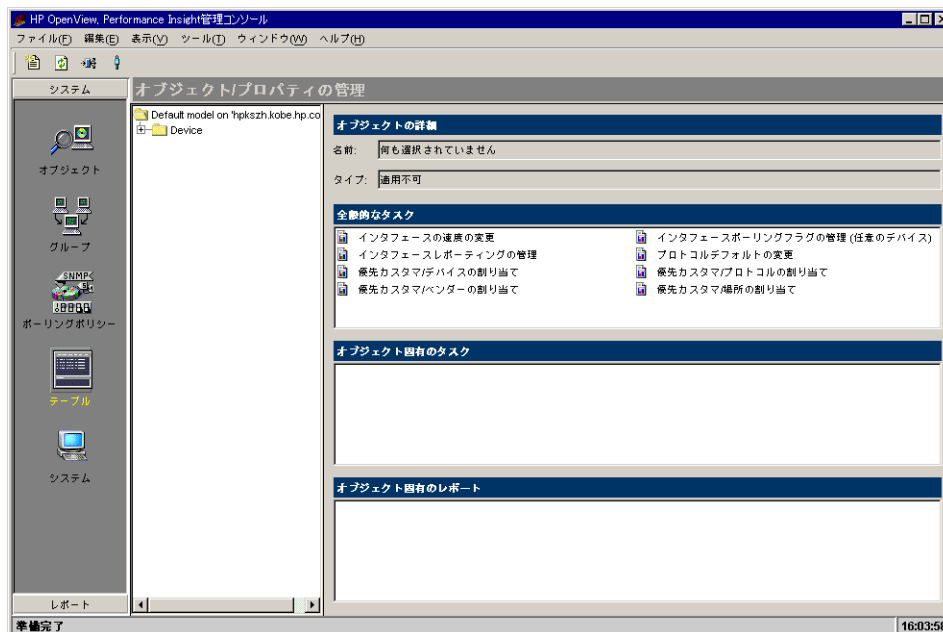
[オブジェクト/プロパティの管理]ウィンドウが管理コンソール内に開きます。ウィンドウの左側にはオブジェクトツリーが表示されます。そこに、選択したビューの種類に対応したすべてのオブジェクトが一覧表示されます。

このツリーでは、オブジェクト名が数字順に並び、次にアルファベット順に並びます。大文字の英字が小文字の英字よりも前にくるようソートされます。関連付けられた名前を持たずに検出されたオブジェクトは、ツリーの中で該当するネットワークアドレス（たとえば **15.24.115.205**）の下に表示されます。これらのアドレスはツリーの上部に一覧表示されます。

デフォルトでは、オブジェクトタイプ（たとえば **Device**）の 1 つ下のレベルには、アルファベットの文字ごとに、または数字ごとに、ツリー分岐が 1 つだけ表示されます。文字または数字の横にあるプラス記号(+)をクリックすると、その文字または数字で始まるオブジェクトのリストが表示されます。[フォルダの一意性]の値を変更すると、ツリー内をより細かく区別できます。[195 ページの「オブジェクトツリーの表示の変更」](#)を参照してください。

必要なオブジェクトの正確な名前がわかっている場合は、検索機能を使用できます。[193 ページの「特定のオブジェクトの検索」](#)を参照してください。

以下の図は[オブジェクト/プロパティの管理]ウィンドウを示しています。



ウィンドウの右側には以下の情報が表示されます。

- オブジェクトの名前とタイプが[オブジェクトの詳細]セクションに表示されます。
- 1つのオブジェクトに固有のタスクではなくグローバルなタスクを表すフォームが、[全般的なタスク]セクションに表示されます。
- 選択したオブジェクトに適用されるフォームが、[オブジェクト固有のタスク]セクションに表示されます。このセクションには、データの変更に使用するフォームだけが表示されます。新しいデータを追加するには、[200 ページの「新しい管理対象オブジェクトの作成」](#)を参照してください。
- 選択したオブジェクトに適用されるレポートは、[オブジェクト固有のレポート]セクションに表示されます。このセクションに表示されるカスタムレポートを作成するには、レポート内にパラメータを作成し、レポート要素(テーブルまたはグラフ)で使用するテーブルにそのパラメータを関連付ける必要があります。詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』の第6章を参照してください。

- 3 管理対象オブジェクトをオブジェクトツリーで選択するか、または検索機能を使用します (193 ページの「特定のオブジェクトの検索」を参照)。
- 4 レポートまたはフォームを表示するには、レポートまたはフォームの名前をダブルクリックします。

選択した項目が別のウィンドウに表示されます。

- レポートを選択した場合は、OVPI によって、選択した管理対象オブジェクトのレポートが生成および表示されます。レポートは表示および印刷できます。
- タスクを選択した場合は、OVPI によって、選択した管理対象オブジェクトのデータが記載された、該当するフォームが表示されます。フォーム内の特定の値 (たとえば、しきい値) は変更でき、それらの値は関連付けられたプロパティテーブルで更新されます。199 ページの「データベースの変更」を参照してください。

オブジェクトツリーで別の項目を選択すると、そのたびに、選択したオブジェクトが反映されるようフォームおよびレポートのリストが更新されます。

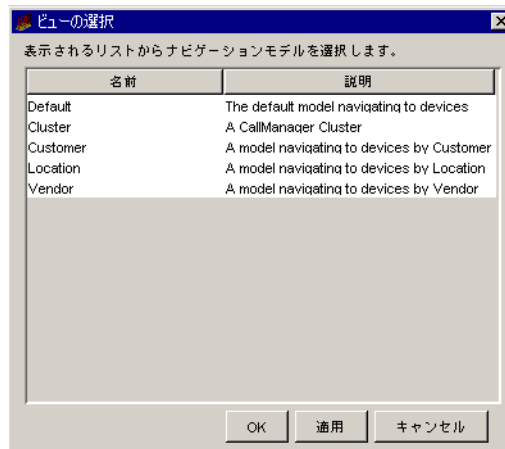
オブジェクトのビューの変更

管理対象オブジェクトの表示に使用されるプロパティを変更することができます。

オブジェクトのビューを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [表示] メニューの [**ビューの変更**] を選択します。

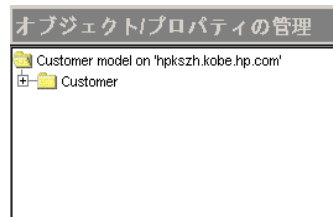
[選択項目の表示] ダイアログボックスが開きます。



- 2 プロパティを選択し、[OK] をクリックします。

オブジェクトツリーが更新され、そのプロパティが割り当てられているすべての管理対象オブジェクトが表示されます。

たとえば、カスタマ用のすべての管理対象オブジェクトを表示したいと仮定します。[カスタマ] フォルダを展開した後のオブジェクトツリーの表示は以下の図のようになります。

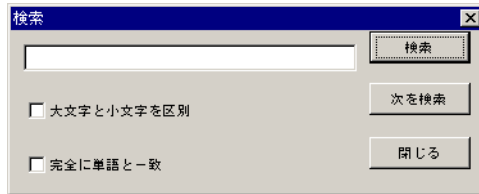


特定のオブジェクトの検索

表示したいオブジェクトの正確な名前がわかっている場合は、検索機能を使用してその情報にすばやくアクセスできます。

- 1 [編集] メニューの [検索] を選択します。

[検索] ダイアログボックスが開きます。



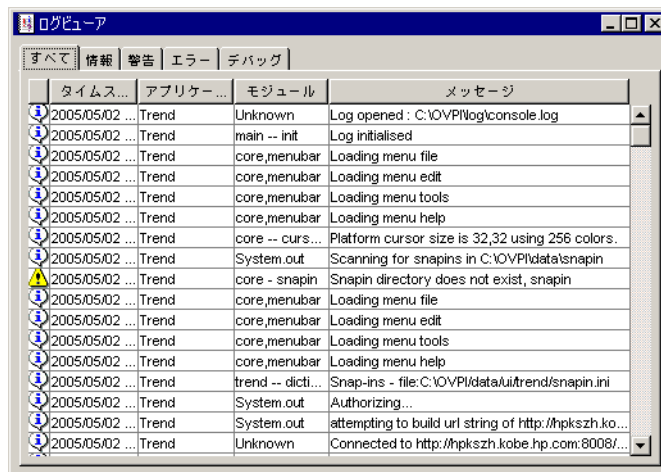
- 2 オブジェクト名をテキスト領域に入力し、[**検索**] をクリックします。
入力した名前を **OVPI** が見つけると、対応するオブジェクトがオブジェクトツリーの中で強調表示され、関連付けられたフォームとレポートがそれぞれの領域に一覧表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - 入力したオブジェクト名が **OVPI** によって見つからなかった場合は、別の名前を入力して試します。
 - 正しいオブジェクト名がオブジェクトツリーの中で強調表示されたら、[検索] ダイアログボックスの [**閉じる**] をクリックします。
- 4 希望のオブジェクト名が強調表示されたら、[192 ページの手順 4](#) に進みます。

ログ情報の表示

[表示] メニューには、ログファイル情報とデバッグ情報を表示できる 2 つのオプションがあります。

ログファイル情報を表示するには、[表示] メニューの [**ログ**] を選択します。

[ログビューア] ウィンドウが開きます。



[ログビューア] ウィンドウは 5 つのタブで構成され、それぞれのタブに異なる種類のログ情報が表示されます。ログメッセージは、情報、警告、エラー、デバッグの 4 種類があり、[すべて] タブにはすべてのメッセージが表示されます。

出力情報を表示するには、[表示] メニューの [出力] を選択します。

[出力ビューア] ウィンドウに、生成時点での最新のログメッセージが表示されます。

オブジェクトツリーの表示の変更

非常に多数のオブジェクトがある場合、ツリーの長さを制御するための設定をすることで、スクロールを最小限に抑えることができます。一方、スクロールは気にならないがフォルダーを展開せずにオブジェクトをすばやく見つけたいという場合は、他の設定をすることで実現できます。

これらのオプションは [編集] メニューの [オプション] の [オブジェクトの管理] タブの下にあります。[レベルあたりのツリーノード数] 値と [フォルダの一意性] 値とが互いに連動することで、オブジェクトツリー内の各レベルに表示されるフォルダーまたはリーフの個数が決まります。

[レベルあたりのツリーノード数] には、ツリーの各レベルごとに表示するフォルダー / リーフの最大数を設定します。データベース内のオブジェクトの数がこの値を超えると、OVPI が [**フォルダの一意性**] フィールドを調べて、表示され

ているフォルダーとリーフの数を減らす方法を決めます。[フォルダの一意性] は、オブジェクト名をアルファベット、または数字で区分する際に、[フォルダの一意性]の値に基づいて行います。値が1の場合はオブジェクト名の最初の1文字で、値が2の場合は最初の2文字でオブジェクトを区分します。[フォルダの一意性]に対して可能な最小値は1であるため、非常に長いリストがツリーに表示されることもあります。たとえば、[レベルあたりのツリーノード数]を500に設定し、[フォルダの一意性]を1に設定した場合に、10,000台のデバイスがあると、あるフォルダーではアルファベットのAで始まるすべてのデバイス名が表示され、別のフォルダーではBで始まるすべてのデバイス名が表示され、以下同様となります。あるフォルダーではAで始まるすべてのデバイス名が表示され、別のフォルダーではBで始まるデバイス名が表示され、他のフォルダーも同様にデバイス名が表示されます。あるツリーレベルで500を超えるフォルダーが表示される可能性もありますが、OVPIによって、フォルダーの数が最小限になるようすでに調整されています。

表示されるフォルダーやリーフの数は気にならず、各ノード名をすばやく特定できるようにしたい場合は、[レベルあたりのツリーノード数]にオブジェクト数よりも少ない値を設定し、[フォルダの一意性]に1よりも大きい値を設定します。すると、各オブジェクト名の2文字以上の文字(例、AA、ABなど)も表示されます([レベルあたりのツリーノード数]は比較的小さい値にする必要があります。そうしないと、OVPIは[フォルダの一意性]値を調べません)。

たとえば、Denver という名前のオブジェクトと Destroy という名前の別のオブジェクトがある場合は、名前の最初の3文字(それぞれ den および des)を表示するよう選択することで、各オブジェクト名をすぐに区別できます。

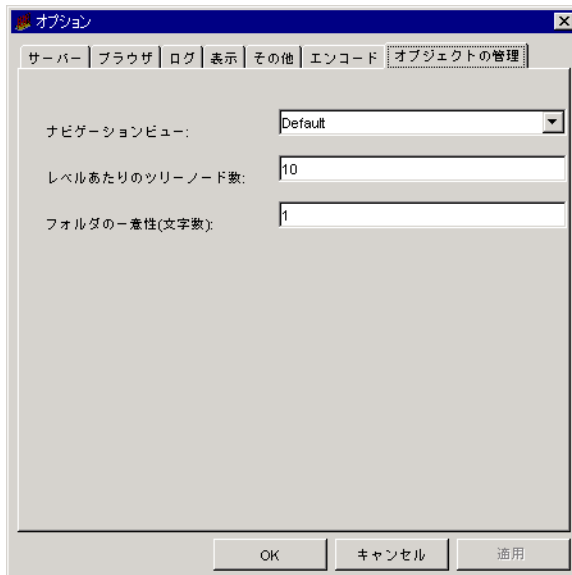
オブジェクトツリーの外観を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューの[オプション]を選択します。

[オプション]ウィンドウが開きます。

- 2 [オブジェクトの管理]タブを選択します。

[オブジェクトの管理] ダイアログボックスが開きます。



- 3 [ナビゲーションビュー] ボックスで、下矢印をクリックして使用可能なビューを表示し、希望のビューを選択します。
- 4 [レベルあたりのツリーノード数] ボックスに、オブジェクトツリー内の各レベルに表示したいオブジェクトの最大数を入力します。

データベース内のオブジェクトの数がこの値を超えると、OVPI が [フォルダの一意性] の値を調べて、表示されているフォルダーとリーフの数を減らす方法を決めます。これらのフィールドに関する前述の説明を参照してください。

- 5 [フォルダの一意性] ボックスに、ツリーの各レベルに各フォルダーまたは各リーフに対して表示する、識別用の文字の数を入力します。
この値が有効なのは、データベース内のオブジェクトの数が [レベルあたりのツリーノード数] フィールドの値を超えている場合のみです。これらのフィールドに関する前述の説明を参照してください。
- 6 [適用] をクリックします (または、[オプション] ウィンドウでの変更がすべて完了したら、[OK] をクリックします)。
- 7 [表示] メニューの [更新] を選択します。
オブジェクトツリーのビューが更新されます。

ノードのインポート

ノードをインポートする手順は2段階になります。まず、インポートするノードを含むASCIIファイルを作成する必要があり、それからそのファイルをインポートする必要があります。

インポートファイルの作成

インポートしたいノードのリストを含むASCIIファイルを作成します。インポートしたい各ノードには、以下のフォーマットの記入事項を、ファイル内に記載する必要があります。

node_name, read_community, write_community, type_name, view_name, snmp_v1_flag, snmp_v2_flag, node_status, desc, snmp_profile, port_num, num_retries, timeout_sec, num_oids, get_bulk_size

データを入力しないパラメータには、カンマを代わりに置きます。カンマを置かない場合は、そのノードデータが省かれます。インポートファイルのパラメータを説明は、173 ページの表1を参照してください。

ファイルのインポート

管理対象のノードを含むファイルをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューの[インポート]を選択します。
[インポート元]ダイアログボックスが開きます。
- 2 インポートするノードを含むファイルに移動します。
- 3 ファイル名をダブルクリックします。または、名前を選択し[開く]をクリックします。

ノードのエクスポート

管理対象ノードを含むファイルを作成し、これを使用して、ノードを別のデータベースにエクスポートできます。

管理対象ノードを含むエクスポートファイルを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューの[エクスポート]を選択します。
[エクスポート先]ダイアログボックスが開きます。
- 2 エクスポートファイルの保存先に移動します。
- 3 ファイル名を[ファイル名]ボックスに入力し、[開く]をクリックします。
ファイルの作成中は、進捗状況を示すウィンドウが表示されます。

フォームの使用

フォームを使用すると、単一のデータベーステーブルの場合、データベース内の、新しいデータの作成と既存のデータの変更ができます。また、フォームを使用して、管理対象オブジェクトを管理コンソールから作成、および変更することも可能です。レポートパックの設定中にプロパティファイル情報をインポートしなかった場合は、この機能を使って行えます。

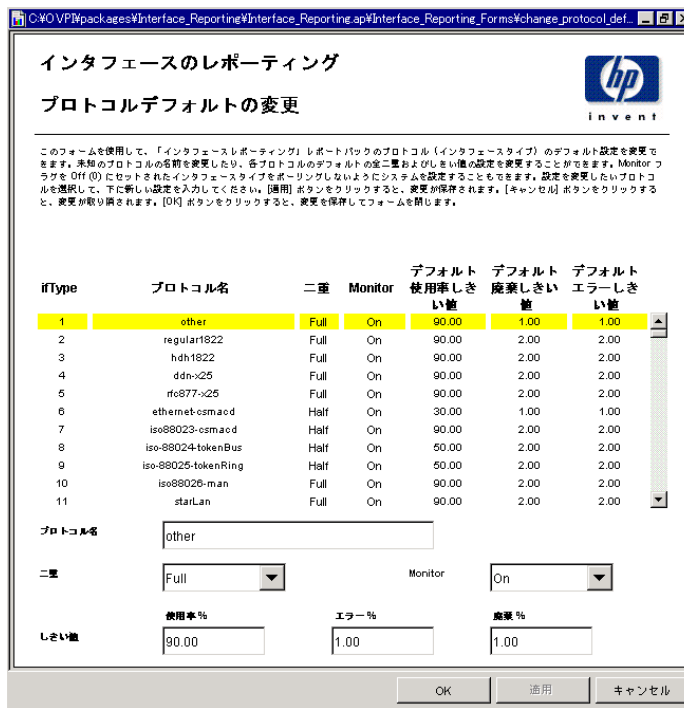
フォームの作成と配布の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

データベースの変更

フォームを使用して、選択した管理対象オブジェクトに対応するデータベース内のデータを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [オブジェクト]ツリーで管理対象オブジェクトをクリックします。たとえば、デバイスを選択します。
- 2 選択したオブジェクトに固有の[全般的なタスク]セクション、または[タスク]セクションにある、フォームをダブルクリックします。

選択したフォームが別のウィンドウに表示されます。たとえば、[プロトコルデフォルトの変更]というフォームを選択できます。これにはデフォルトのプロトコル設定が表示され、それらは変更できます。



- 3 フォームに変更を加え、[OK]をクリックします。

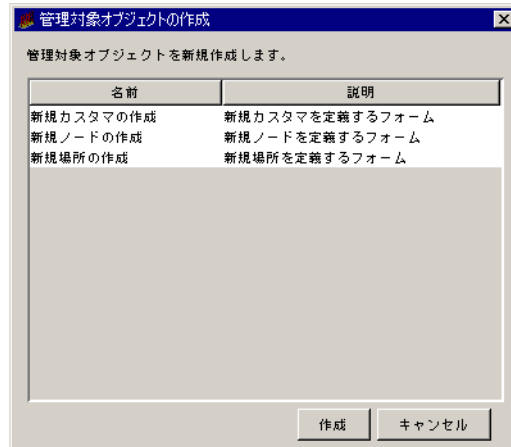
ここで加えた変更に関連するプロパティテーブルの値が、OVPIによって変更されます。

新しい管理対象オブジェクトの作成

フォームを使用して管理対象オブジェクトをデータベースに追加するには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューの[新規]を選択します。

[管理対象オブジェクトの作成]ダイアログボックスが開きます。



- 2 使用するフォームを選択し、[作成]をクリックします。
フォームが開きます。フィールド（入力フィールドと入力コンボボックス）はすべて空になっています。
- 3 フォームに変更を加え、以下のいずれかを実行します。
 - オブジェクトの作成が完了したら、手順4に進みます。
 - 別のオブジェクトを作成する場合は、[適用]をクリックし手順2に戻ります。
- 4 [OK]をクリックします。
OVPIによってオブジェクトがデータベースに追加されます。

管理対象オブジェクトのグループ化

グループマネージャは、管理コンソールから利用できるアプリケーションであり、これを使用して管理対象オブジェクトグループを作成および管理できます。ポーリングポリシーは、これらのグループを参照します。

グループとは、複数の管理対象オブジェクトの集合です。つまり、プロパティテーブルの行の集まりに対応しています。管理対象オブジェクトとは、OVPIで管理されるオブジェクトです。主にネットワークデバイスとネットワークインタフェースがこれにあたります。したがって、管理対象オブジェクトグループは、単一のプロパティテーブルで定義される、管理対象オブジェクトの部分集合です（真部分集合である必要はありません）。

グループマネージャは、具体的には以下の用途に使用できます。

- グループ要素のツリー操作を行う
- 各タイプ（列挙リスト、プロパティ、派生、フォルダー）のグループを作成する
- グループを削除および変更する
- グループに関連付けられているポーリングポリシーを作成、変更、および削除する

グループのタイプ

この項ではグループの、サポートされているタイプについて説明します。グループタイプごとに、グループメンバーを指定する方法が異なります。

- **すべて**：プロパティテーブルで識別された管理対象オブジェクトがすべて含まれます。
- **列挙リスト**：プロパティテーブルの各オブジェクト ID によって識別された管理対象オブジェクトの集合。このグループの構成は静的です（ただし、後で特定のオブジェクトを追加または削除する場合を除く）。
- **プロパティ**：共通のプロパティ（複数ありうる）を共有する管理対象オブジェクトの集まり。このタイプのグループは、グループのオブジェクトを選択する際に使用する 1 つまたは複数のルールを定義するため、ルールベースのグループとも呼ばれます。

たとえば、あるプロパティグループは、ロサンゼルスにあるすべてのノードを含みます。列挙リストとは違って、ルールベースのグループは動的です。ロサンゼルスに新たに 3 つのノードが追加された場合は、次回以降はロサンゼルスのノードグループに 3 つの新しいメンバーが加わっています。

▶ **OVPI** では、プロパティグループに任意の数のルールを設定できます。ただし、3 つ以上のルールを持つプロパティグループは、リモートポーターからは使用できません。たくさんのルールを持つプロパティグループは、レポートビューアまたは **Web** アクセスサーバーで遅延ノードレポート（たとえば準リアルタイム スナップショットレポート）を表示する際にどのノードを表示するかを選択するのに使用できます。

- **派生**：他のグループのオブジェクトの論理的な組み合わせ。派生グループは、多くの場合、ポーリングポリシーの作成に使用します。
- **フォルダー**：Windows エクスプローラなどのアプリケーションで使用されている旧来のファイルおよびフォルダービューに対応しています。このタイプのグループのオブジェクトは、列挙リストグループを定義するときと同じ方法で選択できます。唯一の違いは、フォルダーグループには内部に別のフォルダーグループを含めることができることです。

グループ化の方法

ノードの編成は、場所、管理ドメイン、ベンダー、サプライヤ、およびタイプなどに基づいて行うことができます。あるいは、特別な処理（たとえば、データ量も使用頻度も多いバックボーンコンポーネントのポーリング）を行う特定のノードを指定することも可能です。

ノードのグループ化

以下の方法で、既知のノードセットをグループ化できます。

- デバイスプロパティに基づいてグループ化する

この方法では、同じ属性値を共有するノードを集めてグループ化できます。ただし、各ノードは属性ごとに1つのグループにしか含めることはできません。

この方法は、場所、ベンダー、またはサプライヤに基づいてグループ化するノード編成には適していますが、すべての種類のノード編成に適しているとは言えません。たとえば、タイプに基づいてノードをグループ化する場合は、プロパティは使用できません。どのノードも複数のタイプに属する可能性があるからです。タイプ別にグループ化されるノードは、ルーター、スイッチ、ハブ、RMONプロンプが一般的です。

- 各グループごとにノードの列挙リストを作成する

1つのノードを、ルーター、スイッチ、ハブのそれぞれのリストに含めることができます。このリストベースの方法では、特殊なポーリングやより焦点を絞ったレポート生成を目的とした、特別なグループ構成も可能です。たとえば、アップグレードを目的とするルーターのグループを、より頻繁かつ広範にポーリングできます。

あるいは、オンラインで提供される新しいサービスから直接に影響されるノードのグループの、詳細なレポートを表示することも可能です。

▶ 列挙リストを作成することでグループを形成することは、多くの用途に使用できます。ただし、列挙リストの管理は、ルールベースのグループの管理よりも、複雑かつ作業量も多くなります。

その他の管理対象オブジェクトのグループ化

ノード以外の管理対象オブジェクトも、プロパティや列挙リストの作成でグループ化できます。そのようなグループでは、たとえば、WAN ルーターインタフェースのみをポーリングしたり、インタフェースのタイプで要約したり、LAN と WAN のインタフェース情報を別々にレポートしたりできます。多数ある管理対象オブジェクトのうち実際に重要なオブジェクトは少数である環境や、十分なデータを処理および格納できる環境では、列挙リストを作成できるかどうか特に重要です。

グループカテゴリ

グループは、特定のグループカテゴリに関連して作成します。1つのグループカテゴリは、1つのプロパティテーブルのみに関連付けられます。ただし、プロパティテーブルは複数のグループカテゴリに関連付けることが可能です。

管理対象ノードのグループに使用できるカテゴリの例は、ビューに対応するカテゴリ、タイプに対応するカテゴリ、必須ノードグループカテゴリです。



グループマネージャを使用して、グループカテゴリを新しく作成することも既存のグループカテゴリを削除することもできません。グループカテゴリは、新しいプロパティテーブルの作成時やレポートパックのインストール時に作成されます。

管理対象オブジェクトグループの表示

管理対象オブジェクトグループを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール]を起動します。詳細は、79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。



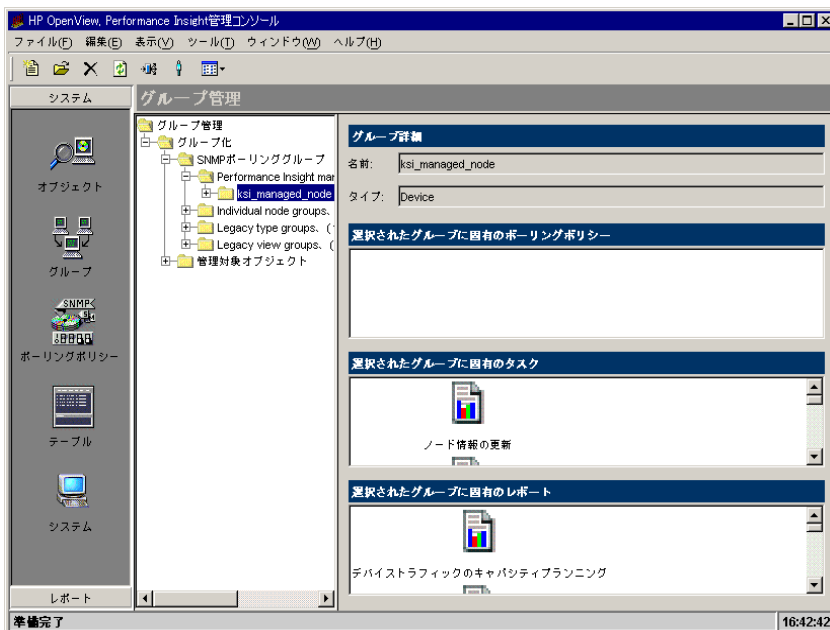
管理コンソールには管理者権限を持つアカウントでログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、391 ページの「ユーザーアカウントの管理」を参照してください。

- 2 ナビゲーションペインの[グループ]アイコンをクリックします。
管理コンソールに[グループ管理]ウィンドウが表示されます。

[グループ管理] ウィンドウにはナビゲーションペインと表示ペインがあります。

ナビゲーションウィンドウにはグループ管理ツリーが表示され、[選択項目の表示] で選択された表示方法に基づいて、グループが一覧表示されます。表示ペインには、ツリーで選択した結果が表示されます。

次の図は、[グループ管理] ウィンドウを示しています。



ツリーの階層レベルは、Windows エクスプローラで Windows システムの内容を表示するのとまったく同様に展開できます。ナビゲーションフレームのツリーのフォルダーは、次の手順で開きます。

- フォルダーの内容を表示するには、プラス記号 (+) をクリックします。
フォルダーの内容が表示されます。
 - 開いたフォルダーを閉じるには、マイナス記号 (-) をクリックします。
- 3 ナビゲーションペインで、管理対象オブジェクトグループを選択します (あるいは、検索機能を使用してグループを検索してください。209 ページの「特定グループの検索」を参照してください)。

表示ペインに以下の情報が表示されます。

- [**グループ詳細**] セクションには、グループの名前とタイプが表示されます。
 - [**選択されたグループに固有のポーリングポリシー**] セクションには、そのグループに関連付けられているポーリングポリシーが表示されます。
 - [**選択されたグループに固有のタスク**] セクションには、選択したグループに適用されるフォームが表示されます。このセクションには、[**モード**] プロパティが [**変更**] に設定された状態で作成されたフォームのみが表示されます。
 - [**選択されたグループに固有のレポート**] セクションには、選択したグループに適用されるレポートが表示されます。
- 4 レポートまたはフォームを表示するには、レポートまたはフォームの名前をダブルクリックします。

選択した項目が、別のウィンドウに表示されます。

- レポートを選択した場合は、選択されているグループのそのレポートが生成および表示されます。レポートは表示および印刷できます。
- タスクを選択した場合は、選択されているグループの適切なフォームが、データが記入された状態で表示されます。フォーム内の特定の値（たとえば、しきい値）を変更することもできます。変更された値は、関連付けられているプロパティテーブルで更新されます。[199 ページの「データベースの変更」](#)を参照してください。

グループ管理ツリーで別の項目を選択するたびに、表示ペインの情報が、選択したグループを反映するよう更新されます。

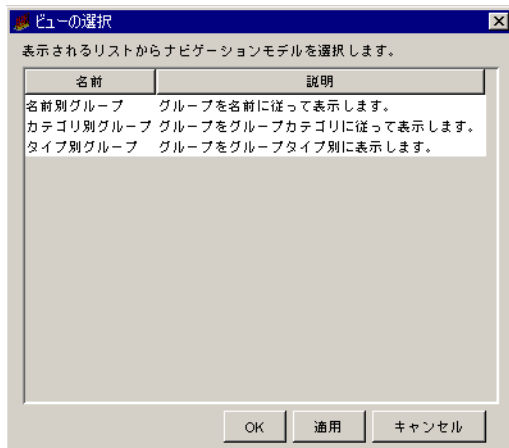
グループビューの変更

管理対象オブジェクトグループの表示方法を変更できます（デフォルトのビューを設定するには、[224 ページの「表示オプションの設定」](#)を参照してください）。

グループビューを変更するには、以下の手順に従います。

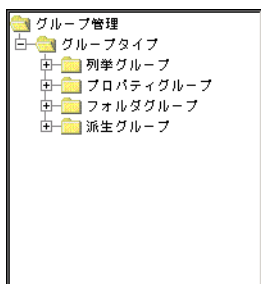
- 1 [**表示**] メニューから [**ビューの変更**] を選択します。

[選択項目の表示] ウィンドウが開きます。



- 2 表示方法を選択し [OK] をクリックします。

グループ管理ツリーが更新され、そのプロパティが割り当てられている管理対象オブジェクトグループがすべて表示されます。たとえば、タイプに基づいてすべてのグループを表示するよう選択した場合は、グループ管理ツリーは次の図のようになります([グループタイプ]フォルダーを展開した状態)。

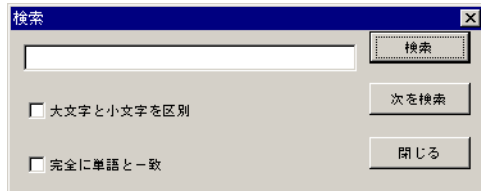


特定グループの検索

表示するグループの正確な名前が分かっている場合は、検索機能を使用するとその情報にすばやくアクセスできます。

- 1 [編集]メニューから [検索] を選択します。

[検索] ウィンドウが開きます。



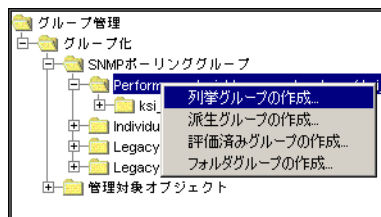
- 2 テキストボックスにグループ名を入力し [検索] をクリックします。

入力した名前が検出された場合は、対応するグループがグループ管理ツリーで強調表示されるほか、関連付けられているフォームとレポートがそれぞれの領域に一覧表示されます。

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - 入力したグループ名が検出されなかった場合は、別の名前を入力して再試行できます。
 - ツリーで正しいグループ名が強調表示された場合は、[検索] ウィンドウで [閉じる] をクリックします。
- 4 希望のグループ名が強調表示されたら、[208 ページの手順 4](#)に進みます。

グループの作成

グループは、管理対象オブジェクト（複数可）を選択することで作成します。グループフォルダーを右クリックすると、ショートカットメニューが開きます。これを使用して、任意のグループタイプ（列挙、派生、プロパティ、フォルダー）の新しいインスタンスを作成できます。



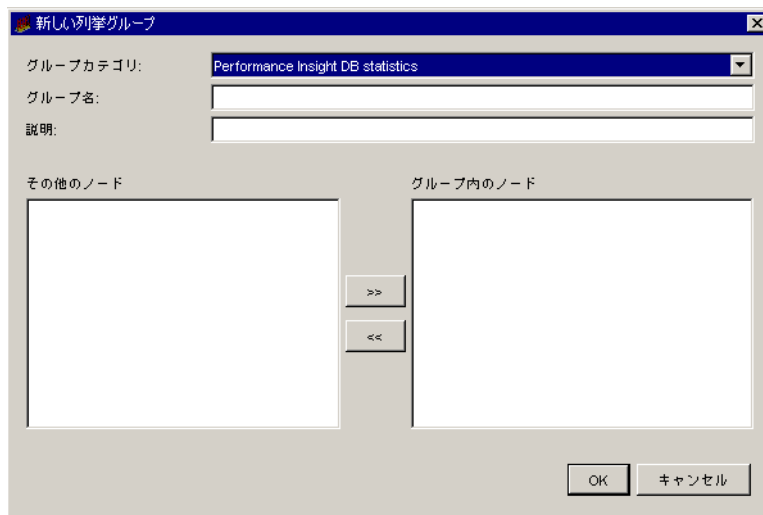
列挙リストグループの作成

列挙リストグループは、所定のカテゴリのプロパティテーブルにある、管理対象オブジェクトのグループです。

列挙リストグループを作成するには、以下の手順に従います。



- 1 以下のいずれかを実行します。
 - グループの作成に使用するグループカテゴリが分かっている場合は、ナビゲーションペインでそのグループカテゴリのフォルダーを右クリックし、メニューから[**列挙グループの作成**]を選択します。
 - [ファイル]メニューから[新規]を選択し、[**列挙グループ**]を選択します。

[新しい列挙グループ]または[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。



このダイアログボックスは、開いた方法によって画面が以下のように異なります。

- [ファイル]メニューを使用した場合は、[新しい列挙グループ]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには[グループカテゴリ]リストが表示されます。ここで、列挙グループの作成に使用するグループカテゴリを指定します。

- グループカテゴリを右クリックした場合は、[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。この場合は[グループカテゴリ]リストは表示されません。ナビゲーションペインで右クリックしたグループカテゴリを使用しようとしているとみなされるからです。
- 2 [新しい列挙グループ]ダイアログボックスの場合のみ:[グループカテゴリ]リストからグループカテゴリを選択します。
 - 3 [グループ名]ボックスに、作成するグループの名前を入力します。
 - 4 [説明]ボックスに、グループの説明を入力します。
 - 5 グループにノードを追加するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード]ボックスでノードをダブルクリックし、そのノードを[グループ内のノード]ボックスに移動します。
 - [他のノード]ボックスでノードまたはインタフェースを選択し、をクリックしてそのノードを[グループ内のノード]ボックスに追加します。
 - 6 グループを作成する前にそのグループからノードを削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [グループ内のノード]ボックスでノードをダブルクリックしてそのノードを[他のノード]ボックスに移動します。
 - [グループ内のノード]ボックスでノードを選択し、をクリックしてそのノードを[他のノード]ボックスに戻します。
 - 7 [OK]をクリックします。

派生グループの作成

派生グループは、列挙リストグループとプロパティグループとを組み合わせたグループ(たとえば、和集合や共通集合)です。

派生グループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - グループの作成に使用するグループカテゴリが分かっている場合は、ナビゲーションペインでそのグループカテゴリのフォルダーを右クリックし、メニューから[派生グループの作成]を選択します。






- [ファイル]メニューから[新規]を選択し、[派生グループ]を選択します。

[新規派生グループ]または[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。



このダイアログボックスは、開いた方法によって画面が以下のように異なります。

- [ファイル]メニューを使用した場合は、[新規派生グループ]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには[グループカテゴリ]リストが表示されます。ここで、派生グループの作成に使用するグループカテゴリを指定します。
 - グループカテゴリを右クリックした場合は、[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。この場合は[グループカテゴリ]リストは表示されません。ナビゲーションペインで右クリックしたグループカテゴリを使用しようとしているとみなされるからです。
- 2 [新規派生グループ]ダイアログボックスの場合のみ:[グループカテゴリ]リストからグループカテゴリを選択します。
 - 3 [グループ名]ボックスに、作成するグループの名前を入力します。
 - 4 [説明]ボックスに、グループの説明を入力します。
 - 5 グループを選択するには、以下を実行します。

- a  をクリックします。[および / または] および [グループ] 列の下に、空の行が表示されます。
 - b [属性] 列の下にあるボックスをクリックします。表示されるリストから、グループを選択できます。
 - c リストからグループを選択します。
 - d  をクリックします。空の行が 1 つ追加されます。
 - e [および / または] 列の下にあるボックスをクリックします。表示されるリストから、グループの比較方法を選択できます。
オプションは [AND] または [OR] です。[AND] オプションを使用するとグループ間の共通集合が作成され、[OR] オプションを使用するとグループ間の和集合が作成されます。
 - f [属性] 列の下にあるボックスをクリックします。表示されるリストから、別のグループを選択できます。
 - g リストからグループを選択します。
- 6 リスト内のグループの順番を変更するには、グループを選択した後、以下のいずれかを実行します。
- リスト内でグループを上を移動するには、 をクリックします。
 - リスト内でグループを下を移動するには、 をクリックします。
- 7 グループを削除するには、グループを選択し  をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。

プロパティグループの作成

プロパティグループは、プロパティテーブル内の特定のプロパティに基づく管理対象オブジェクトのグループです。



プロパティグループでは、ポーリングシステムによる制限のために、設定できるプロパティは 2 つだけです。

プロパティグループを作成するには、以下の手順に従います。


- 1 以下のいずれかを実行します。
 - グループの作成に使用するグループカテゴリが分かっている場合は、ナビゲーションペインでそのグループカテゴリのフォルダーを右クリックし、メニューから[評価済みグループの作成]を選択します。
 - [ファイル]メニューから[新規]を選択し、[プロパティグループ]を選択します。

[新しいルールベースのグループ]または[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。




このダイアログボックスは、開いた方法によって画面が以下のように異なります。


- [ファイル]メニューを使用した場合は、[新しいルールベースのグループ]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには[グループカテゴリ]リストが表示されます。ここで、プロパティグループの作成に使用するグループカテゴリを指定します。
 - グループカテゴリを右クリックした場合は、[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。この場合は[グループカテゴリ]リストは表示されません。ナビゲーションペインで右クリックしたグループカテゴリを使用しようとしているとみなされるからです。
- 2 [新しいルールベースのグループ]ダイアログボックスの場合のみ:[グループカテゴリ]リストからグループカテゴリを選択します。



- 3 [グループ名]ボックスに、作成するグループの名前を入力します。
 - 4 [説明]ボックスに、グループの説明を入力します。
 - 5 グループを選択するには、以下を実行します。
 - a  をクリックします。[および/または]、[グループ]、[演算子]、および[値]列の下に、空の行が表示されます。
 - b [属性]列の下にあるボックスをクリックします。表示されるリストから、プロパティを選択できます。
 - c リストからプロパティを選択します。
 - d [演算子]リストから演算子を選択します。
 - e [値]ボックスをクリックし、プロパティの値を入力します。
この値には英数字の文字列を使用できます。

LIKE 演算子を使用する場合は、値は文字列でなければならないほか、ワイルドカード文字としてアンダースコア () およびパーセント (%) を含むことができます。アンダースコアは、任意の 1 文字を表します。パーセント記号は、ゼロまたは 1 つ以上の文字を表します。たとえば、次のとおりです。

12%3 にマッチする文字列は、1233、123、1244443 などです。

_ime にマッチする文字列は、time、lime、dime などです。
 - f  をクリックします。行が 1 つ追加されます。
 - g [および/または]列の下にあるボックスをクリックします。表示されるリストから、グループの比較方法を選択できます。

オプションは [AND] または [OR] です。[AND] オプションを使用するとグループ間の共通集合が作成され、[OR] オプションを使用するとグループ間の和集合が作成されます。
 - h 手順 b から手順 e までを繰り返します。
- 6 リスト内のプロパティの順番を変更するには、プロパティを選択した後、以下のいずれかを実行します。
 - リスト内でプロパティを上に移動するには、 をクリックします。

- リスト内でプロパティを下に移動するには、 をクリックします。
- 7 プロパティを削除するには、グループを選択し  をクリックします。
 - 8 [OK] をクリックします。

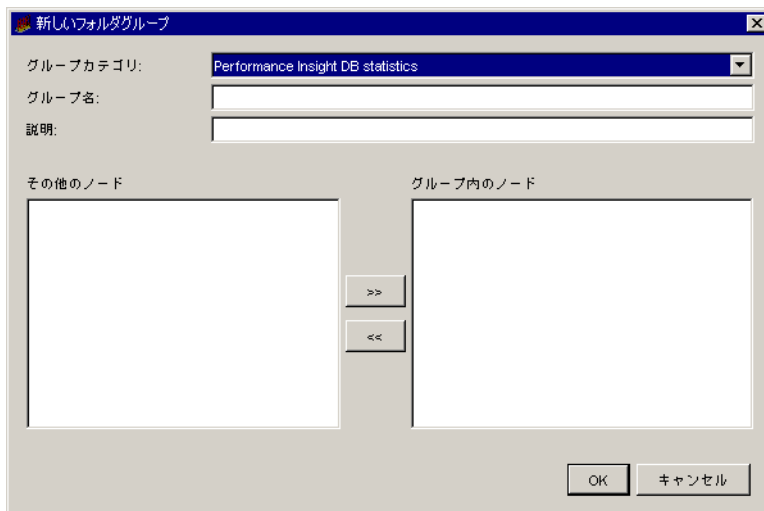
フォルダグループの作成

フォルダグループには、管理対象オブジェクトの列挙リストと、別のフォルダグループを含めることができます。




フォルダグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - グループの作成に使用するグループカテゴリ分かっている場合は、ナビゲーションペインでそのグループカテゴリのフォルダーを右クリックし、メニューから **[フォルダグループの作成]** を選択します。
 - [ファイル]メニューから [新規] を選択し、**[フォルダグループ]** を選択します。

[新しいフォルダグループ] または [グループの作成] ダイアログボックスが開きます。



このダイアログボックスは、開いた方法によって画面が以下のように異なります。

- [ファイル]メニューを使用した場合は、[新しいフォルダグループ]ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには[グループカテゴリ]リストが表示されます。ここで、フォルダグループの作成に使用するグループカテゴリを指定します。
 - グループカテゴリを右クリックした場合は、[グループの作成]ダイアログボックスが開きます。この場合は[グループカテゴリ]リストは表示されません。ナビゲーションペインで右クリックしたグループカテゴリを使用しようとしているとみなされるからです。
- 2 [新しいフォルダグループ]ダイアログボックスの場合のみ:[グループカテゴリ]リストからグループカテゴリを選択します。
 - 3 [グループ名]ボックスに、作成するグループの名前を入力します。
 - 4 [説明]ボックスに、グループの説明を入力します。
 - 5 グループにノードを追加するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード]ボックスでノードをダブルクリックし、そのノードを[グループ内のノード]ボックスに移動します。
 - [他のノード]ボックスでノードまたはインタフェースを選択し、をクリックしてそのノードを[グループ内のノード]ボックスに追加します。
 - 6 グループを作成する前にそのグループからノードを削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [グループ内のノード]ボックスでノードをダブルクリックしてそのノードを[他のノード]ボックスに移動します。
 - [グループ内のノード]ボックスでノードを選択し、をクリックしてそのノードを[他のノード]ボックスに戻します。
 - 7 [OK]をクリックします。
-  フォルダグループ内にサブフォルダグループを含めたい場合は、まず、前述した手順ですべてのフォルダグループを作成します。その後、グループを別のフォルダグループに移動することで、グループを編集してサブフォルダグループを作成します。221 ページの「グループの編集」を参照してください。

グループのインポート

データベースにグループを追加するための方法の1つは、そのグループが含まれているファイルをインポートすることです。

管理対象オブジェクトグループを含むファイルをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューから[インポート]を選択します。
[開く]ダイアログボックスが開きます。
- 2 インポートするグループが含まれているファイルに移動します。
- 3 ファイル名をダブルクリックするか名前を選択し、[開く]をクリックします。

ファイルがデータベースにインポートされている間、進捗ウィンドウが表示されます。インポートが完了すると、インポートされたグループをグループ管理リストに表示できるようになります。

グループのエクスポート

別のデータベースにエクスポートする1つまたは複数のグループを含むファイルを作成できます。

管理対象オブジェクトグループを1つ含むエクスポートファイルを作成するには、以下の手順に従います。

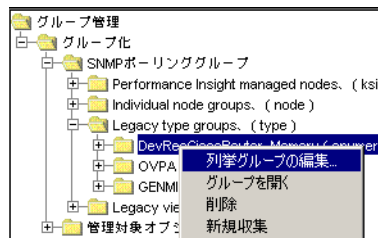
- 1 グループ管理ツリーで、エクスポートするグループの名前を選択します。
- 2 [ファイル]メニューの[エクスポート]から[選択済み]を選択します。
[開く]ダイアログボックスが開きます。
- 3 エクスポートファイルの保存先に移動します。
- 4 [ファイル名]ボックスにファイル名を入力し、[開く]をクリックします。
ファイルの作成中は進捗ウィンドウが表示されます。

すべての管理対象オブジェクトグループを含むエクスポートファイルを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューの[エクスポート]から[すべてのグループ]を選択します。
[開く]ダイアログボックスが開きます。
- 2 エクスポートファイルの保存先に移動します。
- 3 [ファイル名]ボックスにファイル名を入力し、[開く]をクリックします。
ファイルの作成中は進捗ウィンドウが表示されます。

グループの管理

グループリーフノードを右クリックすると、ショートカットメニューが開きます。このショートカットメニューを使用して、グループを開いて表示する、([すべて]グループ以外のグループを)編集する、または削除することができます。また、[新規収集]メニューオプションを使用してポーリングポリシーを作成することもできます(225 ページの「グループポーリングポリシーの作成」を参照)。

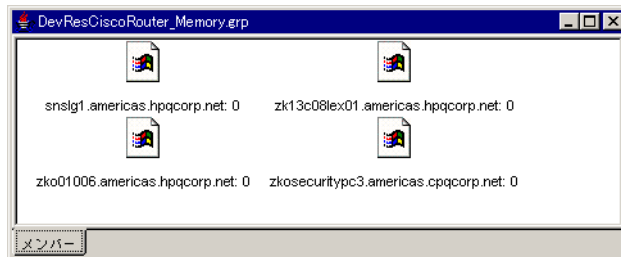


グループの表示

グループの内容を表示するには、以下のいずれかを実行します。

- グループ名を右クリックし、メニューから[グループを開く]を選択します。
- グループ名をダブルクリックします。

グループの内容が、オブジェクトブラウザウィンドウに表示されます(表示フォーマットは、ブラウザウィンドウの表示オプションによって異なります。224 ページの「表示オプションの設定」を参照してください)。



ウィンドウには、このグループのメンバーである管理対象オブジェクトが表示されます。管理対象オブジェクトを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。このショートカットメニューを使用して、管理対象オブジェクトをさまざまな表示フォーマットで表示できます。オブジェクトは、大きいアイコン、小さいアイコン、一覧、または詳細(オブジェクトのプロパティ値付き一覧)のいずれかで表示できます。

グループの編集

グループにオブジェクトを追加したり、グループからオブジェクトを削除したりできます。フォルダーグループを編集しているときに、そのグループに別のグループを追加することも可能です。

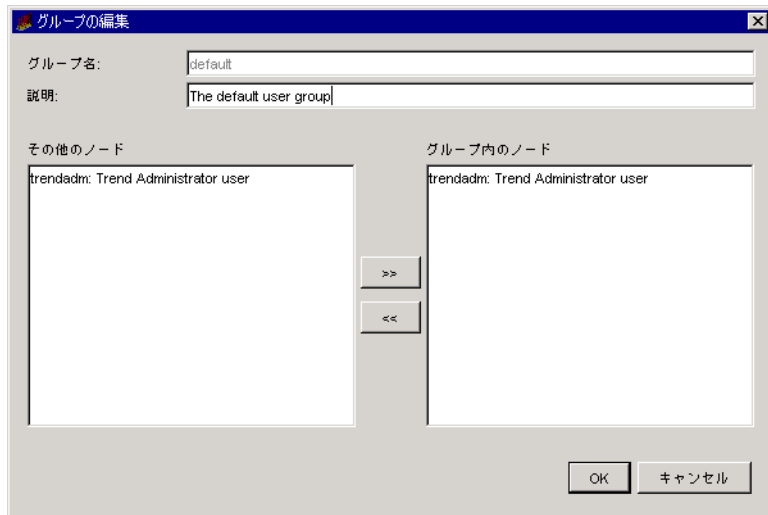




グループマネージャでは、[すべて]タイプグループは編集できません。

グループを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 グループ名を右クリックし、メニューから [**<グループタイプ>の編集**] (たとえば、[**列挙グループの編集**]) を選択します。

[グループの編集]ダイアログボックスが開きます。



- 2 グループにノードを追加するには、以下のいずれかを実行します。
 - [他のノード]ボックスでノードをダブルクリックして、そのノードを[グループ内のノード]ボックスに移動します。
 - [他のノード]ボックスでノードまたはインタフェースを選択し、をクリックしてそのノードを[グループ内のノード]ボックスに追加します。
- 3 グループを作成する前にそのグループからノードを削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [グループ内のノード]ボックスでノードをダブルクリックして、そのノードを[他のノード]ボックスに移動します。
 - [グループ内のノード]ボックスでノードを選択し、をクリックしてそのノードを[他のノード]ボックスに戻します。
- 4 [OK]をクリックします。

グループの削除

グループを削除しても、管理対象オブジェクトは削除されず、グループのみが削除されます。そのグループがポーリングポリシーの適用範囲にある場合は、そのポーリングポリシーを削除しなければ、そのグループは削除できません。

グループを削除するには、以下の手順に従います。

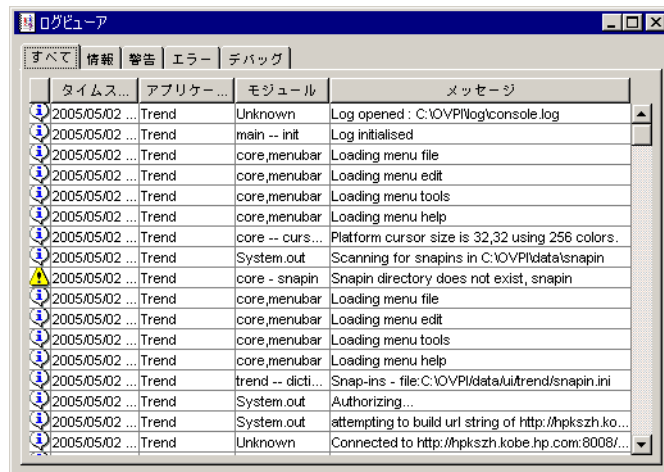
- 1 グループ名を右クリックし、メニューから [**グループの削除**] を選択します。
削除の確認ウィンドウが表示されます。
- 2 [**はい**] をクリックします。

ログ情報の表示

[表示] メニューのオプションを使用して、ログファイルとデバッグ情報を表示できます。

ログファイル情報を表示するには、[表示] メニューから [**ログ**] を選択します。

[ログビューア] ウィンドウが開きます



[ログビューア] ウィンドウには 5 つのタブがあり、それぞれに各種のログ情報が表示されます。ログメッセージは 4 つのタイプがあります。情報、警告、エラー、およびデバッグです。[**すべて**] タブには、4 タイプすべてのメッセージが表示されます。

出力情報を表示するには、[表示]メニューから[出力]を選択します。

[出力ビューア]ウィンドウに、生成された最新のログメッセージが表示されます。

表示オプションの設定

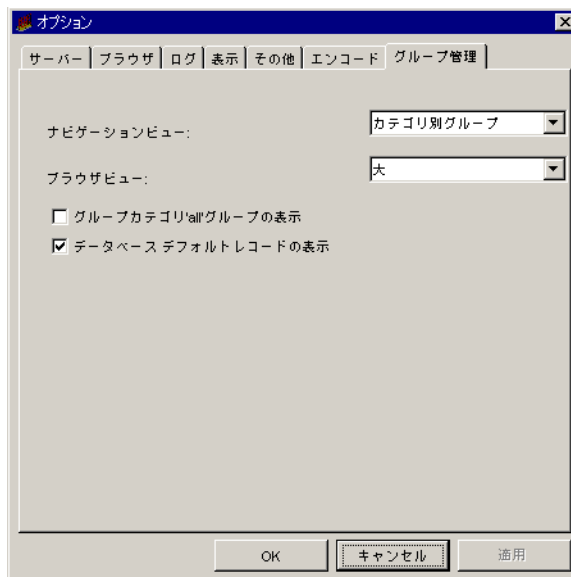
グループ管理の表示画面のデフォルト値を設定するには、以下の手順に従います。これらのデフォルト設定の変更された内容は、次回、管理コンソールにログインしたときに適用されます。

- 1 [編集]メニューから[オプション]を選択します。

[オプション]ウィンドウが開きます。

- 2 [グループ管理]タブを選択します。

[グループ管理]ページが開きます。



- 3 ナビゲーションツリーのグループ階層構造を設定するには、[ナビゲーションビュー]の矢印をクリックし、一覧から[カテゴリ別グループ]、[タイプ別グループ]、[名前別グループ]のいずれかのオプションを選択します。

- 4 ブラウザウィンドウにおけるグループオブジェクトの表示方法を設定するには、[ブラウザビュー]の矢印をクリックし、一覧から[大]、[小]、[リスト]、[詳細]のいずれかのオプションを選択します。
- 5 以下のいずれかを実行します。
 - [すべて]タイプグループ(選択されているグループカテゴリのすべての管理対象オブジェクトを含むグループ)を表示するには、[グループカテゴリ 'all' グループの表示]ボックスをオンにします。
 - [すべて]タイプグループを表示しないようにするには、[グループカテゴリ 'all' グループの表示]ボックスをオフにします。
- 6 以下のいずれかを実行します。
 - グループ管理時にデフォルトのレコードを表示するには、[データベース デフォルトレコードの表示]ボックスをオンにします。

デフォルトレコードとは、プロパティテーブルの作成時に、データベースの整合性を維持するためにOVPIが自動的に挿入するレコードです。
 - デフォルトレコードを表示しないようにするには、[データベース デフォルトレコードの表示]ボックスをオフにします。
- 7 [OK]をクリックします。

グループポーリングポリシーの管理

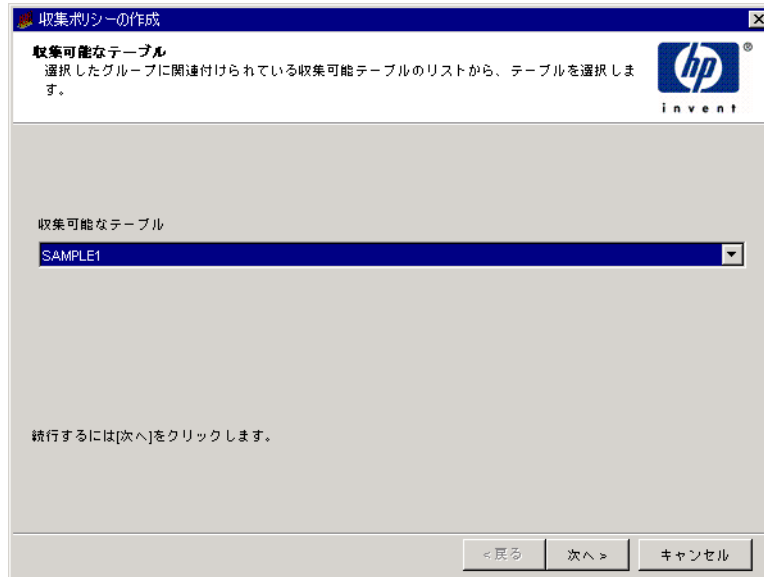
グループポーリングポリシーは、[収集ポリシーの作成]ウィザードを使用して作成できます。また、グループを表示すると使用できる[ポーリングポリシー]タブを使用して、いずれかのグループに関連付けられているポーリングポリシーを編集または削除することもできます。

グループポーリングポリシーの作成

グループのポーリングポリシーを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 ポーリングポリシーを作成するグループを右クリックし、ショートカットメニューから[新規収集]を選択します。

次の図のようなページが開き、グループに関連付けられている収集可能なテーブル（通常は、**raw** テーブルと、レートテーブル）が一覧表示されます。



- 2 [収集可能なテーブル] リストでテーブルを選択し、[次へ]をクリックします。

次の図のようなページが開き、ポーリングを実行するシステム（ポーラー）と、データをポーリングする間隔を指定するよう求められます。

収集ポリシーの作成

ポーラー
この収集のポーリングサーバーとポーリング間隔を選択します。

hp
invent

ポーラー
ngkszh.kobe.hp.com

ポーリング間隔
オフ

続行するには[次へ]をクリックします。

< 戻る 次へ > キャンセル

- 3 以下を実行します。
 - a [ポーラー]リストから、データをポーリングするサーバーを選択します。
 - b [ポーリング間隔]リストから、ポーラーにデータのポーリングを実行させる間隔を選択します。
 - c [次へ]をクリックします。

次の図のようなページが開き、ポーリングポリシーの名前と説明の入力を求められます。

- 4 以下を実行します。
 - a [**収集名**] ボックスに、ポーリングポリシーの名前を入力します。
 - b [**説明**] ボックスに、ポリシーの説明を入力します。説明は省略することも可能です。
 - c [**次へ**] をクリックします。要約ページが開き、ポーリングポリシーの概要が表示されます。
- 5 [**完了**] をクリックします。

グループポーリングポリシーの変更

グループのポーリングポリシーを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 グループ管理ツリーで目的のグループに移動します。

ウィンドウの右側の [**選択されたグループに固有のポーリングポリシー**] ボックスに、関連付けられているポーリングポリシーが表示されます。

- 2 変更するポリシーを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]を選択します。
[ポーリングポリシーの編集]ダイアログボックスが開きます。
- 3 154 ページの「ポーリングポリシーの編集」で説明した手順でポーリングポリシーを変更します。

ポーリングポリシーの削除

グループのポーリングポリシーを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 グループ管理ツリーで、ポーリングポリシーを削除するグループに移動します。
ウィンドウの右側の[選択されたグループに固有のポーリングポリシー]ボックスに、関連付けられているポーリングポリシーが表示されます。
- 2 削除するポリシーを右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択します。
ダイアログボックスが開き、選択されているポーリングポリシーを削除するかどうかを尋ねられます。
- 3 [はい]をクリックします。

ポーリングポリシービューの変更

リストボックスにおけるポーリングポリシーの表示方法を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 グループ管理ツリーで目的のグループに移動します。
ウィンドウの右側の[選択されたグループに固有のポーリングポリシー]ボックスに、関連付けられているポーリングポリシーが表示されます。
- 2 ポリシーを右クリックし、ショートカットメニューから[表示]を選択します。
- 3 以下のいずれかを選択します。
 - [大きいアイコン] – ポーリングポリシー名が、大きいアイコンで横並びに表示されます。

- [小さいアイコン] – ポーリングポリシー名が、小さいアイコンで横並びに表示されます。
- [リスト] – ポーリングポリシー名が、小さいアイコンで縦一列に表示されます。
- [詳細] – 各ポーリングポリシーの詳細情報(名前、説明、ポーリング間隔)が表示されます。

レポートでのグループの使用

レポートビューアまたは Web アクセスサーバーを使用して遅延選択付きレポートを開く場合は、個々のノードとインタフェースを選択することも、ノードとインタフェースのグループを選択することもできます。

たとえば、「**HP Systems**」という列举リストグループを作成し、このグループに「**Monty**」および「**Caesar**」というノードを含めたと仮定します。このレポートを開くとき、レポート用にこのグループを選択すると、「**Monty**」および「**Caesar**」システムのデータのみをレポートに表示することができます。

レポートの遅延ノードの選択の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

システムの管理

この章では、システム/ネットワークの管理アプリケーションについて説明します。これは管理コンソールから利用できます。このアプリケーションでは、次のものを管理できます。

- **Web** アクセスサーバー。Web アクセスサーバーシステムのプロパティを追加、削除、変更できます。さらに、プロパティを表示したり、現在の Web アクセスサーバーを別の使用可能なサーバーに変更することもできます。
- データベース。初期化パラメータとデータベースパスワードを変更することで、データベースを追加、削除、変更できます。また、データベースのサイズを拡張したり、現在のデータベースを別の使用可能なデータベースに変更したりすることもできます。

システム/ネットワークの管理アプリケーションの起動

システム/ネットワークの管理アプリケーションを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール]を起動します。詳細は、79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。

▶ 管理コンソールには管理者権限を持つアカウントでログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、391 ページの「ユーザーアカウントの管理」を参照してください。

- 2 ナビゲーションペインの[システム]アイコンをクリックします。

管理コンソールに[システム/ネットワークの管理]ウィンドウが表示されます。ウィンドウの左側に、アクセス可能なすべての Web アクセスサーバーシステムが表示されます。つまり、これらのどれにログオンしても OVPI を使用できます。

システムの 1 つを展開すると、使用可能なデータベースも表示可能になります。

図1は、[システム/ネットワークの管理]ウィンドウを示しています。

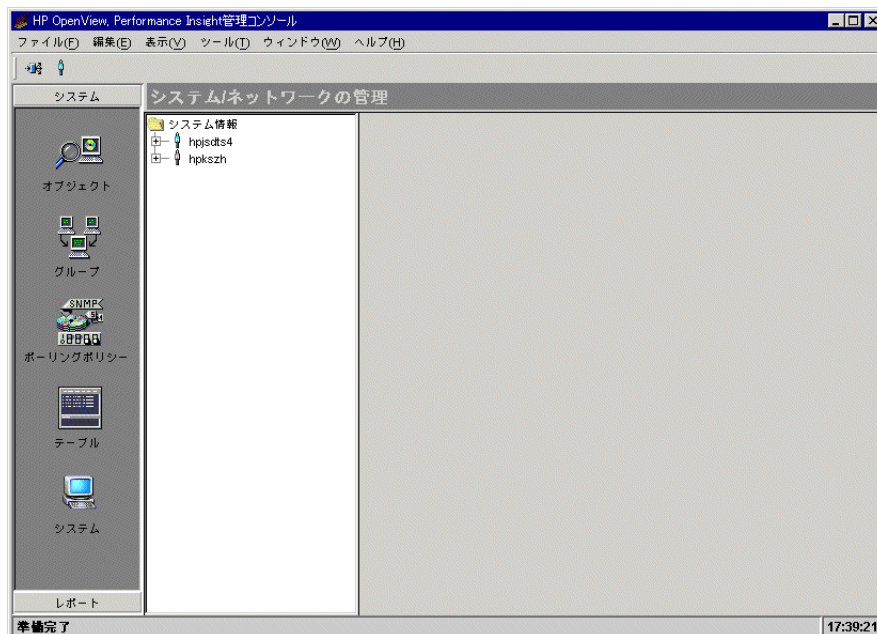



図1 [システム/ネットワークの管理]ウィンドウ

 アイコンが青の場合は、そのシステムに現在ログオンしていることを示しています。

[システム/ネットワークの管理]ウィンドウ

[システム/ネットワークの管理]ウィンドウには以下のペインがあります。

- 表示ペイン：表示ペインは、ウィンドウの右側にあります。
- ナビゲーションペイン：ナビゲーションペインはウィンドウの左側にあります。このペインには、アクセス可能なシステムのツリーが表示されます。ツリーはフォルダーで構成されており、各フォルダーにはページが含まれています。各ページの下に、さらに別のページ、またはフォルダーがある場合があります。

システムの階層レベルは、Windows エクスプローラで Windows システムの内容を表示するときとまったく同様に展開できます。フォルダーを展開することで、そのフォルダー内のページやフォルダーを表示できます。また、階層レベルを折りたたむこともできます。

ナビゲーションフレームのツリーは、次の手順で開きます。

- フォルダーの内容をプレビューするには、プラス記号 (+) をクリックします。

フォルダーの内容が表示されます。

- 開いたフォルダーを閉じるには、マイナス記号 (-) をクリックします。

システム情報の表示

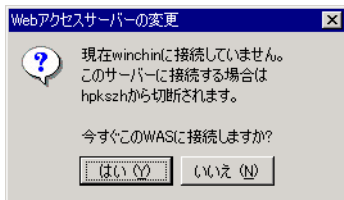
現在ログオンしている Web アクセスサーバーに関する情報を表示および変更するには、以下の手順に従います。

- 1 ナビゲーションペインでサーバーの名前をクリックします。表示ペインに、そのサーバーとその他の使用可能なサーバーの名前が一覧表示されます。

表示ペインでサーバーを右クリックするとメニューが表示されます。これを使用して、以下のことを実行できます。

- [システムの追加]: 新しい Web アクセスサーバーを追加します。詳細は、[238 ページの「Web アクセスサーバーの追加」](#)を参照してください。
- [プロパティ]: 選択された Web アクセスサーバーのプロパティを表示および変更します。詳細は、[241 ページの「Web アクセスサーバーのプロパティの表示および変更」](#)を参照してください。
- [システムの削除]: 選択された Web アクセスサーバーを削除します。詳細は、[246 ページの「Web アクセスサーバーの削除」](#)を参照してください。
- [表示]: 表示ペインのシステムの表示を変更します。詳細は、[236 ページの「表示ペインにおける Web アクセスサーバーの表示の変更」](#)を参照してください。

現在接続していない Web アクセスサーバーを選択すると、次のダイアログボックスが開きます。



現在接続している Web アクセスサーバーを変更するには、[はい]をクリックします。また、[サーバーの変更]アイコンからも操作できます。詳細は、[246 ページの「Web アクセスサーバーの変更」](#)を参照してください。

- 2 現在の Web アクセスサーバーシステムの横にあるプラス記号を展開します。このシステムの横にあるアイコンが青で強調表示されます。

ナビゲーションペインには、Web アクセスサーバーシステムに関する以下の情報が表示されます。

- [Web アクセスサーバーのプロパティ] ページ：このページには、サーバーのホスト名、HTTP ポート、および HTTPS ポートが表示されます。
- [データベース] フォルダー：このフォルダーを展開すると、現在のシステムからアクセス可能なデータベースが表示されます。現在のデータベースは アイコンで示されます。このフォルダーには以下のオプションがあります。

- [OVPI データベース]：OVPI データベーススキーマが含まれているデータベースを一覧表示します。各データベースフォルダーには、以下のページとフォルダーが含まれています。

[データベース初期化パラメータ] ページ：このページでは、すべてのデータベースパラメータを表示でき、また変更可能なパラメータを変更できます。詳細は [252 ページの「データベースの初期化パラメータの変更」](#)を参照してください。

[表領域] フォルダー：このフォルダーを展開すると、データベースのテーブルのプロパティが表示されます。詳細は [253 ページの「データベースサイズの拡張」](#)を参照してください。

- [外部参照データベース]: すべての汎用データベースを一覧表示します。これらのデータベースはデータパイプで使用するよう設計されています。

これらのデータベースには、OVPI データベーススキーマは含まれていません。サポートされている汎用データベースは、Oracle、SQLServer、および Solid です。データベースのプロパティを表示することはできますが、データベースのサイズを拡張したり、汎用データベースの初期化パラメータを表示したりすることはできません。

- [ローカルデータベース参照]: ローカルデータベースを一覧表示します。

このフォルダーは、OVPI データベーススキーマコンポーネントとパフォーマンスマネージャコンポーネントがインストールされている場合にのみ表示されます。このフォルダーを右クリックすると、ローカルシステムにデータベースを追加できます。

表示ペインにおける Web アクセスサーバーの表示の変更

サーバーの名前をクリックすると、表示ペインにそのサーバーとその他の使用可能なサーバーの名前が一覧表示されます。

このペインでのサーバーの表示を変更するには、以下の手順に従います。

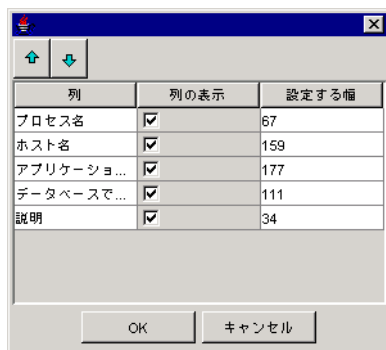
- 1 表示ペインでサーバーを右クリックします。
- 2 メニューから [表示] を選択し、サブメニューから [大きいアイコン]、[小さいアイコン]、[リスト]、または [詳細] のいずれかのオプションを選択します。

詳細表示の変更

表示ペインにおける Web アクセスサーバーの表示の変更の手順で [詳細] を選択した場合は、サーバーの一覧に詳細情報として、システムの名前、ホスト名、そのシステムが Web アクセスサーバーかどうか、データベースかどうか、システムの説明 (インストール時に指定されている場合) が表示されます。

表示する詳細列を変更したり、詳細情報の表示順序を変更したりするには、以下の手順に従います。

- 1 詳細列の名前(たとえば[データベースである])を右クリックします。メニューに、使用可能な詳細列が表示されます。以下のいずれかを実行します。
 - 列を非表示にするには、列の名前を選択してその横にあるチェックマークをはずします。
 - メニューから[**続く**]を選択します。詳細列の変更ダイアログボックスが開きます。



- 2 以下のいずれかを実行します。
 - 列の詳細の一覧表示の順序を変更するには、変更したい列の名前を選択し、上下の矢印ボタンをクリックして列の順序をそれぞれ変更します。
 - 列の名前を非表示にするには、[**列の表示**]ボックスをオフにします。表示するには、[**列の表示**]ボックスをオンにします。
 - 列の幅を変更するには、列名の横にある[**設定する幅**]ボックスをダブルクリックし、現在の値を削除し新しい値を入力します。
- 3 [OK]をクリックすると、変更が適用されます。

Web アクセスサーバーシステムの管理

システム/ネットワークの管理コンポーネントを使用すると、Web アクセスサーバーシステムの追加、それらのシステムのプロパティを編集、使用可能なシステムの一覧からシステムを削除、ローカルシステムと現在選択されているWeb アクセスサーバーを同期させることができます。

Web アクセスサーバーの追加

Web アクセスサーバーを、アクセス可能なシステムの一覧に追加するには、以下の手順に従います。

タスク 1: [Web アクセスサーバーの追加] ウィザードを起動する

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - [システム/ネットワークの管理] ウィンドウの表示ペインで [システム情報] フォルダを右クリックし、メニューから **[OVPI Web アクセスサーバーの追加]** を選択します。
 - 表示ペインで **Web アクセスサーバー** を右クリックし、メニューから **[システムの追加]** を選択します。

図 2 は、[ようこそ] ウィンドウを示しています。

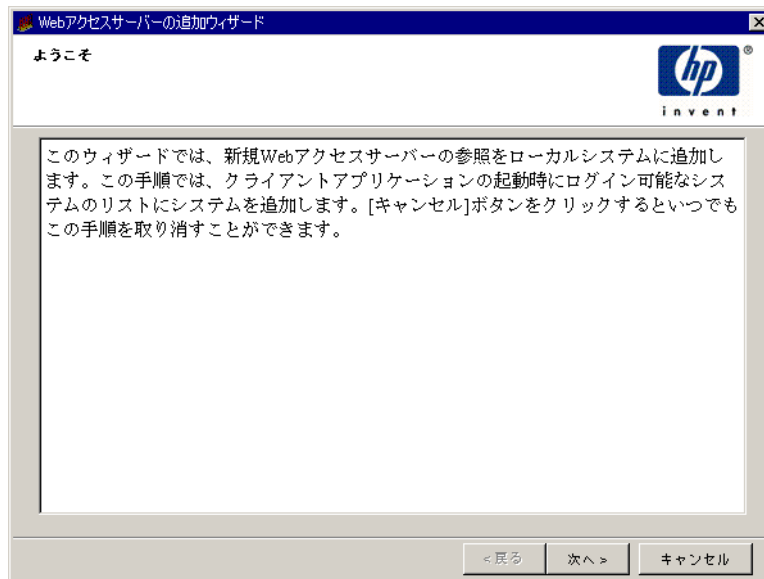


図 2 [ようこそ] ウィンドウ

- 2 [次へ] をクリックします。

タスク 2: Web アクセスサーバーへの接続に必要な情報を指定する

図 3 は、[接続情報] ウィンドウを示しています。

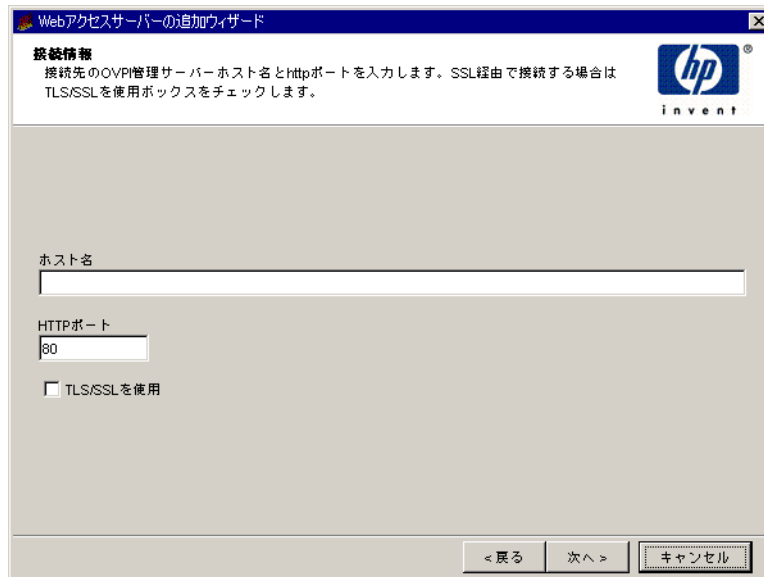


図 3 [接続情報] ウィンドウ

- 1 [ホスト名] ボックスに Web アクセスサーバーのホスト名を入力します。
- 2 Web アクセスサーバーのポート番号が 80 (デフォルト) 以外の場合は、[HTTP ポート] ボックスにポート番号を入力します。
- 3 Web アクセスサーバーで SSL が使用されており、かつ通信を保護したい場合は、[TLS/SSL を使用] ボックスをオンにします。
- 4 [次へ] をクリックします。

タスク 3: Web アクセスサーバーの名前と説明を入力する

図 4 は、[システムの識別] ウィンドウを示しています。

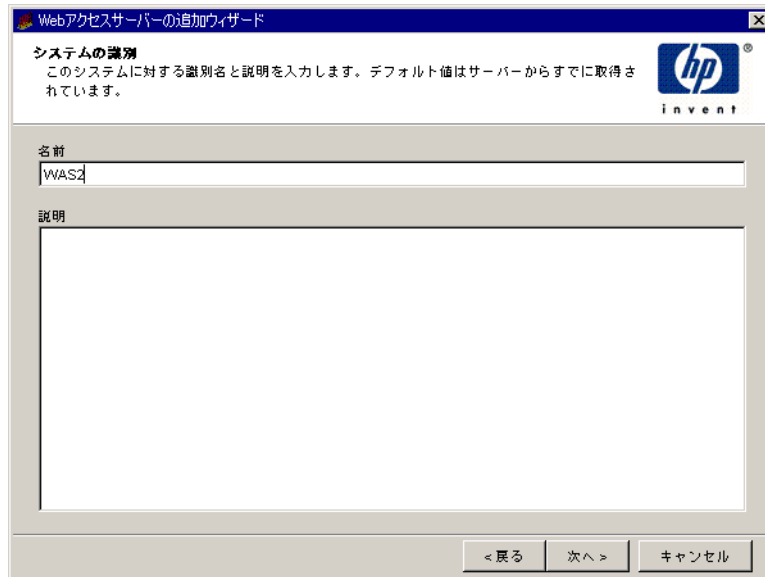


図 4 [システムの識別] ウィンドウ

- 5 [名前] ボックスにサーバーの名前 (たとえば `neast2`) を入力します。
 - ▶ OVPI のシステム設定ファイル (`systems.xml`) にすでに存在する名前は、指定できません。
サーバーは、この名前でシステム設定ファイルに登録されます。
- 6 [説明] ボックスに、サーバーの説明を入力します。説明は省略することも可能です。
- 7 [次へ] をクリックします。

タスク 4: 情報の要約を確認する

図 5 は [概要ページ] ウィンドウを示しています。

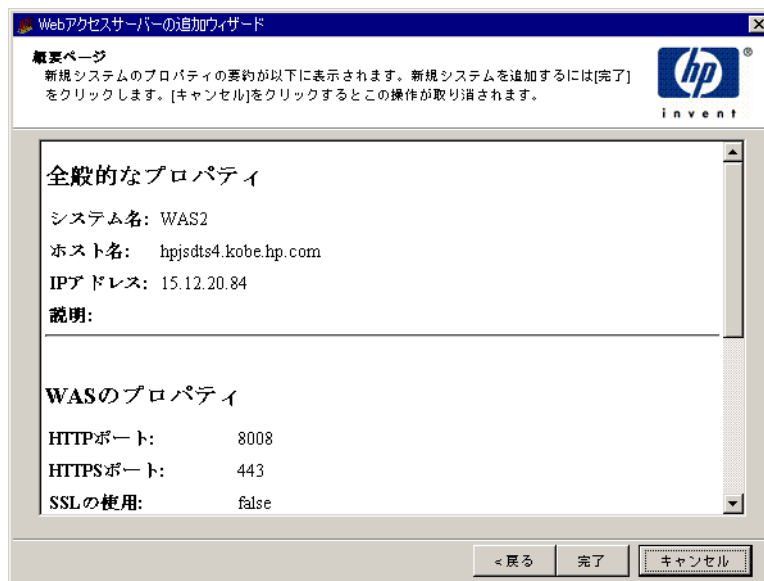


図 5 [概要ページ] ウィンドウ

- 1 情報が正しいことを確認します。

必要に応じて、[戻る]をクリックして前のページに戻り、変更を行います。変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要ページ]ウィンドウまで戻ります。

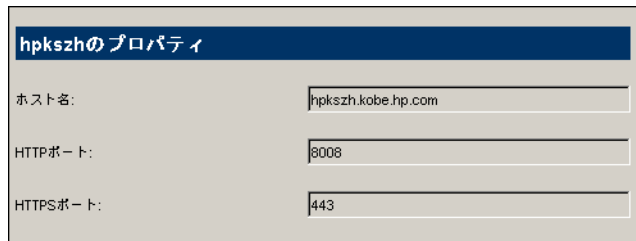
- 2 [完了]をクリックすると Web アクセスサーバーが追加されます。

ウィザードが閉じ、使用可能なシステムの一覧に Web アクセスサーバーが追加されます。

Web アクセスサーバーのプロパティの表示および変更

必要に応じて、現在の Web アクセスサーバーのプロパティを表示および変更できます。

現在の Web アクセスサーバーの全般的な情報を表示するには、ナビゲーションペインで Web アクセスサーバーのフォルダーを展開し、**[Web アクセスサーバーのプロパティ]** をクリックします。ウィンドウの表示ペインにプロパティが表示されます (以下に例を示します)。



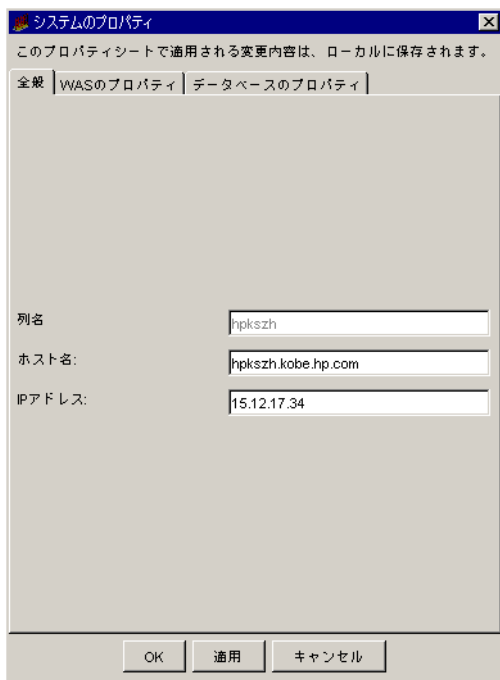
hpkszhのプロパティ	
ホスト名:	hpkszh.kobe.hp.com
HTTPポート:	8008
HTTPSポート:	443

Web アクセスサーバーシステムのすべてのプロパティを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 [システム/ネットワークの管理] ウィンドウのナビゲーションペインでサーバーを右クリックします。

あるいは、表示ペインにサーバーが表示されている場合は、表示ペインでシステムを右クリックします。

- 2 メニューから [プロパティの編集] を選択します。[システムのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。



選択されている **Web** アクセスサーバーの状態に応じて、変更結果の保存先が、[システムのプロパティ] ダイアログボックスに表示されます。たとえば、現在のサーバーを選択した場合は、現在のサーバーに変更結果が適用されます。現在のサーバー以外のサーバーを選択した場合は、変更結果はそのサーバーにリモートで適用されます。リモートサーバーへの変更は、現在のサーバーには影響しません。

このダイアログボックスには以下のタブがあります。

- [全般]: このタブには以下の情報が含まれています。
 - [名前]: データベースの名前を入力します。
 - [ホスト名]: データベースのホスト名を入力します。
 - [IP アドレス]: データベースの IP アドレスを入力します。
- [WAS のプロパティ]: このタブには以下の情報が含まれています。
 - [ポート]: システムのポート番号を入力します。

- [認証レلم]: レلمを入力します。レلمの詳細は、[432 ページの手順 b](#)を参照してください。
- [ドキュメントルート]: ドキュメントルートを入力します。レلمの詳細は、[433 ページの手順 c](#)を参照してください。
- [通信プロトコル]: [HTTP] または [HTTPS] をクリックします。
- [データベースのプロパティ]: このタブには以下の情報が含まれています。
 - [ポート]: データベースのポートを入力します。
 - [説明]: データベースの説明を入力します (省略可)。
 - [ベンダー]: [ベンダー] 矢印をクリックし、データベースタイプ ([Oracle]、[実線]、および [SQLServer]) を選択します。
 - [データベースインスタンス]: データベースインスタンスを入力します。デフォルトでは、\$ORACLE_SID (Oracle の場合) です。
 - [最大接続数]: このデータベースプールの最大接続数を入力します。
 - [データベースユーザー名]: データベースユーザー名を入力します。デフォルトは dsi_dpipe です。
 - [パスワード]: データベースユーザーのパスワードを入力します。
 - [デフォルトデータベース]: Web アクセスサーバーが現在アクセスしているデータベースを、デフォルトのデータベースに設定する場合は、このオプションをクリックします。
 - [デフォルトの収集データベース]: Web アクセスサーバーが現在アクセスしているデータベースを、デフォルトの収集データベースに設定する場合は、このオプションをクリックします。
- 3 タブを選択し、変更を行い、[適用] をクリックして変更を適用します。完了したら、[OK] をクリックします。

現在のサーバー以外の Web アクセスサーバーのプロパティを表示するには、そのサーバーに接続する必要があります。詳細は、[246 ページの「Web アクセスサーバーの変更」](#)を参照してください。

Web アクセスサーバーの同期化

ローカルシステムと現在の Web アクセスサーバーとを同期させることができます。

システムを現在の Web アクセスサーバーと同期させるには、以下の手順に従います。

- 1 [システム/ネットワークの管理] ウィンドウのナビゲーションペインでシステムを右クリックします。

現在のシステムを右クリックした場合、同期オプションは使用できません。システムをそのシステム自身と同期させることはできないため、別のシステムを選択してください。

- 2 メニューから [同期化] を選択し、次のオプションのいずれかを選択します。

- [完全同期化]: このオプションは初めに、ローカルシステムと、**手順 1** で選択した Web アクセスサーバーを同期化します。このとき、Web アクセスサーバーのすべての情報が、ローカルシステムの情報と置き換わります。次に、**手順 1** で選択した Web アクセスサーバーからアクセス可能な、すべてのシステムを同期化します。Web アクセスサーバーが現在アクセスしていないシステムは追加されます。

この同期オプションでは基本的に、[localhost の更新] オプションと [Web アクセスサーバーの更新] オプションが行うのと同じ同期処理が実行されます。

たとえば、複数のローカルシステムで、重なった参照は Web アクセスサーバーにある参照に統一され、Web アクセスサーバーにない参照は、ローカルシステムから Web アクセスサーバーにアップロードされます。

- [localhost の更新]: ローカルシステムを、**手順 1** で選択した Web アクセスサーバーと同期化できます。Web アクセスサーバーのすべての情報が、ローカルシステムの情報と置き換わります (この更新では、[Web アクセスサーバーの更新] オプションとは反対の機能が実行されます)。

たとえば、ローカルシステムに Thunderbolt という名前のシステムのエントリーがあり、Web アクセスサーバーにも同じシステムのエントリーがあるとします。この場合は Web アクセスサーバーがマスターになるため、Web アクセスサーバーの Thunderbolt のエントリーが、ローカルシステムの Thunderbolt のエントリーに上書きされます。


- **[Web アクセスサーバーの更新]:** 手順 1 で選択した Web アクセスサーバーからアクセス可能な、すべてのシステムを同期化します。Web アクセスサーバーが現在アクセスしていないシステムは追加されます。

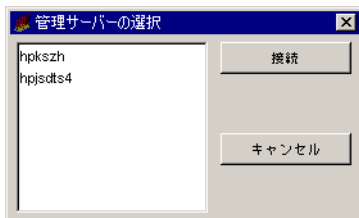
たとえば、ローカルシステムに、Web アクセスサーバーに追加したいデータベースがある場合は、同期処理を実行するとそのデータベースが Web アクセスサーバーに追加されます。

同期のオプションを選択すると、同期のダイアログボックスが開いて同期処理が開始されます。この処理が正常に完了したかどうかは、このダイアログボックスでわかります。同期処理が完了すると、ダイアログボックスが閉じます。

Web アクセスサーバーの変更

現在の Web アクセスサーバーを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 ツールバーで [サーバーの変更] アイコン  をクリックするか、**または**、[ファイル] メニューから [サーバーの変更] を選択します。[サーバーの変更] ダイアログボックスが開きます。



- 2 目的の Web アクセスサーバーを選択し、[接続] をクリックします。接続が確立されると、このシステムの横にあるアイコンが青で強調表示されます。

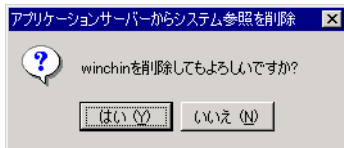
Web アクセスサーバーの削除

Web アクセスサーバーを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 [システム/ネットワークの管理] ウィンドウのナビゲーションペインでサーバーを右クリックします。

あるいは、表示ペインにサーバーが表示されている場合は、表示ペインでシステムを右クリックします。

- 2 [削除] を選択します。確認のダイアログボックスが開きます。



- 3 [はい] をクリックします。

データベースの管理

データベースの追加、データベースに関連付けられているパラメータの変更、表領域のプロパティの変更、使用するデータベースサーバーの変更、などの操作が可能です。

データベースの追加

データベースサーバーを追加するには、以下の手順に従います。

- 1 データベースを追加するサーバーのフォルダーを展開します。
- 2 [データベース] フォルダーを右クリックし、メニューから [データベースの追加] を選択します。

あるいは、表示ペインにサーバーが表示されている場合は、表示ペインでシステムを右クリックし [データベースの追加] オプションを選択します。

ウィザードが開き、[ようこそ] ウィンドウが表示されます。

- 3 [次へ] をクリックして続行します。[データベースのタイプ] ウィンドウが開きます。
- 4 以下を実行します。
 - a 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [OVPI データベース]: このオプションを使用すると、OVPI データベーススキーマが含まれているデータベースを追加できます。

- **[汎用のサポートデータベース]:** このオプションでは、汎用データベースを追加できます。汎用データベースには **OVPI** データベーススキーマは含まれていません。サポートされている汎用データベースのタイプは、**Oracle**、**SQLServer**、および **Solid** です。



ユーザーが汎用データベースにアクセスできるようにするには、そのデータベースをユーザーに割り当てておく必要があります。つまり、汎用データベースにアクセスできるようにユーザーアカウントが設定されていないユーザーは、そのデータベースのデータを使用するレポートを作成できません。

汎用データベースをユーザーに割り当てるには、そのデータベースをユーザーのアカウントのデフォルトにするか、汎用データベースにアクセスするためのユーザーアカウントを別に作成します。詳細は、[398 ページの「ユーザーアカウントの変更」](#)または[394 ページの「ユーザーアカウントの作成」](#)を参照してください。

- b** **[次へ]** をクリックします。


- **OVPI** データベースを選択した場合は、**[接続情報]** ウィンドウが開きます。[手順 5](#) に進みます。
- サポートされている汎用データベースを選択した場合は、**[データベース接続情報]** ウィンドウが開きます。[手順 6](#) に進みます。

- 5** 以下の手順に従います。

- a** **[ホスト名]** ボックスにデータベースのホスト名を入力します。
- b** データベースのポート番号が **80** (デフォルト) 以外の場合は、**[ポート]** ボックスに使用するポート番号を入力します。
- c** データベースが **SSL** を使用しており、かつ通信を保護したい場合は、**[TLS/SSL を使用]** ボックスをオンにします。
- d** **[次へ]** をクリックします。**[システムの識別]** ページが開きます。[手順 7](#) に進みます。


- 6** 以下の手順に従います。

- a** **[ホスト名]** ボックスにデータベースのホスト名を入力します。
- b** データベースのポート番号が **80** (デフォルト) 以外の場合は、**[ポート]** ボックスに使用するポート番号を入力します。
- c** **[説明]** ボックスに説明を入力します。説明は省略することも可能です。

- d [ベンダー]リストからベンダーを選択します。
 - e [データベースインスタンス]にデータベースインスタンスを入力します。
 - f パスワードボックスに、`dsi_dpiped` アカウントのパスワードを入力します。
 - g [次へ]をクリックします。[システムの識別]ページが開きます。
- 7 以下の手順に従います。
- a [名前]ボックスにデータベースの名前(たとえば `neast2`)を入力します。
-  OVPI のシステム設定ファイル (`systems.xml`) にすでに存在する名前は指定できません。
- データベースは、この名前でシステム設定ファイルに登録されます。
- b [説明]ボックスに、サーバーの説明を入力します。説明は省略することも可能です。
 - c [次へ]をクリックします。[概要ページ]ウィンドウが開きます。
- 8 以下の手順に従います。
- a 情報が正しいことを確認します。
- 必要に応じて、[戻る]をクリックして前のページに戻り、変更を行います。変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要ページ]ページまで戻ります。
- b [完了]をクリックするとデータベースが追加されます。
- ウィザードが閉じ、サーバーの使用可能なデータベースの一覧にこのデータベースが追加されます。

データベースプロパティの表示

必要に応じて、データベースのプロパティを表示したり、データベースパスワードを変更したりできます。

-  データベースのプロパティを変更する場合は、データベースに付属のツール (Oracle Enterprise Manager など) を使用します。

データベースプロパティを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 表示するデータベースが含まれているサーバーのフォルダーを展開します。
- 2 [データベース]フォルダーを展開します。
- 3 表示するデータベースをクリックします。データベースのプロパティが表示ペインに表示されます。

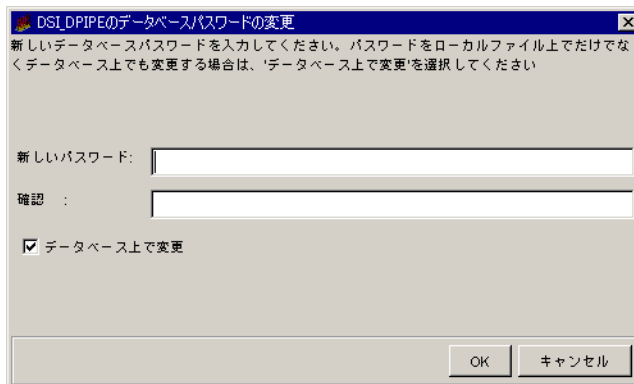
The screenshot shows a dialog box titled "winchinのデータベースプロパティ". It contains the following fields and controls:

- データベースベンダー: Oracle
- データベースパスワードの変更... (button)
- データベースインスタンス: winchin
- 接続プールのサイズ: 10
- JDBC接続文字列: jdbc:oracle:thin:@winchin:1521:winchin
- ODBC接続文字列: DSN=OVPI_ORACLE;SID=winchin;PORTNUMBER=1521;HOSTNAME=winchin
- 接続テスト (button)

表示されるプロパティは次のとおりです。

- [データベースベンダー]: これはデータベースのタイプ (**Oracle**) です。
- [データベースインスタンス]: デフォルトでは、この名前は **\$ORACLE_SID (Oracle の場合)** です。
- [接続プールのサイズ]: **OVPI** 用に確立されている接続の数です。
- [JDBC 接続文字列]: **OVPI** の **Java** コンポーネントでデータベース接続に使用される文字列です。
- [ODBC 接続文字列]: **OVPI** の **C** ベースのコンポーネントでデータベース接続に使用される文字列です。
- [接続テスト] ボタン: このボタンをクリックすると、データベース接続をテストできます。

- 4 データベースパスワードを変更するには、[**データベースパスワードの変更**] をクリックします。[**データベースパスワードの変更**] ダイアログボックスが開きます。



以下を実行します。

- a [**新しいパスワード**] ボックスに新しいパスワードを入力します。
- b [**確認**] ボックスに新しいパスワードをもう一度入力します。
- c [**データベースに関する変更**] を選択すると、データベースのパスワードと共に、`systems.xml` ファイル内のパスワードも変更されます。

たとえば、システム A のデータベースパスワードを変更してあり、Web アクセスサーバーはシステム B にあると仮定します。[**データベースに関する変更**] オプションを選択すれば、Web アクセスサーバーが更新されたパスワードを `systems.xml` ファイルから取得するため、Web アクセスサーバーも次回からそのデータベースにアクセスできるようになります。このオプションを選択しなかった場合は、Web アクセスサーバーはシステム A のデータベースにはアクセスできなくなります。
- d [**OK**] をクリックします。
- e Web アクセスサーバーと、開いているクライアントアプリケーションをすべて再起動します。Web アクセスサーバーの再起動に関する詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

データベースの初期化パラメータの変更

データベースのパラメータを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 表示するデータベースが含まれているサーバーのフォルダーを展開します。
- 2 [データベース]フォルダーを展開し、必要なデータベースを展開します。
- 3 [初期化パラメータ]をクリックします。

データベースの初期化パラメータが表示ペインに表示されます。

hpkszhのデータベース初期化パラメータ				
パラメータ				
変更可能	再起動...	パラメータ	値	説明
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	aq_tm_processes	1	number of A/Q Time Managers to start
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	archive_lag_target	0	Maximum number of seconds of redo...
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	background_dump_dest	C:\oracle\admi...	Detached process dump directory
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	backup_tape_io_slaves	FALSE	BACKUP Tape I/O slaves
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	control_file_record_keep...	7	control file record keep time in days
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	core_dump_dest	C:\oracle\admi...	Core dump directory
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	cursor_sharing	EXACT	cursor sharing mode
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_16k_cache_size	209715200	Size of cache for 16K buffers
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_2k_cache_size	0	Size of cache for 2K buffers
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_32k_cache_size	0	Size of cache for 32K buffers
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_4k_cache_size	0	Size of cache for 4K buffers
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_8k_cache_size	0	Size of cache for 8K buffers
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_block_checking	FALSE	data and index block checking
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_block_checksum	TRUE	store checksum in db blocks and che...
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_cache_advice	ON	Buffer cache sizing advisory
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_cache_size	209715200	Size of DEFAULT buffer pool for stan...
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_create_file_dest		default database location
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_create_online_log_de...		online log/controlfile destination #1
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_create_online_log_de...		online log/controlfile destination #2
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_create_online_log_de...		online log/controlfile destination #3
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_create_online_log_de...		online log/controlfile destination #4
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_create_online_log_de...		online log/controlfile destination #5
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_file_multiblock_read_...	16	db block to be read each IO
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_keep_cache_size	0	Size of KEEP buffer pool for standard ...
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	db_recycle_cache_size	0	Size of RECYCLE buffer pool for stan...
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	dg_broker_config_file1	%ORACLE_H...	data guard broker configuration file #1

[パラメータ]ウィンドウに、次の情報が表示されます。

- [変更可能]: パラメータの変更が可能かどうかを示します。
- [再起動が必要]: パラメータを変更した後にデータベースを再起動する必要があるかどうかを示します。
- [パラメータ]: パラメータの名前。
- [値]: パラメータの現在の値。

- [説明]: パラメータの説明。

データベースサイズの拡張

表領域とはデータベーステーブルの格納場所であり、カタログと似ています。表領域のサイズは拡張できます。これにより、データベースのサイズも拡張されます。

通常は、Oracle の表領域は自動的に拡張されるよう設定されているため、領域を追加する必要はありません。使用できる容量をデータベース管理者が制限しているときは、場合によってはデータベースを拡張しなければなりません。

データベースコンポーネントのサイズ設定のガイドライン

表 1 は、データベースコンポーネントの推奨サイズをまとめたものです。

表 1 データベースコンポーネントのサイズ設定のガイドライン

データベースコンポーネント	ガイドライン
一時データベース (tempdb)	最小で OVPI データベースの 50%、最大 1 GB
トランザクションログ	最小で OVPI データベースの 50%、最大 2 GB

各データベースは、データと、デバイスに関連するログで構成されます。各デバイスは、ファイルまたは raw パーティションにマップされています。データとログのためのディスク領域の初期サイズは、インストールプロセスで設定されます。各 OVPI システムの特性はそれぞれに特有なので、データベースサイズの拡張が不要な場合もあります。データベースのサイズを変更するべきかどうかを判断できない場合は、HP のテクニカルサポートにお問い合わせください。

データベースのサイズの拡張

- ▶ OVPI がインストールされているシステムが、**Oracle Client** を使用してリモートの **Oracle** データベースにアクセスしている場合は、表領域を拡張できません。

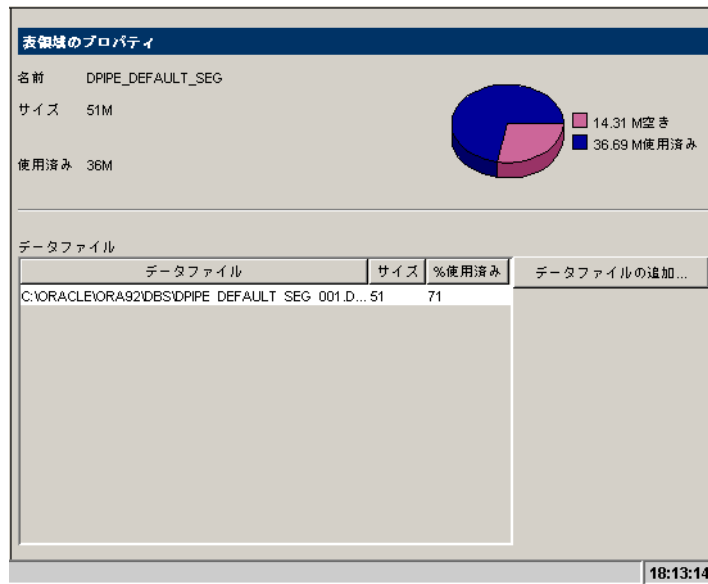
データベースを拡張するには、以下の手順に従います。

- 1 変更するデータベースが含まれているサーバーのフォルダーを展開します。
- 2 [データベース]フォルダーを展開し、必要なデータベースを展開します。使用可能なデータベースが一覧表示されます。
- 3 変更するデータベースのフォルダーを展開します。
- 4 [表領域]フォルダーを展開します。

データベースのタイプに応じて、以下の表領域が表示されます。

- Oracle: Oracle の表領域は、`dpipe_default_seg`、`dpipe_property_ind_seg`、`dpipe_property_seg`、`dpipe_upload_ind_seg`、`dpipe_upload_seg`、`dpipe_rate_ind_seg`、`dpipe_rate_seg`、`dpipe_summary_ind_seg`、`dpipe_summary_seg`、および `dpipe_overflow_seg` です。

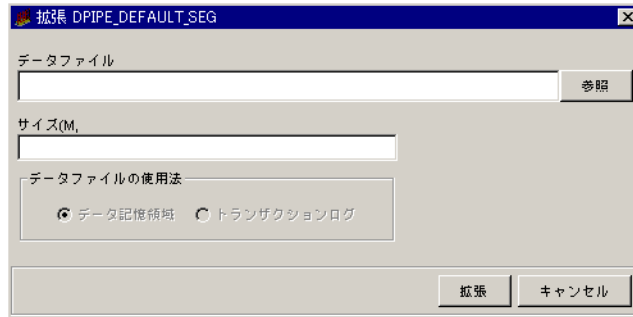
- 5 表領域をクリックします。表示ペインに[表領域のプロパティ]ウィンドウが開きます。このウィンドウは、次の図のようなものです。



[表領域のプロパティ]ウィンドウには以下の情報が表示されます。

- [名前]: データファイルの名前
- [サイズ]: データファイルのサイズ
- [使用済み]: 使用されているデータファイルの割合 (%)
- [データファイル]: データファイルのファイル名
- [使用法]: ファイルの用途
- [サイズ]: ファイルのサイズ
- [%使用済み]: 使用されているファイルの割合 (%)。この値が、データベースの 60% 以上が使用されていることを示している場合は、データベースの拡張を推奨します。あるいは、不要なデータを削除するか、データの保存期間を短くするという方法もあります。

- 6 データファイルを追加するには、[**データファイルの追加**] をクリックします。
[**拡張**] ダイアログボックスが開きます。



- 7 以下を実行します。

- a [**データファイル**] ボックスにデータファイルの名前を入力するか、**または** [**参照**] をクリックしてファイルを検索します。


[**参照**] オプションを使用すると、ローカルシステム上のファイルを選択するか、ファイルの作成先とするデータベースシステム上のディレクトリに移動することができます。たとえば、現在 **Windows** システムにログオンしており、データベースは **UNIX** システムにあるとします。この場合は、[**参照**] オプションを使用すると、**UNIX** システムのディレクトリ階層を参照できます。

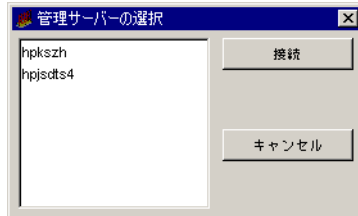
- b [**サイズ (M)**] ボックスに、データファイルのサイズを入力します。
c [**拡張**] をクリックします。

新しいデータファイルがウィンドウに表示されます。

データベースサーバーの変更

使用するデータベースサーバーを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 ツールバーで  をクリックするか、**または**[ファイル]メニューから[サーバーの変更]を選択します。[サーバーの変更]ダイアログボックスが開きます。



- 2 目的のデータベースを選択し[**接続**]をクリックします。接続が確立されると、このシステムの横にあるデータベースアイコンが緑で強調表示されます。

保持期間テーブルの管理

この章では、HP OpenView Performance Insight (OVPI) のテーブルマネージャアプリケーションの使用方法を説明します。このアプリケーションを使用して、データベースの使用状況とサイズの増大を監視し、データとプロパティテーブルを表示および作成し、個々のテーブル、および全体のテーブルのデフォルトを設定します。

具体的には、以下を行う方法を説明します。

- データベースの情報および統計を表示する。[261 ページ](#)を参照してください。
- テーブル情報を表示する。[263 ページ](#)を参照してください。
- テーブルの詳細情報を表示する。[269 ページ](#)を参照してください。
- テーブル内のデータを表示する。[277 ページ](#)を参照してください。
- テーブルを作成する。[304 ページ](#)を参照してください。
- テーブルのデフォルトを設定する。[321 ページ](#)を参照してください。

テーブルの詳細は、『*Performance Insight TEEL Reference Guide*』（英語）を参照してください。このマニュアルには、テーブルの属性と TEEL ファイルの作成に関する情報が記載されています。

テーブルマネージャの起動

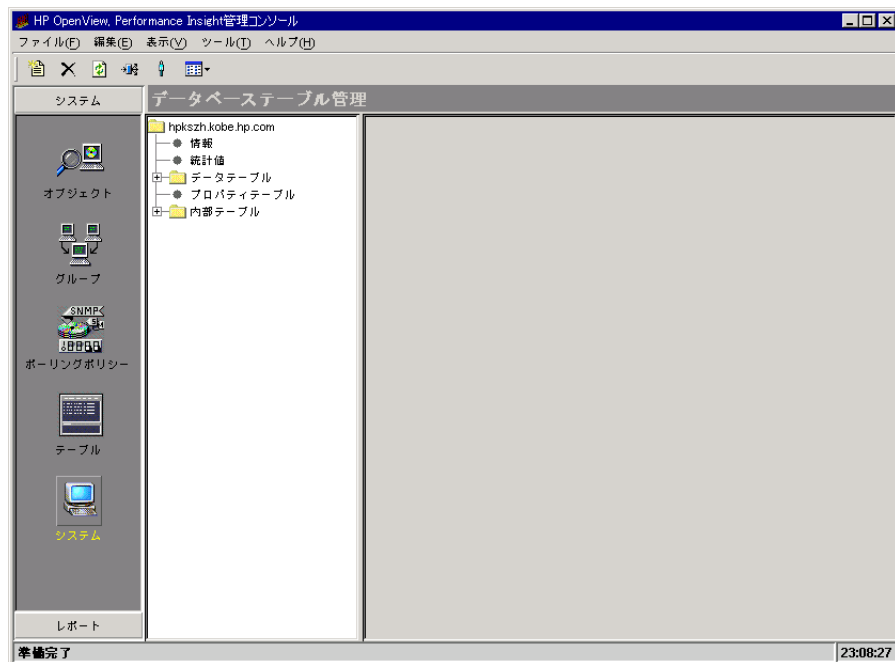
テーブルマネージャを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 [管理コンソール]を起動します。詳細は、79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。

▶ 管理コンソールには管理者権限を持つアカウントでログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、391 ページの「ユーザーアカウントの管理」を参照してください。

- 2 管理コンソールのナビゲーションペインで[テーブル]アイコンをクリックします。

[データベーステーブル管理]ウィンドウが開きます。



[データベーステーブル管理]ウィンドウには以下のペインがあります。

- **表示ペイン**：表示ペインは、ウィンドウの右側にあります。

- ナビゲーションペイン**：ナビゲーションペインはウィンドウの左側にあります。このペインには、現在表示しているデータベースのツリーが表示されます。ツリーはフォルダーで構成されており、各フォルダー内には項目があり、各項目の下に、さらに別の項目、またはフォルダーがある場合があります。

データベースの階層レベルは、**Windows** エクスプローラで **Windows** システムの内容を表示するときとまったく同様に展開できます。フォルダーを展開すると、そのフォルダー内の項目やフォルダーを表示できます。また、階層レベルを折りたたむこともできます。

ナビゲーションフレームのツリーは、以下の手順で開きます。

- フォルダーの内容をプレビューするには、プラス記号 (+) をクリックします。
 フォルダーの内容は、表示フレームに表示されます。
- 開いたフォルダーを閉じるには、マイナス記号 (-) をクリックします。

データベースの情報と統計の表示

テーブルマネージャでは、データベースに関する情報と統計を表示できます。

データベース情報の表示

データベース情報を表示するには、ナビゲーションペインで **[情報]** をクリックします。データベース情報は表示ペインに表示されます。

サーバー名	ポート番号	ホスト名	ホストアドレス	ベンダー	データベースリリース
hpkszh	1521	hpkszh...	15.12.17.34	ORACLE	Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.5.0 - Production

表示される情報は以下のとおりです。

[サーバー名]：データベースがあるサーバーの名前

[ポート番号]：データベースサーバーに接続するポートの番号

[ホスト名]：データベースがあるホストの名前

[ホストアドレ データベースがあるホストのアドレス]:

[ベンダー]: データベースソフトウェアのベンダーの名前

[データベース データベースソフトウェアの名前、バージョン番号、およびリリース]: リリース番号

データベース統計の表示

データベース統計を表示するには、ナビゲーションペインで **[統計値]** をクリックします。データベース統計は表示ペインに表示されます。

デバイス	使用法	サイズ(MB)	空き(MB)	%使用済み
DPIPE_DEFAULT_SEG	data	34718	20645	41
DPIPE_PROPERTY_IND_SEG	data	34718	20656	41
DPIPE_PROPERTY_SEG	data	34718	20651	41
DPIPE_UPLOAD_IND_SEG	data	34718	20683	41
DPIPE_UPLOAD_SEG	data	34718	20690	41
DPIPE_RATE_IND_SEG	data	34718	20744	41
DPIPE_RATE_SEG	data	34718	20736	41
DPIPE_SUMMARY_IND_SEG	data	34718	20899	40
DPIPE_SUMMARY_SEG	data	34718	21105	40
DPIPE_OVERFLOW_SEG	data	34718	20911	40

表示される情報は以下のとおりです。

[デバイス]: データベース内のデバイスの名前

[使用法]: デバイスに格納されている情報のタイプ

[サイズ (MB)]: データベース内でそのデバイスに割り当てられているサイズ (メガバイト単位)

[空き (MB)]: デバイスの使用可能な空き領域の総量 (メガバイト単位)

[% 使用済み]: デバイスの使用領域の総量

OVPI では、データベースが *使用ピーク値* に達するとデータの収集が停止します。デフォルトでは、使用ピーク値は **90** (最大記憶容量の **90%**) です。

データベースが使用ピーク値に達した場合は、データ収集を続行するには以下のいずれかを実行する必要があります。

- データベース内のデータ量を減らす
- データベースのサイズを拡張する
- 使用ピーク値を高くする

SNMP コレクタ (`mw_collect` コマンド) には、データベースの使用ピーク値を書き換えるオプションがあります。そのオプションは `-w` です。`mw_collect` コマンドの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語)を参照してください。

データベースの使用状況の監視

[% 使用済み] 統計を確認することで、データベース領域の使用状況を監視できます。この統計を表示するには、テーブルマネージャのナビゲーションペインで [統計値] をクリックします。残っている使用可能領域の割合を確認できるほか、それらの領域がいつごろ満杯になるかも監視できます。

また、データテーブルのサイズをチェックすることによっても、データベースの使用状況を監視できます。すぐに領域が満杯になりそうな場合は、どのテーブルが最も大きいか、どの程度の速度で増大しているかを、ソートして監視してください。増大を抑えるには、データを保存しておく日数を変更します。これをするには、長期間保存しておく必要のあるデータと 1～2 日で破棄してよいデータとを見分ける必要があります。

たとえば、`raw` データの場合は通常、集約に要する日数(たとえば 1 日程度)以上の保存は必要ありません。`raw` データは非常にサイズが大きいため、特に注意して管理しなければなりません。データベースが満杯にならないよう、サイズの大きいテーブルを削除しなければならない場合もあります。



テーブルを削除すると、そのテーブルに含まれていたデータは復元できなくなります。

データベースが満杯になるのを防ぐには、[% 使用済み] の値が 70% を超えた時点で調整をしてください。また、不要になったテーブルを削除するという方法もあります。

テーブル情報の表示

さまざまなタイプのテーブルに関する情報を表示できます。データおよび内部テーブルの列は、プロパティテーブルの列とは異なります。ここでは、さまざまなタイプのテーブルに表示される列と、情報の表示形態を変更する機能について説明します。

表示機能

テーブルマネージャでは、表示情報を変更および検索できます。昇順または降順でのソート、列のサイズの変更、更新、検索といった機能があります。


情報のソート

列内の情報を昇順でソートするには、ソートする列の見出しにカーソルを置きクリックします。

同様に、列内の情報を降順でソートするには、ソートする列の見出しにカーソルを置き、[Shift] キーを押しながらクリックします。


列のサイズの変更

列のサイズを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 カーソルを、列の見出しの右枠の上に置きます。
- 2 ポインタが  に変わったら、左マウスボタンを押しながら動かして、列を希望の幅に調整します。

情報の更新

テーブルマネージャの表示を更新できます。テーブルマネージャの表示を更新すると、列は元の順序でソートされ、列のサイズも元の大きさに戻ります。また、強調表示されていた行も通常の表示に戻ります。

画面を更新するには、 をクリックするか、[表示]メニューから[更新]を選択します。

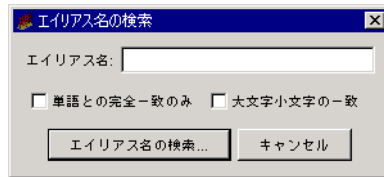
エイリアス名の検索

テーブルマネージャでは、現在アクティブなテーブルのリストからエイリアス名を検索できます。

現在のリストからエイリアス名を検索するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集]メニューから[エイリアス名の検索]を選択します。

[エイリアス名の検索] ダイアログボックスが開きます。



- 2 [エイリアス名] ボックスに、検索するエイリアス名を入力します。
- 3 語句の一部分だけでなく全体が一致する検索をする場合は、[**完全に一致する単語のみ**] をクリックします。
- 4 大文字 / 小文字を区別する場合は、[**大文字小文字の一致**] をクリックします。
- 5 [**検索**] をクリックすると、エイリアス名が検索されます。

データテーブルのタイプ別またはカテゴリ別での表示

データテーブルをタイプ別またはカテゴリ別に表示するには、テーブルマネージャのナビゲーションペインで [データテーブル] フォルダを開きます。[データテーブル] フォルダには、以下のフォルダが含まれています。

- [時間タイプ]

このフォルダには、データのタイプ別に編成されたデータテーブルが含まれています。要約タイプのデータは、データの時間タイプ別に編成されたデータテーブルと共に、[概要] フォルダにあります。

- [カテゴリ]

このフォルダには、データのカテゴリフィールドに基づいて編成されたデータテーブルが含まれています。各カテゴリは、データベースに追加された順に表示されます。

たとえば、[カテゴリ]フォルダーからルーターを選択した場合は、表示ペインに以下のような結果が表示されます。

Category	Alias Name	SQL Name	Type	Time Type	Time Zone	Size (rows)	Size (KB)	Keep data for (days)
router	rate_router_system	Router_system_	rate	5-minute	local	1,294	538	2
router	rate_router_ipaddress	Router_ipaddress	rate	as-pollled	local	20	46	2
router	test_tbl_1	test_tbl_1	raw	hourly	local	30	64	30
router	router_system	router_system_	raw	5-minute	local	1,289	448	2
router	router_ipaddress	router_ipaddress	raw	as-pollled	local	30	32	2
router	hour_router_SHroutersla	SHroutersla	sum	hourly	local	3,615	1,132	30
router	day_router_SDroutersla	SDroutersla	sum	daily	local	250	80	90



実際に表示される列は、この例の列とは異なる場合もあります。データテーブルの表示時にどの列を表示するかは、ユーザが選択できます。詳細は、[268 ページ](#)の「[テーブル列の表示の変更](#)」を参照してください。

表示される列は以下のとおりです。

- [カテゴリ] テーブルのカテゴリです。カテゴリとは、**OVPI** のレポート機能によってテーブルのグループに割り当てられる標準のコードです。レポートのタイプに基づいて、複数のテーブルをグループにすることができます。最後に追加したカテゴリは、リストの末尾に表示されます。
- [エイリアス名]: データベース内のテーブルの、論理的かつ一意な、内容を表した名前です。
- [SQL 名]: **SQL Server** がテーブルを識別するための名前です。SQL クエリにはこの名前を使用します。
- [ビューである]: この項目がオンの場合は、選択されているテーブルが、データテーブルをクエリするために作成されたビューになります。
- [タイプ]: このテーブルに格納されているデータのタイプです。タイプは、未処理 (**raw**)、レート、要約、予測、資産、ランク、ベースライン、**Lkeys**、アップロードのいずれかです。各タイプについての詳細は、[306 ページ](#)の[タスク 3](#)を参照してください。
- [時間タイプ]: データの時間タイプです。時間タイプは、ポーリング時、分以下、**5 分**、時単位、日単位、週単位、月単位、四半期単位、年単位のいずれかです。
- [時間帯]: テーブルのタイムゾーンです。

[サイズ (行数)]: テーブルの行数です。

[サイズ (KB)]: テーブルのサイズ (キロバイト単位) です。

[データの保持 (日数)]: テーブル内にデータを保持する日数です。この日数プラス 1 日が経過したデータは破棄されます。保持のためのオプションは以下のとおりです。

- [永続的に] – データは永久に削除されません。
- [n] – データはこの日数だけ保存されます。
- [デフォルト] – データはデフォルトの期間 (時間タイプの保持期間) だけ保持されます。この値は、[テーブルのデフォルトの設定] ダイアログボックスの [データを保持する日数] ボックスで設定します。デフォルトのデータ保持期間を変更するには、[271 ページの「データテーブルの保存期間の設定」](#)を参照してください。

プロパティテーブルの表示

データベース内の既存のプロパティテーブルを表示するには、テーブルマネージャの表示ペインで [プロパティテーブル] を選択します。以下の図は、[プロパティテーブル] を選択したときの表示ペインの表示結果の例です。

エイリアス名	SQL名	ビュー...	時間タイプ	機嫌が	サイズ(行数)
ComPropTab Procedure Log Property Table	KREPORTPACKPROLOG	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	2
ComPropTab Customer Property Table	K_CUSTOMER	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	2
ComPropTab Location Property Table	K_LOCATION	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	2
ComPropTab Node Property Table	K_NODE	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	2
ComPropTab Customer Property View	KV_CUSTOMER	<input checked="" type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	0
ComPropTab Location Property View	KV_LOCATION	<input checked="" type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	0
ComPropTab Node Property View	KV_NODE	<input checked="" type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	0
IR iType Configuration Property Table	KIR_PROTOCOL_CONFIG	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	225
IR Interface Property Table	KIRDEVPORTS	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	1
IR Interface Property View	KV_IRDEVPORTS	<input checked="" type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	0
IR Interface Property Import Table	K_IRPROPERTY	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	1
IR Configuration Settings Property Table	KIR_CONFIG	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	4
IR Auto Customer Property Table	KIRCLUST	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	2
IR Customer Property View	KV_IRCLUST	<input checked="" type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	0
IR Hourly Process Perf Property Table	KIRHPERFORMANCE	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	6
IR Daily Process Perf Property Table	KIRDPERFORMANCE	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	7
IR Procedure Log Property Table	KIR_PROCEDURELOG	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	1
IR Device by Customer Property Table	KIRDEVICE	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	1
IR Device by Customer Property View	KV_IRDEVICE	<input checked="" type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	0
IR Vendor Property Import Table	KIRVENDOR	<input type="checkbox"/>	プロパティ	<input type="checkbox"/>	12280

表示される列は以下のとおりです。

- [エイリアス名]: データベース内のテーブルの、論理的かつ一意な、内容を表した名前です。
- [SQL名]: **SQL Server** がテーブルを識別するための名前です。**SQL** クエリにはこの名前を使用します。
- [ビューである]: この項目がオンの場合は、選択されているテーブルが、1つまたは複数のデータテーブルをクエリしたときに作成される実際のビューになります。
- [タイプ]: テーブルに格納されているデータのタイプです。プロパティテーブルの場合は、値は常に[**プロパティ**]です。
- [標準である]: この項目がオンの場合は、**OVPI** データベースの標準のテーブルです。
- [サイズ(行数)]: テーブルの行数です。
- [サイズ(KB)]: テーブルのサイズ(キロバイト単位)です。

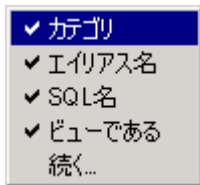
テーブル列の表示の変更

テーブルの列を表示するかどうかと、テーブル内の列の表示順序を、変更できます。

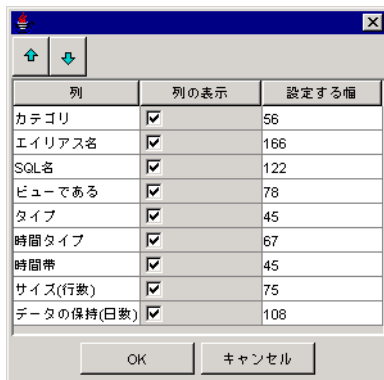
テーブル列の表示形態を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 テーブル列の名前のいずれかを右クリックします。

ショートカットメニューに、以下の図のように、使用可能な、列の見出しがいくつか表示されます。



- 2 [**続く**] をクリックすると、以下の図のように、すべての見出しが一覧表示されます。



- 3 列の順序を変更するには、列名を選択し、その列が希望の位置にくるまで または をクリックします。
- 4 列を非表示にするには、列名の横にある [**列の表示**] オプションをオフにします。
- 5 現在非表示になっている列を表示するには、列名の横にある [**列の表示**] オプションをオンにします。
- 6 列の幅を変更するには、以下の手順を実行します。
- a 列の [**設定する幅**] ボックスをダブルクリックします。
 - b 現在の値を削除し、新しい値を入力します。
- 7 [**OK**] をクリックします。

データと内部テーブルの詳細の表示

データまたは内部テーブルに関する詳細情報を表示するには、テーブルマネージャの表示ペインでテーブルをダブルクリックします。

たとえば、`rate_IR_property` テーブルの詳細情報を表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 テーブルマネージャのナビゲーションペインで [**データテーブル**] フォルダーと [**カテゴリ**] フォルダーを展開し、[**Interface_Reporting**] をクリックします。

表示ペインに、**Interface_Reporting** カテゴリに関連付けられているすべてのテーブルが表示されます。

- 表示ペインで `[rate_IR_property]` テーブルをダブルクリックします。

図 1 のように、**[データテーブル詳細]** ダイアログボックスが開きます。



図 1 **[データテーブル詳細]** ダイアログボックス

[データテーブル詳細] ダイアログボックスを使用して、以下のことを実行できます。

- テーブルに関する情報を表示する
- 保存期間を設定する
- 説明を追加する
- テーブルの列に関する情報を表示する
- 対応するインデックスに関する情報を表示する

データテーブルの情報の表示

[データテーブル詳細] ダイアログボックス (270 ページの図 1) の **[テーブル情報]** ボックスには、選択されているテーブルのテーブル情報が表示されます。データテーブルの場合は、**[テーブル情報]** ボックスに、このデータまたは内部テーブルで使用されているプロパティテーブルの名前も表示されます。

データテーブルの保存期間の設定

[データテーブル詳細]ダイアログボックス (270 ページの図 1) の [格納時間] ボックスには、現在の OVPI でのデータの保存日数が表示されます。このデータの保存日数は変更できます。

データの保存期間を変更するには、以下のいずれかを実行します。

- [データを保持する日数] ボックスに、希望の日数を入力します。
指定した日数を経過したデータが、テーブルから自動的に削除されます。
- [データを永続的に保持する] を選択します。
このデータはテーブルから永久に削除されません。
- [デフォルトの格納時間の使用] を選択します。
このデータの時間タイプのデフォルト保持期間だけ、データが保持されます。

特定のテーブルの時間タイプのデフォルトの保持期間を表示、または変更するには、321 ページの「テーブルのデフォルトの設定」を参照してください。

データテーブルの説明の追加

[データテーブル詳細]ダイアログボックス (270 ページの図 1) の [説明] ボックスに、テーブルの説明を記入できます。[説明] ボックスに説明文を入力し [OK] をクリックします。説明文は最大 255 文字までです。

データテーブルの情報の表示

テーブルの列に関する詳細を表示するには、[データテーブル詳細]ダイアログボックス(270 ページの図 1)の[列]をクリックします。[列]ウィンドウが開きます。

エイリアス名	SQL名	データタイプ	SQLタイプ	資産列	オブジェクト識別子	空白可	デフォルト値
target_name	TARGET_NAME	srmp_char_string	varchar2(64)	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
request_ts	REQUEST_TS	unix_time	date	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
received_ts	RECEIVED_TS	unix_time	date	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
delta_time	DELTA_TIME	srmp_timeticks	number	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
user_name	USER_NAME	srmp_char_string	varchar2(8)	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
table_key	TABLE_KEY	srmp_char_string	varchar2(128)	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
report_type	REPORT_TYPE	srmp_char_string	varchar2(1)	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
received_usec	RECEIVED_USEC	srmp_gauge	number	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
cpmCPUTotalIndex	CPMCPUTOTALINDEX	srmp_integer	number	<input type="checkbox"/>	1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.1	<input checked="" type="checkbox"/>	
cpmCPUTotalPhysicalIndex	CPMCPUTOTALPHYSICALINDEX	srmp_integer	number	<input type="checkbox"/>	1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.2	<input checked="" type="checkbox"/>	
cpmCPUTotal5sec	CPMCPUTOTAL5SEC	srmp_gauge	number	<input type="checkbox"/>	1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.3	<input checked="" type="checkbox"/>	
cpmCPUTotal1min	CPMCPUTOTAL1MIN	srmp_gauge	number	<input type="checkbox"/>	1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.4	<input checked="" type="checkbox"/>	
cpmCPUTotal5min	CPMCPUTOTAL5MIN	srmp_gauge	number	<input type="checkbox"/>	1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.5	<input checked="" type="checkbox"/>	
dsj_key_id	DSJ_KEY_ID	numeric	number(10,0)	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
dsj_agg_type	DSJ_AGG_TYPE	seq_key	number(10,0)	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
ta_sysuptime	TA_SYSUPTIME	srmp_timeticks	number	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
ta_period	TA_PERIOD	unix_time	date	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	
ta_samples	TA_SAMPLES	srmp_integer	number	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	

[列]ウィンドウには、テーブル内の各列に、以下の情報が表示されます。

[エイリアス名]: テーブル内の列の、論理的かつ一意な、内容を表した名前です。

[SQL名]: テーブル内の列のSQL名です。

[データタイプ]: 各列のOVPIデータタイプです。各タイプについての詳細は、308 ページのタスク 4 を参照してください。

[SQLタイプ]: 列のデータのデータベースタイプです。各タイプについての詳細は、308 ページのタスク 4 を参照してください。

[資産列]: この項目がオンの場合は、この列に、アセット要約で使用されるアセットプロパティが含まれています。

[オブジェクト識別子]: MIB ツリーにおける、選択されているオブジェクトへのパスです。ピリオドで区切られた数字の列で表されます。SNMP コレクタに関連付けられている列にのみ MIB OID 値が表示され、それ以外の列ではこの項目は空欄である場合があります。

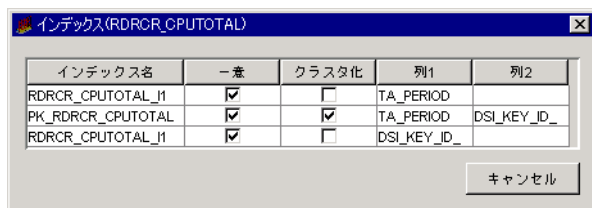
[空白可]: この項目がオンの場合は、この列は NULL の可能性があります。

[デフォルト値]: 列のデフォルト値です。

データテーブルのインデックス情報の表示

テーブルのインデックスに関する詳細を表示するには、[データテーブル詳細] ダイアログボックス (270 ページの図 1) の [インデックス] をクリックします。

[インデックス] ウィンドウが開きます。



[インデックス] ウィンドウには、テーブルの各インデックスに、以下の情報が表示されます。

[インデックス名]: テーブルのインデックスの名前です。

[一意]: この項目がオンの場合は、そのインデックスは一意です。

[クラスタ化]: この項目がオンの場合は、そのインデックスはクラスタ化されています。

[列 1]: インデックスの構築に使用される 1 つ目の SQL 名です。

[列 2]: インデックスの構築に使用される 2 つ目の SQL 名です。



インデックスの各要素ごとに列が表示されます。

プロパティテーブルの詳細の表示

プロパティテーブルに関する詳細情報を表示するには、テーブルマネージャの表示ペインでテーブルをダブルクリックします。

たとえば、[Customer Key Table] テーブルに関する詳細情報を表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 テーブルマネージャのナビゲーションペインで [プロパティテーブル] をクリックします。

表示ページに、すべてのプロパティテーブルが表示されます。

- 2 表示ペインで [Customer Key Table] テーブルをダブルクリックします。

図 2 のように、[プロパティテーブル詳細] ダイアログボックスが開きます。

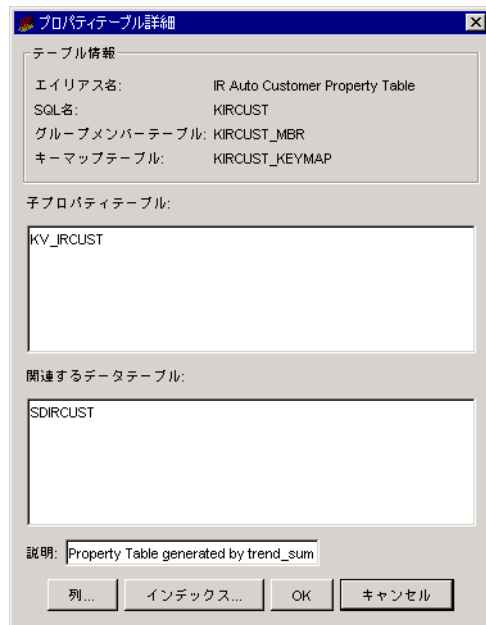


図 2 [プロパティテーブル詳細] ダイアログボックス

[プロパティテーブル詳細] ダイアログボックスを使用して、以下のことを実行できます。

- テーブルの情報を表示する

- 説明を追加する
- テーブルの列に関する情報を表示する
- 対応するインデックスに関する情報を表示する

プロパティテーブル情報の表示

[プロパティテーブル詳細]ダイアログボックス (274 ページの図 2) の [テーブル情報] ボックスには、プロパティテーブルに関する以下の情報が表示されます。

[エイリアス名]: データベース内のテーブルの、論理的かつ一意な、内容を表した名前です。

[SQL 名]: テーブルの SQL 名です。

[グループメンバータブル]: このプロパティテーブルの列挙リストグループに属する管理対象オブジェクトの、一覧を含むテーブルの名前です。

[キーマップテーブル]: ローカルサーバーのプロパティテーブル内容からリモートサーバーのプロパティテーブル内容への相互参照を含むテーブルの名前です。

このダイアログボックスには、以下の情報も一覧表示されます。

[子プロパティテーブル]: このプロパティテーブルを参照するプロパティテーブルのリストです。

[関連するデータテーブル]: このプロパティテーブルを使用するデータテーブルのリストです。

プロパティテーブルの説明の追加

[プロパティテーブル詳細]ダイアログボックス (274 ページの図 2) の [説明] ボックスに、テーブルの説明を記入できます。[説明] ボックスに説明文を入力し [OK] をクリックします。説明文は最大で 255 文字までです。

プロパティテーブルの列情報の表示

テーブルの列に関する詳細を表示するには、[データテーブル詳細]ダイアログボックス(274 ページの図 2)の[列]をクリックします。[列]ウィンドウが開きます。

エイリアス名	SQL名	SQLタイプ	収束キー変数	オブジェクトキー変数	外部キー	空白可	デフォルト値
dsi_key_id	DSI_KEY_ID	number(10,0)				<input type="checkbox"/>	
dsi_target_name	DSI_TARGET_NAME	varchar2(64)	1	1		<input type="checkbox"/>	
dsi_table_key	DSI_TABLE_KEY	varchar2(128)	2	2		<input type="checkbox"/>	
cust_fk	CUST_FK	number(10,0)			K_CUSTOMER.DSI_KEY_ID	<input type="checkbox"/>	DEFAULT 1.0
dsi_descr	DSI_DESCR	varchar2(255)				<input checked="" type="checkbox"/>	
dsi_status	DSI_STATUS	number(3,0)				<input type="checkbox"/>	DEFAULT 2
dsi_status_time	DSI_STATUS_TIME	date				<input type="checkbox"/>	DEFAULT sysdate

[列]ウィンドウには、テーブル内の各列に、以下の情報が表示されます。

[エイリアス名]: テーブル内の列の、論理的かつ一意な、内容を表した名前です。

[SQL名]: テーブル内の列のSQL名です。

[SQLタイプ]: この列のデータのデータベースタイプです。各タイプについての詳細は、308 ページのタスク 4 を参照してください。

[変数別収集]: テーブル内のコレクタの一意キーを構成する列の順序です。この列が空の場合は、この列はテーブルのコレクタキーに含まれていません。

[オブジェクト別変数]: テーブル内の行の一意キーを構成する列の順序です。この列が空の場合は、この列はテーブルのオブジェクトキーに含まれていません。

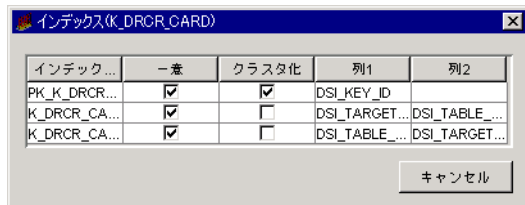
[外部キー]: 列が外部キーの場合、データを含む親テーブルと列の名前です。フォーマットは *parent_table.column_name* です。

[空白可]: この項目がオンの場合は、この列はNULLの可能性がります。テーブルの[変数別収集]列または[オブジェクト別変数]列に値がある場合は、[空白可]列は選択できません。

[デフォルト値]: 列のデフォルト値です。

プロパティテーブルのインデックス情報の表示

テーブルのインデックスに関する詳細を表示するには、[プロパティテーブル詳細]ダイアログボックス(274ページの図2)の[インデックス]をクリックします。[インデックス]ウィンドウが開きます。



[インデックス]ウィンドウには、テーブルの各インデックスに、以下の情報が表示されます。

[インデックス名]: テーブルのインデックスの名前です。

[一意]: この項目がオンの場合は、インデックスが一意です。

[クラスタ化]: この項目がオンの場合は、インデックスがクラスタ化されています。

[列 1]: インデックスの構築に使用される 1 つ目の SQL 名です。

[列 2]: インデックスの構築に使用される 2 つ目の SQL 名です。



各プロパティテーブルには、少なくとも 2 つの一意なインデックスがあります。[変数別収集]と[オブジェクト別変数]が、参照する列のインデックスを構築します。[変数別収集]と[オブジェクト別変数]のインデックスに、同じ列がある場合は、リストにはインデックスが 1 つだけ表示されます。これらのインデックスに、異なる列がある場合は、リストには少なくとも 2 つのインデックスが表示されます。また、インデックスの各要素ごとに列が表示されます。

テーブルデータの表示

テーブルマネージャの[テーブル内容の表示]オプションを使用すると、OVPI データベース内のデータを調べることができます。この場合は、データ、プロパティ、および内部テーブルのデータを表形式で表示できます。これらのレポー

トは、さまざまな順序で表示されている値や比較用にグループ化されている値を一覧表示する場合に便利です。特に、例外レポートで役立ちます(たとえば、超過したしきい値を表示するとき)。

表示されるデータのタイプとその表示形態を変更し、それを **OVPI** レポートフォーマット (.rep または .srep) として保存することも可能です。保存したレポートは、**OVPI** クライアントアプリケーション (**Web** アクセスサーバー、レポートビルダ、およびレポートビューア) のいずれかを使用して表示できます。さらに、これらのレポートを印刷でき、データを別のフォーマット (**CSV** と **ASCII**) でエクスポートしてスプレッドシートやその他のアプリケーションに移動することもできます。

レポートの表示

テーブルデータを選択し、そのデータを基にレポートを生成するには、以下の手順に従います。

- 1 該当する行を強調表示してテーブルを選択します。
- 2 テーブルマネージャの [表示] メニューから [**テーブル内容の表示**] をクリックし、既存のレポートがある場合はそのレポートを選択し、ない場合は [**<テーブル名>の新しいビューの作成**] を選択します。

ウィンドウが開き、選択されたテーブルのデータが表形式で表示されます。ウィンドウのタイトルバーにはテーブルの名前が表示されます。

KeyID	Target Name	Table Key	comm_string_id	snmp_profile_id
1	default	0	1	1
5,000,013	15.128.9.128	0	1	1
5,000,014	15.128.9.129	0	1	1
5,000,018	15.13.104.6	0	1	1
5,000,028	15.146.8.21	0	1	1
5,000,037	15.16.122.32	0	1	1
5,000,046	15.197.201.0	0	1	1
5,000,049	15.2.114.242	0	1	1

メニューの使用

[データテーブル]ウィンドウには、[ファイル]、[表示]、[クエリ]の各メニューがメニューバーに表示されます。これらのメニューのオプションを使用して、レポートへのデータの表示形態を変更できます。

表 1 に、[ファイル]メニューのオプションを示します。

表 1 [ファイル]メニューのオプション

オプション	説明
[印刷] (CTRL+P)	[印刷]ダイアログボックスが開きます。ここでレポートを印刷できます。プリンタ、レポート上の印刷対象部分、および印刷部数を選択できます。
[印刷の設定]	[ページ設定]ダイアログボックスが開きます。ここで、用紙サイズ、プリンタ内の用紙の場所、ページ上のレポートの位置、およびページの印刷領域を指定できます。
[保存] (CTRL+S)	テーブルデータを現在のファイル名で保存します(レポートを初めて保存する場合は、[保存]ダイアログボックスが表示されます)。
[別名保存]	[保存]ダイアログボックスが開きます。ここでテーブルデータを .rep または .srep レポートとして保存できます。
[エクスポート]	[データテーブルのエクスポート]ダイアログボックスが開きます。ここで、レポートのデータを CSV (.csv) または ASCII (.txt) ファイルにエクスポートできます。
[閉じる]	データテーブルが表示されているウィンドウを閉じます。

表 2 に、[表示] メニューのオプションを示します。

オプション	説明
[統計値のプロパティ]	サブメニューが表示され、統計を選択できます。統計を選択すると [統計値のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。ここで、レポート上の統計プロパティの表示形態を変更できます。フォントとフォントサイズを変更できます。テキストを太字または斜体にできます。テキストの色、統計の列の位置揃え、および統計データの位置揃えを変更できます。
[セルのプロパティ]	[セルのプロパティ] ダイアログボックスが表示され、テーブルセルの各種プロパティを変更できます。
[列ラベルのプロパティ]	[列ラベルのプロパティ] ダイアログボックスが表示され、ここでテーブル列の各種プロパティを変更できます。
[行ラベルのプロパティ]	[行ラベルのプロパティ] ダイアログボックスが表示され、ここでテーブル行の各種プロパティを変更できます。

表 3 に、[クエリ] メニューのオプションを示します。

オプション	説明
[統計値の選択]	[統計値の選択] ダイアログボックスが開き、ここで、表示するデータの統計を選択できます。
[統計値の順序付け]	[統計値の順序付け] ダイアログボックスが開き、ここでテーブル内の統計の表示順序を変更できます。
[ソート順序]	[ソート順序] ダイアログボックスが開き、データベースから返されるデータのソート順を選択できます。

表3 [クエリ]メニューのオプション(続き)

オプション	説明
[期間の変更]	[期間の設定]ダイアログボックスが開き、ここで、表示するデータの期間を選択できます。このオプションは、データテーブルでのみ使用できます。
[制約の変更]	[制約の変更]ダイアログボックスが開き、ここで制約および演算子を、追加、修正、削除できます。
[制約値の変更]	[制約値の変更]ダイアログボックスが開き、ここで制約の値のみを変更できます。
[ノード/インタフェースの選択]	[ノード/インタフェースの選択]ウィザードが表示されます。ここで、レポートを生成するためのデータの収集元となるノードおよびインタフェースを指定できます。
[最大行数の変更]	[最大行数の変更]ダイアログボックスが表示されます。ここで、表示するデータの列を制限できます。行数のデフォルトは50です。

データの管理

テーブルデータを印刷、保存、およびエクスポートできます。

テーブルデータの印刷

[ファイル]メニューの[印刷]または[印刷の設定]オプションを使用すると、テーブルデータを印刷し、レポート印刷の設定をすることができます。

データを印刷するには、以下の手順に従います。

- 以下のいずれかを実行します。
 - [ファイル]メニューの[印刷]をクリックします。
 - [Ctrl+P]キーを押します。

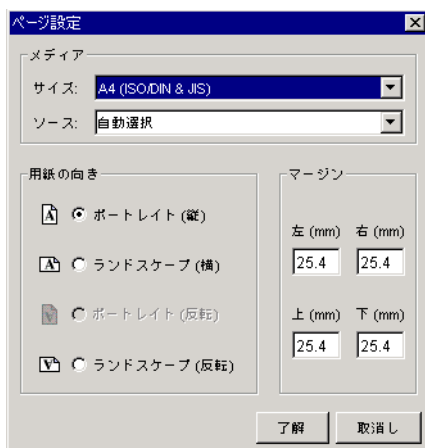
[印刷] ダイアログボックスが開きます。



- 2 必要な変更を加え、[OK] をクリックします。

印刷の設定を行うには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル] メニューから [印刷の設定] をクリックします。[ページ設定] ダイアログボックスが開きます。



- 2 必要な変更を加え、[OK] をクリックします。

テーブルデータの保存

テーブルデータを表示した後、そのデータを以下のいずれかの OVPI レポートフォーマットで保存できます。

- データセット (.srep)
- レポート定義 (.rep)

保存したレポートは、OVPI クライアントアプリケーション (Web アクセスサーバー、レポートビルダ、およびレポートビューア) のいずれかを使用して表示できます。

テーブルデータを保存するには、以下の手順に従います。

1 以下のいずれかを実行します。

- レポートを現在のファイル名で保存するには、[ファイル]メニューの[保存]を選択するか、[CTRL+S]キーを押します。
- レポートを別のファイル名またはフォーマットで保存するには、[ファイル]メニューの[別名保存]を選択します。

[ファイル]メニューの[別名保存]を選択した場合、またはレポートをまだ一度も保存していない場合は、[保存]ダイアログボックスが開きます。



2 以下のいずれかまたは両方を実行します。

- ファイル名を[ファイル名]ボックスに入力します。
- [ファイルタイプ]リストからレポートフォーマットを選択します。

3 [保存]をクリックします。

テーブルデータのエクスポート

[データテーブル] ウィンドウに表示されているデータを、値をカンマで区切ったファイル (CSV) またはテキストファイル (タブ区切り) にエクスポートできます。

データテーブルをエクスポートするには、以下の手順に従います。

- 1 推奨 (必須ではない): [クエリ] メニューから [最大行数の変更] を選択し、[最大行数] ボックスに 0 (ゼロ) と入力し [OK] をクリックします。こうすることで、制約を設定したデータセットが確実に利用できるようになります。
- 2 [ファイル] メニューから [エクスポート] オプションを選択します。図 3 は、[エクスポート] ダイアログボックスを示しています。

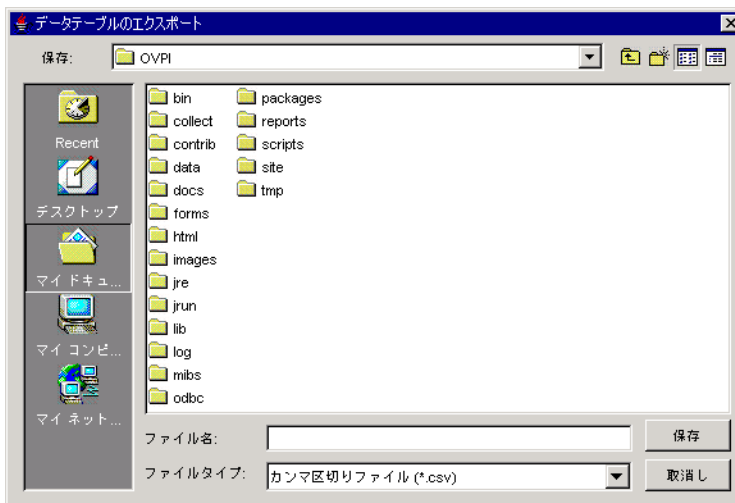


図 3 [データテーブルのエクスポート] ダイアログボックス

- 3 ファイルの保存先に移動します。
- 4 [ファイルタイプ] リストからファイルタイプを選択します。
- 5 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 6 [保存] をクリックするとデータがエクスポートされます。

データのフォーマット設定

テーブルデータの表示フォーマットを変更するには、[表示]メニューのオプションを使用して、データの統計、セル、列、および行のフォーマットを変更します。

統計のフォーマット設定

テーブル列での統計値の表示フォーマットを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [表示]メニューから[統計値のプロパティ]を選択します。
- 2 変更する統計を選択します。図4は[統計値のプロパティ]ダイアログボックスを示しています。

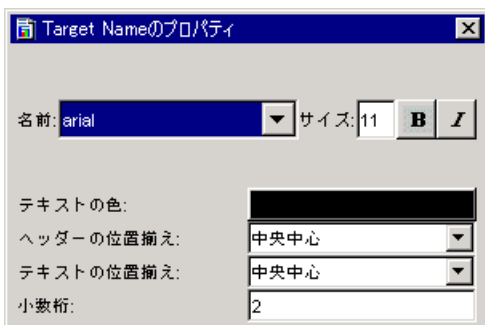


図4 [統計値のプロパティ]ダイアログボックス

- 3 以下を実行します。
 - a 統計値に使用するフォントを変更するには、[名前]リストからフォントを選択します。
 - b [サイズ]ボックスには、統計値に使用するフォントのサイズを入力します。
 - c 統計値を太字にするには[ボールド]ボタンをクリックします。
 - d 統計値を斜体にするにはイタリックボタンをクリックします。
 - e [テキストの色]ボックスをクリックすると[色の選択]ダイアログボックスが表示されます。ここで統計値の色を選択できます。

- f テーブル列の見出し上での統計の名前の位置を指定するには、[ヘッダーの整列]リストから位置揃えのオプションを選択します。
 - g 統計の見出しの下の方に表示される統計のテキストの位置を指定するには、[テキストの整列]リストから位置揃えのオプションを選択します。
- 4 [OK]をクリックすると、変更が適用されます。

セルのフォーマット設定

テーブルセルのプロパティを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [表示]メニューから[セルのプロパティ]を選択します。図 6 は[セルのプロパティ]ダイアログボックスを示しています。

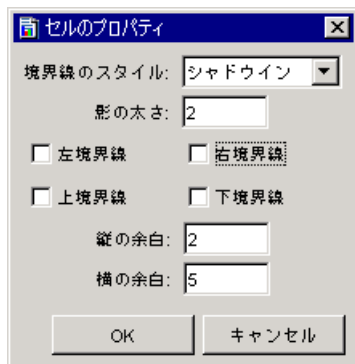


図 5 [セルのプロパティ]ダイアログボックス

- 2 以下のいずれかを実行します。
 - a テーブルセルの枠を指定するには、[境界線のスタイル]リストから値を選択します。デフォルトでは[シャドウアウト]に設定されています。
 - ▶ オプション[左境界線]、[右境界線]、[上境界線]、または[下境界線]を選択して、枠を表示してください。
 - b 手順 a で選択した枠の幅を設定するには、[影の太さ]ボックスに値を入力します。
 - c 以下のいずれかを選択します。
 - [左境界線]: 手順 a で選択した枠のスタイルが、各セルの左側の枠に表示されます。

- [右境界線]: 手順 a で選択した枠のスタイルが、各セルの右側の枠として表示されます。
- [上境界線]: 手順 a で選択した枠のスタイルが、各セルの上の枠として表示されます。
- [下境界線]: 手順 a で選択した枠のスタイルが、各セルの下の枠として表示されます。

たとえば、枠のオプションをすべて選択し、[境界線のスタイル]オプションを[シャドウアウト]に設定した場合は、テーブルのセルは以下の図のように表示されます。

Key ID	Target Name	Table Key	COMM_STRING_ID	SNMP_PROFILE_ID
1.00	default	0	1.00	1.00
21.00	16.116.4.40	0	1.00	1.00
22.00	16.116.4.60	0	1.00	1.00
23.00	ovpidocpeg	0	1.00	1.00
24.00	zko01006.americas.hpqcorp.net	0	1.00	1.00
25.00	16.116.4.135	0	1.00	1.00
26.00	16.116.4.144	0	1.00	1.00
27.00	zkosecuritypc3.americas.cpqcorp.net	0	1.00	1.00
28.00	pns0006.americas.hpqcorp.net	0	1.00	1.00
29.00	bulldozer.americas.hpqcorp.net	0	1.00	1.00

- d セルの各行の間の空間を増減させるには、[縦の余白]ボックスに値を入力します。たとえば 10 と入力すると、たとえば以下の図のように、各行の間の空間が広がります。

Key ID	Target Name	Table Key	COMM_STRING_ID	SNMP_PROFILE_ID
1.00	default	0	1.00	1.00
21.00	16.116.4.40	0	1.00	1.00
22.00	16.116.4.60	0	1.00	1.00
23.00	ovpidocpeg	0	1.00	1.00
24.00	zko01006.americas.hpqcorp.net	0	1.00	1.00
25.00	16.116.4.135	0	1.00	1.00
26.00	16.116.4.144	0	1.00	1.00
27.00	zkosecuritypc3.americas.cpqcorp.net	0	1.00	1.00

- e テーブルの各列の間の空間を増減させるには、[横の余白]ボックスに値を入力します。

- 3 [OK] をクリックすると、変更が適用されます。

列のフォーマット設定

レポートをより見やすくするために、レポート内の列の順序、各列の幅、および列のプロパティを変更できます。

列の順序の変更

自分の配置したい順序で、レポートの左側に列を移動すると、レポートがより見やすくなります。たとえば、使用率のレポートを、使用率レベルと 1 日のうちの時刻 ([Received Time]) に基づいて表示する場合は、**Utilization** 列をレポートの左端に置き、**[Received Time]** 列を **Utilization** の右隣に置きます。固定の **Time Period** 列の左側に各列をドラッグすることで、列を移動します。

テーブル列の順序を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 移動する、列の見出しの上にポインタを置きます。
- 2 左マウスボタンを押し、列の上でポインタを左、または右の方向にドラッグします。

ポインタを動かすと、ドラッグしている列が他の列を飛び越えて (ポインタのドラッグ方向に応じて左または右に) 移動します。
- 3 マウスの左ボタンを放します。
- 4 さらに別の列を移動する場合は手順 1 ~ 3 を繰り返します。

列の幅の変更

列の幅を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 幅を変更したい列とその隣の列との間にポインタを置きます。ポインタが両方向の矢印に変わります。
- 2 両方向の矢印をドラッグして、列を希望のサイズに調整します。

列のプロパティの変更

テーブル列のプロパティを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [表示]メニューから[列ラベルのプロパティ]を選択します。図6は[列ラベルのプロパティ]ダイアログボックスを示しています。

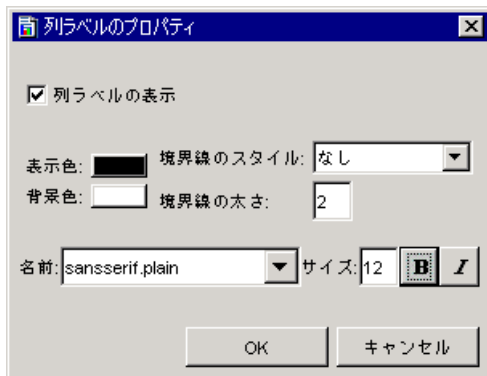


図6 [列ラベルのプロパティ]ダイアログボックス

- 2 以下のいずれかを実行します。
 - a [表示色]ボックスをクリックすると[色の選択]ダイアログボックスが表示されます。ここで、列名の色を変更できます。デフォルトでは、表示色は黒です。
 - b [背景色]ボックスをクリックすると[色の選択]ダイアログボックスが表示されます。ここで、列名が含まれているボックスの色を変更できます。デフォルトでは、背景色は白です。
 - c 列名の周りの枠を指定するには、[境界線のスタイル]リストから値を選択します。

デフォルトは[なし]であり、列の見出しのボックスには枠は表示されません。たとえば[シャドウアウト]を選択すると、列の見出しのボックスは以下の図のようになります。

Target Name

- d 手順cで枠のスタイルを選択した場合は、[境界線の太さ]オプションで枠の幅を制御できます。デフォルトは2です。
- e 列の見出しに使用するフォントを変更するには、[名前]リストからフォントを選択します。

- f [サイズ]ボックスには、列の見出しに使用するフォントのサイズを入力します。
- g 列の見出しのテキストを太字にするには[**ゴールド**]ボタンをクリックします。
- h 列の見出しのテキストを斜体にするには *イタリック* ボタンをクリックします。
- i 列の見出しを非表示にする場合は [**列ラベルの表示**] ボックスをオフにし、列の見出しを表示する場合は [**列ラベルの表示**] ボックスをオンにします。

3 [OK] をクリックすると、変更が適用されます。

行のフォーマット設定

- 1 [表示]メニューから [**行ラベルのプロパティ**] を選択します。図 7 は [行ラベルのプロパティ] ダイアログボックスを示しています。

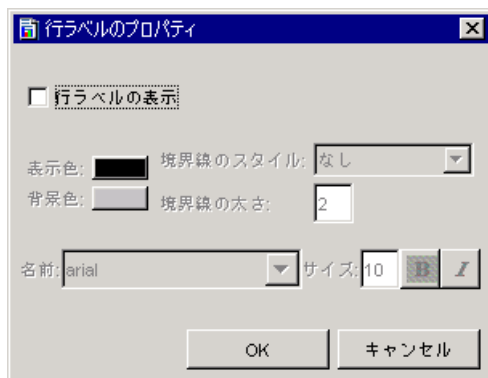


図 7 [行ラベルのプロパティ] ダイアログボックス

▶ [行ラベルのプロパティ] ダイアログボックスは、図 6 の [列のプロパティ] ダイアログボックスとほとんど同じです。

- 2 [行ラベルの表示] オプション以外のオプションについては、289 ページの「列のプロパティの変更」の各手順を参照してください。
- 3 行の見出しを表示する場合は [**行ラベルの表示**] ボックスをオンにし、行の見出しを非表示にする場合は [**行ラベルの表示**] ボックスをオフにします。
- 4 [OK] をクリックすると、変更が適用されます。

テーブルクエリの変更

さまざまなデータベースクエリ情報を指定することで、レポートに含める情報を変更できます。[データテーブル]ウィンドウの[クエリ]メニューを使用すると、統計の選択、期間の変更、制約の追加および削除、制約値の変更、ノードとインタフェースのいずれか一方または両方の選択、返される最大行数の変更といった操作が可能です。



統計の選択

特定のテーブルデータに関して表示される統計を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[統計値の選択]を選択します。

[統計値の選択]ダイアログボックスが開き、レポートに現在表示されている統計が一覧表示されます。



- 2 統計を選択するには、[次から選択]ボックスで統計をダブルクリックするか、**または**統計を選択し  をクリックします。
- 3 [選択された統計値]ボックスから統計を削除するには、[選択された統計値]ボックスで統計をダブルクリックするか、**または**統計を選択し  をクリックします。
- 4 必要な統計の選択が完了したら [OK] をクリックします。

レポート内のデータのソート





データベースから返されるデータのソート順を選択できます。異なるフィールドを使用してレポートをソートしたり、降順ではなく昇順でソートしたりできます。

OVPI のデータは時刻と関連しているため、データのデフォルトのソート順は、ターゲット名のターゲット名テーブルキーと、テーブルキーの受信タイムスタンプ（最新から古い順序）に基づきます。ほとんどのレポートは特定のデバイスに対して実行されるため、タイムスタンプが重要なソートフィールドとなります。

統計をソートするには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[ソート順序]を選択します。[ソートの設定]ダイアログボックスが開きます。



- 2 リストに統計を追加するには、以下の手順を実行します。
 - a  ボタンをクリックします。[統計値]と[ソート順序]にボックスが追加されます。
 - b ボックスをクリックし、統計のリストから追加する統計を選択します。
- 3 データのソート順を変更するには、各統計の横にある[ソート順序]ボックスをクリックし、リストから以下のいずれかを選択します。
 - 統計を昇順にソートするには[昇順]をクリックします。
 - 統計を降順にソートするには[降順]をクリックします。
- 4 リストから値を削除するには、 ボタンをクリックします。
- 5 リスト内の統計の順序を変更するには、以下のいずれかを実行します。
 - 統計をリスト内で上へ移動するには、 ボタンをクリックします。
 - 統計をリスト内で下へ移動するには、 ボタンをクリックします。
- 6 [OK]をクリックします。

期間の変更

レポートに表示するデータの期間を変更できます。絶対期間(特定の日時)または相対期間(データを表示している現時点から見て何日前か)から選択できます。

絶対時間の選択

絶対期間は、具体的な開始時刻と終了時刻を指定します。

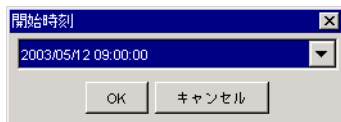
絶対期間を選択するには、以下の手順に従います。

- 1 期間を変更するには、[クエリ]メニューから[期間の変更]を選択します。
[期間の設定]ダイアログボックス(図8)が開きます。

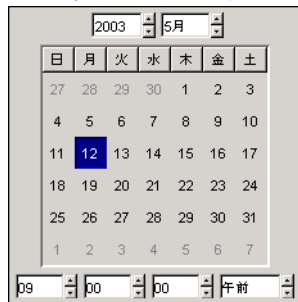
- 2 [絶対時間の使用]をクリックします。

[期間の設定]ダイアログボックスに表示される[使用可能なデータ]の開始時刻と終了時刻は、データベースにある使用可能データの範囲です。

- 3 [開始時刻]ボックスまたは[終了時刻]ボックスの横にある、[参照]ボタンをクリックします。以下のようなウィンドウが開きます。



- 4 下矢印をクリックすると、以下のようなカレンダーが表示されます。



- 5 [月]と[年]の矢印をクリックして、月と年を選択します。
- 6 [時]、[分]、[秒数]、[午前/午後]の各矢印をクリックして、時刻を選択します。
- 7 カレンダー内の日付をクリックします。

日付をクリックするとカレンダーウィンドウが閉じ、選択した日付と時刻が [開始時刻] (または [終了時刻]) ウィンドウに表示されます。変更が必要な場合は、下矢印をクリックしてカレンダーを再び開くことができます。

8 [OK] をクリックします。

相対期間の選択

相対期間とは、データを表示する時点からの期間です。

相対期間を選択するには、以下の手順に従います。

- 1 期間を変更するには、[クエリ] メニューから [期間の変更] を選択します。
[期間の設定] ダイアログボックス (図 8) が開きます。

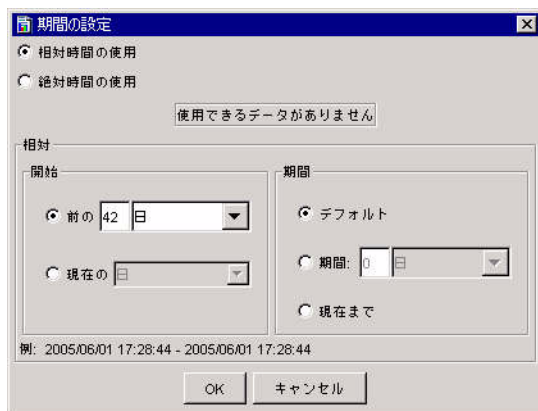


図 8 [期間の設定] ダイアログボックス

- 2 [相対時間の使用] をクリックします。
- 3 [開始] ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - 現在の期間を選択するには、[現在の < 期間単位 >] ボタンをクリックします。**期間単位**を選択するコンボボックスの矢印ボタンをクリックして、期間単位を選択します。たとえば、期間が [今週] の場合は、現在の週のデータがレポートに表示されます。
 - 以前の期間を選択するには、[前の n < 期間単位 >] ボタンをクリックします。数値をボックスに入力し、[期間] の矢印をクリックし、オプションを選択します。たとえば、期間が [前の 1 週] の場合は、現在の日付からみた先週について、丸 1 週間 (日曜から日曜まで) のデータがレポートに表示されます。

- 4 [期間]ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - デフォルトの継続期間を使用するには、[**デフォルト**]をクリックします。
 - 継続期間を設定するには、[**期間**]をクリックします。数値をボックスに入力し、[**期間**]の矢印をクリックし、オプションを選択します。
 - 選択した期間から現在時刻までのデータを表示するには、[**現在まで**]をクリックします。たとえば、今日が木曜であり、期間として1週を選択した場合は、先週(日曜から日曜まで)から今週の木曜までのデータがレポートに表示されます。
- 5 [OK]をクリックします。

制約の追加

*制約*はグラフまたはテーブルのデータがデータベースから取り出される方法を指定します。基本制約またはカスタム制約を作成できます。*基本制約*は統計、演算子、および値で構成されます。*カスタム制約*には任意の有効な **SQL** 式を含めることができ、基本制約とは違って制約の構造に制限がありません。

基本制約の追加

基本制約を追加するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[制約の変更]を選択します。図9は[制約の変更]ダイアログボックスを示しています。

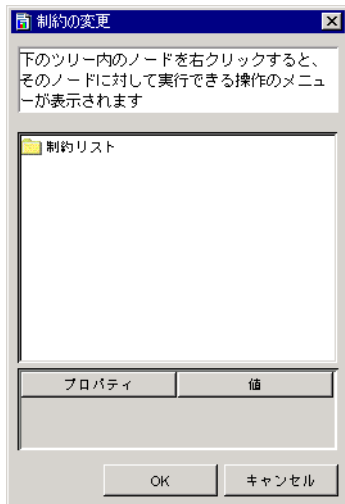


図9 [制約の変更]ダイアログボックス

- 2 [制約リスト]を右クリックし、ショートカットメニューの[制約の追加]をクリックします。図10は[制約の追加]ダイアログボックスを示しています。



図10 [制約の追加]ダイアログボックス

- 3 [制約の追加]ダイアログボックスで以下を実行します。
 - a [統計値]の矢印をクリックし、統計を選択します。

- b [演算子]の矢印をクリックし、演算子を選択します。
- c [値]ボックスに値を入力します。使用可能な場合はパラメータを選択することもできます(パラメータの作成の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください)。

4 [OK]をクリックします。

カスタム制約の追加

カスタム制約には任意の有効な SQL 式を含めることができ、構造上の制限はありません。

カスタム制約を追加するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[制約の変更]を選択します。[制約の変更]ダイアログボックスが開きます。図 9 を参照してください。
- 2 [制約リスト]を右クリックし、ショートカットメニューの[カスタム制約の追加]をクリックします。図 11 は[カスタム制約の追加]ダイアログボックスを示しています。

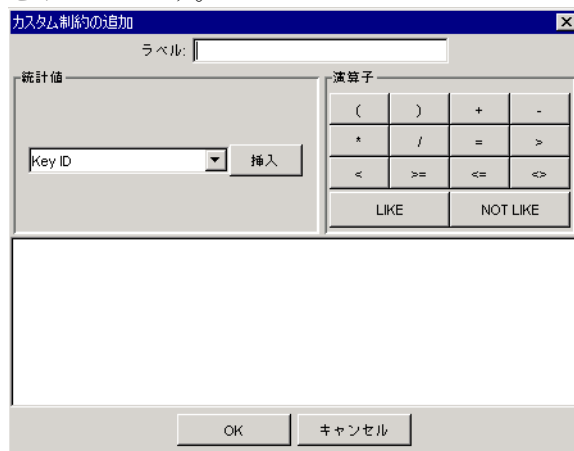


図 11 [カスタム制約の追加]ダイアログボックス

- 3 [ラベル]ボックスに制約のラベルを入力します。
- 4 [式]ボックスに制約の式を作成するには、以下を実行します。

- a [統計値]の矢印をクリックし、定義する統計を選択し、[挿入]をクリックします。
- b 任意の演算子をクリックします。
- c テキストを入力します。

5 [OK]をクリックします。

AND 句または OR 句の追加

AND 句と OR 句は、制約の処理方法が異なります。データベースでは、制約のリストは上から下への順に処理され、ブール論理にあてはめて、一致する行のリストが返されます。

AND 句または OR 句を追加するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[制約の変更]を選択します。[制約の変更]ダイアログボックスが開きます。図 9 を参照してください。
- 2 [制約リスト]を右クリックし、ショートカットメニューの[Add AND]または[Add OR]をクリックします。

制約のリストに、AND 句または OR 句が追加されます。

制約値の変更

制約の値のみを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[制約値の変更]を選択します。[制約値の変更]ダイアログボックスが開きます。図12を参照してください。



図12 [制約値の変更]ダイアログボックス

▶ 制約の値がパラメータの場合は、[値]ボックスにパラメータ名が斜体で表示されます。パラメータは編集する必要があります。パラメータを修正するには、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

- 2 [値]ボックスをダブルクリックし、新しい値を入力します。
- 3 [OK]をクリックします。

制約の変更

制約プロパティを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[制約の変更]を選択します。[制約の変更]ダイアログボックスが開きます。図9を参照してください。
- 2 変更する制約をクリックします。
その制約のプロパティと値が、ダイアログボックスの下半分に表示されます。
- 3 値を変更するには、プロパティの[値]ボックスをクリックします。
- 4 新しい値を入力または選択します。
- 5 [OK]をクリックすると、変更が適用されます。

制約および句の削除

制約または句を削除するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[制約の変更]を選択します。[制約の変更]ダイアログボックスが開きます。図9を参照してください。
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - 削除する句を右クリックし、ショートカットメニューの[句の削除]をクリックします。
 - 削除する制約を右クリックし、ショートカットメニューの[制約の削除]をクリックします。

ノードとインタフェースの選択

レポート用のデータを選択するときに、データの選択元とするノードとインタフェースを指定できます。[ノード/インタフェースの選択]ウィザードを使用して、選択したノードとインタフェースを変更できます。

選択したノードとインタフェースを変更するには、以下の手順に従います。

タスク 1: [ノード / インタフェースの選択] ウィザードを起動する

- 1 [クエリ]メニューから[ノード / インタフェースの選択]を選択します。[ノードの選択タイプを選択します]ページが開きます。





- 2 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - [ノードとインタフェースを個別に選択します]。[ノード / インタフェースの選択]ページが開きます。タスク 2 に進みます。
 - [ノードおよびインタフェースのグループを選択します]。[グループの選択]ページが開きます。302 ページのタスク 3 に進みます。
- 3 [次へ]をクリックします。

タスク 2: ノードとインタフェースを個々に選択する

以下のいずれかを実行します。

- すべてのノードからデータを収集するには、[すべてのノード / インタフェースの使用]を選択し[次へ]をクリックします。
- 特定のノードからのみデータを収集するには、[選択したノード / インタフェースの使用]を選択します。[次から選択]ボックスに、各ノードがフォルダーで表示されます。

ノードおよびインタフェースを選択するには、以下を実行します。

- a ノードのフォルダーを展開することで、そのインタフェースを表示します。
- b ノードまたはインタフェースを選択するには、以下のいずれかを実行します。
 - [次から選択]ボックスでノードまたはインタフェースをダブルクリックします。
 - [次から選択]ボックスでノードまたはインタフェースを選択し、をクリックします。
- c ノードまたはインタフェースを削除するには、以下のいずれかを実行します。
 - [選択されたノード/インタフェース]ボックスでノードまたはインタフェースをダブルクリックします。
 - [選択されたノード/インタフェース]ボックスでノードまたはインタフェースを選択し、をクリックします。
- d 必要なノードおよびインタフェースの選択が完了したら、[OK]をクリックします。
- e [次へ]をクリックします。タスク 4 に進みます。

タスク 3: ノードおよびインタフェースのグループを選択する

- 1 [グループ]ボックスからグループを選択します。[グループに対する管理対象オブジェクト]ボックスに、選択したグループのメンバーが表示されます。
- 2 [次へ]をクリックします。

タスク 4: ノードおよびインタフェースの概要を確認する

- 1 情報が正しいことを確認します。
- 2 必要に応じて、[戻る]をクリックして前のページに戻り、変更を行います。変更が完了したら、[次へ]をクリックして[概要]ページに戻ります。

- 3 [完了]をクリックします。



レポートを表示するときまで、ノードの選択を保留することもできます。ノードの選択を遅らせる方法の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

返される最大行数の変更

データベースに数千のデータエントリが格納されている場合、ディスク領域がギガバイト単位に及ぶことがあります。データベースから返され表示されるデータ量に、制約を設けることができます。返される行数のデフォルトは50です。

返されるデータはクエリの性質によって異なります。たとえば、時間を基準にして降順でデータをソートすることをクエリで指定した場合は、OVPIによって最新の50行のデータが表示されます。

表示するレポートの種類や、レポートのデータの分散状況によっては、データが50行を超える場合があります。ショートカットメニュー、またはレポートのコンポーネントツリーを使用して、表示される行数を変更できます。

ショートカットメニューを使用して行数を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [クエリ]メニューから[最大行数の変更]を選択します。図13は[最大行数の変更]ダイアログボックスを示しています。



図13 [最大行数の変更]ダイアログボックス

- 2 必要な行数を[最大行数]ボックスに入力し、[OK]をクリックします。

テーブルの作成

テーブルマネージャを使用して、カスタムデータテーブルとプロパティテーブルを作成できます。収集データテーブルも作成できますが、SNMP 収集テーブルを作成する場合は MIB ブラウザを使用する必要があります。詳細は [485 ページ](#)の「[収集テーブルの作成](#)」を参照してください。

収集データテーブルとは、データパイプから収集されたデータを格納するテーブルです。要約、ベースライン、予測テーブルなど他のテーブルを作成する場合は、[304 ページ](#)の「[データテーブルの作成](#)」を参照してください。また、プロパティテーブルを作成する場合は、[319 ページ](#)の「[プロパティテーブルの作成](#)」を参照してください。

テーブルには以下の要件があります。

- 最大幅は **1,962** 文字 (すべての列の文字数の合計) です。
- 最大列数は **250** 列です。データテーブルのオブジェクトを選択した場合は、デフォルトの列が **13** 列あるため、**13** 以上を設定してください。プロパティテーブルのオブジェクトを選択した場合は、デフォルトの列が **7** 列あるため、**7** 以上を設定してください。
- 各データテーブルには、対応するプロパティテーブルが必要です。リストから既存のプロパティテーブルを選択するか、新しいプロパティテーブルを作成することができます。新しいプロパティテーブルを作成する場合は、デフォルトのキー変数を使用するか別のキー変数を選択できます。


この項では、テーブルの作成の基本を説明します。テーブル作成に関する詳細は、『*Performance Insight TEEL Reference Guide*』（英語）を参照してください。このマニュアルには、テーブルの属性と TEEL ファイルの作成に関する情報が記載されています。

データテーブルの作成

カスタムデータテーブルを作成するには、以下の手順に従います。

タスク 1: テーブルの作成ウィザードを起動する

管理コンソールから、以下のいずれかの方法でテーブルの作成ウィザードを起動します。

-  をクリックし、メニューから [データテーブル] を選択します。
- [ファイル] メニューから [新規]、[データテーブル] の順に選択します。

タスク 2: 収集テーブルの名前を入力する

[収集名とエイリアスの入力] ページが開きます (図 14)。

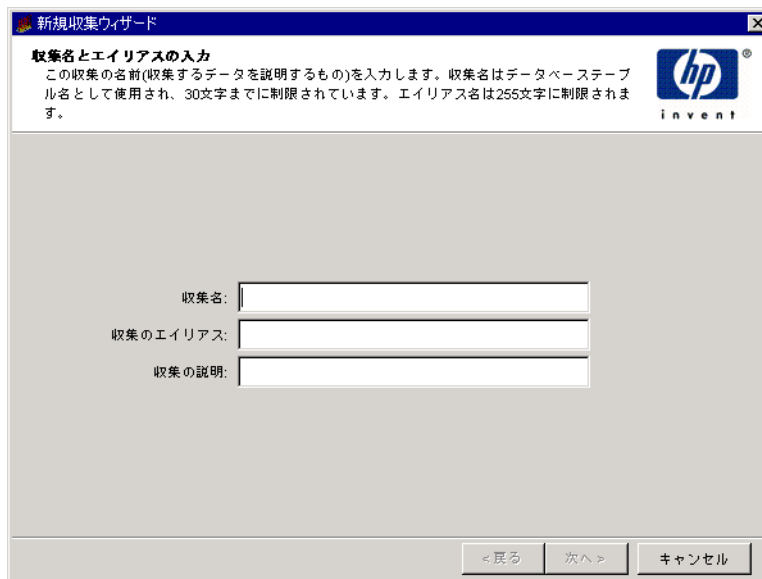


図 14 [収集名とエイリアスの入力] ページ

- 1 [収集名] ボックスに、テーブルの SQL 名を入力します。

最大 30 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できるのは、大文字/小文字のアルファベット、数字、特殊文字のアンダースコア (_) です。

- 2 [収集のエイリアス] ボックスに、テーブルのエイリアス名を入力します。

最大 255 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できるのは、大文字/小文字のアルファベット、数字、特殊文字のハイフン (-) とアンダースコア (_) です。

- 3 [説明]ボックスに、テーブルの説明を入力します。説明は省略することも可能です。説明は、最大 255 文字までです。
- 4 [次へ]をクリックします。

タスク 3: テーブルのテーブルカテゴリ、データパイプ、時間タイプ、テーブルタイプ、およびテーブル保持属性を選択する

[カテゴリの定義]ページが開きます(図 15)。

新規収集ウィザード

カテゴリの定義

テーブルのカテゴリ、時間タイプ、データパイプ、テーブルタイプ、および保持期間を、下の各フィールドから選択します。新規カテゴリまたはデータパイプのエントリを作成する場合は、そのデータだけを適切なフィールドに入力します。

収集テーブルのカテゴリ: default

データパイプ: dpipe_lrmon

時間タイプ: 5-minute

テーブルタイプ: レート

テーブルの保持(日数): デフォルト

<戻る 次へ> キャンセル

図 15 [カテゴリの定義]ページ

- 1 [収集テーブルのカテゴリ]ボックスで、カテゴリ名を入力または選択します。

このカテゴリ名によって、テーブルのセットをグループ化します。どの名前を選択するべきかを判断できない場合は、[デフォルト]を選択します。この名前は、最大 30 文字までです。
- 2 [データパイプ]ボックスで、データパイプ名を入力または選択します。

データパイプ名は、テーブルの収集プロパティを識別するためのものです。この名前は、最大 30 文字までです。

`dpipe_snmp` データパイプを使用する場合は、MIB ブラウザを使用してテーブルを作成する必要があります。詳細は、[485 ページの「収集テーブルの作成」](#)を参照してください。

3 [時間タイプ] ボックスで、テーブル内のデータの時間特性を選択します。

4 [テーブルタイプ] ボックスでテーブルタイプを選択します。

テーブルタイプは、テーブルに含まれているデータのクラスを指定するものです。以下に、使用可能なテーブルタイプのオプションを示します。

[ベースライン] テーブルにはベースラインデータが格納されます。

[イベント] テーブルにはイベントデータが格納されます。イベントデータは、独立イベントの付いた非時系列指向のデータです。

[予測] テーブルには予測データが格納されます。

[レート] テーブルには割合データが格納されます。割合データは、**raw** 入力データからの 1 対の行から算出される差分データです。

[未処理 (raw)] テーブルには **raw** (ポーリング時の) データが格納されます。

[要約] テーブルには要約データが格納されます。

5 [テーブルの保持(日数)] ボックスで、テーブル内にデータを保持する日数を入力または選択します。

テーブルのデータを永久に削除したくない場合は、[**デフォルト**] を選択します。


6 [**次へ**] をクリックします。

タスク 4: 収集の統計を定義する

[収集に対する統計値を手動で定義する] ページが開きます (図 16)。



図 16 [収集に対する統計値を手動で定義する] ページ

- 1  をクリックし、テーブルに追加する列を作成します。
- 2 [列] ボックスに、統計の名前を入力します。
統計名は最大 30 文字までで、アルファベット、数字、アンダースコアを使用できます。
- 3 [エイリアス] ボックスに、統計のエイリアス名を入力します。
エイリアス名は最大 255 文字までであり、アルファベット、数字、アンダースコア、ハイフンを使用できます。
- 4 [データタイプ] ボックスで値を選択します。
以下に、使用可能なデータパイプのオプションと、対応するデータベース記憶領域タイプを示します。

OVPI データタイプ

char_string

counter




Sybase データタイプ

varchar

float

counter_high	float
counter_low	float
counter64	float
double	float
enum	integer
float	float
gauge	float
hex_string	varchar
integer	float
ip_address	varchar(15)
numeric	numeric
object_id	varchar(128)
octet_string	varchar(128)
seq_key	integer
smalldatetime	smalldatetime
snm_float	float
snmp_char_string	varchar
snmp_counter	float
snmp_double	float
snmp_enum	integer
snmp_float	float
snmp_gauge	float
snmp_hex_string	varchar
snmp_integer	float
snmp_ip_address	varchar(15)
snmp_object_id	varchar(128)
snmp_octet_string	varchar(128)
snmp_snm_float	float

snmp_timeticks	float
timeticks	float
tinyint	tinyint
unix_time	datetime

- 5 必要に応じて、[長さ]ボックスに数値を入力します。
長さの値が有効なデータタイプは、char_string、hex_string、numeric、octet_string、snmp_char_string、snmp_hex_string、snmp_octet_stringです。
- 6 統計に NULL がありえる場合は、[ヌル可能]をクリックします。
- 7 [デフォルト]ボックスに、統計のデフォルト値を入力します。
値の長さは最大 255 文字までです。
- 8 [説明]ボックスに、統計の説明を入力します。
説明は省略することも可能です。説明は最大 255 文字までです。
- 9 データテーブル内の列の順序を変更する場合は、変更したい列を選択し以下を実行します。
 - 列を上へ移動するには、をクリックします。
 - 列を下へ移動するには、をクリックします。
 - プロパティテーブルから列を削除するには、をクリックします。
- 10 [次へ]をクリックします。

タスク 5: データテーブルに関連付けるプロパティテーブルを指定する

[プロパティテーブルとの関連付け] ページが開きます (図 17)。

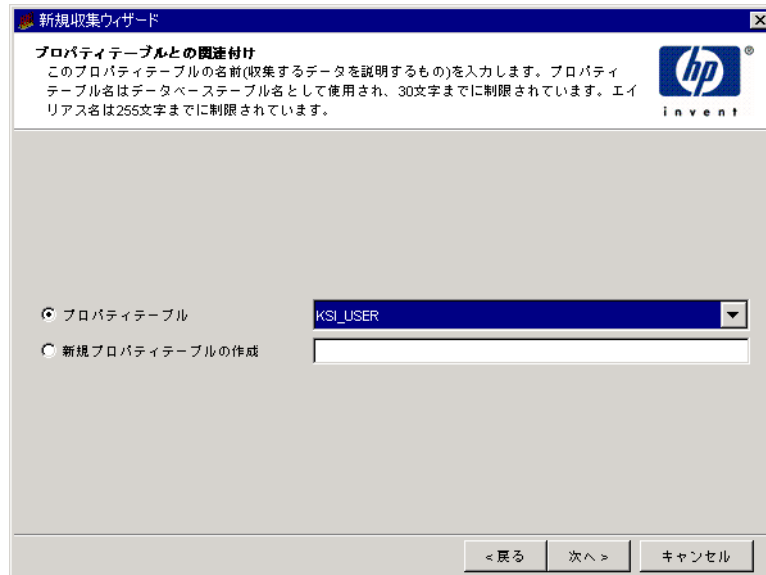


図 17 [プロパティテーブルとの関連付け] ページ

- 以下のいずれかを実行します。
 - [**新規プロパティテーブルの作成**] を選択し、新しく作成するプロパティテーブルの SQL 名を入力します。最大 30 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できる文字は、アルファベット、数字、アンダースコア (_) です。 [タスク 6](#) に進みます。
 - [**プロパティテーブル**] リストからプロパティテーブルを選択します。 [タスク 7](#) に進みます。
- [**次へ**] をクリックします。

タスク 6: プロパティ属性を定義する

[プロパティ属性の定義] ページが開きます (図 18)。



図 18 [プロパティ属性の定義] ページ

既存の列を使用してプロパティテーブルを作成することも、さらに列を追加することもできます。いずれの場合も、列の属性は変更できます。

プロパティテーブルの列を追加または変更するには、以下の手順に従います。

- 1 列を追加するには、 をクリックします。

既存のリストの末尾に、新しい列が 1 つ追加されます。[列] および [エイリアス] ボックスにはデフォルトの名前が [Column_n] と表示されます (n は数字であり、列を追加するたびに増えていきます)。

- 2 列の SQL 名を指定するには、[列] ボックスで名前を選択し新しい名前を入力します。

名前は最大 30 文字までで、アルファベット、数字、アンダースコアを使用できます。

- 3 列のエイリアス名を指定するには、[エイリアス]ボックスで名前を選択し新しい名前を入力します。

名前は最大 **255** 文字までであり、アルファベット、数字、アンダースコア、ハイフンを使用できます。

- 4 [データタイプ]ボックスをクリックし値を選択します。

使用可能なデータタイプのオプションとそれぞれに対応するデータベース記憶領域タイプについては、**308 ページの手順 4** を参照してください。

- 5 必要に応じて、[データ長]ボックスに数値を入力します。

長さの値が有効なデータタイプは、**char_string**、**hex_string**、**numeric**、**octet_string**、**snmp_char_string**、**snmp_hex_string**、**snmp_octet_string** です。

- 6 [オブジェクト別]ボックスをオンまたはオフにします。

このオプションをオンにした場合は、その列が、プロパティテーブル内の、要素を定義するプロパティの、一意な組み合わせに含まれていることとなります。この場合は、[ヌル可能]および[デフォルト値]ボックスは選択するべきではありません。

変数によるオブジェクトとして **dsi_target_name** 以外の列を指定した場合は、変数によるオブジェクトとして **dsi_table_key** は指定できません。変数によるオブジェクトの最初のものとして **dsi_target_name** を指定した場合にのみ、変数によるオブジェクトとして **dsi_table_key** を指定できます。

- 7 [収集別]ボックスをオンまたはオフにします。

このオプションをオンにした場合は、その列が、収集対象要素を定義する列の一意な組み合わせに含まれていることとなります。この場合は、[ヌル可能]および[デフォルト値]ボックスは選択するべきではありません。

変数別収集として **dsi_target_name** 以外の列を指定した場合は、変数別収集として **dsi_table_key** を指定することはできません。ただし、変数別収集の最初のものとして **dsi_target_name** を指定した場合にのみ、変数別収集として **dsi_table_key** を指定できます。

8 [ヌル可能] ボックスをオンまたはオフにします。

このオプションをオンにした場合は、この列は **NULL** の可能性があります。
[オブジェクト別] または [収集別] ボックスが選択されている場合は、このオプションは選択する必要がありません。

9 列のデフォルト値を設定する場合は、[デフォルト値] ボックスに値を入力します。

値の長さは最大 **255** 文字までです。この列が、変数によるオブジェクト、または変数別収集である場合は、このフィールドは空白にします。




10 以下のいずれかを実行します。


a この列に外部キー参照を含める場合は、[外部キー] リストからそのキーが含まれているプロパティテーブルを選択します。

b この列に外部キー参照を含めない場合は、[外部キー] リストから **[no fk]** を選択します。デフォルトは外部キーなしです。

11 列をキー変数として指定する場合は、キー変数の順序で列を挿入する必要があります(たとえば、リスト内の最初の列は **1** 番目のキー変数に対応させ、**2** 番目の列は **2** 番目のキー変数に対応させ、以下同様に列をキー変数に対応させます)。

プロパティテーブル内の列の順序を変更する場合は、変更する列を選択して以下を実行します。

- 列を上へ移動するには、 をクリックします。
- 列を下へ移動するには、 をクリックします。
- プロパティテーブルから列を削除するには、 をクリックします。

 オブジェクト別変数と変数別収集とが同じである場合は、プロパティテーブルのデフォルトは **6** 列のみです。

タスク7: 収集の出力ファイルを指定する

[出力ファイルの選択] ページが開きます (図 19)。

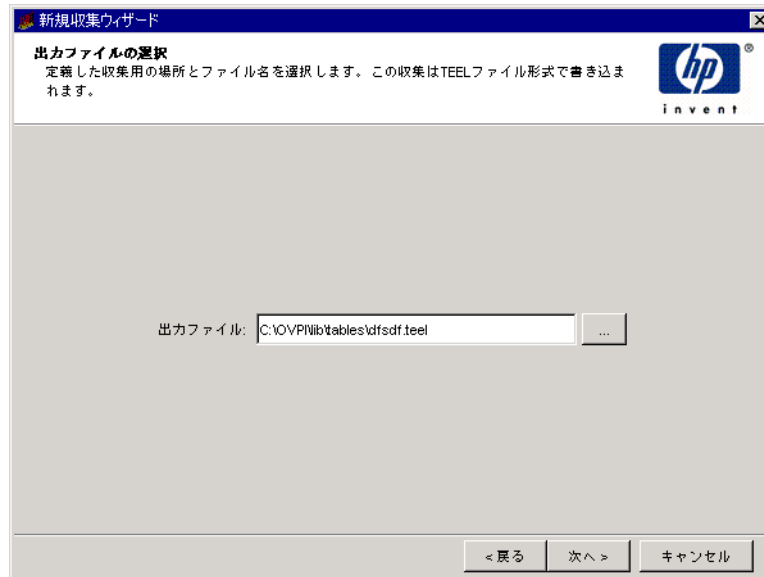



図 19 [出力ファイルの選択]

- 1 出力ファイルの名前と場所が正しいことを確認します。
- 2 ファイルの名前または場所を変更する場合は、以下のいずれかを実行します。
 - [出力ファイル] ボックスに新しい情報を入力します。
 -  をクリックします。[開く] ダイアログボックスが開きます。
ファイルの場所に移動してそのファイルをダブルクリックし、[開く] をクリックします。[出力ファイル] ボックスが、新しいファイル情報で更新されます。
- 3 [次へ] をクリックします。

タスク 8: 収集をデータベースに登録する

[データベースへの収集の追加] ページが開きます (図 20)。

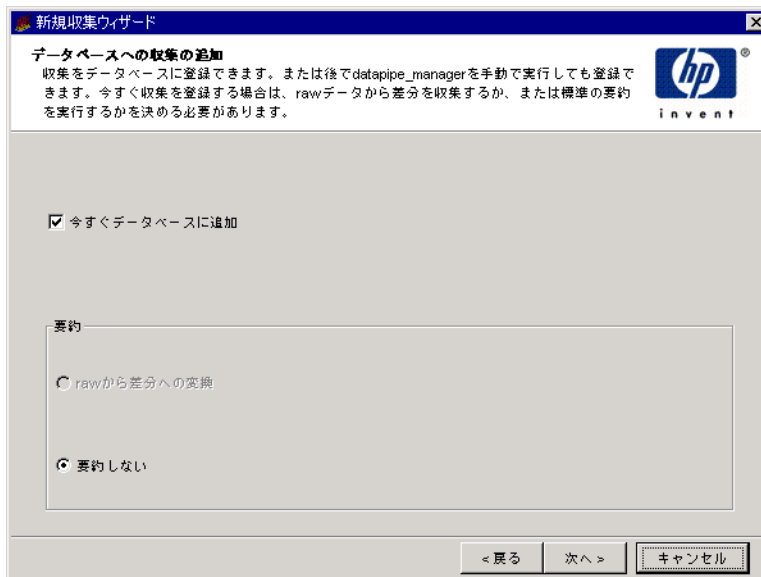


図 20 [データベースへの収集の追加] ページ

- 1 すぐにテーブルを生成してデータベースに追加する場合は、[**今すぐデータベースに追加**] を選択します。

このオプションをオフにした場合は、後からコマンド行で以下のコマンドを入力する必要があります。

```
datapipe_manager -p create -a teel_file
```

ここで *teel_file* は、315 ページのタスク 7 で指定した出力ファイルの名前です。

`datapipe_manager` コマンドについての詳細は、『*Performance Insight TEEL Reference Guide*』（英語）および『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

- 2 [要約] ボックスで、テーブル内のデータに対して実行する要約のタイプを選択します。

以下のオプションのいずれかをクリックします。

- [raw から差分への変換]

`raw` から差分への変換処理に必要なデータベースオブジェクトが生成されます。

手動で生成する場合は、この手順の[手順 1](#)のコマンドに `-r r2d` を付けます。

- [標準の要約]

`raw` から差分への変換処理とデフォルトの要約に必要なデータベースオブジェクトが生成されます。データベースオブジェクトには、レートテーブルと、時間単位、日単位、および週単位の要約テーブルと、そのための要約プロシージャが含まれます。また、`.sum` ファイルも作成され、`DPIPE_HOME/scripts` ディレクトリに保存されます。

手動で生成する場合は、この手順の[手順 1](#)のコマンドに `-r default` を付けます。

- [要約なし]

新しいデータベースオブジェクトは生成されません。

- 3 [次へ] をクリックします。

タスク 9: [概要] ページを確認する

[概要] ダイアログボックスが開きます。



- 1 すべての収集プロパティ値が正しいことを確認します。

必要に応じて、[戻る] をクリックして前のページに戻り、変更を行います。変更が完了したら、[次へ] をクリックして [概要] ページまで戻ります。

- 2 [完了] をクリックするとデータテーブルが作成されます。


データテーブル作成ウィザードが閉じ、TEEL ファイルが作成され、指定した場所に保存されます。

プロパティテーブルの作成

プロパティテーブルを作成するには、以下の手順に従います。

タスク 1: テーブルの作成ウィザードを起動する

管理コンソールから、以下のいずれかの方法でテーブルの作成ウィザードを起動します。

-  をクリックし、メニューから [プロパティテーブル] を選択します。
- [ファイル] メニューから [新規]、[プロパティテーブル] の順に選択します。

タスク 2: プロパティテーブルの名前を入力する

[プロパティテーブルの作成] ページが開きます。

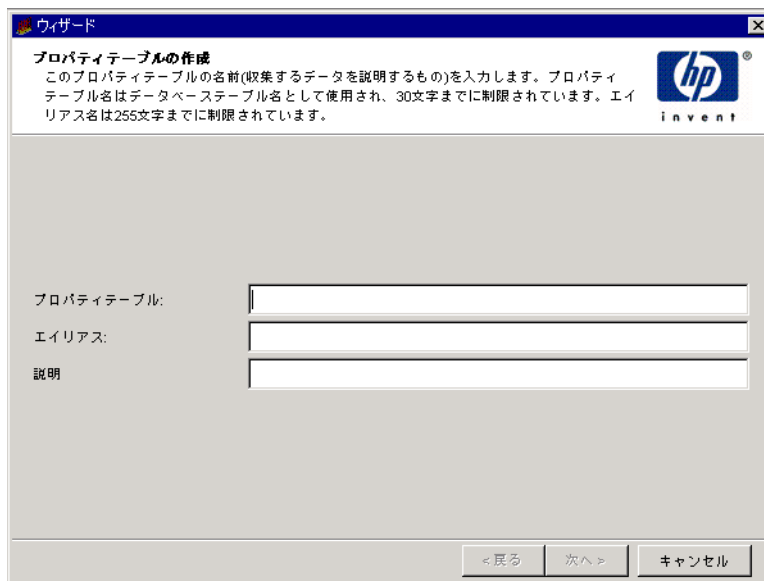


図 21 [プロパティテーブルの作成] ページ

- 1 [プロパティテーブル] ボックスに、テーブルの SQL 名を入力します。
最大 30 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できるのは、大文字/小文字のアルファベット、数字、特殊文字のアンダースコア (_) です。
- 2 [エイリアス] ボックスに、テーブルのエイリアス名を入力します。

最大 255 文字までの、一意な名前を入力できます。使用できるのは、大文字 / 小文字のアルファベット、数字、特殊文字のハイフン (-) とアンダースコア (_) です。

- 3 [説明] ボックスに、テーブルの説明を入力します。

説明は省略できません。最大 255 文字までです。このボックスを空白にすると、テーブルの作成後にエラーメッセージが表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。

タスク 3: プロパティ属性を定義する

[プロパティ属性の定義] ページが開きます (312 ページの図 18 を参照)。

この手順を行うには、312 ページのタスク 6 を参照してください。

タスク 4: 収集の出力ファイルを指定する

[出力ファイルの選択] ページが開きます (315 ページの図 19 を参照)。

この手順を行うには、315 ページのタスク 7 を参照してください。

タスク 5: 収集をデータベースに登録する

[データベースへの収集の追加] ページが開きます (316 ページの図 20 を参照)。

この手順を行うには、315 ページのタスク 7 を参照してください。

タスク 6: [概要] ページを確認する

[概要] ダイアログボックスが開きます。



- 1 すべての値が正しいことを確認します。

必要に応じて、[戻る] をクリックして前のページに戻り、変更を行います。変更が完了したら、[次へ] をクリックして [概要] ページまで戻ります。

- 2 [完了] をクリックするとプロパティテーブルが作成されます。

データテーブル作成ウィザードが閉じ、TEEL ファイルが作成され、指定した場所に保存されます。

テーブルのデフォルトの設定

テーブルマネージャでは、データテーブルと期間テーブルの 2 種類のテーブルに対して、デフォルトを設定できます。データテーブルのデフォルトはテーブルタイプに基づいて設定できます。デフォルト設定はすべてのデータテーブルに適用されます。期間テーブルのデフォルトは、選択した期間テーブルにのみ適用され、多数のアプリケーションに影響します。

データテーブルのデフォルトの設定

テーブルに関連付けられている特定の時間タイプごとに、さまざまなデフォルトオプションを設定できます。これらのオプションには、保持期間、タイムラグ値、および履歴単位があります。

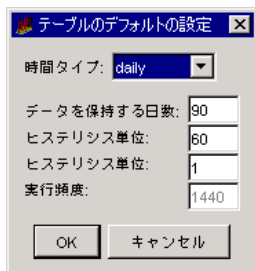


これらの値を変更する場合は注意が必要です。データ保持のデフォルト値を変更した場合は、インストールされている OVPI レポート機能のデータが変更されます。デフォルト値を高くすると、システム全体のパフォーマンスに悪影響します。

デフォルトを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [ファイル]メニューから[**テーブルのデフォルトの設定**]を選択します。

[テーブルのデフォルトの設定]ダイアログボックスが開きます。



- 2 [時間タイプ]リストから、変更するテーブルの時間タイプを選択します。



特定の時間タイプのデフォルト値を変更すると、変更内容は、その時間タイプのすべてのテーブルに適用されます。

- 3 保持期間を変更するには、[データを保持する日数]ボックスに日数を入力します。

*保持期間*とは、OVPI が特定のテーブルのデータを保持しておく日数です。指定した日数が経過すると、データは自動的に削除されます。

- 4 タイムラグを変更するには、[タイムラグ]ボックスに時間を分単位で入力します。

*タイムラグ値*は、データの処理の遅延時間(分単位)です。

- 履歴単位を変更するには、[ヒステリシス単位]ボックスに単位数を入力します。

履歴単位とは、再処理の対象とするデータのまとまり(量)の指定です。単位の値は、テーブルの時間タイプと同じです。たとえば、日単位のテーブルの履歴単位は日単位であり、同様に、時間単位のテーブルの履歴単位は時間単位です。

▶ ダイアログボックスには実行頻度の設定も表示されますが、この値は変更できません。実行頻度とは、テーブル内のデータの通常処理の頻度です。

- [OK]をクリックします。

期間テーブルのデフォルト

期間テーブルに対して設定できるデフォルトオプションは、保持期間だけです。期間テーブルには、指定した日数の期間のリストが含まれており、これがテーブルの保持期間です。日単位、時間単位、5分、30秒など、さまざまな時間カテゴリの期間テーブルがあります。これらのテーブルでは、データベースの検索が自動的に最適化されます。tpmaintの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語)を参照してください。



これらの値を変更する場合は注意が必要です。データ保持のデフォルト値を変更した場合は、インストールされているOVPIレポート機能のデータが変更されます。デフォルト値を高くすると、システム全体のパフォーマンスに悪影響します。

期間テーブルの保持期間を変更するには、以下の手順に従います。

- [ファイル]メニューから[期間テーブル保持の設定]を選択します。

[期間テーブル保持の設定]ダイアログボックスが開きます。



- [期間テーブル]リストから、適切な期間テーブルを選択します。

このリストには、データベースで使用可能な各タイムゾーンの、期間テーブルが含まれています。各データベースは、ローカルタイムゾーンセットと GMT タイムゾーンセットにアクセスします。

▶ 期間テーブルの保持日数を変更した場合は、最適化のためにこれらのテーブルを使用するすべてのアプリケーションに影響します。

- 3 [保持日数] ボックスに日数を入力します。テーブルに含まれる期間が変更されます。

▶ この値を正しく設定しないと、パフォーマンスが低下する可能性があります。

- 4 [OK] をクリックします。

表示オプションの設定

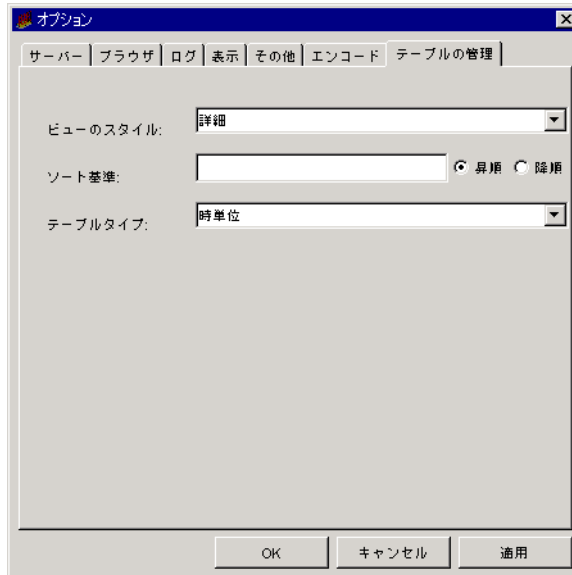
テーブルマネージャでのテーブルの表示形態を変更できます。

▶ デフォルトの表示設定を変更した場合は、変更内容は、管理コンソールに次回ログオンしたときに有効になります。

テーブルの表示形態を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 [編集] メニューから [オプション] を選択します。
[オプション] ダイアログボックスが開きます。

2 [テーブルの管理] タブを選択します。



3 以下のいずれかを実行します。

- 表示ペインでのテーブルの表示形態を指定するには、[表示スタイル] リストからオプションを選択します。
- テーブルは、[大]、[小]、[リスト]、[詳細] のいずれかで表示できます。
- テーブルの行を、特定のテーブル列の値に基づいてソートするには、以下を実行します。
 - [ソート基準] ボックスに、列名を入力します。実際のテーブル列と同じスペルを、大文字 / 小文字まで正確に入力してください。
 - [昇順] または [降順] を選択してソート順を決定します。各行は、列に含まれるデータのタイプに応じて、数字順またはアルファベット順でソートされます。

[ソート基準] ボックスで指定した列名がテーブルに存在しない場合は、この設定は無視されます。

- 新しいテーブルのデフォルトの時間タイプを決定するには、[テーブルタイプ]リストから希望の期間を選択します。また、各時間タイプごとにテーブルのデフォルト値を設定することもできます(321ページの「テーブルのデフォルトの設定」を参照)。

カタログマネージャの使用

管理コンソールのカタログマネージャを使用すると、配布レポート内にレポートリンクを作成できます。するとそのレポートから、別のレポート、サードパーティーアプリケーション、または **URL (Uniform Resource Locator)** を開くことができるようになります。

レポートリンクは、ソースレポート内の要素（グラフ、テーブル、イメージ、またはラベル）から特定の情報を取得し、その情報をレポートパラメータ（レポートからレポートへのリンクの場合）または引数（レポートからアプリケーションまたは **URL** へのリンクの場合）への入力として使用し、その後、レポートからそのリンクが開かれたときに、指定された情報を用いてレポート、アプリケーション、または **URL** を表示します。このように、レポート、**URL**、およびアプリケーションを相互に結び付けることで、インテリジェントかつカスタマ固有の情報フローを構築するためのナビゲーションパスを作成できます。

さらに、配布するレポートリンクと項目を管理することもできます。カタログマネージャは、[リンク] および [配布済み項目] カタログで構成されています。これらのカタログは **Web** アクセスサーバーにあります。カタログの内容は以下のとおりです。

- [リンク]: [配布済み項目] カタログの配布済みレポート内にある、すべてのレポートリンクが格納されます。
- [配布済み項目]: このカタログには以下のものが含まれています。

- 配布されたレポート。このカタログにレポートを配布すると、ユーザーは **OVPI** の **Web** アクセスサーバークライアントアプリケーションを使用してそれらのレポートを表示できます。レポートを配布するには、カタログマネージャ、パッケージマネージャ、および配布ウィザードを使用します。
- 配布された **URL**。レポートから特定の **URL** へのリンクを頻繁に作成する場合、またはユーザーが **Web** アクセスサーバーから特定の **URL** を直接表示する必要がある場合は、[配布済み項目] カatalog内の **URL** を配布すると便利です。

さらに、各カタログ内にある固有の項目に、管理タスクを実行することもできます。

ユーザーは、**OVPI** クライアントアプリケーション (**Web** アクセスサーバー、レポートビューア、およびレポートビルダ) を使用してレポートを表示したときに、レポートリンクをトリガーできます。



アプリケーションリンクが設定されたレポートを **Web** アクセスサーバーで開くことはできません。この種類のリンクを開くには、レポートビルダまたはレポートビューアを使用します。また、レポートにリンクされているアプリケーションを正常に起動するには、リンク先のアプリケーションが、レポートビルダまたはレポートビューアの実行元のシステムに存在している必要があります。

カタログマネージャの起動

カタログマネージャを起動するには、以下の手順に従います。

- 1 管理コンソールを起動します。詳細は、**79** ページの「**管理コンソールの起動**」を参照してください。
 - ▶ 管理コンソールには管理者権限を持つアカウントでログオンする必要があります。ユーザーアカウントの詳細は、**391** ページの「**ユーザーアカウントの管理**」を参照してください。
- 2 管理コンソールのナビゲーションペインで、[**レポートを生成しています**] ボタンをクリックします。
- 3 管理コンソールのナビゲーションペインで、[**カタログ**] アイコンをクリックします。

図 1 は、[カタログ/レポートリンクの管理]ウィンドウの表示例です。

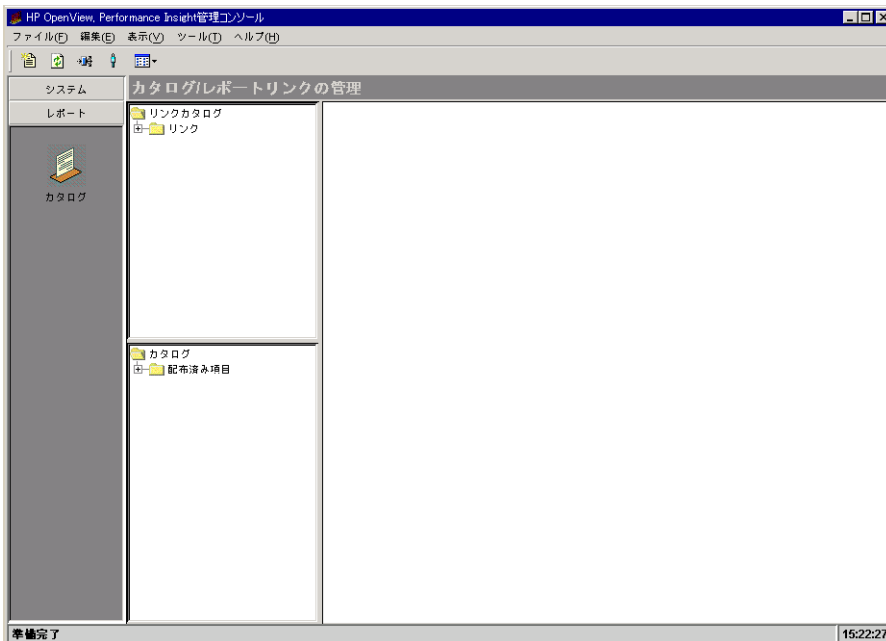


図 1 [カタログ/レポートリンクの管理]ウィンドウ

[カタログ/レポートリンクの管理]ウィンドウ

[カタログ/レポートリンクの管理]ウィンドウには、以下のペインがあります。

- ナビゲーションペイン：ナビゲーションペインはウィンドウの左側にあり、[リンク]カタログと[配布済み項目]カタログが表示されます。[リンク]カタログの[リンク]フォルダーには、[配布済み項目]カタログ内に配布された各レポートに含まれているリンクが一覧表示されます。

[カタログ]には[配布済み項目]フォルダーがあり、その中には[System]および[Users]フォルダーがあります。これらのフォルダーには、配布されたレポートと URL が格納されます。

- 表示ペイン：表示ペインは、ウィンドウの右側にあります。[リンク]カタログでリンクを選択すると、そのリンクがグラフィック表示されます。また、リンクの作成および管理もできます。詳細は 371 ページの「表示ペインでのリンクの変更」を参照してください。

[配布済み項目] カタログの管理

[配布済み項目] カタログを管理するには以下を行います。

- レポートと URL を配布する。
- カタログ内にフォルダーを作成することで、配布した項目を整理する。
- レポートを移動する。
- レポートをコピーする。
- レポートと URL のプロパティを表示および変更する。
- レポートと URL を削除する。
- 必要に応じてカタログを更新する。

レポートの配布

レポートを *配布*すると、そのレポート (.rep または .srep ファイル) は [配布済み項目] カタログの、[System] または [Users] フォルダのいずれかに格納されます。

ユーザーが Web アクセスサーバーでレポートを表示するには、そのレポートを配布する必要があります。また、レポート内にリンクを作成する場合にも、まずレポートを配布する必要があります。カタログマネージャの [レポートの配布] ウィザードを使用すると、必要な各手順に従ってレポートをカタログに配布できます。

レポートを配布するには、以下の手順に従います。

タスク 1: 配布ウィザードを起動する

カタログマネージャの [ファイル] メニューから [配布] を選択します。

タスク 2: 配布アクションを選択する

図 2 は [配布アクションの選択] ウィンドウを示しています。

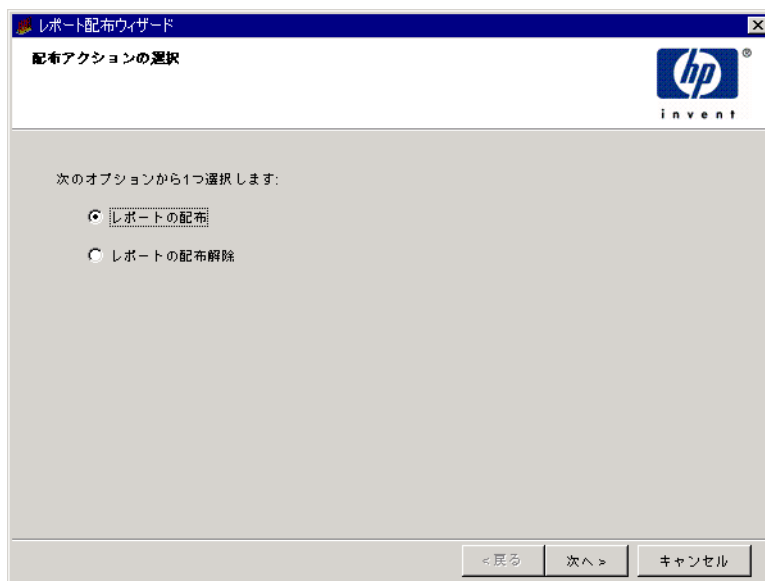


図 2 [配布アクションの選択] ウィンドウ

[レポートの配布] を選択し [次へ] をクリックします。

タスク 3: Web アクセスサーバーにレポートを配布するために必要な情報を指定する

図 3 は [アプリケーションサーバーの情報を入力します] ウィンドウを示しています。

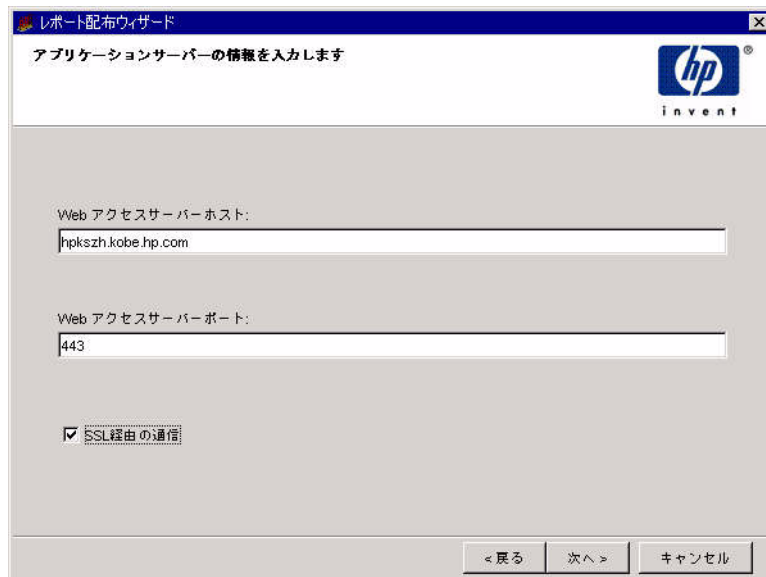


図 3 [アプリケーションサーバーの情報を入力します] ウィンドウ

デフォルトでは、このウィンドウには現在の Web アクセスサーバーの名前とポート番号が表示されます。

以下を実行します。

- 1 [Web アクセスサーバーホスト] ボックスで、デフォルト値をそのまま使用するか、**または**レポートを配布する Web アクセスサーバーの名前を入力します。
- 2 [Web アクセスサーバーポート] ボックスで、デフォルト値をそのまま使用するか、**または**[Web アクセスサーバーホスト] ボックスで指定した Web アクセスサーバーのポート番号を入力します。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [SSL 経由の通信] チェックボックスをオンにして SSL を有効にします。
 - [SSL 経由の通信] チェックボックスをオフにして SSL を無効にします。

[SSL 経由の通信] オプションを選択すると、Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラウザとの間で SSL (Secure Socket Layer) 通信が有効になります。このオプションを使用しない場合は、両者間の通信は HTTP 経由で行われます。

- 4 [次へ] をクリックして続行します。

タスク 4: 配布するレポート (複数可) を選択する

図 4 は [レポートの選択] ウィンドウを示しています。



図 4 [レポートの選択] ウィンドウ

- 1 [追加] をクリックします。

[開く] ダイアログボックスが開いたら、配布するレポートが含まれているフォルダーに移動します。

- 2 [開く] ダイアログボックスで以下のいずれかを実行し [開く] をクリックします。
 - レポートを 1 つだけ選択するには、そのレポートのファイル名をクリックします。
 - 複数の隣接するレポートを選択するには、最初のレポートをクリックし、[Shift] キーを押しながら最後のレポートをクリックします。

- 隣接していない複数のレポートを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらレポートを1つずつクリックしていきます。
- 3 追加したレポートを削除するには、そのレポートを選択し [削除] をクリックします。
 - 4 [次へ] をクリックします。

タスク 5: 配布するレポートの格納先とするフォルダーを選択する

図 5 は [場所の選択] ウィンドウを示しています。

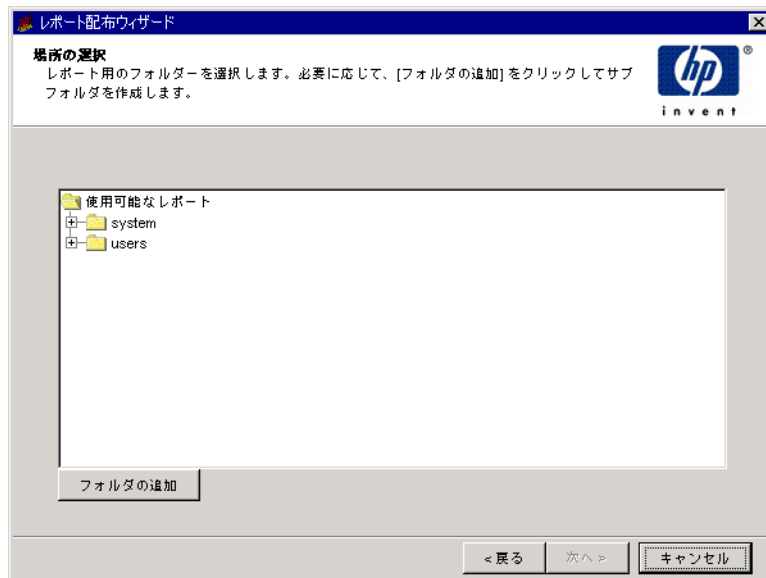


図 5 [場所の選択] ウィンドウ

以下のいずれかを実行します。

- ツリーを展開し、レポートを格納するフォルダーを選択し [次へ] をクリックします。
- ツリーを展開し、新しいフォルダーを作成するフォルダーを選択し [フォルダの追加] をクリックします。

ツリー項目として [新規フォルダ] が表示されます。以下を実行します。

- a [新規フォルダ] をクリックし、新しく作成するサブフォルダーの名前を入力します。

b [次へ] をクリックします。

タスク 6: レポートを配布する

図 6 は [概要] ウィンドウを示しています。

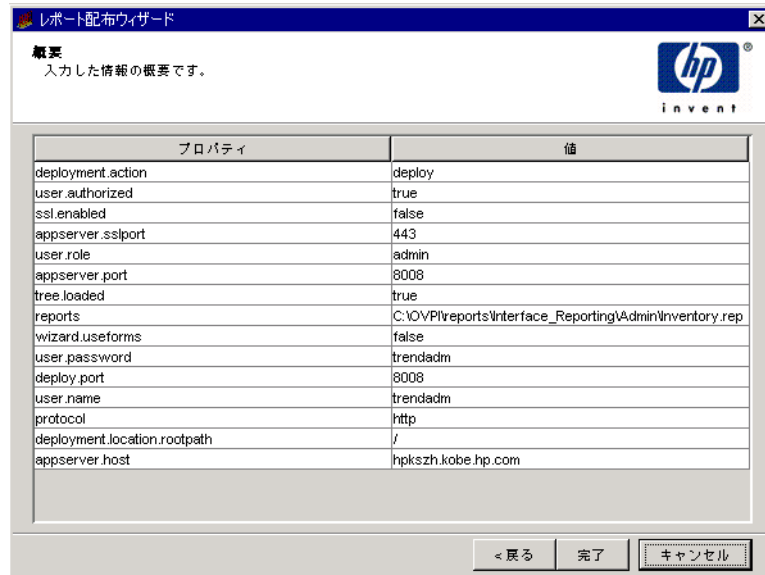


図 6 [概要] ウィンドウ

1 [完了] をクリックします。

レポートの配布が正常に実行された場合は、確認のメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

3 レポートが配布されたことを確認するには、レポートの配布先としたフォルダーを選択し、ツールバーの [更新] ボタンをクリックします。

レポートの配布解除

レポートの配布を解除するには、[配布済み項目]カタログのショートカットメニューから[配布解除]オプションを使用するか、[レポートの配布]ウィザードを使用します。レポートの配布を解除すると、そのレポートは[配布済み項目]カタログから除外されます。

[削除]メニューオプションによるレポートの配布解除

レポートの配布を解除するには、以下の手順に従います。

- 1 [配布済み項目]カタログで、配布を解除するレポートが含まれているフォルダー([System]または[Users])に移動します。
- 2 レポートを右クリックします。
- 3 メニューから[削除]を選択します。

[レポートの配布]ウィザードによるレポートの配布解除

レポートの配布を解除するには、以下の手順に従います。

タスク 1: 配布ウィザードを起動する

カタログマネージャの[ファイル]メニューから[配布]を選択します。

タスク 2: 配布オプションを選択する

[配布アクションの選択]ウィンドウが開きます(331 ページの図 2 を参照)。

[レポートの配布解除]を選択し[次へ]をクリックします。

タスク 3: Web アクセスサーバーからレポートの配布を解除するために必要な情報を指定する

[アプリケーションサーバーの情報を入力します]ウィンドウが開きます(332 ページの図 3 を参照)。デフォルトでは、このウィンドウには現在の Web アクセスサーバーの名前とポート番号が表示されます。

以下を実行します。

- 1 [Web アクセスサーバーホスト] ボックスで、デフォルト値をそのまま使用するか、**または**レポートの配布を解除する Web アクセスサーバーの名前を入力します。
- 2 [Web アクセスサーバーポート] ボックスで、デフォルト値をそのまま使用するか、**または**[Web アクセスサーバーホスト] ボックスで指定した Web アクセスサーバーのポート番号を入力します。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [SSL 経由の通信] チェックボックスをオンにして SSL を有効にします。
 - [SSL 経由の通信] チェックボックスをオフにして SSL を無効にします。

[SSL 経由の通信] オプションを選択すると、Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラウザとの間で SSL (Secure Socket Layer) 通信が有効になります。このオプションを使用しない場合は、両者間の通信は HTTP 経由で行われます。
- 4 [次へ] をクリックして続行します。

タスク 4: 配布を解除するレポートを選択する

[場所の選択] ウィンドウが開きます。334 ページの図 5 を参照してください。

- 1 配布を解除するレポートが格納されているフォルダーに移動します。
- 2 以下のいずれかを実行してレポート (複数可) を選択します。
 - レポートを 1 つだけ選択するには、そのレポートのファイル名をクリックします。
 - 複数の隣接するレポートを選択するには、最初のレポートをクリックし、[Shift] キーを押しながら最後のレポートをクリックします。
 - 隣接していない複数のレポートを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらレポートを 1 つずつクリックしていきます。
- 3 [次へ] をクリックします。

タスク 5: レポートの配布を解除する

[概要] ウィンドウが開きます。335 ページの図 6 を参照してください。

- 1 [完了] をクリックします。

レポートの配布の解除が正常に実行された場合は、確認のメッセージが表示されます。

- 2 [OK] をクリックします。
- 3 レポートが配布解除されたことを確認するには、配布解除を行ったフォルダーを選択し、ツールバーの [更新] ボタンをクリックします。

URL の配布

[配布済み項目] カタログに URL を配布すると、その URL に必要なすべての情報がカタログに保存されます。これは、OVPI の Web アクセスサーバークライアントアプリケーションから URL にすばやくアクセスしたい場合に便利です。

URL を配布すると、Web アクセスサーバのリンクバーにある [カタログ] リンクをクリックすることでその URL にアクセスできるようになります。たとえば、URL を [System] フォルダに配布した場合は、[System] フォルダを展開すると、そのフォルダに配布された URL が表示されます。URL をクリックすると、関連付けられている Web サイトが Web アクセスサーバの結果ウィンドウに表示されます。

[URL] カタログへの URL の配布は必須ではありません。

URL を配布するには、以下の手順に従います。

- 1 [配布済み項目] カタログで URL の配布先とするフォルダを右クリックし、メニューから [URL の配布] を選択します。

[URL の配布] ダイアログボックスが開きます。



- 2 [表示名] ボックスに、[配布済み項目] カタログでこの URL を表示する際の名前を入力します。
- 3 [説明] ボックスに、URL の説明を入力します。説明は省略することも可能です。

この時点で説明を指定しなくても、後で **URL** を右クリックしメニューから **[プロパティ]** を選択すれば、説明を指定できます。**[プロパティ]** ダイアログボックスが開き、**URL** のプロパティ (名前、説明、および **URL**) が表示されます。詳細は 344 ページの「**URL** プロパティの表示および変更」を参照してください。

- 4 **[URL]** ボックスに **URL** のアドレスを入力し、Web サイトへの入力として使用するパラメータがあれば指定します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

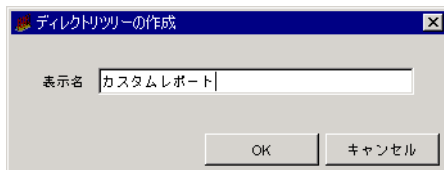
カタログ内のディレクトリの新規作成

[配布済み項目] カタログには **[配布済み項目]** という名前のフォルダーがあります。このフォルダー内には、さらに **[System]** フォルダーと **[Users]** フォルダーがあります。**[System]** および **[Users]** フォルダーの下の各ディレクトリ内に、新しいディレクトリを作成できます。

新しいディレクトリを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 ディレクトリの作成先とするフォルダーを右クリックし、メニューから **[ディレクトリの作成]** を選択します。

[ディレクトリツリーの作成] ダイアログボックスが開きます。



- 2 **[表示名]** ボックスに、作成するフォルダーの名前を入力し、**[OK]** をクリックします。

レポートおよびディレクトリの移動

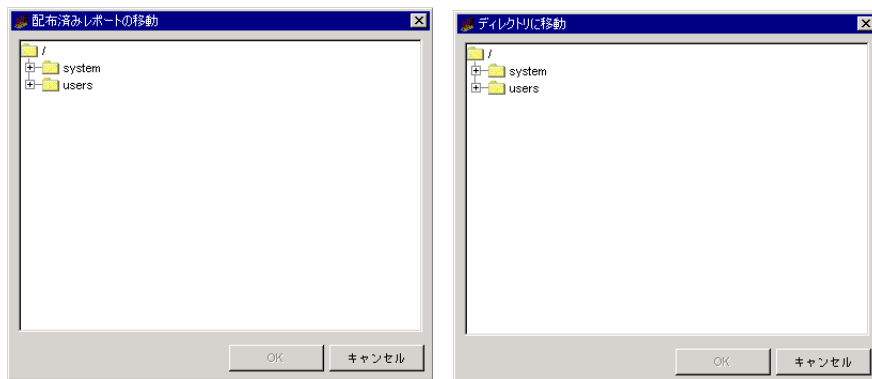
レポートとディレクトリは移動できます。

レポートまたはディレクトリを移動するには、以下の手順に従います。

- 1 **[配布済み項目]** カタログで、移動するレポートまたはディレクトリを見つけて選択します。

- 2 項目を右クリックし、メニューから[移動]を選択します。

[配布済みレポートの移動]または[ディレクトリに移動]ダイアログボックスが開きます。



- 3 項目の移動先とするフォルダーを選択し [OK] をクリックします。

レポートおよびディレクトリのコピー

レポートとディレクトリはコピーできます。

レポートまたはディレクトリをコピーするには、以下の手順に従います。

- 1 [配布済み項目]カタログで、コピーするレポートまたはディレクトリを見つけて選択します。
- 2 項目を右クリックし、メニューから[コピー]を選択します。

[配布済みレポートのコピー]または[ディレクトリにコピー]ダイアログボックスが開きます。



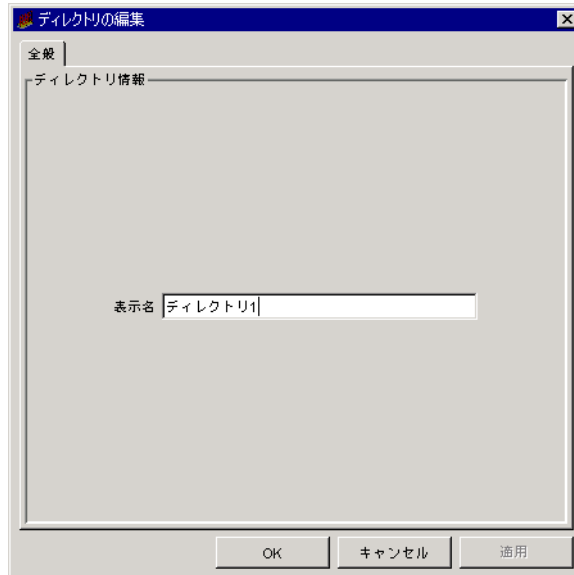
- 3 以下を実行します。
 - a レポートまたはディレクトリのコピー先とするフォルダーを選択します。
 - b [コピー名]ボックスで、表示された元の名前をそのまま使用するか、新しい名前を入力します。
 - c [OK]をクリックします。

ディレクトリプロパティの表示および変更

ディレクトリのプロパティを表示または変更するには、以下の手順に従います。

- 1 項目を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

[ディレクトリの編集] ダイアログボックスが開きます。



- 2 [表示名] ボックスに、ディレクトリの表示名を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

配布項目プロパティの表示および変更

配布されたレポートまたは URL のプロパティを表示および変更できます。

レポートプロパティの表示および変更

レポートプロパティを表示または変更するには、以下の手順に従います。

- 1 項目を右クリックし、メニューから [プロパティ] を選択します。

[配布済みレポートの編集] ダイアログボックスが開きます。



- 2 レポートの名前または説明を変更するには、[全般] タブをクリックします。
以下のいずれかを実行します。
 - [表示名] ボックスに、レポートの表示名を入力します。
 - [説明] ボックスに説明を入力します。
- 3 **Web** アクセスサーバクライアントアプリケーションでレポートを表示したときのレポートの表示形態を変更するには、[表示] タブをクリックします。
デフォルトでは、ユーザーが **Web** アクセスサーバでレポートを開くと、レポートは現在のブラウザウィンドウに表示されます。レポートを新しいブラウザウィンドウに表示するには、[**新規ブラウザで開く**] をクリックします。
- 4 [**OK**] をクリックします。

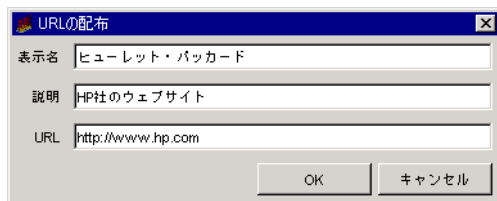
レポートの名前と説明のみを確認したい場合は、カタログ内のレポートの上にポインタを置いてしばらく待つと表示されます。

URL プロパティの表示および変更

URL のプロパティ ([配布済み項目] カタログでの表示名、説明、アドレス) を表示および変更できます。

URL のプロパティを表示または変更するには、以下の手順に従います。

- 1 URL を右クリックし、メニューから [**プロパティ**] を選択します。



[URL の配布] ダイアログボックスが開きます。

- 2 以下のいずれかを実行します。
 - [表示名] ボックスに、レポートの表示名を入力します。
 - [説明] ボックスに説明を入力します。
 - [URL] ボックスに、新しい URL およびパラメータを入力します。
- 3 [**OK**] をクリックします。

URL の名前と説明のみを確認したい場合は、カタログ内の URL の上にポインタを置いてしばらく待つと表示されます。

レポートおよび URL の削除

レポートまたは URL を削除すると、[配布済み項目] カタログからそのレポートまたは URL の配布が解除されます。

レポートまたは URL を削除するには、項目を右クリックしメニューから [**削除**] を選択します。

カタログの更新

場合によっては、[配布済み項目]カタログ内のフォルダーを更新する必要があります。たとえば、自分と別のユーザーが共通の管理者アカウントを使用している場合は、複数の人が同時に変更を行う可能性があります。この場合は、カタログへの最新の変更を表示するために、カタログを手動で更新する必要があります。

カタログ内のフォルダーを更新するには、フォルダーを右クリックして、メニューから[更新]を選択します。

[リンク]カタログの管理

[リンク]カタログを管理するには以下を行います。

- カタログ内にリンクグループを作成する。
- 配布レポート内に、レポート、アプリケーション、または URL への、レポートリンクを作成する。
- 表示ペインでリンクを変更する。
- リンクをコピーする
- リンクを移動する
- リンクを削除する
- リンクプロパティを表示および変更する
- リンクをエクスポートまたはインポートする。
- [リンク]カタログを更新する。

リンクグループの作成

デフォルトでは、[リンクカタログ]には[リンク]というフォルダーがあります。この[リンク]フォルダー内にリンクグループというフォルダーを作成して、リンクを企業別、グループ別、ユーザー別などに整理することができます。

リンクグループを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。

- [リンクカタログ]の[リンク]フォルダーを右クリックし、[新規リンクグループ]を選択します。
- カatalogマネージャの[ファイル]メニューから[新規]を選択し、[リンクグループ]を選択します。

[リンクグループの作成]ダイアログボックスが開きます。



▶ [ファイル]メニューから[リンクグループ]を選択した場合は、このダイアログボックスに[リンクグループの作成先]ボックスも表示されます。

- 2 必要であれば、[リンクグループの作成先]ボックスで、リンクグループの作成先とするフォルダーを選択します。
- 3 [名前]ボックスに、リンクグループフォルダーの名前を入力します。フォルダーの作成が完了すると、このフォルダー名が[リンク]フォルダーに表示されます。
- 4 [説明]ボックスに、リンクの説明を入力します。これは省略可能です。

後でこれらのプロパティを表示するには、リンクグループの上にポインタを置いてしばらく待ちます。すると、表示名と説明が表示されます。また、カタログ内のそのレポートの上にポインタを置いても、これらのプロパティ(リンクの名前と説明)が表示されます。

表示名と説明を変更するには、リンクグループフォルダーを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。リンクのプロパティの変更に関する詳細は、373 ページの「リンクのプロパティの表示と変更」を参照してください。

5 [OK] をクリックします。

[リンク] フォルダー内にリンクグループが表示されます。

レポートリンクの作成

ユーザーがレポート内のリンクを開くと、レポートリンクはソースレポート内の要素(グラフ、テーブル、イメージ、ラベル)から特定の情報を取得し、その情報をレポートパラメータ(レポートからレポートへのリンクの場合)または引数(レポートからアプリケーションまたは URL へのリンクの場合)への入力として使用し、その後、レポートからそのリンクが開かれたときに、指定された情報を用いてレポート、アプリケーション、または URL を表示します。

1つのレポートを複数のレポートリンクのリンク先に指定できます。たとえば、カスタマを示すレポートを表示する場合、レポートにはデバイスレポートを表示するレポートリンクが含まれ、特定のカスタマに関するデバイスのみが表示されます。さらに、場所を示すレポートを表示する場合、レポートには同じデバイスレポートを表示するレポートリンクが含まれ、特定の場所のデバイスのみが表示されます。この例では、カスタマと場所のいずれのレポートも、デバイスを示す同じリンク先レポートにリンクしています。

同様に、1つのレポートに複数のリンクを設定できます。たとえば、1つのレポートを任意の数のレポート、URL、アプリケーションにリンク設定できます。

レポートからレポートへのリンク

配布されたレポート(リンク元)の中に、別の配布されたレポート(リンク先)へのリンクを作成できます。ユーザーがソースレポートでリンクをクリックすると、リンク先レポートが開きます。このとき、ソースレポート内の選択した要素に関連付けられている特定の統計の値が、リンク先レポート内の選択したレポートパラメータのために使用されます。たとえば、レポートからレポートへのリンクを作成することで、デバイスに関するさらなる情報を別のレポートで表示できます。

Device Resources レポートパックと **Interface Reporting** レポートパックが両方インストールされていると仮定します。これらの 2 つのレポートパックを同時に実行すれば、ルーター CPU の使用率が急増した場合、**Device Resources** がこの問題を知らせ、**Interface Reporting** でインタフェースの使用率レベルがこの問題の原因であるかどうかを判断します。

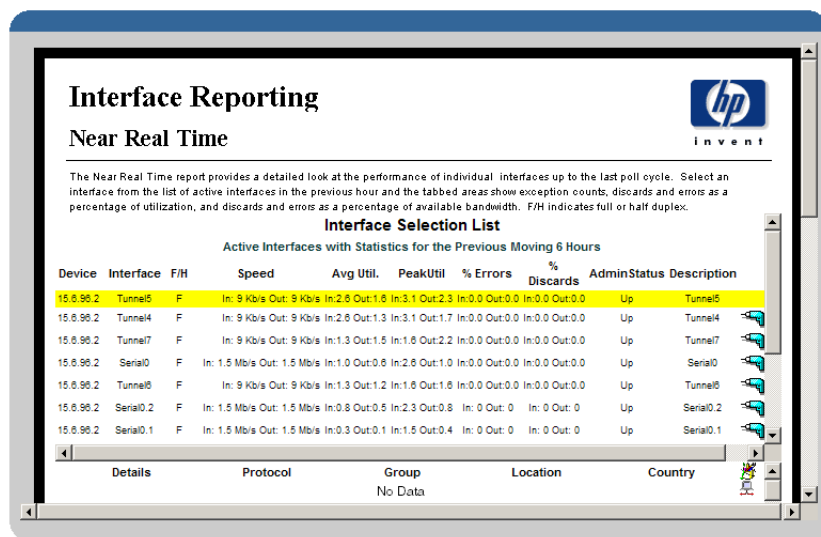
このとき、**Device Resource** の準リアルタイム クイックビューレポートを表示すると、デバイスの過去 6 時間の平均使用率 (バッファ、CPU、およびメモリー) が一覧表示され、使用率が極端に高いデバイスを特定できます。また、**Interface Reporting** の準リアルタイムレポートを開くと、最後のポーリング周期までの個々のインタフェースが一覧表示され、特定のインタフェースが問題の原因であるかどうかを確認できます。さらに、問題が発生しているデバイスがあるかどうかに関係なく、将来はこのレポートを常に開くようにしたいとします。この場合は、**Device Resource** の準リアルタイム クイックビューレポートからこのレポートへのリンク (レポートからレポートへのリンク) を作成すれば、レポートを繰り返し開かずに済みます。

このリンクを作成するには、[レポートからレポートへのリンク] ウィザードを使用して、準リアルタイム クイックビューレポートでデバイスを一覧表示するテーブルの [デバイス] 統計を、準リアルタイムレポートの [デバイス] パラメータにリンクします。以下の例は、**Web** アクセスサーバーでレポートを表示したときに、レポート内でリンクがどのように表示されるか (下線が付きま) を示しています。

The Device Resource Near Real Time report gives the network management staff an up to date view of the performance of individual devices. By selecting a device from the selection list, current device performance up to the most recent data collection can be investigated in detail.

Device Near Real Time			
Averages Over the Last Six Hours			
Select a Device			
Device	Average CPU Util	Average Memory Util	Average Buffer Util
15.6.98.2	2.57	39.24	5.05
15.2.131.80	7.16	38.77	63.91
15.2.131.81	7.00	38.26	63.90
15.6.98.41	3.39	43.74	1.24
15.2.144.2	28.65	34.45	0.00
zko111ew001.zko.hp.com	12.32	30.40	7.97
zko321ew007.zko.hp.com	11.20	26.62	7.83
zko321ew005.zko.hp.com	9.48	30.30	7.23

Device Resources のレポートでリンクをクリックすると、このレポートの選択したデバイスの情報が、準リアルタイムレポートの選択したパラメータに渡されます。たとえば、Device Resource の準リアルタイム クイックビューでリンクをクリックした場合は、Interface Reporting の準リアルタイムレポートが表示され、そこに、Device Resources で選択したデバイスの、すべてのインタフェースが表示されます（以下の図を参照）。



レポートから別のレポートへのリンクを作成するには、以下の手順に従います。

タスク 1: [レポートからレポートへのリンク]ウィザードを起動する

[レポートからレポートへのリンク]ウィザードは、以下の方法で起動できます。

- [リンク]カタログでリンクグループを右クリックし、メニューから[新規レポートリンク]を選択し、[レポートからレポートへのリンク]を選択します。

デフォルトでは[リンク]が唯一のリンクグループですが、リンクグループを追加で作成することもできます。詳細は、345 ページの「リンクグループの作成」を参照してください。

- 管理コンソールの[ファイル]メニューから[新規]を選択し、[レポートからレポートへのリンク]を選択します。

図 7 に示すように、[リンクの名前と説明] ウィンドウが開きます。

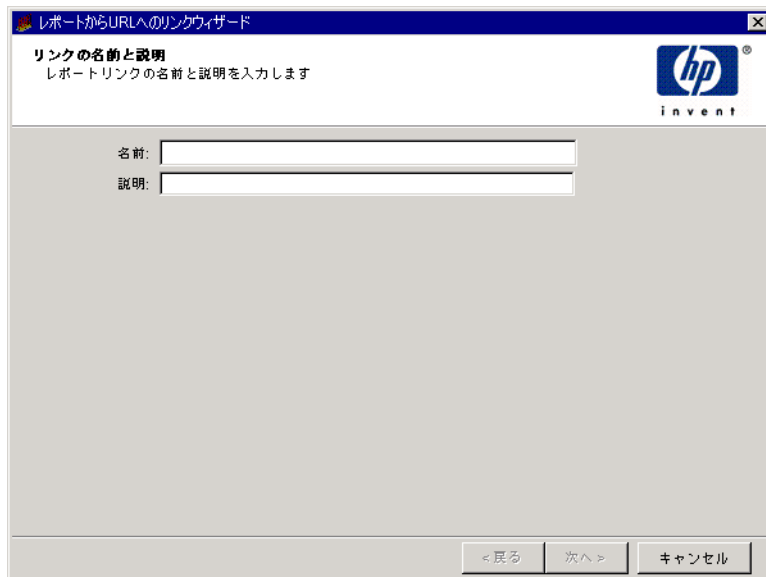


図 7 [リンクの名前と説明] ウィンドウ

タスク 2: リンクの名前と説明を指定する

- 1 [名前] ボックスに、[リンク] カタログで表示されるこのリンクの名前を入力します。
- 2 [説明] ボックスに、このリンクの説明を入力します。説明は省略することも可能です。
- 3 [次へ] をクリックします。

後でこの情報を変更する場合は、[リンク] カタログでリンクを右クリックし、メニューから [プロパティ] を選択します。詳細は 373 ページの「リンクのプロパティの表示と変更」を参照してください。

タスク 3: カatalogマネージャでリンクの作成先とするリンクグループを選択する

図 8 は、[リンクグループの選択] ウィンドウを示しています。

- ▶ このウィンドウは、管理コンソールの [ファイル] メニューから [レポートからレポートへのリンク] ウィザードを起動した場合にのみ表示されます。

このウィンドウが表示されない場合は、352 ページのタスク 4 に進みます。

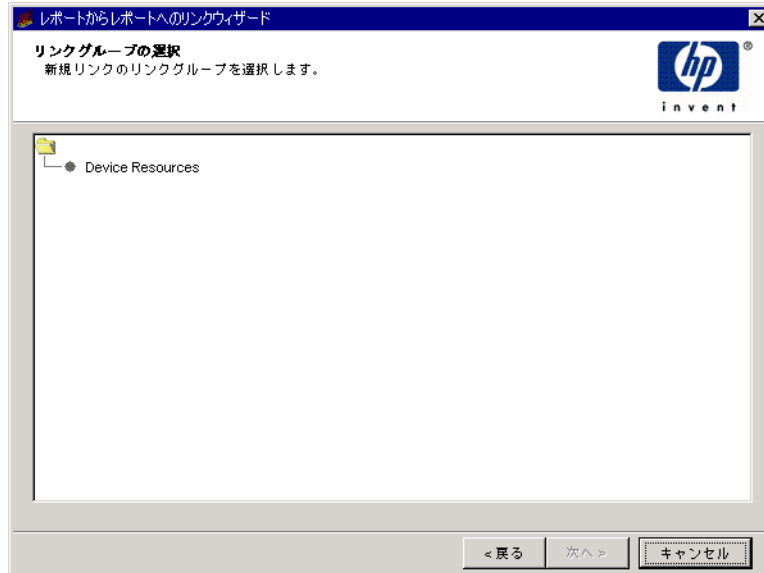


図 8 [リンクグループの選択]ウィンドウ

- 1 リンクの作成先とするフォルダーを選択します。
- 2 [次へ]をクリックします。

タスク 4: ソースレポートとリンク先レポートを指定する

図 9 は [ソースおよび宛先レポート] ウィンドウを示しています。

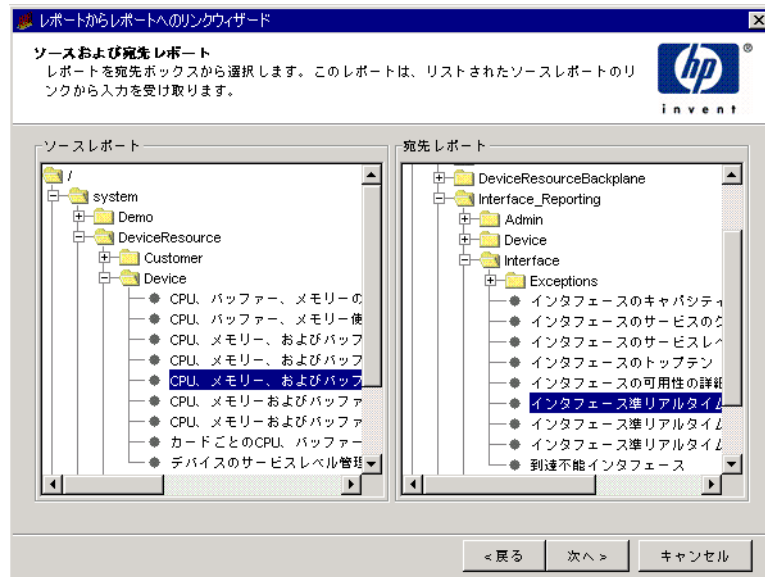


図 9 [ソースおよび宛先レポート] ウィンドウ



このウィンドウは、管理コンソールの [ファイル] メニューから [レポートからレポートへのリンク] ウィザードを起動した場合にのみ表示されます。

- 1 [ソースレポートから] ボックスで、レポートリンクを含めるソースレポートを選択します。
- 2 [宛先レポートへ] ボックスで、ソースレポートのリンクによって開くレポートを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。

タスク 5: リンクインデックスを指定する

図 10 は [リンクインデックスの作成] ウィンドウを示しています。



図 10 [リンクインデックスの作成] ウィンドウ

リンクインデックスとは、ソースレポート内の、リンクのトリガー元となる場所であり、該当する場合はそこから情報がリンク先レポートに渡されます。

レポートからレポートへのリンクのインデックスは、以下のいずれかの方法で機能します。

- ソースレポート内の要素 (イメージやラベル) によってリンク先レポートへのリンクがトリガーされ、リンク先レポートが開きます。ただし、この場合は情報は渡されません。

たとえば、ソースレポートにある企業ロゴを選択した場合は、ユーザーがその企業ロゴをクリックするとリンク先レポートが開きます。

- ソースレポートの統計情報によって、リンク先レポートの選択したパラメータへのリンクがトリガーされます。さらに、統計情報が渡され、リンク先レポートに表示される情報に反映されます。

たとえば、準リアルタイム クイックビューレポートの [デバイス] 統計情報から準リアルタイムレポートの [デバイス] パラメータへのリンクインデックスを作成したと仮定します。この場合は、準リアルタイム クイック

ビューレポートでデバイスを選択すると、リンクによって準リアルタイムレポートが開き、選択したデバイスのすべてのインタフェースが準リアルタイムレポートに表示されます。

- 1 [ソース要素から]ボックスで、要素(イメージまたはラベル)または統計を選択します。

▶ イメージまたはラベルを選択した場合は、**手順 2**を省略して[追加]をクリックします。ロゴを選択した場合は、ウィンドウの[リンクインデックス]ボックスに、たとえば[HP Logo (リンクインデックス)]のように表示されます。

- 2 [宛先パラメータへ]ボックスで、ソースレポート内の選択した統計から情報を受け取る、リンク先レポート内のパラメータを選択します。

▶ リンク先レポートにパラメータが存在しない場合は、[宛先パラメータへ]ボックスには何も表示されません。[次へ]ボタンも使用できない状態になるため、操作は続行できません。この場合は、[キャンセル]をクリックするか、[ソース要素から]ボックスでイメージまたはラベルを選択してください。

リンクを作成する前に、リンク先レポートにパラメータが存在するかどうかを確認するには、レポートビルダでレポートを開き、コンポーネントツリーの[パラメータ]フォルダーを展開します。レポートビルダとレポートパラメータの詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

- 3 [追加]をクリックします。

[要素リンク]ボックスにリンクが表示されます。リンクは、たとえば以下のように表示されます。

2:Device=Device (Link Index)

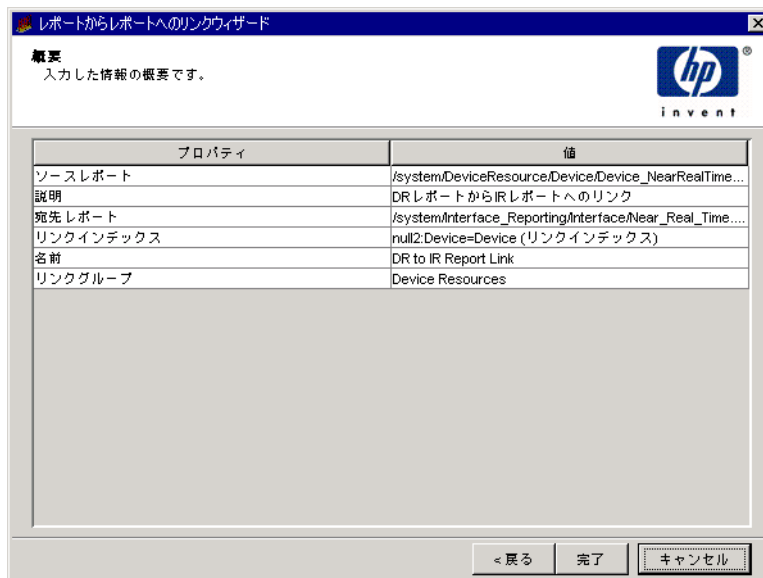
これは、ソースレポートのテーブル番号 2 のデバイス統計が、ソースレポートのデバイスパラメータにリンクされていることを示しています。したがって、リンクがトリガーされると、テーブルのデバイス統計が、リンク先レポートのデバイスパラメータに渡されます。

リンクインデックスは、複数作成することも可能です。つまり、ソースレポート内の多数の要素からリンク先レポートへ、情報を渡すことができます。ただし、リンクインデックスとして機能できる要素は 1 つだけです。リンクインデックスとは、ソースレポート内の、リンクのトリガーする要素で

す。たとえば、カスタマ名とカスタマ ID をリンク先レポートに渡すと仮定します。カスタマ名がリンクインデックスである場合は、ユーザーがカスタマ名をクリックしたときにリンクがトリガーされます。

- 4 必要に応じて、以下のいずれかを実行できます。
 - a リンクインデックスを削除するには、[リンクインデックス]ボックスでそのリンクインデックスを選択し[削除]をクリックします。
 - b リンクインデックスが複数ある場合に、キーリンクインデックスを変更するには、[リンクインデックス]ボックスでそのリンクインデックスを選択し[選択]をクリックします。
- 5 [次へ]をクリックします。

[概要]ウィンドウが開きます。



タスク 6: リンクのプロパティを確認する

[完了]をクリックするとリンクが作成されます。

カタログマネージャの表示ペインに、リンクがグラフィックで表示されます。また、[リンク]カタログの指定したフォルダーにもリンクが表示されます。

図 11 は、カタログマネージャでのリンクの表示例を示しています。

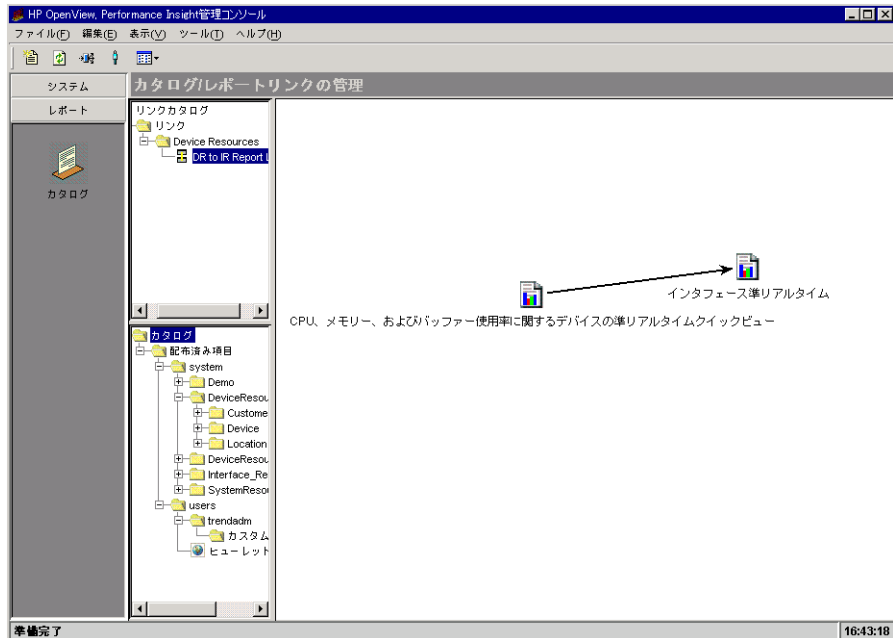


図 11 リンクのグラフィック表示

レポートからアプリケーションへのリンク

配布レポート (ソースレポート) 内に、アプリケーションへのリンクを作成できます。ユーザーがソースレポートでリンクをクリックすると、リンクによって、指定したパラメータを使用してアプリケーションが起動します。

[配布済み項目]カタログに配布されたレポートを使用してレポート (ソースレポート) 内にリンクを作成できます。すると、ソースレポートから選択した情報が取得され、その情報が指定したアプリケーションに渡されます。具体的には、ソースレポートから要素または統計を選択する場所としてリンクインデックスを作成します。このインデックスが、指定したアプリケーションへの入力になります。

たとえば、すべてのデバイスを一覧表示するレポートがあり、そのレポートで特定のデバイスを選択したときに **telnet** ユーティリティを実行してそのデバイスにログオンできるようにしたい場合は、レポートからアプリケーションへのリンクを使用すると便利です。

レポートからアプリケーションへのリンクを作成するには、以下の手順に従います。

タスク 1: [レポートからアプリケーションへのリンク]ウィザードを起動する

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - [リンク]カタログでリンクグループを右クリックし、メニューから[**新規レポートリンク**]、[**レポートからアプリケーションへの新規リンク**]の順に選択します。デフォルトでは[リンク]が唯一のリンクグループですが、リンクグループを追加で作成することもできます。詳細は、[345 ページ](#)の「[リンクグループの作成](#)」を参照してください。
 - 管理コンソールの[ファイル]メニューから[**新規**]、[**レポートからアプリケーションへのリンク**]の順に選択します。

[リンクの名前と説明]ウィンドウが開きます ([350 ページ](#)の[図 7](#)を参照)。

タスク 2: リンクの名前と説明を指定する

- 1 [名前]ボックスに、[リンクカタログ]の[リンク]フォルダーで表示されるこのリンクの名前を入力します。
- 2 [説明]ボックスに、このリンクの説明を入力します。説明は省略することも可能です。
- 3 [次へ]をクリックします。

後でこの情報を変更する場合は、リンクを右クリックし、メニューから[**プロパティ**]を選択します。詳細は [373 ページ](#)の「[リンクのプロパティの表示と変更](#)」を参照してください。

タスク 3: リンクの作成先とするリンクグループを選択する

[リンクグループの選択]ウィンドウが開きます ([351 ページ](#)の[図 8](#)を参照)。



このウィンドウは、管理コンソールの[ファイル]メニューから[レポートからアプリケーションへのリンク]ウィザードを起動した場合にのみ表示されます (このウィンドウが表示されない場合は、[358 ページ](#)の[タスク 4](#)に進みます)。

- 1 リンクグループを選択します。
- 2 [次へ]をクリックします。

タスク 4: ソースレポートを指定する

図 12 は [レポートの指定] ウィンドウを示しています。

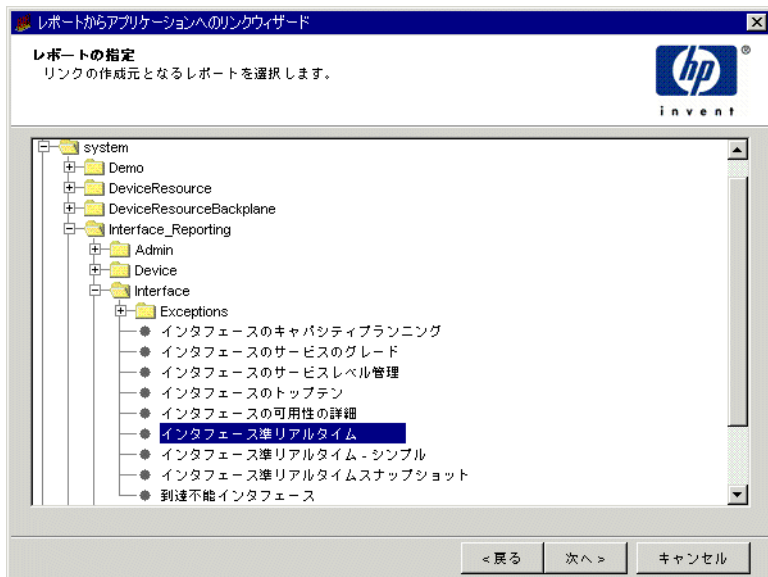


図 12 [レポートの指定] ウィンドウ

- 1 ソースレポートを選択します。
- 2 [次へ]をクリックします。

タスク 5: リンク項目を選択します。

図 13 は [リンク項目の選択] ウィンドウを示しています。

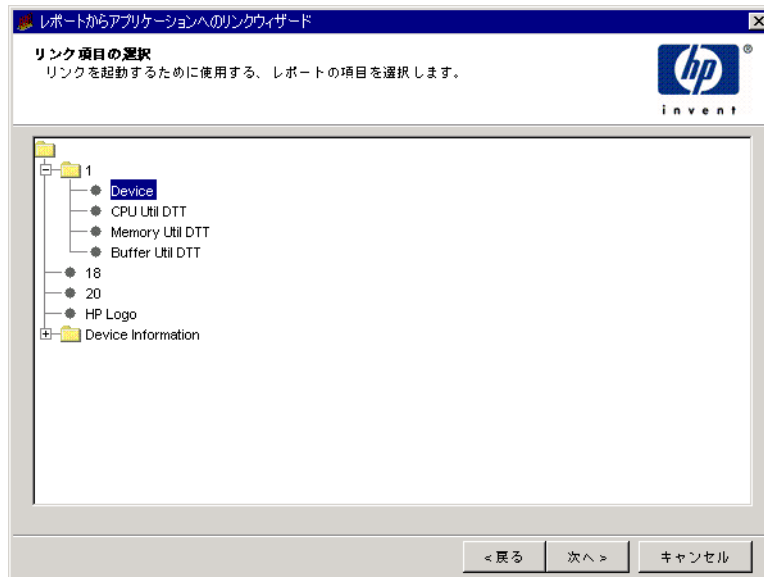


図 13 [リンク項目の選択] ウィンドウ

リンク先アプリケーションをトリガーする、ソースレポートの要素または統計を選択します。

- 1 ソースレポート内の要素または統計を選択します。
- 2 [次へ]をクリックします。

タスク 6: アプリケーションと引数を指定する

図 14 は [アプリケーションと静的引数を指定します] ウィンドウを示しています。

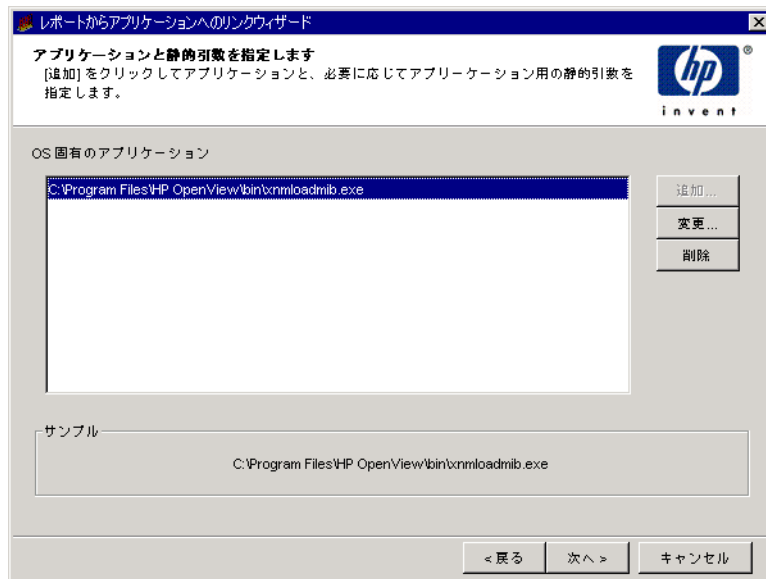
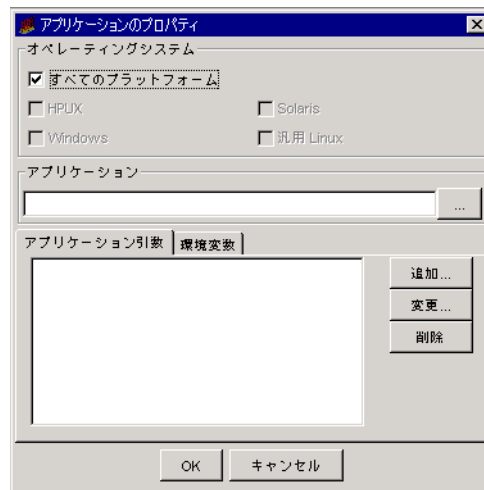


図 14 [アプリケーションと静的引数を指定します] ウィンドウ

- 1 [追加] ボタンをクリックして、アプリケーションを指定します。必要に応じて、アプリケーションの静的引数を入力します。

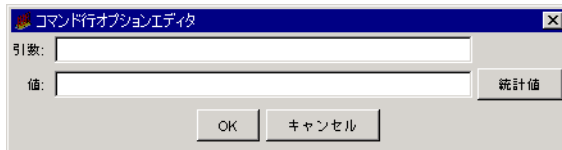
[アプリケーションのプロパティ]ボックスが開きます。



- 2 [オペレーティングシステム]ボックスで、アプリケーションを実行するオペレーティングシステムを選択します。
- 3 [アプリケーション]ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - アプリケーションの実行可能ファイルの場所を入力します。
 - [参照]ボタンをクリックすると[開く]ダイアログボックスが表示されます。アプリケーションの実行可能ファイルに移動し[開く]をクリックします。
- ▶ 指定したアプリケーションは、レポートの表示に使用するクライアントアプリケーション(レポートビューアまたはレポートビルダ)が稼働しているシステム上にインストールされている必要があります。
- 4 アプリケーションの起動時に使用する引数または環境変数を指定するには、[アプリケーション引数]タブまたは[環境変数]タブをそれぞれクリックして、[追加]をクリックします。

省略することもできます。たとえば、アプリケーションへのログオンに必要な引数があればここで指定します。

[コマンド行オプションエディタ] ダイアログボックスが開きます。



- a [引数] ボックスで引数を入力します。
- b 値を指定するには、以下のいずれかを実行します。
 - [値] ボックスに統計の値を入力します。
 - [**統計値**] をクリックして [要素または統計値の選択] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、ソースレポートの要素および統計が表示されます。統計値を選択して [**OK**] をクリックします。

引数を変更するには、引数を選択して [**変更**] をクリックします。変更を加えたら、[**OK**] をクリックします。

引数を削除するには、引数を選択して [**削除**] をクリックします。変更を加えたら [**OK**] をクリックします。

- 5 [**次へ**] をクリックします。

タスク 7: リnkのプロパティを確認する

[**完了**] をクリックするとリンクが作成されます。

カタログマネージャの表示ペインに、リンクがグラフィックで表示されます。また、[リンク] カタログにもリンクが表示されます。

356 ページの図 11 は、カタログマネージャの [リンクカタログ] と表示ペインでの、リンクの表示例を示しています。

レポートから URL へのリンク

配布されたレポート (ソースレポート) 内に、URL へのリンクを作成できます。ユーザーがソースレポートでリンクをクリックすると、リンクによって、指定したパラメータ、統計、またはその両方を使用して URL が起動します。

たとえば、ProCurve Datapipe を使用して HP ProCurve スイッチを管理していると仮定します。この場合は、レポート内のノードから、ユーザーがスイッチにログオンするための URL へのリンクを作成できます。

レポートから URL へのリンクを作成するには、以下の手順に従います。

タスク 1: [レポートから URL へのリンク]ウィザードを起動する

[レポートから URL へのリンク]ウィザードは、以下の方法で起動できます。

- [リンク]カタログでリンクグループを右クリックし、メニューから[新規レポートリンク]、[レポートから URL への新規リンク]の順に選択します。
- [ファイル]メニューから[新規]、[レポートから URL へのリンク]の順に選択します。

[リンクの名前と説明]ウィンドウが開きます(350 ページの図 7 を参照)。

タスク 2: リンクの名前と説明を指定する

- 1 [名前]ボックスに、[リンクカタログ]の[リンク]フォルダーで表示されるこのリンクの名前を入力します。
- 2 [説明]ボックスに、このリンクの説明を入力します。説明は省略することも可能です。
- 3 [次へ]をクリックします。

後でこの情報を変更する場合は、リンクを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。詳細は 373 ページの「リンクのプロパティの表示と変更」を参照してください。

タスク 3: リンクの作成先とするリンクグループを選択する

[リンクグループの選択]ウィンドウが開きます(351 ページの図 8 を参照)。



このウィンドウは、カタログマネージャの[ファイル]メニューから[レポートから URL へのリンク]ウィザードを起動した場合にのみ表示されます

- 1 リンクグループを選択します。
- 2 [次へ]をクリックします。

タスク 4: ソースレポートを指定する

図 15 は [レポートの指定] ウィンドウを示しています。

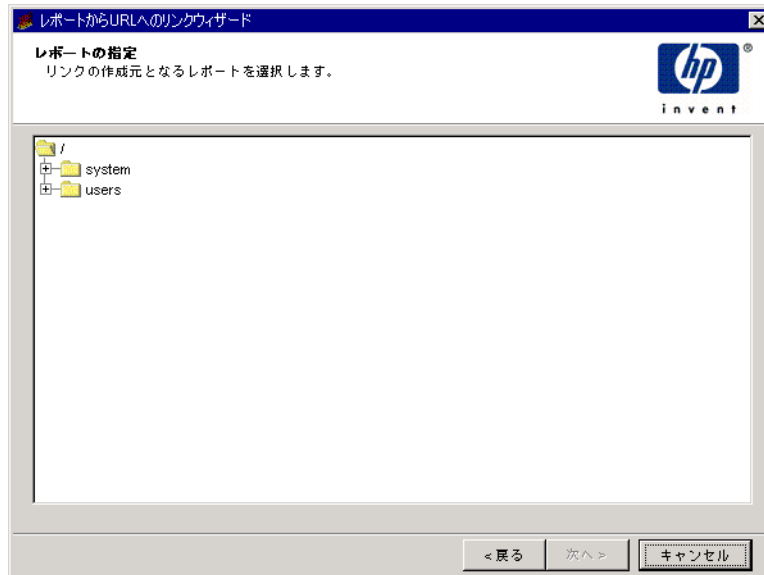


図 15 [レポートの指定] ウィンドウ

- 1 リンクを作成するレポートを見つけて選択します。
- 2 [次へ] をクリックします。

タスク 5: ソースレポート内の、リンクのトリガー元となる項目を指定する

図 16 は [リンク項目の選択] ウィンドウを示しています。



図 16 [リンク項目の選択] ウィンドウ

ソースレポート内の、リンクのトリガー元となる要素または統計を選択する必要があります (これを *リンクアンカー* と呼びます)。たとえば、ロゴなど要素を選択した場合は、ユーザーがレポートでロゴをクリックするとリンク先 URL が表示されるようにします。

- 1 ソースレポート内の要素または統計を選択します。
- 2 [次へ] をクリックします。

タスク 6: URL 情報を入力する

図 17 は [URL の追加] ウィンドウを示しています。

図 17 [URL の追加] ウィンドウ

- 1 現在のサーバー上のページにリンクしたい場合は、[**この URL を相対 URL として作成**] チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択すると、ウィンドウ内の [プロトコル]、[ホスト]、[ポート] ボックスが使用できなくなります。

- 2 [プロトコル] ボックスから、使用するプロトコル (**http** または **https**) を選択します。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [ホスト] ボックスに、リンク先の **Web** サーバーのホスト名を入力します。
 - ソースレポート内の、ホスト情報の提供元となる統計を選択するには、[**統計値の使用**] をクリックします。

[要素または統計値の選択] ダイアログボックスが開いたら、統計を選択し [**OK**] をクリックします。

- 4 以下のいずれかを実行します。

- [ポート]ボックスにポートを入力します。
- ソースレポート内の、ポート情報の提供元となる統計を選択するには、**[統計値の使用]**をクリックします。

[要素または統計値の選択]ダイアログボックスが開いたら、統計を選択し**[OK]**をクリックします。

- ▶ ホストまたはポートに統計を使用すると、[ホスト]ボックスと[ポート]ボックスには何も表示されませんが、**[URLの追加]**ウィンドウの下部に情報が表示されます。

- 5 [パス]ボックスにパスを入力します(必須ではありません)。

たとえば、レポートから別の Web アクセスサーバーシステムにあるレポートへのリンクを作成すると仮定します。この場合は、たとえば以下のようなパスを指定します。

/reports/webview

- 6 **[次へ]**をクリックします。

タスク7: リンクインデックスを作成する

☒ 18 は [リンクインデックスの作成] ウィンドウを示しています。

レポートからURLへのリンクウィザード

リンクインデックスの作成
URL で使用されるパラメータを作成します。統計値を選択すると、実行時にその統計値の最新の値が使用されます。

パラメータ名

パラメータ値 統計値の使用

追加

現在のパラメータリンク

削除

<戻る 次へ> キャンセル

図 18 [リンクインデックスの作成] ウィンドウ

URL を呼び出すときに使用するパラメータ (つまり *リンクインデックス*) を指定できます。これにより、ソースレポートからパラメータに情報が渡されます。リンクインデックスは必須ではありません。作成しない場合は **[次へ]** をクリックして続行します。リンクインデックスの作成例については、**368 ページ**の「**リンクインデックスの作成**」を参照してください。

- 1 [パラメータ名] ボックスに、**URL** を呼び出すときに使用するパラメータの名前を入力します。
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - [パラメータ値] ボックスにパラメータ値を入力します。
 - **[統計値の使用]** ボタンの横にあるチェックボックスをオンにし、**[統計値の選択]** ボタンをクリックしてパラメータ値の統計を選択します。
- 3 **[追加]** をクリックしてリンクインデックスを作成します。[現在のパラメータリンク] ボックスに、リンクインデックスが表示されます。
 - ▶ リンクインデックスは、複数作成できます。つまり、ソースレポート内の多数の要素からリンク先 URL へ、情報を渡すことができます。
- 4 必要に応じて、リンクキーを削除する場合は、[現在のパラメータリンク] ボックスでそのリンクキーを選択し **[削除]** をクリックします。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。

リンクインデックスの作成

たとえば、URL から別の Web アクセスサーバーシステム上のレポートを開きたいと仮定します。**366 ページのタスク 6**ではホストとポートを指定しましたが、ここではレポートが存在する場所を指定するパラメータを設定します。デバイスの準リアルタイム スナップショットレポートを開いて、このレポートに表示する特定のデバイスを選択するには、以下の手順を実行します。

- 1 [パラメータ名] ボックスに、パラメータとして **rn** と入力します。
- 2 [パラメータ値] ボックスに、以下のように入力します。


```
system/DeviceResource/Device/Device_NearRealTime_Snapshot.rep
```
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 [パラメータ名] ボックスに **p_Device** と入力します。

- 5 **[統計値の使用]** ボタンの横にあるチェックボックスをオンにし、**[統計値の使用]** ボタンをクリックします。
- 6 デバイスの統計 (たとえば [ターゲット名]) を選択し **[OK]** をクリックします。
- 7 **[追加]** をクリックします。

この時点で、**[リンクインデックスの作成]** ウィンドウの下部に、たとえば以下のような **URL** が表示されます。

```
http://ackcat:80/reports/webview?rn=/system/DeviceResource/Device/  
Device_NearRealTime_Snapshot.rep&p_Device=<Target Name&
```

タスク 8: リンクのプロパティを確認する

[完了] をクリックします。リンクが作成されます。

カタログマネージャの表示ペインに、リンクがグラフィックで表示されます。また、**[リンク]** カタログにもリンクが表示されます。**[ファイル]** メニューからリンクウィザードを起動した場合は、リンクはウィザードの**[リンクグループの選択]** ウィンドウで指定したフォルダーに表示されます。**[リンクカタログ]** のフォルダーからウィザードを起動した場合は、リンクはそのフォルダーに表示されます。**356 ページの図 11** は、カタログマネージャの**[リンクカタログ]** と表示ペインでの、リンクの表示例を示しています。

レポートリンクを開く

ソースレポートの表示に使用するアプリケーションと、リンクの作成に使用されている要素のタイプに応じて、リンクは以下のように表示されます。

- **Web** アクセスサーバーの場合

リンクは **URL** のように扱われます (つまり、ブラウザで **URL** を表示するのと同じ方法で表示されます)。たとえば、**URL** を下線付きで表示するブラウザでは、レポート内のリンクも下線付きで表示されます。**Web** アクセスサーバーでのリンクの表示例については、**348** ページを参照してください。

▶ レポートからアプリケーションへのリンクを、**Web** アクセスサーバーで開くことはできません。この種類のリンクを開くには、レポートビルダまたはレポートビューアを使用します。また、レポートにリンクされているアプリケーションを正常に起動するには、リンク先のアプリケーションが、レポートビルダまたはレポートビューアの実行元のシステムに存在している必要があります。

- レポートビルダおよびレポートビューアの場合

リンクの上にカーソルを置くと、カーソルが矢印から手の形に変わります。さらに、リンクに使用されている要素のタイプに応じて、以下のようになります。

- レポートリンクのリンク先要素は、青い枠で囲まれます。
- ラベルおよびテーブル列の文字列には下線が付きます。

以下の図は、これらの動作を示したものです。

Device Summary				
Mon, May 12 12:00 AM				
Device	Busy Hour CPU Util	Busy Hour Buffer Util	Busy Hour Memory Util	
Cisco_02	85.00	98.23	94.67	
Cisco_02	94.75	97.97	87.56	
Cisco_01	82.50	97.95	82.70	
Cisco_01	84.50	97.41	86.97	

青い枠 ———

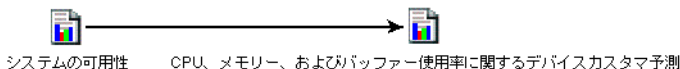
手の形のカーソル ———

下線付き文字列 ———

リンクを開くには、レポート内のリンクをクリック (**Web** アクセスサーバーの場合) またはダブルクリック (レポートビルダおよびレポートビューアの場合) します。


表示ペインでのリンクの変更

[リンクカタログ]からリンクを選択すると、そのリンクがカタログマネージャの表示ペインにグラフィック表示されます。



リンクを修正するには、以下のいずれかを実行します。

- リンクの表示方法を変更する。

ナビゲーションペインを右クリックするか、ツールバーの  をクリックします。メニューから、以下のいずれかのオプションを選択します。

- [円環]: リンクを環状に並べます。
- [階層]: リンクを階層状に並べます。
- [組織]: リンクを組織的に並べます。
- [直交]: リンクを **90度** (直角) に並べます。
- [ランダム]: リンクをランダムに並べます。
- [ツリー]: リンクをツリー状に並べます。

- リンク対象オブジェクト (レポート、URL、およびアプリケーション) を移動する。

オブジェクトをクリックします。ハンドルが表示されます。オブジェクトを新しい場所までドラッグします。

- リンクを変更する。

リンクされているオブジェクト同士を結ぶ矢印を選択すると、矢印が黄色で強調表示されます。右クリックします。以下のオプションを含むメニューが表示されます。

- [編集]: 要素のリンクキーを表示および変更するには、このオプションを選択します。詳細は、[373 ページの「リンクのプロパティの表示と変更」](#)を参照してください。リンクの表示名、説明、またはその両方を変更するには、カタログでリンクを右クリックし、メニューから [**プロパティ**] を選択します。

- [有効]: レポート内のリンクを無効にするには、このオプションを選択します。リンクはカタログ内に残りますが、機能はしなくなります。無効にしたリンクは、いつでも有効にできます。
- [新規ブラウザで開く]: このオプションを選択すると、レポートを Web アクセスサーバーで表示したときに、リンク先 (レポートまたは URL) が新しいブラウザウィンドウで開くようになります。
- [削除]: カタログからリンクを削除するには、このオプションを選択します。

リンクのコピー

リンクをコピーするには、以下の手順に従います。

- 1 [リンクカタログ]で、コピー元となるリンクを見つけます。
- 2 リンクを右クリックし、メニューから[コピー]を選択します。

[リンクのコピー]ダイアログボックスが開き、リンクのコピー先として指定できるリンクグループフォルダーが表示されます。



- 3 以下を実行します。
 - a [宛先リンクグループ]ボックスで、リンクのコピー先とするフォルダーを選択します。
 - b 必要に応じて、[新規リンク名]ボックスに、リンクの新しい名前を入力します。
 - c [OK]をクリックします。

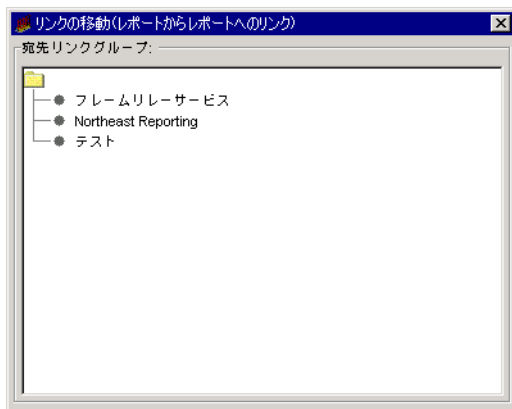
リンクの移動

あるリンクグループから別のリンクグループへ、リンクを移動できます。

リンクを移動するには、以下の手順に従います。

- 1 カタログで、移動するリンクを見つけます。
- 2 リンクを右クリックし、メニューから[移動]を選択します。

[リンクの移動]ダイアログボックスが開き、リンクの移動先として指定できるリンクグループフォルダーが表示されます。



- 3 リンクの移動先とするフォルダーを選択し[OK]をクリックします。

リンクの削除

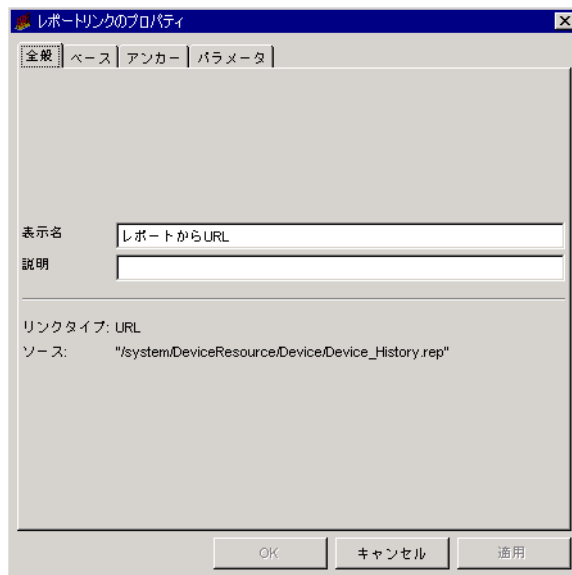
リンクカタログからリンクを削除するには、そのリンクを右クリックし、メニューから[削除]を選択します。確認のダイアログボックスが開き、リンクを削除してよいかどうかを尋ねられます。[はい]をクリックすると、リンクが削除されます。

リンクのプロパティの表示と変更

リンクのプロパティを表示または変更するには、以下の手順に従います。

- 1 ナビゲーションペインでリンクを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

[レポートリンクのプロパティ]ダイアログボックスが開きます。



- 2 以下のものを表示および変更するには、[全般]タブをクリックします。
 - [表示名]: カタログでのリンクの表示名です。
 - [説明]: リンクの説明です(指定されていない場合もあります)。説明は省略することも可能です。
 - [リンクタイプ](レポート、URL、またはアプリケーション)
 - [ソース]
- 3 レポートから **URL** へのリンクの場合のみ: ソースレポート内の、リンクのトリガー元である要素または統計(リンクアンカー)を変更するには、[アンカー]タブをクリックします。このタブは、[レポートから **URL** へ]ウィザードの[リンク項目の選択]ウィンドウと同じものです。詳細は [365 ページのタスク 5](#) を参照してください。
- 4 レポートから **URL** へのリンクの場合のみ: 任意の **URL** 情報を変更するには、[ベース]タブをクリックします。このタブは、[レポートから **URL** へのリンク]ウィザードの[URLの追加]ウィンドウと同じものです。詳細は [366 ページのタスク 6](#) を参照してください。
- 5 [パラメータ]タブをクリックします。リンクパラメータの変更方法については、レポートリンクのタイプに応じて、以下の情報を参照してください。

- [レポート]: このタブは、[レポートからレポートへ]ウィザードの[リンクインデックスの作成]ウィンドウと同じものです。詳細は [353 ページのタスク 5](#) を参照してください。
 - [アプリケーション]: このタブは、[レポートからアプリケーションへ]ウィザードの[リンクインデックスの作成]ウィンドウと同じものです。詳細は [367 ページのタスク 7](#) を参照してください。
 - [URL]: このタブは、[レポートから URL へ]ウィザードの[リンクインデックスの作成]ウィンドウと同じものです。詳細は [367 ページのタスク 7](#) を参照してください。
- 6 [適用] をクリックすると変更が適用されます。[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

リンクのエクスポートとインポート

リンクグループ内のリンクをエクスポートおよびインポートできます。これは、以下のいずれかの場合に便利です。

- 作成したレポートパックにレポートリンクを含めたい場合。
レポートリンクを含めるには、`install.pkg` ファイルの `reportlink` 指令を使用します。`install.pkg` ファイルとその指令に関する詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。
- レポートリンクを、バックアップの目的で別のシステムに保存したい場合。
- Web アクセスサーバーシステムが複数あり、あるシステムからリンクをエクスポートし、それを別のシステムにインポートしたい場合。

リンクグループのエクスポート

リンクグループをエクスポートするには、以下の手順に従います。

- 1 [リンクカタログ] でリンクグループを右クリックします。
- 2 [ファイル] メニューから [エクスポート] を選択します。
[保存] ダイアログボックスが開きます。
- 3 以下を実行します。
 - a リンクファイルの保存先に移動します。

- b** [ファイル名]ボックスに、リンクのファイル名(たとえば `deviceresources_links.tlg`)を入力します。
- c** [**保存**]をクリックします。

リンクのインポート

リンクグループをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1** [リンクカタログ]カタログで、リンクのインポート先となるリンクグループをクリックします。

リンクグループをインポートすると、このリンクグループのサブフォルダーとして表示されます。

- 2** [ファイル]メニューから [**インポート**]をクリックします。

[開く]ダイアログボックスが開きます。

- 3** 以下を実行します。

- a** `.tlg` ファイルのあるディレクトリに移動します。
- b** ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

リンクカタログの更新

リンクカタログ内のフォルダーを更新するには、フォルダーを右クリックし、メニューから [**更新**]を選択します。

Web アクセスサーバーの使用

この章では、Web アクセスサーバーの管理機能について説明します。これらの機能は、[管理]と[カタログ]のリンクを使用して利用できます。これらのリンクにアクセスするには、管理者権限を持つアカウントで Web アクセスサーバーにログオンする必要があります。

具体的には、この章では以下を行う方法を説明します。

- クライアントアプリケーション、つまり Web アクセスサーバー、レポートビューア、レポートビルダ、および管理コンソールに必要なユーザーアカウントを管理する。
- Web アクセスサーバー、OVPI システム属性、メールサーバー、および SSL(Secure Socket Layer) 通信を設定する。
- クライアントと Web アクセスサーバーのログファイルを表示し、その外観を制御する。
- Web アクセスサーバー、レポートビルダ、およびレポートビューアのための Java 設定を制御する。
- レポート属性を設定する。
- レポートビューを作成する。
- Web アクセスサーバーの外観を制御する。
- [System] と [Users] フォルダーにレポートを配布する。

- サービスの設定を変更する。

Web アクセスサーバーへのアクセス

Web アクセスサーバーにアクセスする前に、以下の前提条件が満たされていることを確認します。

- **OVPI HTTP Server** が動作している。動作していない場合は、**65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」**を参照してください。
- 以下のいずれかの **Web** ブラウザがインストールされている。
 - Netscape Navigator 6.x 以降
 - Internet Explorer 5.x 以降

Web アクセスサーバーにアクセスするには、以下の手順に従います。

- 1 お使いの **Web** ブラウザを起動します。
- 2 ブラウザの [アドレス] または [場所] フィールドに以下の **URL** を入力し、**[Enter]** を押します。

`http://server_name.organization.type:port_number`

`server_name` は、**Web** アクセスサーバーの名前です。

`organization` は、ユーザーの組織の名前です。

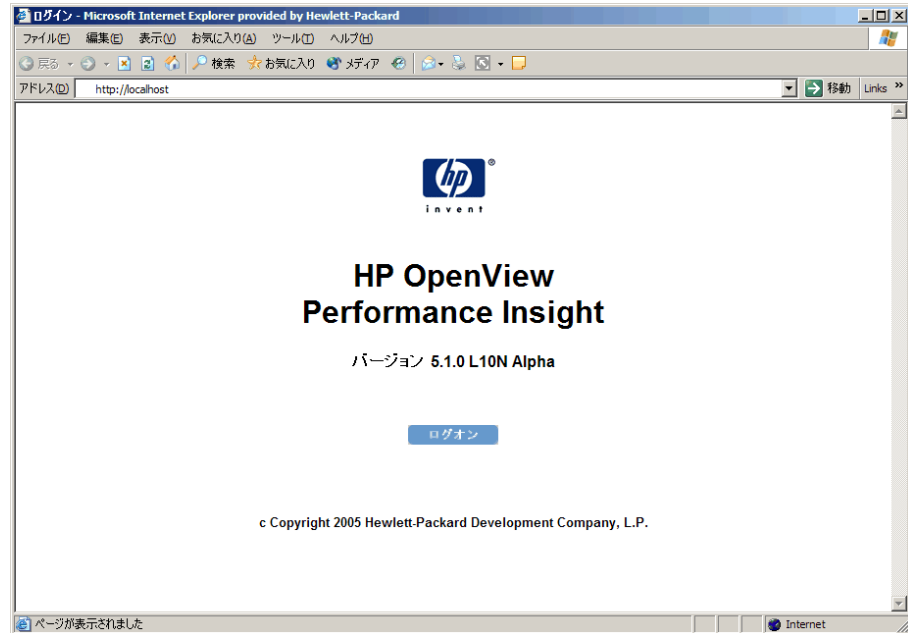
`type` は、ドメインの種類 (たとえば com、org、net) です。

`port_number` は、デフォルトの **Web** アクセスサーバーのポート番号です。



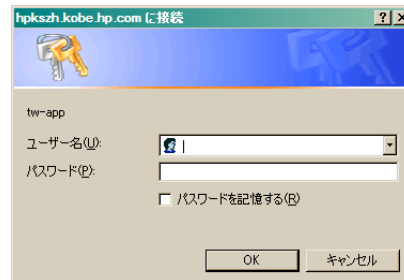
Web アクセスサーバーがポート **80** を使用している場合は、ポート番号を入力する必要はありません。

ログオンページが開きます。



- 3 [ログイン] をクリックします。

[ネットワーク パスワードの入力] ダイアログボックスが開きます。



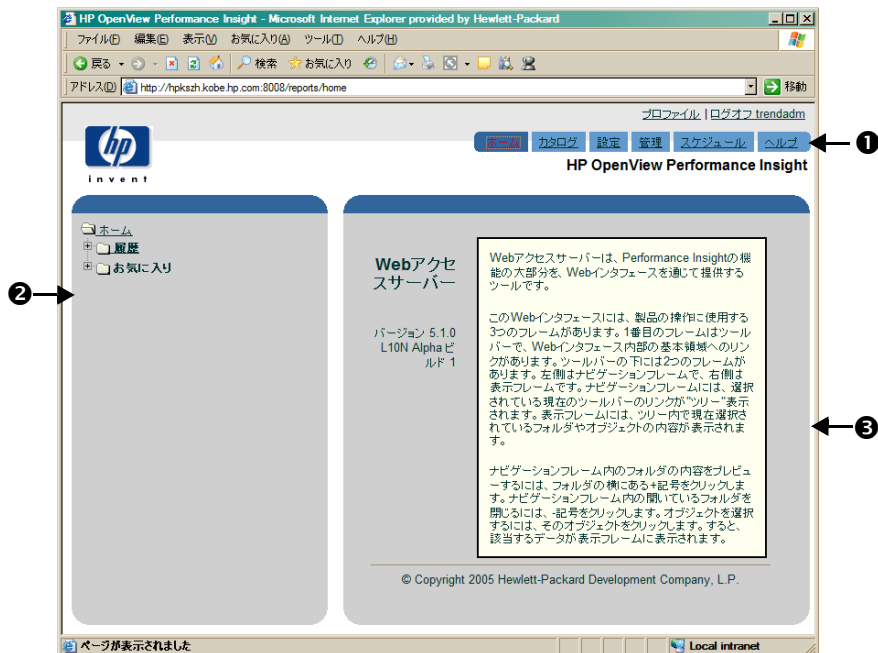
- 4 管理者のユーザー名とパスワードを入力し [OK] をクリックします

OVPI は、インストール時に、trendadm というデフォルトの管理者アカウントを作成します。このアカウントを使用するか、または、管理者権限を持つ別のアカウントがあればそれを使用します。

Web アクセスサーバーが開きます。

Web アクセスサーバーの概要

次の図は、Web アクセスサーバーを示しています。



Web アクセスサーバーは、以下のコンポーネントで構成されています。

- リンクバー (1)

リンクバーには、[ホーム]、[カタログ]、[設定]、[管理]、[スケジュール]、および[ヘルプ]というリンクがあります。管理機能を実行できるリンクを以下に示します。

- [カタログ]リンクにより、Web サーバーの、[System]と[Users]の両方のフォルダーにレポートを配布でき、また Web サーバーに配布されているレポートを表示できます。
- [管理]リンクにより、ユーザーとユーザーグループのアカウントの管理、サービスの設定、ログファイルの表示、Java と配布項目の設定の変更、および Web アクセスサーバーの外観の制御ができます。

管理者以外のユーザーが使用できるリンクの詳細は、『*HP OpenView Performance Insight* レポートの作成および表示ガイド』を参照してください。

- ナビゲーションフレーム (2)

標準のツリー構造により各リンクに関連付けられたフォルダーにアクセスできます。

▶ ナビゲーションフレームが表示されない場合、『*Performance Insight* インストールガイド』の付録「トラブルシューティング」を参照してください。

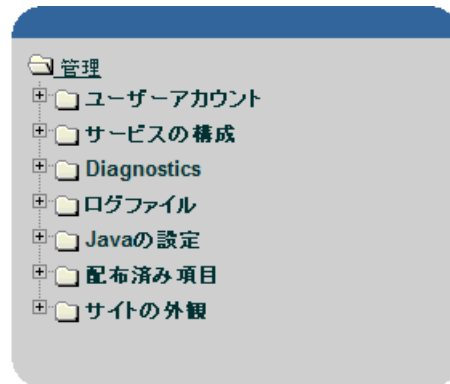
- 結果フレーム (3)

ナビゲーションフレームで選択されているフォルダーの内容またはレポートを表示します。

[管理] リンク

[管理] リンクを使用して、クライアントアプリケーションのアカウントを管理し、サービス、ログファイル、Java、および配布項目の設定を変更します。

[管理] リンクのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。

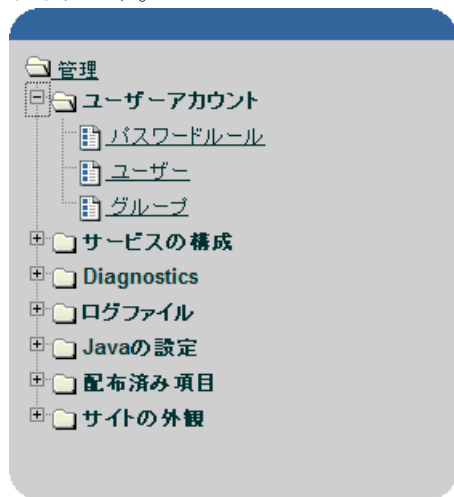


このツリーの中には、[ユーザーアカウント]、[サービスの構成]、[診断]、[ログファイル]、[Javaの設定]、[配布済み項目]、および[サイトの外観]というフォルダーがあります。

[ユーザーアカウント]

このフォルダーを使用して、ユーザーアカウントの作成、変更、削除を行い、またパスワード規則の設定を行います。これらのアカウントは、クライアントアプリケーション (Web アクセスサーバー、管理コンソール、レポートビューア、およびレポートビルダ) へのログオンに使用されます。

[ユーザーアカウント] フォルダーのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



▶ [ユーザーアカウント] フォルダーを使用して作成するユーザーアカウントは、ユーザーが OVPI のクライアントアプリケーション (管理コンソール、Web アクセスサーバー、レポートビルダ、およびレポートビューア) にアクセスできるようにするためのアカウントです。

[ユーザーアカウント] フォルダーには、以下が含まれています。

- [パスワードルール] ページ
このページを使用して、ユーザーアカウント用に作成するパスワードのパスワード有効期限ルールを設定します。詳細は、[392 ページの「パスワードの有効期限ルール有効期限ルールの設定」](#)を参照してください。
- [Users] フォルダー
このフォルダーを使用して、デフォルトのユーザーアカウント (trendadm) を含むユーザーアカウントを作成、変更、または削除します。詳細は、[391 ページの「ユーザーアカウントの管理」](#)を参照してください。

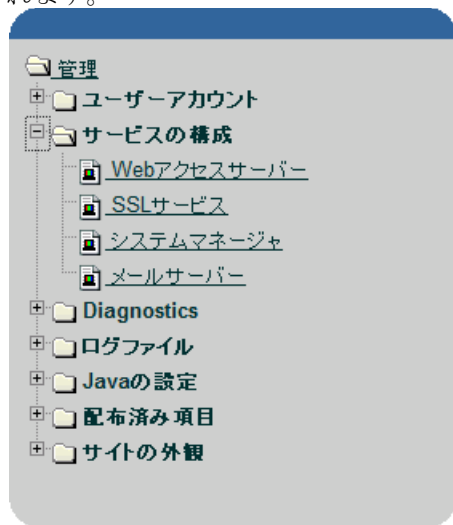
- [グループ]フォルダー

このフォルダーを使用してユーザーアカウントのグループを作成、変更、または削除します。詳細は、[400 ページ](#)の「[ユーザーグループの管理](#)」を参照してください。

[サービスの構成]

このフォルダーを使用して、OVPI をインストールした Web アクセスサーバーとシステムの設定の変更、SSL (Secure Socket Layer) 通信のセットアップ、およびレポートリンクをメール送信するための属性の指定を行います。

[サービスの構成]フォルダーのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



[サービスの構成]フォルダーには、以下が含まれています。

- [Web アクセスサーバー] ページ

このページを使用して Web アクセスサーバーの現在の設定を変更します。Web アクセスサーバーは、OVPI クライアントによる OVPI データベースへのアクセスを制御します。詳細は、[432 ページ](#)の「[Web アクセスサーバー設定の変更](#)」を参照してください。

- [SSL サービス] ページ

このページを使用して、Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラウザとの間での SSL(Secure Socket Layer) 通信を有効にします。詳細は、[436 ページの「SSL サービス設定の変更」](#)を参照してください。

- [システムマネージャ] ページ

このページを使用してシステムマネージャの現在の設定を変更します。システム マネージャは、すべての Web アクセスサーバーとデータベースのリストを管理します。詳細は、[441 ページの「システムマネージャの設定の変更」](#)を参照してください。

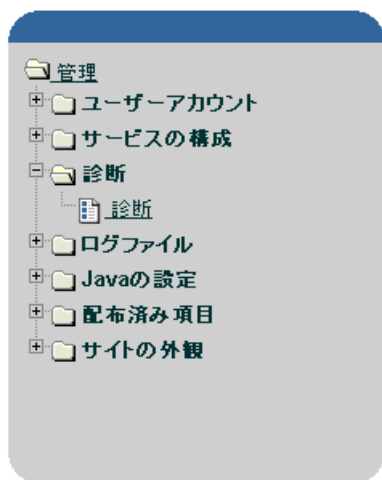
- [メールサーバー] ページ

このページを使用して、レポートリンクをメール送信するための属性を指定します。詳細は、[449 ページの「メールサーバーの設定の変更」](#)を参照してください。

[診断]

このフォルダーを使用して、Web アクセスサーバーに関する Java とオペレーティングシステムの情報と、データベース接続に関する情報を表示します。

[診断] フォルダのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



[診断] フォルダーには、以下が含まれています。

- [診断] ページ

Web アクセスサーバーとデータベースに関する以下の情報を表示できます。

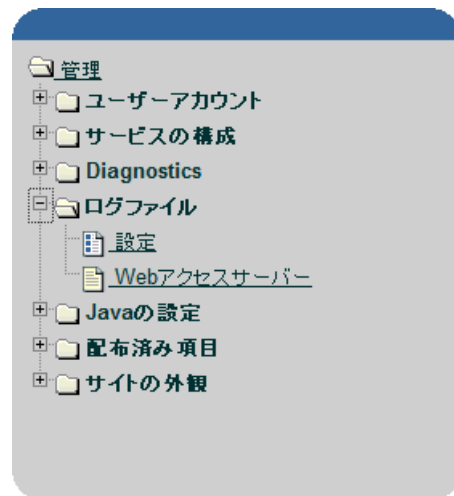
- Web アクセスサーバー。Java のバージョン、Java のベンダー、Java のベンダーの URL、およびオペレーティングシステムのアーキテクチャと名前とバージョン番号を表示できます。
- データベース。名前、接続の最大数、接続ステータス、および現在の接続の状態を表示できます。

詳細は、[411 ページの「Diagnostics の表示」](#)を参照してください。

[ログファイル]

このフォルダーを使用して、Web アクセスサーバーのログファイルにアクセスします。

[ログファイル] フォルダーのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



[ログファイル] フォルダーには、以下が含まれています。

- [設定] ページ

ページに表示されるログファイルのエントリーの数、およびログファイルのフレームの背景色を設定できます。詳細は、[412 ページの「ログファイルの設定の変更」](#)を参照してください。

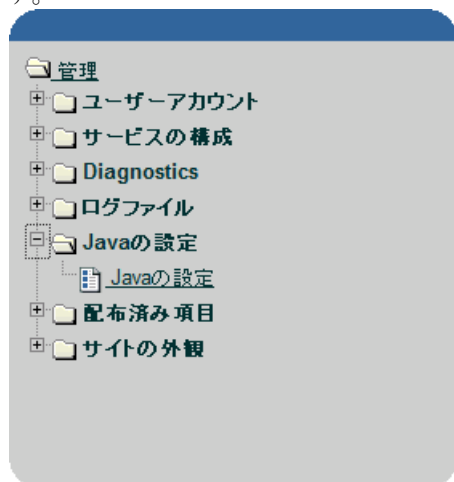
- [Web アクセスサーバー] ページ

Web アクセスサーバーのログファイルを表示できます。このログファイルには、サーバーに関するすべての情報、警告、エラー、およびデバッグの各メッセージが記載されています。詳細は、[414 ページ](#)の「ログファイルの表示」を参照してください。

[Java の設定]

このフォルダーを使用して、レポートビルダ、レポートビューア、および Web アクセスサーバーのサービスに関する Java 設定を変更します。

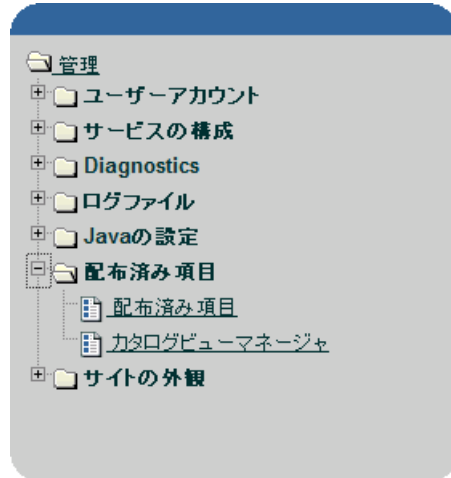
[Java の設定] フォルダのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



これには、[Java の設定] ページが含まれています。このページにより、ヒープのサイズと引数を変更できます。詳細は、[415 ページ](#)の「Java 設定の変更」を参照してください。

[配布済み項目]

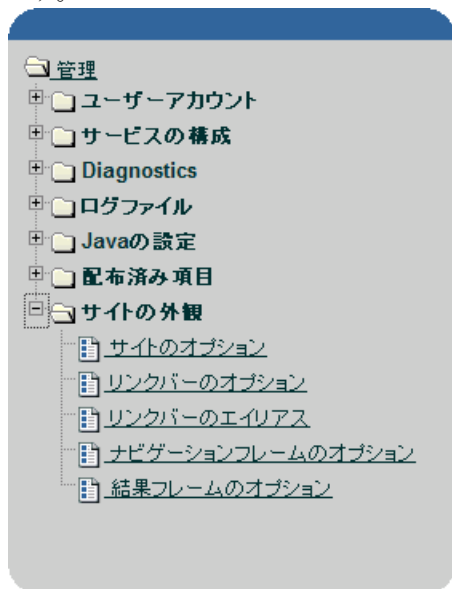
このフォルダーを使用して、配布項目 (レポートと URL) の設定を変更し、カタログビューをセットアップします。[配布済み項目] フォルダーのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



これには以下が含まれています。

- [配布済み項目] ページ
このページによりレポートと URL の属性を設定できます。詳細は、[416 ページの「配布項目の設定の変更」](#)を参照してください。
- [カタログビューマネージャ] ページ
このページにより、ビューを作成できます。ビューを使うと、ユーザーは、[System] フォルダー内の配布されたレポートの特定のリストを表示できます。詳細は、[419 ページの「ビューの作成」](#)を参照してください。

[サイトの外観]フォルダーのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



[サイトの外観]フォルダーには、以下が含まれています。

- [サイトのオプション]ページ

Web ブラウザのタイトルバーに表示されるタイトルを変更できます。詳細は、[423 ページの「サイトのオプションの変更」](#)を参照してください。

- [リンクバーのオプション]ページ

多数あるリンクバーのオプションを変更できます。これらのオプションとして、リンクバーのタイトル、位置揃え、高さ、色、イメージの大きさと位置、フォーカスの色などがあります。詳細は、[424 ページの「リンクバーのオプションの変更」](#)を参照してください。

- [リンクバーのエイリアス]ページ

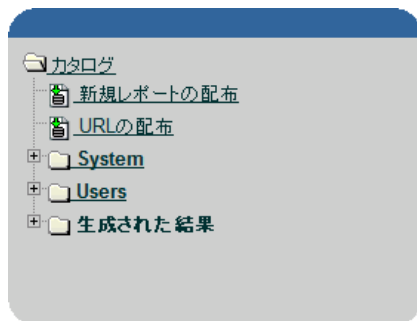
任意のリンクの表示 / 非表示を切り替えたり、その名前を変更したりできます。詳細は、[426 ページの「リンクバーの別名の変更」](#)を参照してください。

- [ナビゲーションフレームのオプション] ページ
ナビゲーションフレームの幅、背景色、および背景イメージを変更できます。詳細は、[428 ページ](#)の「ナビゲーションフレームのオプションの変更」を参照してください。
- [結果フレームのオプション] ページ
結果フレームの余白の色と背景色を変更できます。詳細は、[429 ページ](#)の「結果フレームのオプションの変更」を参照してください。

[カタログ] リンク

このリンクを使用して、**Web** サーバーにレポートを配布し、また [System] および [Users] フォルダに配布されているレポートを表示することができます。

[カタログ] リンクのナビゲーションツリーは、以下のように表示されます。



[カタログ] リンクには、以下のページとフォルダーが含まれています。

- [新規レポートの配布] ページ
Web アクセスサーバーにレポートを配布できます。配布すると **Web** アクセスサーバーを使用してレポートを表示できるようになります。つまり、レポートを表示するには、レポートを配布する必要があるということです。それらのレポートは、レポートビルダまたはレポートビューアの、[ファイル] メニューの [ブラウザ] オプションを使用しても表示できます。詳細は、[430 ページ](#)の「レポートの配布」を参照してください。

- [URL の配信] ページ

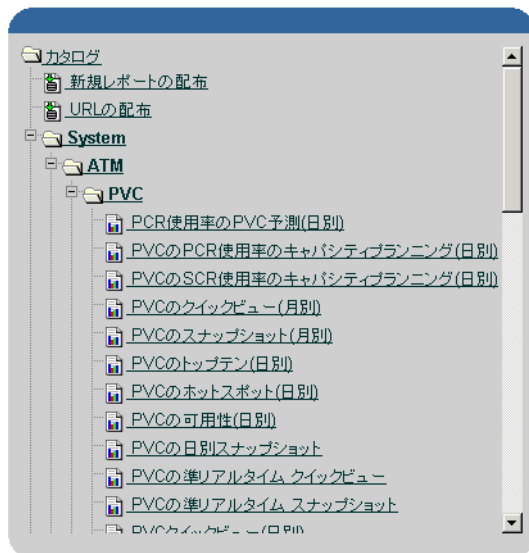
Web アクセスサーバーのカタログに URL を配布します。これによって頻繁に使用する Web サイトにすばやくアクセスできるようになります。たとえば、会社に複数の Web アクセスサーバーシステムが配備されている場合、いずれかのシステムで頻繁に表示する特定のレポート用に URL を配布できます。

URL を選択すると、Web アクセスサーバーの設定内容に応じて、現在のブラウザウィンドウまたは新しいブラウザウィンドウに、指定された Web サイトが表示されます。この機能の使用の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

- [System] フォルダー

すべてのユーザーが [System] フォルダーに配布されたレポートにアクセスできます。しかし、[システムディレクトリをユーザーに表示] オプションが選択されていない場合、またはこのフォルダー内のレポートがユーザーのカタログビューにない場合は、レポートを表示することはできません。OVPI 管理者だけがこのフォルダーにレポートを配布できます。

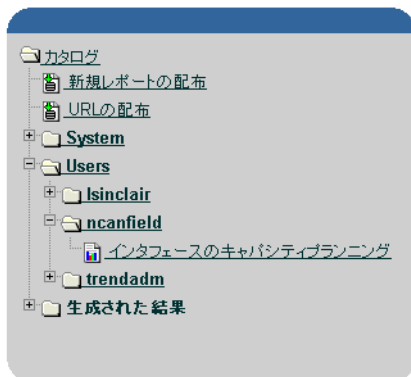
レポートを [System] フォルダーに配布したときのナビゲーションペインの表示例を以下に示します。



- [Users] フォルダ

このフォルダは、ユーザーまたは **OVPI** 管理者によって **Web** アクセスサーバーにレポートが配布された後に表示されます。ユーザーまたは管理者がレポートを配布すれば、そのレポートはそのユーザーのフォルダに表示されます。ユーザー（および管理者）だけが、そのフォルダの配布されたレポートにアクセスできます。

Capacity Planning レポートを **Nathan Canfield** というユーザーのフォルダに配布したときのナビゲーションペインの表示例を以下に示します。



- [生成された結果] フォルダ

このフォルダは、生成されたレポートの結果を表示します。このフォルダの内容は、[スケジュール] リンクをクリックしたときに表示される [結果] フォルダの内容と同じです。

ユーザーアカウントの管理

どの **OVPI** クライアント（レポートビルダ、レポートビューア、**Web** アクセスサーバー、および管理コンソール）においても、ユーザーはログオンする必要があります。

OVPI をインストールする際に、デフォルトのユーザーアカウントを 1 つ作成します。このアカウント名は、**trendadm** であり、パスワードは **trendadm** です。理想は、**OVPI** クライアントアプリケーションを使用する各人についてユーザーアカウントを作成することです。

この項では、以下を行う方法を説明します。

- ユーザーアカウント用のパスワードの有効期限ルールを設定する。
- ユーザーアカウントを作成、変更、および削除する。
- ユーザー役割または管理者役割をユーザーに割り当てる。

あるいは、この項で説明するタスクのほとんどは、**userimport** と **groupimport** というコマンドを使用して実行することもできます。これらのユーティリティの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。



この項に記載した手順では、ユーザーが、デフォルトの OVPI 管理者のユーザーアカウントまたは OVPI 管理者権限を持つユーザーアカウントを使用して Web アクセスサーバーにログオンしていることを想定しています。

パスワードの有効期限ルール有効期限ルールの設定

ユーザーアカウントのパスワードの有効期限ルールを設定できます。
パスワードの有効期限ルールを設定するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。
- 2 [**管理**] ツリーで、[**ユーザーアカウント**] を展開し、次に [**パスワードルール**] をクリックします。

[**パスワードルール**] ページが開きます。

パスワードルール

アカウントパスワードが従うべき条件を変更するには、以下のルールを有効または無効にします。

<input type="checkbox"/> パスワードの長さは次の文字数以上である	<input type="text" value="4"/>
<input type="checkbox"/> アカウント名の循環シフトをパスワードにすることはできない	
<input type="checkbox"/> パスワードに次の個数以上の数字を含める	<input type="text" value="1"/>
<input type="checkbox"/> パスワードに次の個数以上の記号文字を含める	<input type="text" value="1"/>
<input type="checkbox"/> 過去n回以内と同じパスワードは使用できない	<input type="text" value="3"/>
<input type="checkbox"/> ユーザーは、パスワード失効後n日間ログインを継続できる	<input type="text" value="10"/>

適用

- 3 以下のいずれかを実行します。

- a 最小パスワード長を設定するには、[**パスワードの長さは、次の文字数以上である**] チェックボックスをオンにし値を入力します (入力できる最大値は 9999 です)。

この規則を無効にするには、[**パスワードの長さは、次の文字数以上である**] チェックボックスをオフにします。

- b アカウント名で使用する文字列を、循環させたパスワードにならないように設定するには、[**アカウント名の循環シフトをパスワードにすることはできない**] チェックボックスをオンにします。

たとえば、アカウント名が caesar である場合、以下のいずれもこのアカウントのパスワードにはなれません。すなわち、caesar、aesarc、esarca、sarcae、arcaes、rcaesa。

この規則を無効にするには、[**アカウント名の循環シフトをパスワードにすることはできない**] チェックボックスをオフにします。

- c パスワードに規定の数の数字を含むように設定するには、[**パスワードに次の個数以上の数字を含める**] チェックボックスをオンにし値を入力します (入力できる最大値は 9999 です)。

この規則を無効にするには、[**パスワードに次の個数以上の数字を含める**] チェックボックスをオフにします。

- d パスワードに規定の数の句読文字を含むように設定するには、[**パスワードに次の個数以上の記号文字を含める**] チェックボックスをオンにし値を入力します (入力できる最大値は 9999 です)。

この規則を無効にするには、[**パスワードに次の個数以上の記号文字を含める**] チェックボックスをオフにします。

- e 異なったパスワードを規定の回数以上、使用しなければ、同じパスワードを再使用できないように設定するには、[**過去 n 回以内と同じパスワードは使用できない**] チェックボックスをオンにし値を入力します (入力できる最大値は 9999 です)。

たとえば、現在のパスワードが caesar であり、このオプションが 3 に設定されていると仮定します。このパスワードの期限が切れたとき、パスワードとして再び caesar を使用できるようになるには、別の 3 つのパスワードをそのときまでに使用しなければなりません。

この規則を無効にするには、[**過去 n 回以内と同じパスワードは使用できない**] チェックボックスをオフにします。

- f 期限切れ後もパスワードを使用できる日数を指定するには、[**ユーザーは、パスワード失効後 *n* 日間ログインを継続できる**] チェックボックスをオンにし日数を入力します (入力できる最大値は 9999 です)。

この規則を無効にするには、[**ユーザーは、パスワード失効後 *n* 日間ログインを継続できる**] チェックボックスをオフにします。

- 4 [**適用**] をクリックして変更を適用します。



変更内容は現在のパスワードには適用されません。パスワードの規則は、ユーザーがパスワードの変更を要求されたときに適用されます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、次に [**ユーザー**] をクリックします。[ユーザーの管理] ページが開き、現在のユーザーアカウントが表示されます。



- 3 [新規ユーザーの追加] をクリックします。[新規ユーザーの追加] ページが開きます。

- 4 以下の制約に注意しながら、すべてのボックスに必要な情報を入力します。
このページの全フィールドで、以下の文字を**使用しないでください**。アンパサンド (&)、円記号 (¥)、カンマ (,)、二重引用符 (")、スラッシュ (/)、疑問符 (?)、パーセント (%)、および単一引用符 (') です。

有効な入力は以下のとおりです。

- すべての英字 (大文字と小文字)、すべての数字、および、上記のものを除くすべての特殊文字。
- ユーザー名は、1 文字以上、最大 255 文字まで入力できます。英数字、スペース (空白)、アンダースコア (_)、およびハイフン (-) だけを使用できます。
- ユーザーの実名と会社/部門は、最小 0 文字 (したがって空欄にできます)、最大 255 文字までです。

- パスワードは、最小 4 文字、最大 255 文字まで入力できます。スペース（空白）は使用できません。
 - 電話番号のフォーマットは自由ですが、255 文字を超えることはできません。
 - 電子メールアドレスのフォーマットは自由ですが、255 文字を超えることはできません。
- 5 ユーザーに管理者役割がある場合にのみ **[管理者である]** チェックボックスをオンにします。このオプションを選択しない場合、アカウントには自動的にユーザー役割が与えられます。
 - 6 ユーザーグループを選択するには、以下のいずれかを実行します。
 - ユーザーを 1 つのユーザーグループに割り当てるには、**[グループ]** ボックスでそのユーザーグループ名を選択します。
 - ユーザーを複数のユーザーグループに割り当てるには、**[Ctrl]** キーを押したまま残りのユーザーグループ名を選択します。
 - ユーザーをどのユーザーグループにも割り当てない場合は、**[グループなし]** を選択します。
 - 7 **[データベース]** リストで、ユーザーがアクセスするデータベースを選択します。現在のリストに別のデータベースを追加する方法の詳細は、[441 ページの「システムマネージャの設定の変更」](#)を参照してください。
 - 8 **[表示]** リストで、ユーザーが使うビューを選択します。ビューの作成方法の詳細は、[420 ページの「ビューの作成」](#)を参照してください。
 - 9 ユーザーアカウントのパスワードの期限を設定するには、以下のいずれかを実行します。
 - **[無期限]** オプションをクリックします。このアカウントのパスワードは無期限になります。
 - **[パスワードの期限切れ]** オプションの日数を選択し、入力することで、パスワードの期限を設定します。

パスワードの期限が切れると、アカウントのパスワードの期限が切れたことを通知するページが表示され、そのアカウントのパスワードを変更するオプションが表示されます。

このオプションに加えて、以下を実行できます。

- パスワードの有効期限ルールをセットアップします。たとえば、パスワードの猶予期間を設定できます。このオプションにより、アカウントのパスワードの期限が切れた後も、指定回数だけそのアカウントにログオンできます。この猶予期間が経過すると、そのアカウントはロックされます(使用不能になります)。詳細は、[392 ページの「パスワードの有効期限ルール有効期限ルールの設定」](#)を参照してください。
 - ユーザーに許されるログオン試行の失敗回数を指定します。この回数だけ失敗するとアカウントはロックされます。詳細は、[432 ページの「Web アクセスサーバー設定の変更」](#)を参照してください。
- 10** ユーザーアカウントをロックまたはロック解除するには、以下のいずれかを実行します。
- ユーザーアカウントをロックするには、[**ユーザーのログインを許可しない**] チェックボックスをオンにします。
 - ユーザーアカウントをロック解除するには、[**ユーザーのログインを許可しない**] チェックボックスをオフにします。

アカウントのロックが実施されるのは、ユーザーがアプリケーションにログオンしたときです。したがって、ユーザーがログオンしているときにそのアカウントをロックした場合、そのユーザーは次回にログオンするまでは、自分のアカウントがロックされたことを知ることはできません。

アカウントがロックされているのにユーザーがログオンしようとする、そのアカウントがロックされていることと、ユーザが管理者に連絡する必要があることを通知するページが表示されます(アカウントのロックを解除できるのは管理者だけです)。

11 [**適用**] をクリックします。

12 [**OK**] をクリックして新しいユーザーアカウントを確定します。


新しいユーザーアカウントを確定すると、[**ユーザーの管理**] ページに新しいユーザーアカウントの情報が表示されます。ユーザーアカウントはナビゲーションツリーにも表示できます。

ユーザーアカウントの変更

ユーザーアカウントを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。
- 2 [**管理**] ツリーで、[**ユーザーアカウント**] を展開し、次に [**ユーザー**] をクリックします。[**ユーザーの管理**] ページが開き、ユーザーアカウントが表示されます。



- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [**ユーザーの管理**] ページでユーザーアカウントをクリックします。
 - 変更するユーザーアカウントの横にある [**編集**] アイコン () をクリックします。

[**編集 Username**] ページが表示されます。

- 4 変更を加えた後、[**適用**] をクリックします。
- 5 [**OK**] をクリックして変更を確定します。


変更を確定すると、更新されたユーザーアカウントの情報が [**ユーザーの管理**] ページに表示されます。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[ユーザーアカウント]を展開し、次に[ユーザー]をクリックします。[ユーザーの管理]ページが開き、ユーザーアカウントのリストが表示されます。



- 3 削除したいユーザーの横にある  ([削除]アイコン)をクリックします。確認ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [OK]をクリックします。

ユーザーアカウントに電子メールを送信

Web ブラウザ内からユーザーに電子メールを送信できます。電子メールを送信するには、電子メールのプログラムをシステムにインストールしておく必要があります。

電子メールをユーザーアカウントに送信するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。

- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、次に [ユーザー] をクリックします。[ユーザーの管理] ページが開き、ユーザーアカウントが一覧表示されます。



- 3 ユーザーアカウントの電子メールアドレスをクリックします。電子メールのアプリケーションが表示され、指定のユーザーに向けたメールメッセージが表示されます。
- 4 メールメッセージを完成させ、これを送信します。

ユーザーグループの管理

この項では、Web アクセスサーバーを使用して以下を実行する方法について説明します。

- ユーザーグループを作成、変更、および削除する。
- ユーザーグループのフィルターを作成、変更、および削除する。

▶ この項に記載した手順では、ユーザーが OVPI 管理者として Web アクセスサーバーにログオンしていることを想定しています。

この項で説明する手順のほとんどは、**userimport** と **groupimport** というコマンドを使用して実行することもできます。詳細については、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）のアカウント管理者ユーティリティに関する章を参照してください。

ユーザーグループとは

ユーザーグループとは以下のものを指します。

- ユーザーアカウントの集まり

たとえば、**Thunderbolt** 社という会社のすべてのユーザー用に、**Thunderbolt** というユーザーグループを作成することができます。これは、サービスプロバイダにおいて、特定の会社の表示できるデータを制限する場合に便利です。

- ユーザーアカウントとユーザーグループとの集まり

たとえば、**All** というユーザーグループを作成し、その中にいくつかのユーザーアカウントと、**North**、**East**、**South**、**West** という4つのユーザーグループを含めることができます。

North、**East**、**South**、**West** の各ユーザーグループに制約を設定することで、それらのユーザーが特定の地域のデータしか表示できないようにすることが可能です。

All ユーザーグループのユーザーは、**North**、**East**、**South**、および **West** の各ユーザーグループのユーザーが表示できるデータをすべて表示できます。なぜなら、最上位のグループには、階層内の下位のグループの制約が継承されるからです。

グループを作成する際は、想定されるグループ数が少なくなるように、グループの制約を効果的に作成するよう心掛けることをお勧めします。たとえば、**interface** を制約として使用し各インタフェースに **1000** 以上のユーザーグループを持たせるのではなく、**cust-id** を制約として使用します。グループの数が多いと、データベースに送られるクエリの効率やサイズに影響することがあります。



レポートがあり、1人のユーザーしかそのレポートを表示する必要がない場合は、ユーザーフォルダーの下位にあるそのユーザーのレポートディレクトリにレポートを配布します。詳細は、[430 ページの「レポートの配布」](#)を参照してください。

ユーザーグループの作成

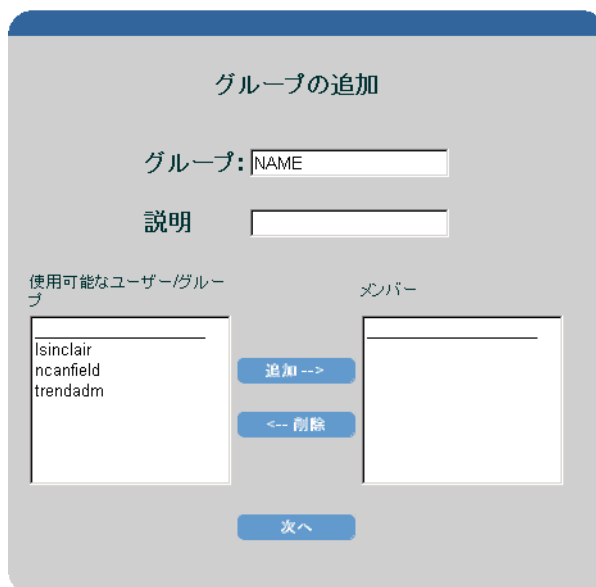
グループを作成するには、以下の手順に従います。


- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。

- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、次に [グループ] をクリックします。[グループの管理] ページが開きます。



- 3 [新規グループの追加] をクリックします。[新規グループの追加] ページが開きます。



- 4 新しいユーザーグループを作成するには、以下の手順に従います。
- a [グループ]ボックスで、作成するユーザーグループの名前を入力します。
- すでに存在するグループ名を入力したり、"Group" という名前を使用したり**しないでください**。

ユーザーグループ名は、以下の制約に従う必要があります。

以下の文字をユーザーグループ名で**使用しないでください**。

アンパサンド (&)、アスタリスク (*)、円記号 (¥)、コロン (:)、カンマ (,)、二重引用符 (")、感嘆符 (!)、スラッシュ (/)、大なり記号 (>)、開き角かっこ (()、小なり記号 (<)、ピリオド (.)、シャープ記号 (#)、疑問符 (?)、閉じ角かっこ ()、単一引用符 (')、パーセント (%)、スペース (空白)

ユーザーグループに対して有効な文字は以下のとおりです。

- 名前には、すべての英字 (大文字と小文字)、すべての数字、および、上記のものを除くすべての特殊文字を、含めることができます。
 - 1文字以上、最大は 255 文字です。
- b この新しいユーザーグループに属するユーザーおよびユーザーグループ (いずれも 1 つまたは複数) を [使用可能なユーザー/グループ] リストから選択し、[追加] をクリックします。グループは他のグループに属していてもかまいません。
- ユーザー名、ユーザーグループ名、またはその両方が、[メンバー] リストに移動します。

- c [次へ] をクリックします。[グループフィルター] ページが開きます。

グループフィルター: NE_Reporting

アクティブなフィルター

編集

削除

列: オペレータ: 値:

フィルタの追加

完了 キャンセル

▶ フィルターは、テーブル列名、数値演算子、および統計情報の値を必要とする、比較手段です。

- 5 フィルターを作成するには、以下の手順に従います。
- a [列] フィールドに、フィルター対象のテーブル列名を入力します。
 - b [演算子] の矢印をクリックし、演算子を選択します。
 - c [値] フィールドに、値を入力します。

たとえば、**ABC Company** というクライアントを持つサービスプロバイダを考えてみましょう。**ABC Sales** というグループを作成し、それに **ABC** のレポートしか表示を許可しないフィルターを付けるとします。これをするには、以下のようなフィルターを作成します。

cust_id = 05

cust_id はテーブル列名です。

= は数値演算子です。

05 は **ABC** のカスタマ識別番号です。


- d [フィルタの追加] をクリックします。
- 6 [完了] をクリックします。

[グループの管理] ページに新しいユーザーグループが一覧表示されます。それらのユーザーグループは[グループ]フォルダーの下にあるナビゲーションフレームにも表示されます。

ユーザーグループの変更

ユーザーグループを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント]を展開し、次に[グループ]をクリックします。[グループの管理] ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。

- [グループの管理] ページのユーザーグループをクリックします。
- ユーザーグループの横の  ([編集] アイコン) をクリックします。このオプションを選択した場合は、この手順のステップ 5 に進みます。


[次の項目の内容:<グループ名>] ページが開き、ユーザーグループと、そのユーザーグループに含まれているユーザーのリストが表示されます。

- 4 [グループの編集] をクリックします。[グループの変更] ページが表示されます。これは、[新規グループの追加] ページと同じものです。
- 5 ユーザーグループに追加する場合、ユーザーまたはユーザーグループを[使用可能なユーザー/グループ] リストから選択し、[追加] をクリックします。ユーザーまたはユーザーグループが[メンバー] リストに追加されます。
- 6 ユーザーグループから削除する場合、ユーザーまたはユーザーグループを[メンバー] リストから選択し、[削除] をクリックします。[使用可能なユーザー/グループ] リストからユーザーまたはユーザーグループが削除されます。
- 7 [次へ] をクリックしてから [完了] をクリックします。

ユーザーグループの削除

グループを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。

- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、次に[グループ] をクリックします。[グループの管理] ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 削除するユーザーグループの横にある  ([削除] アイコン) をクリックします。確認ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。

ユーザーグループのフィルターの作成


フィルターはレポートの生成時に適用され、また、ログオンしている間に実行した、すべてのレポートに適用されます。

プロパティテーブルの任意の共通列 (1 つまたは複数) に対してフィルタリングできます。1 つのグループに対して複数のフィルターを作成した場合、フィルターはすべて **AND** で結ばれます。たとえば、`cust_id=3` というフィルターを作成し、さらに同じグループに別に `location_id=2` というフィルターを作成したとします。このグループに属するユーザーのデータを取得するために作成される SQL は、以下のようになります。

```
where cust_id=3 AND location_id=2
```

プロパティテーブルの列名とそれに含まれるデータがわかります。プロパティのインポート / エクスポート機能をレポートパックに対して使用する場合、列とデータがこれらの列に含まれている必要があります。

ユーザーグループのフィルターを作成するには、以下の手順に従います。


- 1 リンクバーから、[管理] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[ユーザーアカウント] を展開し、次に[グループ] をクリックします。[グループの管理] ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行して、フィルターを追加するユーザーグループを選択します。
 - [グループの管理] ページのユーザーグループをクリックします。
 - ユーザーグループの横の  ([編集] アイコン) をクリックします。

[次の項目の内容:<グループ名>] ページが開き、ユーザーグループと、そのユーザーグループに含まれているユーザーのリストが表示されます。

- 4 **[フィルター編集]**をクリックします。[グループフィルター]ページが開きます。
- 5 以下を実行します。
 - a フィルタリングの対象となるテーブル列名を[列]フィールドに入力します。
 - b [演算子]の矢印をクリックし、演算子を選択します。
 - c [値]フィールドに値を入力します。
 - d **[フィルタ追加]**をクリックします。
- 6 **[完了]**をクリックします。

ユーザーグループのフィルターの変更


ユーザーグループのフィルターを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[ユーザーアカウント]を展開し、次に[グループ]をクリックします。[グループの管理]ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [グループの管理]ページのユーザーグループをクリックします。
 - ユーザーグループの横の  ([編集]アイコン)をクリックします。

[次の項目の内容:<グループ名>]ページが表示され、ユーザーグループと、そのユーザーグループに含まれているユーザーのリストが表示されます。
- 4 **[フィルター編集]**をクリックします。[グループフィルター]ページが開きます。
- 5 フィルターを選択し**[編集]**をクリックします。フィルターの値が、[列]、[演算子]、および[値]の各ボックスに表示されます。
- 6 必要な値を編集し、**[フィルタ追加]**をクリックします。
- 7 **[完了]**をクリックします。

ユーザーグループのフィルターの削除

ユーザーグループのフィルターを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。
- 2 [**管理**] ツリーで、[**ユーザーアカウント**] を展開し、次に [**グループ**] をクリックします。[**グループの管理**] ページが開き、ユーザーグループとユーザーのリストが表示されます。
- 3 以下のいずれかを実行します。
 - ナビゲーションフレームでユーザーグループを選択します。
 - [**グループの管理**] ページのユーザーグループをクリックします。
 - ユーザーグループの横の  ([**編集**] アイコン) をクリックします。

[次の項目の内容 : < グループ名 >] ページが表示され、ユーザーグループと、そのユーザーグループに含まれているユーザーのリストが表示されます。
- 4 [**フィルターの編集**] をクリックします。[**グループフィルター**] ページが開きます。
- 5 [**グループフィルター**] ボックスで、削除するフィルターを選択し、[**削除**] をクリックします。
- 6 [**完了**] をクリックします。

例：グループを使用したデータのフィルタリング

ユーザーがアクセスできるデータを制限するために、ユーザーのあちこちのフォルダーにレポートを移動する必要はありません。ユーザーのフォルダーとカタログビューは、ユーザーが実行できるレポートを制限するためにのみ使用され、表示するデータを制限するものではありません。代わりに、グループとフィルターを使用して、ユーザーが表示できるデータを制限します。

以下の例では、他のグループに属するグループを使用して、階層グループの設定方法を示します。さらに、フィルターの **OR** 演算と **AND** 演算の方法を示します。

グループを使用してデータのフィルタリングをセットアップするには、以下の手順に従います。

1 以下のユーザーを作成します。

- ABCco
- ABCcoNortheast
- ABCcoSoutheast

詳細は、394 ページの「ユーザーアカウントの作成」を参照してください。

2 異なるフィルタを備えた 2 つのグループを作成します。各グループは所属するユーザーのデータのみをフィルタリングします。以下の条件を設定します。

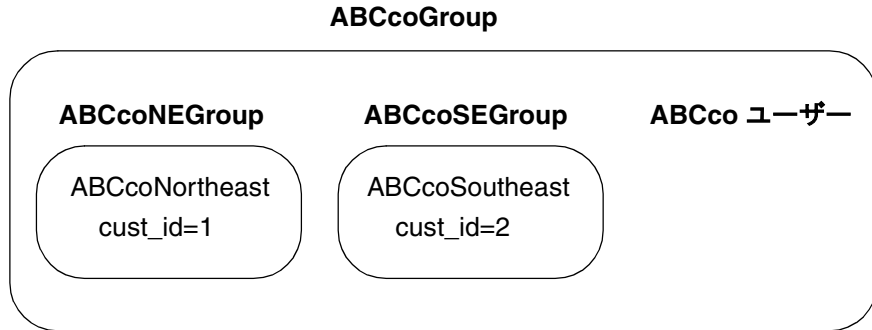
- a cust_id=1 というフィルターを備えた ABCcoNEGroup グループを作成します。
- b ABCcoNortheast ユーザーを ABCcoNEGroup グループに割り当てます。
- c cust_id=2 というフィルターを備えた ABCcoSEGroup グループを作成します。
- d ABCcoSoutheast ユーザーを ABCcoSEGroup グループに割り当てます。

3 ABCcoGroup というマスターグループを作成します。これにはフィルターを作成しません。

4 ABCcoNEGroup と ABCcoSEGroup グループを ABCcoGroup に割り当てます。

5 ABCco ユーザーを ABCcoGroup に割り当てます。

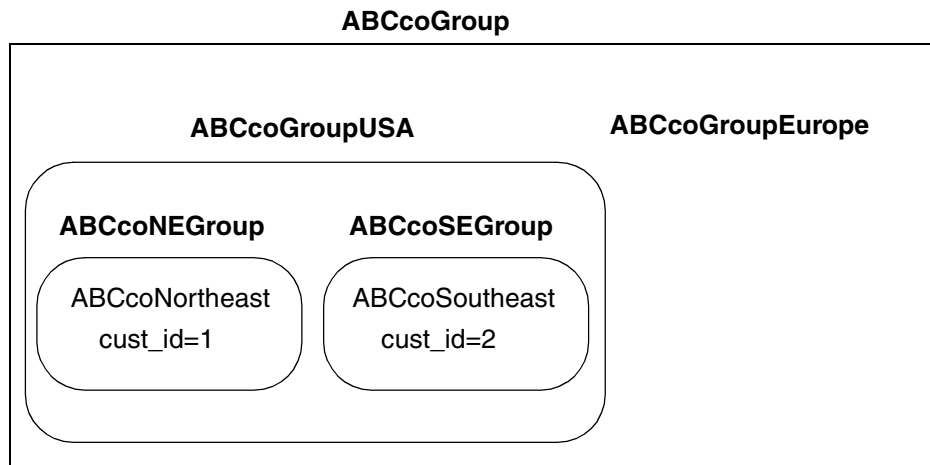
グループをグループに含めると、上位グループのフィルターは下位グループに継承され OR で結ばれます。したがって、この例での **ABCco** のどのユーザー (**ABCcoGroup** に属する) にも、`where cust_id=1 OR cust_id=2` というフィルターが備わることになります。つまり、以下のようなグループ構成になります。



同様に、**ABCcoNEGroup** と **ABCcoSEGroup** の両方のグループに **ABCco** ユーザーを追加することによっても、同じ結果を得ることができます。ただし、これはあまり望ましくありません。ユーザーが複数のグループに属しているときは、ユーザーがどのグループに属しているかを知るよりも、グループ階層内を追跡する方が簡単だからです。

階層構造として、2層を超えるグループ構成も可能です。たとえば、**ABCcoGroupUSA** と **ABCcoGroupEurope** というグループがあるとします。この場合、**ABCcoNEGroup** と **ABCcoSEGroup** を **ABCcoGroupUSA** に含め、

ABCcoGroupUSA と ABCcoGroupEurope を ABCcoGroup グループに含めます。その結果、地域、国、および全社にわたるフィルターを、ユーザーに適用できるようにになります。以下のようなグループ構成になります。



これらのフィルターはレポートの生成時に適用され、また、ログオンしている間に実行した、すべてのレポートに適用されます。したがって、**ABCcoNortheast** としてログオンし、[System] フォルダからレポートを実行した場合、その **ABCcoNortheast** ユーザーには、`cust_id=1` のデータだけが表示されます。同様に、**ABCcoSoutheast** としてログオンし、[System] フォルダから同じレポートを実行した場合、そのユーザーには `cust_id=2` のデータだけが表示されます。

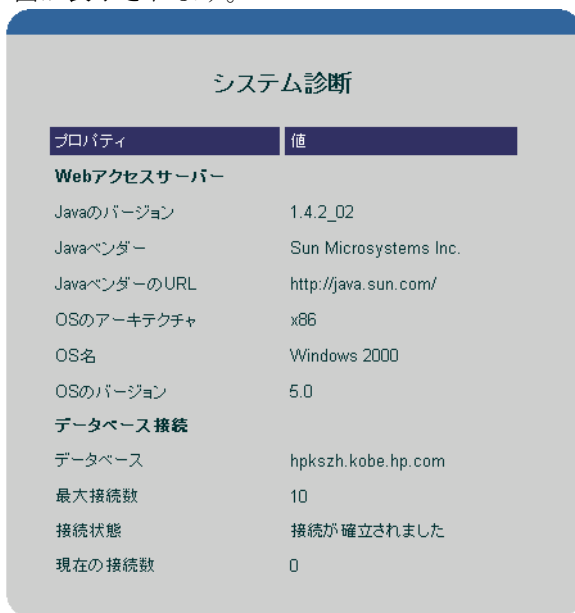
Diagnosics の表示

[診断] ページを使用して、Web アクセスサーバーとデータベースに関する以下の情報を表示できます。

- **Web** アクセスサーバー。Java のバージョン、Java のベンダー、Java のベンダーの URL、およびオペレーティングシステムのアーキテクチャと名前とバージョン番号を表示できます。
- データベース。名前、接続の最大数、接続ステータス、および現在の接続数を表示できます。

Diagnostics を表示するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーで、[管理] をクリックします。
- 2 [管理] ツリーで、[診断] を展開します。
- 3 [診断] をクリックします。[システム診断] ページが開き、以下のような画面が表示されます。



The screenshot shows a window titled "システム診断" (System Diagnosis). It contains a table with two columns: "プロパティ" (Property) and "値" (Value). The table is divided into two sections: "Webアクセスサーバー" (Web Access Server) and "データベース接続" (Database Connection).

プロパティ	値
Webアクセスサーバー	
Javaのバージョン	1.4.2_02
Javaベンダー	Sun Microsystems Inc.
JavaベンダーのURL	http://java.sun.com/
OSのアーキテクチャ	x86
OS名	Windows 2000
OSのバージョン	5.0
データベース接続	
データベース	hpkszh.kobe.hp.com
最大接続数	10
接続状態	接続が確立されました
現在の接続数	0

ログファイルの設定の変更

ログファイルの設定を変更するには、以下の手順に従います。

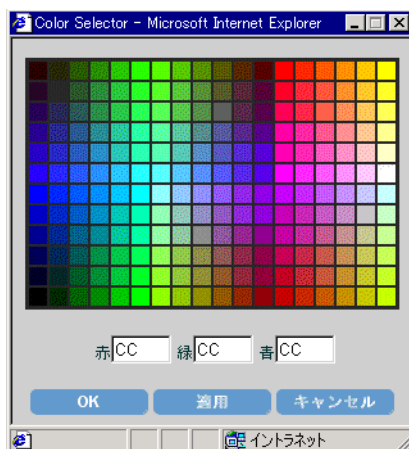
- 1 リンクバーで、[管理] をクリックします。
- 2 [管理] ツリーで、[ログファイル] を展開します。

- 3 [設定] をクリックします。[ログファイルの設定] ページが開きます。

属性	値
ページあたりの表示可能エントリ数	500
ログフレームの背景色	#CCCCCC 色の選択

適用 リセット

- 4 以下のいずれかを実行します。
- [ページあたりの表示可能エントリ数] ボックスに、ログファイルの各ページに表示するログエントリーの数を入力します (デフォルト値は 500 です)。
 - [ログフレームの背景色] ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - HTML 標準カラーの名称 (aqua、black、blue、fuchsia、gray、green、lime、maroon、navy、olive、purple、red、silver、teal、yellow、white) または 16 進数のカラー値を入力します。
 - [色の選択] をクリックします。[Color Selector] ダイアログボックスが開きます。これを使用してパレットから色を選択するか、特定のカラー値を入力します。色を選択したら、[適用] をクリックし、[OK] をクリックします。



- 5 [適用] をもう一度クリックします。

ログファイルの表示

ログファイルを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーで、[管理]をクリックします。
- 2 [管理]ツリーで、[ログファイル]を展開します。
- 3 [Web アクセスサーバー]をクリックします。

Web アクセスサーバーのログファイルの表示例を以下に示します。

行	重要度	タイムスタンプ	アプリケーション	モジュール	メッセージ
1	INFO	2005-06-10 11:46:45:093	Trend Website	Unknown	Log opened : C:\OVPL\log\website.log
2	INFO	2005-06-10 11:46:45:125	Trend Website	TRENDweb Servlet	Creating log...
3	INFO	2005-06-10 11:46:45:546	Trend Website	System.out	Attempting to save to C:\OVPL\jrun\..jrun\serv
4	INFO	2005-06-10 11:46:47:593	Trend Website	System.out	Attempting to save to C:\OVPL\jrun\..jrun\serv
5	INFO	2005-06-10 11:46:48:343	Trend Website	System.out	Attempting to save to C:\OVPL\jrun\..jrun\serv
6	INFO	2005-06-10 11:46:49:390	Trend Website	System.out	Attempting to save to C:\OVPL\jrun\..jrun\serv
7	INFO	2005-06-10 11:46:49:921	Trend Website	System.out	Attempting to save to C:\OVPL\jrun\..jrun\serv
8	INFO	2005-06-10	Trend Website	Svstem.out	Attemptina to save to C:\OVPL\jrun\..jrun\serv

- 4 以下のいずれかを実行します。
 - ログファイルのページ内を移動するには、▶をクリックして次のページに進み、◀をクリックして前のページに戻ります。また◀◀をクリックすると最初のページに移動し、▶▶をクリックすると最後のページに移動します。
 - 特定のページに移動するには、ページ番号の横にあるプルダウン矢印をクリックし、表示するログのページを選択します。

- 5 表示したメッセージのタイプを選択するには、[表示]リストからメッセージタイプ([すべて]、[情報]、[警告]、[エラー]、および[デバッグ])を選択します。
- 6 ログファイルを更新するには、[ログの更新]をクリックします。これにより、表示されているログファイルのコピーが更新され、ユーザーがそのログファイルを表示した後で生成された新しいメッセージがすべて表示されます。

Java 設定の変更

Java 設定を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[Java の設定]を展開し、次に[Java の設定]をクリックします。[Java の設定]ページが開きます。

Javaの設定

注意: ヒープサイズが、システムで使用可能なリソース以下であることを確認してください。使用可能メモリーを超える設定の場合、アプリケーションが起動しなくなることがあります。

属性	値
レポートビルダのヒープサイズ	256 MB
レポートビルダのJava引数	-Djava.library.path="{ovpi.home}/bin.{ENV.SystemRoot}/s
レポートビューアのヒープサイズ	256 MB
レポートビューアのJava引数	-Djava.library.path="{ovpi.home}/bin.{ENV.SystemRoot}/s
Webアクセスサーバーのヒープサイズ	256 MB
WebアクセスサーバーのJava引数	-Dfile.encoding=UTF-8 -Djava.awt.headless=true -Dtrend.i

適用
リセット

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - a ヒープサイズの各ボックスに、クライアントとサービスが使用できるメモリーの最大量を入力します。



クライアントとサーバは必ずしも割り当てられたすべてのメモリーを使用するとは限りません。

- b Java 引数の各ボックスにはいずれも、クライアント、サービス、またはその両方が起動されたときに適用する Java コマンド行の引数を入力します。

これらのコマンド行の引数の詳細は、お使いの Java のマニュアルを参照してください。

- 4 すべての変更を完了したら、[適用]をクリックします。
- 5 サービスのオプションのいずれかを変更した場合は、そのサービスを停止させてから再起動します。

配布項目の設定の変更


配布項目の設定を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[配布済み項目]を展開し、次に[配布済み項目]をクリックします。[配布済み項目]ページが開きます。

配布済み項目

属性	値
生成されたレポートの場所	C:\OVPI\data/schedules
配布済み項目の場所	C:\OVPI/reports/deploy
イメージキャッシュの場所	C:\OVPI/run/servers/piweb/tw-app\images
システムディレクトリのエイリアス	System
Download Asドリルダウンのデフォルトの深さ	5
システムディレクトリをユーザーに表示	<input checked="" type="checkbox"/>
配布リンクをユーザーに表示	<input checked="" type="checkbox"/>
生成された結果を表示	<input checked="" type="checkbox"/>
管理者以外のユーザーがレポートをスケジューリング可能	<input checked="" type="checkbox"/>
すべてのユーザーリーフノードを表示	<input checked="" type="checkbox"/>
ユーザーリーフノードを結果フレームにのみ表示	<input type="checkbox"/>
すべてのビューを持つレポートの配布	<input type="checkbox"/>
起動パッドのフィルター処理の有効化	<input checked="" type="checkbox"/>

- 3 以下を実行します。

- a [生成されたレポートの場所]ボックスに、スケジュールの作成場所となるフォルダーの名前を入力します。
- b [配布済み項目の場所]ボックスに、配布されるレポートと URL の保存先を入力します。
- c [イメージキャッシュの場所]ボックスに、レポートを表示するときのイメージ(ラベルなど)の保存場所とするフォルダーの名前を入力します。
- d [システムディレクトリのエイリアス]ボックスに、OVPI 管理者が Web サーバーに配布したレポートの格納場所とするディレクトリの名前を入力します(デフォルトでは、これは[System]です)。
- e [グラフ属性の選択]ダイアログボックスに表示されるドリルダウン深度のデフォルト値を変更するには、['Download As'ドリルダウンのデフォルトの深さ]ボックスに新しい値を入力します。
 値を -1 にすると可能なレポートがすべて生成されますが、生成結果のファイルが非常に大きくなりうるため、この値はお勧めしません。
- f [System]ディレクトリを表示または非表示にするには、以下のいずれかを実行します。
 - ディレクトリを表示するには、[システムディレクトリをユーザーに表示]チェックボックスをオンにします。
 - ディレクトリを非表示にするには、[システムディレクトリをユーザーに表示]チェックボックスをオフにします。
- g [配布]リンクを表示または非表示にするには、以下のいずれかを実行します。
 - [配布]リンクを表示するには、[配布リンクをユーザーに表示する]チェックボックスをオンにします。
 - [配布]リンクを非表示にするには、[配布リンクをユーザーに表示する]チェックボックスをオフにします。
- h [カタログ]リンクを使用してアクセスされる[生成された結果]フォルダーを表示または非表示にするには、以下のいずれかを実行します。
 - [生成された結果]フォルダーを表示するには、[生成された結果を表示]チェックボックスをオンにします。

- [生成された結果]フォルダー非表示にするには、[生成された結果を表示]チェックボックスをオフにします。
- i [スケジュール]リンクを表示または非表示にするには、以下のいずれかを実行します。
 - [スケジュール]リンクを表示するには、[管理者以外のユーザーがレポートをスケジュールリングできます]チェックボックスをオンにします。
 - [スケジュール]リンクを非表示にするには、[管理者以外のユーザーがレポートをスケジュールリングできます]チェックボックスをオフにします。
- j 以下のいずれかを実行します。
 - 管理者権限を持つユーザーがすべてのユーザーのフォルダーを表示できるようにするには、[すべてのユーザーリーフノードを表示]チェックボックスをオンにします。
 - 管理者権限を持つユーザーが自分のフォルダーだけを表示できるようにするには、[すべてのユーザーリーフノードを表示]チェックボックスをオフにします。

リーフノードとは、任意のレポートまたは空のフォルダーです。リーフノードを非表示にすると、[カタログ]ツリーには表示されなくなります。ただし Web アクセスサーバーの結果フレームからは、これらにアクセスできます。

このオプションは、管理者権限を持たないユーザーには影響しません。

- k Web アクセスサーバーウィンドウの結果フレームにのみリーフノードを表示するには、以下のいずれかを実行します。
 - リーフノードを結果フレームに表示するには、[ユーザーリーフノードを結果フレーム内でのみ表示する]チェックボックスをオンにします。
 - リーフノードを結果フレームに表示しないようにするには、[ユーザーリーフノードを結果フレーム内でのみ表示する]チェックボックスをオフにします。
- l 以下のいずれかを実行します。

- ユーザーフォルダーを結果フレームにのみ表示するには、[**ユーザーリーフノードを結果フレーム内でのみ表示する**] チェックボックスをオンにします。

多くのユーザが存在する場合にこのオプションをオンにすると時間を節約できます。なぜならブラウザが、[**カタログ**] ナビゲーションツリーを表示する前にすべてのユーザーレコードをロードする必要がなくなるからです。

- ユーザーフォルダーをナビゲーションツリーに表示するには、[**ユーザーリーフノードを結果フレーム内でのみ表示する**] チェックボックスをオフにします。

m 以下のいずれかを実行します。

- すべての配布済みレポートをすべての既存のビューに追加するには、[**すべてのビューを持つレポートの配布**] チェックボックスをオンにします。
- いずれの配布済みレポートも既存のビューに追加しないようにするには、[**すべてのビューを持つレポートの配布**] チェックボックスをオフにします。

n レポートに指定した値が確かにデータベースに配置されたことを確認するためにレポートのリストを作成したときに、**Web** アクセスサーバーの **Launchpad** でデータベースを検査したい場合には、[**起動パッドのフィルター処理の有効化**] ボックスをオンにします。

 このオプションは **NNM** 統合でのみ使用されます。

- 4 変更が完了したら、[**適用**] をクリックします。
- 5 **Web** アクセスサーバーを停止させてから再起動します。詳細は、**65 ページ** の「**OVPI のプロセスの開始および停止**」を参照してください。

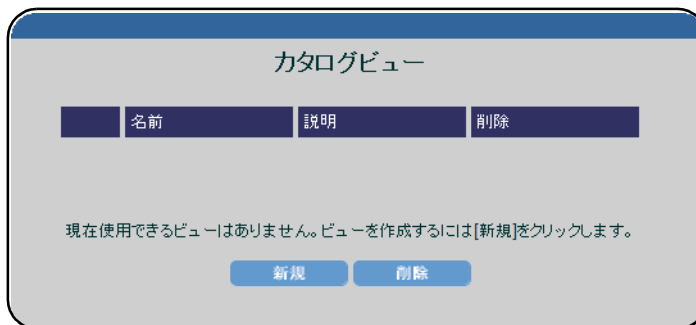
ビューの作成

ビューを使用すると、ユーザーは、[**System**] フォルダー内の配布されたレポートの特定のリストを確認できます。ユーザーアカウントを作成するときに割り当てたビューによって、そのユーザーが表示できるレポートが決まります。そのビューは、ユーザーがアクセスするすべてのデータベースに適用されます。

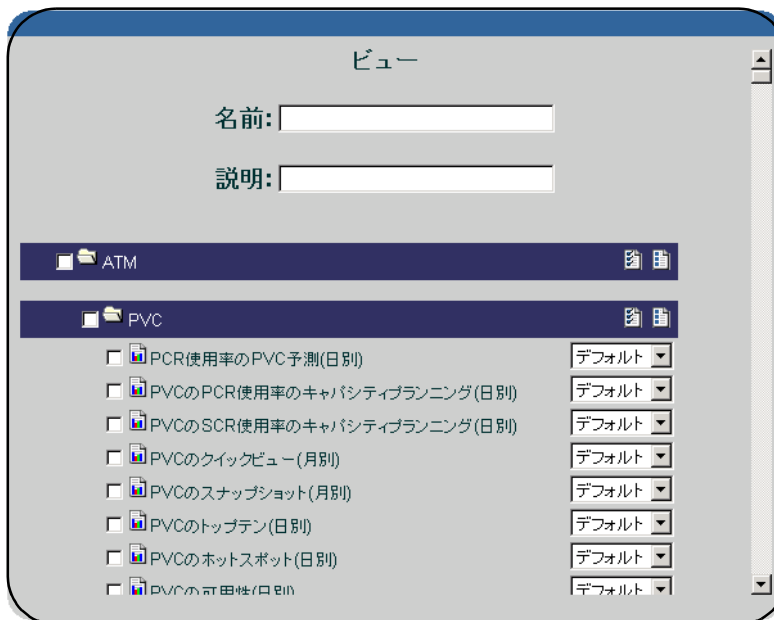
ビューの作成

ビューを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[配布済み項目]を展開し、次に[カタログビューマネージャ]をクリックします。[カタログビュー]ページが開きます。



- 3 [新規]をクリックします。[表示]ページが開き、現在[System]フォルダーに配布されているすべてのレポートが表示されます。




- 4 [名前]ボックスにそのビューの名前を入力します。


このページの全フィールドで、アンパサンド (&)、円記号 (¥)、カンマ (,)、二重引用符 (")、スラッシュ (/)、疑問符 (?)、および単一引用符 (') の文字を**使用しないでください**。

- 5 [説明]ボックスに、ビューの説明を入力します(説明は省略可能です)。

- 6 ビュー用にレポートフォルダーを選択するには、以下のいずれかを実行します。

— 各フォルダーの横にあるボックスをオンにして、フォルダー内のすべてのレポートを選択します。

—  ([すべて選択]ボタン) をクリックして、フォルダー内のすべてのレポートを選択します。

フォルダー内のすべてのレポートの選択を解除するには、 ([すべて選択解除するボタン]) をクリックします。

- 7 ビュー用に1つのレポートだけを選択するには、必要なレポート(1つまたは複数)の横にあるボックスをオンにします。

▶ 1フォルダー内のすべてのレポートを選択した場合、その選択はそのフォルダーにのみ適用され、そのサブフォルダーには適用されません。たとえば、前の図の[ATM]フォルダーの横にあるチェックボックスをオンにした場合、[ATM]フォルダー内のレポートだけがビューに表示されます。現時点では、[ATM]フォルダーにはレポートは配布されていません。[PVC]フォルダーのレポートを含めるには、その横のチェックボックスをオンにする必要があります。

- 8 レポートのデータ取得先である、データベースを指定するには、各レポート右横の[データベース]リストからデータベースを選択します。

デフォルトでは、各レポートはデフォルトデータベースからデータを取得します。

- 9 [System]フォルダーに配布されているすべてのレポートを選択するには、[表示]ページの下にある[すべて選択]ボタンをクリックします。


- 10 レポートの選択が終了したら、[OK]をクリックしてビューを作成します。

[カタログビュー] ページが開き、ビューが正しく作成されたことが示されます。



ビューの変更

ビューを編集または削除するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[配布済み項目] を展開し、次に [**カタログビューマネージャ**] をクリックします。[カタログビュー] ページが開きます。
- 3 ビューを編集するには、以下を実行します。
 - a 以下のいずれかを実行することで、編集するビューを選択します。
 - 編集するビューの横にある  ([編集] ボタン) をクリックします。
 - [カタログビュー] ページでビューの名前をクリックします。[表示] ページが表示されます。
- 4 ビューを削除するには、以下を実行します。
 - a 削除するビューの横にある [**削除**] チェックボックスをオンにします。すべてのビューを選択するには [**すべて選択**] をクリックします。
 - b [**削除**] をクリックしてビュー (1 つまたは複数) を削除します。確認ダイアログボックスが表示されます。
 - c [**OK**] をクリックします。

Web アクセスサーバーの外観の変更

[サイトの外観]フォルダーを使用して、サイト全体、リンクバー、ナビゲーションフレーム、および結果フレームのさまざまなオプションを変更できます。

サイトのオプションの変更

Web アクセスサーバーのタイトルを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[サイトの外観]を展開し、次に[サイトのオプション]をクリックします。[サイトのオプション]ページが開きます。



属性	値
サイトのタイトル	HP OpenView Performance Insight
プロフィールの表示	<input checked="" type="checkbox"/>

適用 リセット

- 3 以下を実行します。
 - a [サイトのタイトル]ボックスに、Web ブラウザのタイトルバーに表示するタイトルを入力します。
 - b リンクバーの[プロフィール]リンクを非表示にするには、[プロフィールの表示]ボックスをオフにします。リンクバーの[プロフィール]リンクを表示するには、[プロフィールの表示]ボックスをオンにします。
- 4 [適用]をクリックした後、ブラウザの[更新]ボタンをクリックします。

リンクバーのオプションの変更

Web アクセスサーバーのリンクバーのオプションを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[サイトの外観] を展開し、次に [リンクバーのオプション] をクリックします。[リンクバーのオプション] ページが開きます。

リンクバーのオプション

属性	値
タイトル	<input type="text" value="HP OpenView Performance Insight"/>
タイトルのサイズ	<input type="text" value="4"/> ▼
整列	<input type="text" value="右"/> ▼
高さ	<input type="text" value="100"/> ピクセル
背景色	<input type="text" value="#FFFFFF"/> <input type="button" value="色の選択"/>
背景イメージ	<input type="text" value="/webview/images/backgroundtile.gif"/>
イメージ	<input type="text" value="/webview/images/hpinvent.png"/>
イメージの幅	<input type="text" value="74"/> ピクセル
イメージの高さ	<input type="text" value="61"/> ピクセル
代替イメージ	<input type="text" value="Hewlett Packard"/>
イメージのX位置	<input type="text" value="25"/> ピクセル
イメージのY位置	<input type="text" value="25"/> ピクセル
イメージの背景の幅	<input type="text" value="200"/> ピクセル
フォーカス時のリンク背景色	<input type="text" value="#336699"/> <input type="button" value="色の選択"/>
非フォーカス時のリンク背景色	<input type="text" value="#6699CC"/> <input type="button" value="色の選択"/>

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - a [タイトル] ボックスに、リンクバーのタイトルを入力します。このタイトルはリンクバーの下に表示されます。
 - b [タイトルのサイズ] の矢印をクリックしてから、タイトルの希望のポイントサイズを選択します。

- c [整列] の矢印をクリックしてから、位置揃えのオプションを選択します。このオプションにより、**Web** ブラウザのウィンドウを規準としたときのリンクバーの位置が揃います。
- d [高さ] にはリンクバーの高さ (ピクセル単位) を入力します。
- e [背景色] ボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - HTML 標準カラーの名称 (aqua、black、blue、fuchsia、gray、green、lime、maroon、navy、olive、purple、red、silver、teal、yellow、white) または 16 進数のカラー値を入力します。
 - [色の選択] をクリックします。[Color Selector] ウィンドウが開きます。このウィンドウで、パレットから色を選択するか、カラー値を個別に入力します。色を選択したら、[適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- f [背景イメージ] ボックスに、リンクバーの背景に表示するイメージの場所を入力します。そのイメージは、**Web** サーバー上になければなりません。

イメージの場所を入力しない場合、**Web** アクセスサーバーは、**Web** サーバー上の [piweb] フォルダ内でのイメージを探します。たとえば、**Windows** では、このディレクトリの絶対パスは以下のとおりです。

```
installation_directory¥jrun¥servers¥piweb¥tw-app¥webview¥images
```

この場合、*installation_directory* は OVPI がインストールされているディレクトリです。
- g [イメージ] ボックスに、リンクバーの左に表示するイメージの場所を入力します。イメージの配置場所については、[手順 f](#) を参照してください。
- h [イメージの幅] と [イメージの高さ] のボックスに、イメージの幅と高さをピクセル単位で入力します。
- i [代替イメージ] ボックスに、ポインタをイメージ上に置いたときに表示するテキストを入力します。
- j [イメージの X 位置] と [イメージの Y 位置] のボックスに、**Web** ブラウザのウィンドウにおけるイメージの x 座標と y 座標の位置をピクセル単位で入力します。

ブラウザのウィンドウの左上隅が 0,0 です。デフォルトでは、下へ 25 ピクセル、右へ 45 ピクセルの座標位置にイメージを配置します。

- k [イメージの背景の幅] ボックスに、リンクバーでイメージが占めるスペースをピクセル単位で入力します。
- l [フォーカス時のリンク背景色] および [非フォーカス時のリンク背景色] のボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - HTML 標準カラーの名称 (aqua、black、blue、fuchsia、gray、green、lime、maroon、navy、olive、purple、red、silver、teal、yellow、white) または 16 進数のカラー値を入力します。
 - [色の選択] をクリックします。[Color Selector] ウィンドウが開きます。このウィンドウで、パレットから色を選択するか、カラー値を個別に入力します。色を選択したら、[適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

これらのオプションは、リンクバー上の各リンクの背景に配置されるタブの色を制御します。[フォーカス時のリンク背景色] はポインタがリンク上にあるとき、[非フォーカス時のリンク背景色] はポインタがリンク上にないときを表します。

- 4 変更が完了したら、[適用] をクリックし、ブラウザの [更新] ボタンをクリックします。

リンクバーの別名の変更

リンクバーの別名を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理] を選択します。
- 2 [管理] ツリーで、[サイトの外観] を展開し、次に [リンクバーのエイリアス] をクリックします。[リンクバーのエイリアス] ページが開きます。

リンクバーのエイリアス

属性	値
1 ホームリンクの表示	<input checked="" type="checkbox"/>
2 カタログリンクの表示	<input checked="" type="checkbox"/>
3 設定リンクの表示	<input checked="" type="checkbox"/>
4 管理リンクの表示	<input checked="" type="checkbox"/>
5 スケジュールリンクの表示	<input checked="" type="checkbox"/>
6 ヘルプリンクの表示	<input checked="" type="checkbox"/>
ホームリンクのエイリアス	ホーム
カタログリンクのエイリアス	カタログ
設定リンクのエイリアス	設定
管理リンクのエイリアス	管理
スケジュールリンクのエイリアス	スケジュール
ヘルプリンクのエイリアス	ヘルプ

3 以下を実行します。

- a リンクバーにリンクを表示するときの順序を制御するには、各リンクの横にある数値の矢印をクリックし数値を選択します。

リンクのデフォルトの順序は、[ホーム]、[カタログ]、[設定]、[管理]、[スケジュール]、[ヘルプ]です。

- b リンクバー上のリンクを表示しないようにするには、[<リンク名>の表示]の横のチェックボックスをオフにします。リンクバー上のリンクを表示するには、チェックボックスをオンにします。
- c リンクの名前を変更するには、[<リンク名>リンクのエイリアス]ボックスに新しい名前を入力します。

4 変更が完了したら、[適用]をクリックし、ブラウザの[更新]ボタンをクリックします。

ナビゲーションフレームのオプションの変更

ナビゲーションフレームのオプションを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。
- 2 [**管理**] ツリーで、[**サイトの外観**] を展開し、次に [**ナビゲーションフレームのオプション**] をクリックします。[**ナビゲーションフレームのオプション**] ページが開きます。



属性	値
ナビゲーションの幅	300 ピクセル
ナビゲーションの余白の色	#336699 色の選択
ナビゲーションの背景色	#CCCCCC 色の選択

適用 リセット

- 3 以下を実行します。
 - a [**ナビゲーションの幅**] ボックスに、ナビゲーションフレームの幅をピクセル単位で入力します。
 - b [**ナビゲーションの余白の色**] と [**ナビゲーションの背景色**] のボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - HTML 標準カラーの名称 (aqua、black、blue、fuchsia、gray、green、lime、maroon、navy、olive、purple、red、silver、teal、yellow、white) または 16 進数のカラー値を入力します。
 - [**色の選択**] をクリックします。[**Color Selector**] ウィンドウが開きます。このウィンドウで、パレットから色を選択するか、カラー値を個別に入力します。色を選択したら、[**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。
- 4 変更が完了したら、[**適用**] をクリックし、ブラウザの [**更新**] ボタンをクリックします。

結果フレームのオプションの変更

結果フレームのオプションを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理]を選択します。
- 2 [管理]ツリーで、[サイトの外観]を展開し、次に[結果フレームのオプション]をクリックします。[結果フレームのオプション]ページが開きます。

結果の余白の色

属性	値
結果の余白の色	#336699 色の選択
結果の背景色	#CCCCCC 色の選択

適用 リセット

このページでは、Web アクセスサーバーの結果フレームの色を変更できます。結果の余白の色は、フレームの上部にある水平バーの色です。デフォルトは青色です。背景色は、このフレーム全体の色です。デフォルトはグレイです。

- 3 [結果の余白の色]または[結果の背景色]のボックスで、以下のいずれかを実行します。
 - HTML 標準カラーの名称 (aqua、black、blue、fuchsia、gray、green、lime、maroon、navy、olive、purple、red、silver、teal、yellow、white) または 16 進数のカラー値を入力します。
 - [色の選択]をクリックします。[Color Selector] ウィンドウが開きます。このウィンドウで、パレットから色を選択するか、カラー値を個別に入力します。色を選択したら、[適用]をクリックし、[OK]をクリックします。
- 4 変更が完了したら、[結果フレームのオプション]ページで[適用]をクリックし、ブラウザの[更新]ボタンをクリックします。

レポートの配布

レポートを配布するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**カタログ**]を選択します。
- 2 [**カタログ**]ツリーで、[**新規レポートの配布**]をクリックします。[**レポートの配布**]ページが開きます。

レポートの配布

名前	値		概要
配布項目	<input type="text"/> 参照...		配布するローカルレポートファイル
保存先	/users ▾ / <input type="text"/> 参照		レポートが保存されるパス
表示名	<input type="text"/>		カタログ階層内に表示される名前
説明	<input type="text"/>		説明(オプション)

配布

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - [**配布項目**]ボックスに、配布するレポートのパスとファイルの名前を入力します。
 - [**参照**]をクリックし、配布するレポートを見つけて選択します。
- 4 [**保存先**]ボックスで、以下を実行します。
 - a [**保存先**]の矢印をクリックして、[**System**]または[**Users**]を選択します。
 - b 以下のいずれかを実行します。
 - レポートの配布先となるフォルダーを入力します。
[**Users**]フォルダーにレポートを配布する場合は、既存のユーザーアカウントからユーザー名を表すフォルダーを入力します。
 - [**参照**]をクリックし、レポートの配布先となるフォルダーを見つけて選択します。

レポートを配布すると、以下のいずれかが行われます。

- レポートが、[System] フォルダの下に指定フォルダに表示されます。
- レポートが、[Users] フォルダの下にユーザーのフォルダに表示されます。

- 5 [表示名] フィールドに、レポートの名前を入力します。これは、[カタログ] リンクで表示されるレポート名になります。

表示名を入力しない場合、レポートのファイルシステム名が使用されます。たとえば、**nscanfield.rep** という名前のレポートを配布し、表示名を入力しなかった場合、[カタログ] リンクからレポートを表示すると、そのレポートは **nscanfield.rep** として表示されます。

- 6 [説明] フィールドに、レポートに関する説明を入力します (説明は省略可能です)。
- 7 [配布] ボタンをクリックします。

レポートが正常に配布されると、以下のメッセージが表示されます。

```
You have successfully deployed "report_name"
```

この例で、*report_name* は、この手順の [手順 3](#) で入力したレポートの名前です。

サービスの設定の変更

この項では、以下の設定を変更するための方法について説明します。

- [Web アクセスサーバー \(432 ページ\)](#)
- [SSL \(436 ページ\)](#)
- [システムマネージャ \(441 ページ\)](#)
- [メールサーバー \(449 ページ\)](#)

Web アクセスサーバー設定の変更

Web アクセスサーバーについては、以下の設定を変更できます。ポート番号、レルム、Web サイトのドキュメントルート、ログファイルのパス、ログ記録、デバッグ、ヘッドレスオペレーション、タイムアウト値、および認証方法です。

Web アクセスサーバーの設定を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。[管理] ページが開きます。
- 2 [管理] ツリーで、[サービスの構成] を展開し、次に [**Web アクセスサーバー**] をクリックします。[**Web アクセスサーバーの設定**] ページが開きます。

属性	値
ポート	80
レルム	tw-app
Webサイトのドキュメントルート	/
ログファイルの場所	C:\OVPI\log
ログの有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
デバッグの有効化	<input type="checkbox"/>
タイムアウト	3 分
認証方法	HTTP基本
アカウントID	trendadm

適用

- 3 以下を実行します。
 - a [ポート] ボックスに、Web アクセスサーバーのポート番号を入力します。
 - b [レルム] ボックスに、サーバーのレルム名を入力します。最大 50 文字までです。

レルム名はユーザーを認証するために使用します。ユーザーのログオン情報（ユーザー名とパスワード）は、割り当てられたレルムに対してのみ機能します。Web アクセスサーバーの前にプロキシサーバーを使用している場合は、レルム名を変更する必要があります。

たとえば、プロキシサーバーのレルム名が `realm1` であり、Web アクセスサーバーのレルム名が `tw-app` である場合、ユーザーは 2 回ログオンする必要があります。Web アクセスサーバーのレルム名を `realm1` に変更すれば、ユーザーは 1 回のログオンですみます。

レルム名は、Web アクセスサーバーで [ログオン] ボタンをクリックした後の [ネットワーク パスワードの入力] ダイアログボックスに表示されます。

- c [Web サイトのドキュメントルート] ボックスに、ホームページのディレクトリ階層を再配置するディレクトリを入力します。これにより、Web アクセスサーバーのコンポーネントが配置される URL が変更されます。

デフォルトでは、階層は `/` (ルート) です。つまり、OVPI すべてのコンポーネントが Web アクセスサーバーのルートレベルに配置されます。

このオプションは、プロキシサーバーが存在し、OVPI がプロキシ内のコンポーネントのうちの 1 つである環境において役に立ちます。複数のユーザーアプリケーションがあり、その 1 つが OVPI である場合は、この URL を `/ovpi` に変更できます。たとえば、デフォルトの URL を `http://hostname/reports/home` から `http://hostname/ovpi/reports/home` という URL に変更します。

- d サーバーのログファイルのパスを変更するには、[ログファイルの場所] ボックスにパスを入力します。

 パスには ASCII 文字のみ使用できます。

- e ログ記録を指定するには、以下のいずれかを実行します。
 - ログ記録を有効にするには、[ログの有効化] チェックボックスをオンにします。
 - ログ記録を無効にするには、[ログの有効化] チェックボックスをオフにします。
- f デバッグを指定するには、以下のいずれかを実行します。
 - デバッグを有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをオンにします。
 - デバッグを無効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをオフにします。

g *UNIX* のみ: ヘッドレスオペレーションを制御するには、以下のいずれかを実行します。

- ヘッドレスオペレーションを有効にするには、[**ヘッドレス操作の有効化**] チェックボックスをオンにします。
- ヘッドレスオペレーションを無効にするには、[**ヘッドレス操作の有効化**] チェックボックスをオフにします。

OVPI をインストールした後、システムはヘッドレスオペレーション用に設定されます。ヘッドレス サポートでは、ソフトウェアを使用してグラフィックをレンダリングします。したがってグラフィックカードは必要ありません。

代わりに、以下のコマンドのいずれかを入力することで、ヘッドレスサポートを無効または有効にします。

headlessctl enable

headlessctl disable

h Web アクセスサーバーでの処理 (たとえばレポートのロード) が、タイムアウトする時間 (分単位) を、[タイムアウト] ボックスに入力します。

有効な値は、0 より大きくて 1000 未満の任意の整数です。

i [**認証方法**] の矢印をクリックし、以下のいずれかを選択します。

- [**HTTP 基本**]。この方法では、[ネットワーク パスワードの入力] ダイアログボックスにユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力して、Web アクセスサーバーにログオンする必要があります。
- [**URL**]。この方法では、URL を使用してレポートを表示するときにユーザー名を入力する必要があります。URL を使用してレポートを表示する方法の詳細は、『*HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド*』を参照してください。

- [なし]。この方法では、認証が必要ありません。ただし、ユーザーは [アカウント ID] ボックスで指定したユーザーアカウントと同じ権限でシステムにアクセスします。

▶ [アカウント ID] ボックスに、管理者権限を持たないユーザーアカウントを指定した場合、[管理] リンクにはアクセスできなくなります。管理者権限をリセットする方法の詳細は、[435 ページの「管理者権限のリセット」](#)を参照してください。

- [**アカウント ID**]。ユーザーアカウントの名前を入力します。Web サーバーに、他のユーザーアカウントでアクセスする場合、ここで設定したアカウントと同じ権限が必要です。

4 [**適用**] をクリックします。

5 変更が完了したら、Web アクセスサーバーを停止させてからまた起動します。この手順については、[65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」](#)を参照してください。

管理者権限のリセット

この項では、Web アクセスサーバーの認証設定を変更するときに起こりうる問題の処理方法について説明します。

Web サーバーのための認証がなく、かつ管理者権限を持たない [アカウント ID] ボックスのユーザーアカウントが、Web アクセスサーバーの [管理] リンクにアクセスするには、管理者権限を設定しなおす必要があります。これをするには、`config.prp` ファイルを編集するか、または URL を使用して Web アクセスサーバーにログオンします。

config.prp ファイルの編集

`config.prp` ファイルを編集することで管理者権限をリセットするには、以下の手順に従います。

1 テキストエディタで以下のファイルを開きます。

```
installation_directory¥data¥config.prp
```

この場合、`installation_directory` は OVPI がインストールされているディレクトリです。

- 2 `config.prp` ファイル内で以下の行を見つけます。
`appserver.security=none`
- 3 この行を以下のように変更します。
`appserver.security=basic`
- 4 以下の場所に移動します。
`installation_directory¥jrun¥servers¥piweb¥tw-app¥WEB-INF`
この場合、`installation_directory` は OVPI がインストールされているディレクトリです。
- 5 `web.auth` ファイルのコピーを作成し、これを同じディレクトリに貼り付けます。
- 6 `web.xml` ファイルを削除します。
- 7 `web.auth` ファイルのコピーの名前を `web.xml` に変更します。
- 8 Web アクセスサーバーを停止させてからまた起動します。Web アクセスサーバーを停止させてからまた起動する方法の詳細は、[65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」](#)を参照してください。

URL の使用

管理者権限で Web アクセスサーバーにログオンするには、以下の URL を入力します。

`http://hostname/reports/home?ov_user=trendadm`

この場合、`hostname` は Web アクセスサーバーの名前です。

SSL サービス設定の変更

Web アクセスサーバーとサポートされている Web ブラウザとの間の SSL(Secure Socket Layer) 通信を有効または無効にできます。

SSL を有効にするには、自己署名デジタル証明書を作成します。これによって SSL を有効にすることができますが、セキュリティを向上させるには、この証明書を認証機関に送って署名入りデジタル証明書を受け取る必要があります。署名入りデジタル証明書を受け取ったら、これをインポートする必要があります。詳細は、[439 ページの「デジタル証明書のインポート」](#)を参照してください。

SSL を有効または無効にするには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[**管理**] を選択します。[**管理**] ページが表示されます。
- 2 [**管理**] ツリーで、[**サービスの構成**] を展開し、次に [**SSL サービス**] をクリックします。[**SSL サービス構成ページ**] が開きます。

SSL サービス構成ページ

プロパティ	値
SSLの有効化	<input type="checkbox"/>
非セキュアHTTPポートを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
セキュアポート	<input style="width: 80px;" type="text" value="443"/>
キーストアパスワード	<input style="width: 150px;" type="password"/>
証明書識別データ	
名前	hpkszh.kobe.hp.com
組織	<input style="width: 100px;" type="text" value="Unknown"/>
組織単位	<input style="width: 100px;" type="text" value="Unknown"/>
場所	<input style="width: 100px;" type="text" value="Unknown"/>
州/都道府県	<input style="width: 100px;" type="text" value="Unknown"/>
国コード	<input style="width: 50px;" type="text" value="US"/>
<input type="button" value="適用"/>	<input type="button" value="リセット"/>

▶ OVPI をインストールした際に SSL 通信を有効にした場合、[キーストアパスワード] と [証明書情報] のオプションは表示されません。

- 3 SSL を有効にするには、以下を実行します。
 - a [**SSL の有効化**] チェックボックスをオンにします。
 - b Web アクセスサーバーの非セキュアなポートをオフにするには、[**非セキュア HTTP ポートを有効にする**] ボックスをオフにします。

このオプションを無効にすると、ユーザーは `https://hostname` を使用して Web アクセスサーバーにアクセスする必要があります。

- c [セキュアポート] ボックスの値はそのまま (デフォルトは **433**) にしておきます。または [セキュアポート] ボックスのポート番号を変更します。
- d [キーストア パスワード] ボックスに **6** 文字以上のパスワードを入力します。



パスワードを記録し安全な場所に保管しておきます。このパスワードは、署名証明書を作成するのに必要です。

自己署名証明書を作成すると、証明書リポジトリに保存されます。このパスワードにより、**Web** アクセスサーバーは証明書リポジトリにアクセスできます。

残りのフィールドは、証明書署名機関によって検証および署名される必要のある、**SSL** キーを生成するのに必要な情報を要求します。この情報は、証明書の有効性を確認するために、証明書のチェック担当者が使用します。



[国]、[組織]、[組織単位]、[場所]、[州/都道府県]、および[国コード] フィールドには **ASCII** 文字のみ入力できます。

- e [国] ボックスに **2** 文字の国コードを入力します (たとえば「**US**」)。
- f 自分が所属する組織名を入力します (たとえば「**ABC** システム株式会社」)。
- g 部や課の名前を入力します (たとえば「**Northeast Sales**」)。
- h 市や町の名前を入力します (たとえば「**Los Angeles**」)。
- i 都道府県名を入力します (たとえば「**Tokyo**」)。
- j [適用] をクリックします。

[適用] をクリックすると、[SSL サービス構成ページ] ページに、証明書の有効期限と、[新規 自己署名型証明書の生成] チェックボックスが表示されます。

新しい証明書を作成する必要があるときは、必要に応じてこのページの [証明書識別データ] セクションの情報を変更し、このオプションを選択し、[適用] をクリックします。

- k 変更内容を有効にするには、Web アクセスサーバーを停止させてから再起動します。この手順については、65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」を参照してください。

▶ この自己署名デジタル証明書によって SSL を有効にすることができます。ただし、セキュリティを向上させるには、この証明書を認証機関に送って署名入りデジタル証明書を受け取る必要があります。署名入りデジタル証明書を受け取ったら、これをインポートする必要があります。詳細は、「デジタル証明書のインポート」を参照してください。

- 4 SSL を無効にするには、以下の手順に従います。
 - a [SSL の有効化] チェックボックスをオフにします。
 - b [適用] をクリックします。
 - c 変更内容を有効にするため、Web アクセスサーバーを停止させてから再起動します。この手順については、65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」を参照してください。

デジタル証明書のインポート

SSL を有効した時点で、自己署名デジタル証明書を得たことになります。証明書は、認証機関 (CA) によって署名されていると、他人からの信頼がより高まります。

これを実行するには、CA に証明書署名要求 (CSR) を送る必要があります。CA は要求者を認証し、その証明書を署名します。

証明書署名要求 (CSR) の生成

CSR を生成するには、以下を実行します。

- 1 以下のディレクトリに移動します。

```
installation_directory/jre/bin
```

- 2 CSR を生成するには、コマンド行で以下を入力します。

```
keytool_path -certreq -file filename.csr -keystore  
installation_directory/jrun/lib/keyStore -alias ovpi
```

keytool_path は、*DPIPE_HOME* ディレクトリ内の、*keytool* ユーティリティの場所です。

filename は、*.csr* ファイルに与える名前です。

installation_directory は *OVPI* をインストールしたディレクトリです。

たとえば、*OVPI* を */opt/OVPI* にインストールしてある場合、コマンドは以下ようになります。

```
/opt/OVPI/jre/bin/keytool -certreq -file filename.csr -keystore /opt/OVPI/jrun/lib/keyStore -alias ovpi
```

以下のプロンプトが表示されます。

```
Enter keystore password:
```

- 3 キーストア パスワードを入力し、**[Enter]** を押します。

これは、*OVPI* のインストール時に *SSL* を有効にするときに入力したパスワード、および *Web* アクセスサーバーを使用するときに入力するパスワードと同じものです。

▶ パスワードを入力するときは、画面にそのパスワードが表示されるので、他人の面前では入力しないでください。

これにより、*.csr* ファイルに、以下の行で始まる要求が記載されます。

```
-----BEGIN NEW CERTIFICATE REQUEST-----
```

署名入りデジタル証明書のインポート

証明書に署名した後、*CA* はこれを要求者に返送します。次に、署名入り証明書をキーストアにインポートする必要があります。これによって自己署名証明書は上書きされます。一部の認証機関は、署名入り証明書とともにサーバー証明書を添付することがあります。

署名入り証明書をインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 以下のディレクトリに移動します。

```
installation_directory/jre/bin
```

- 2 *サーバー証明書のみ*:サーバー証明書をインポートするには、コマンド行で以下を入力します。

```
keytool -import -file filename -keystore installation_directory/jrun/lib/trustStore
```


- 3 コマンド行で以下を入力します。

```
keytool -import -file filename -keystore installation_directory/jrun/  
lib/keyStore -alias ovpi -trustcacerts
```

この例では、*installation_directory* は OVPI をインストールしたディレクトリであり（たとえば C:\ovpi）、*filename* は CA から受け取った証明書ファイルの名前です。

以下のプロンプトが表示されます。

```
Enter keystore password:
```

- 4 keystore パスワードを入力し、[Enter] を押します。

▶ パスワードを入力するときは、画面にそのパスワードが表示されるので、他人の面前では入力しないでください。

これは、OVPI のインストール時に SSL を有効にするときに入力したパスワード、および Web アクセスサーバーを使用するときに入力するパスワードと同じものです。

システムマネージャの設定の変更

システムマネージャは、すべての Web アクセスサーバーとデータベースのリストを管理します。[Performance Insight システム] ページに、すべての Web アクセスサーバーとデータベースシステムが表示されます。またこのページで以下も実行できます。

- デフォルトシステムを選択する (442 ページの「デフォルトシステムの変更」)。
- システムを追加する (442 ページの「システムの追加」)。
- 現在のシステムの設定を変更する (445 ページの「システムの設定の変更」)。
- システムを削除する (449 ページの「システムの削除」)。

[Performance Insight システム] ページの表示

[Performance Insight システム] ページを開くには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理] を選択します。[管理] ページが表示されます。

- 2 [管理] ツリーで、[サービスの構成] を展開し、次に[システムマネージャ] をクリックします。[Performance Insight システム] ページが開きます。



このページには、お使いのコンピュータが接続されているすべての Web アクセスサーバーとデータベースが表示されます。またデフォルトシステムと、各システムの役割も示します。システムのロールが、Web アクセスサーバー (appserver) である場合があり、またデータベースサーバーと Web アクセスサーバーの両方である場合もあります。

このページで、システムの追加、変更、または削除ができます。デフォルトシステムを変更することもできます。

デフォルトシステムの変更

接続を最初に確立したシステムがデフォルトシステムになります。デフォルトを変更するには、以下の手順に従います。

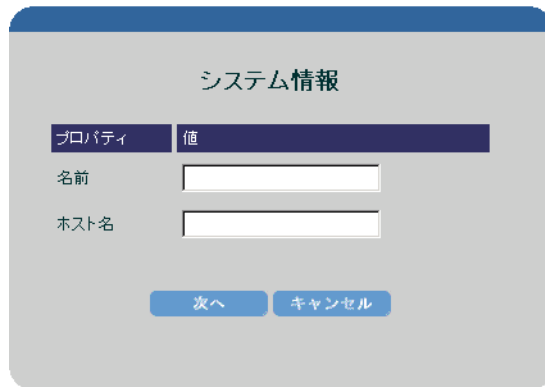
- 1 前述の手順 2 に示した [Performance Insight システム] ページで、デフォルトシステムにするシステムの [デフォルト] ボタンをクリックします。
- 2 [適用] をクリックします。

システムの追加

システムを追加するには、以下の手順に従います。

- 1 441 ページの「[Performance Insight システム] ページの表示」で説明したように [Performance Insight システム] ページを開きます。
- 2 [追加] をクリックします。

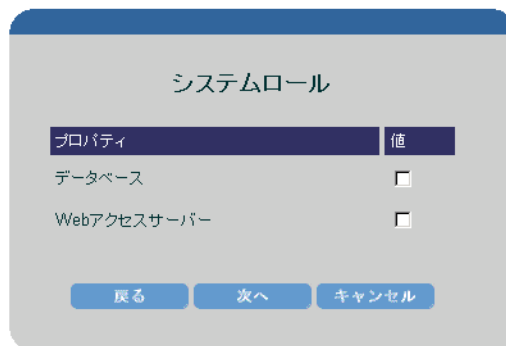
[システム情報] ページが開きます。



プロパティ	値
名前	<input type="text"/>
ホスト名	<input type="text"/>

- 3 システムの全般プロパティを入力するには、以下を実行します。
 - a [名前] ボックスにそのシステムの名前を入力します。
 - b [ホスト名] ボックスにそのシステムのホスト名を入力します。
 - c [次へ] をクリックします。

[システムロール] ページが開きます。



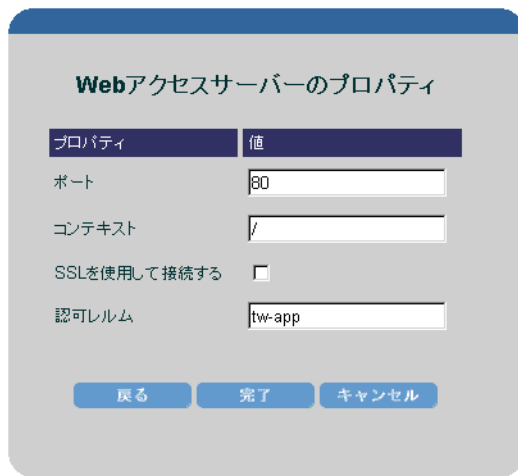
プロパティ	値
データベース	<input type="checkbox"/>
Webアクセスサーバー	<input type="checkbox"/>

- 4 システムにロール (1 つまたは複数) を割り当てるには、以下を実行します。
 - a データベースのロールをシステムに割り当てるには、[データベース] ボックスをオンにします。
 - b Web アクセスサーバーの役割をシステムに割り当てるには、[Web アクセスサーバー] ボックスをオンにします。
 - c [次へ] をクリックします。

システムに割り当てた役割 (1 つまたは複数) に応じて、以下のページのいずれかまたは両方が表示されます。

- [Web アクセスサーバーのプロパティ] (手順 5 に進む)
- [データベースのプロパティ] (手順 8 に進む)

- 5 Web アクセスサーバーの役割を選択した場合、[Web アクセスサーバーのプロパティ] ページが表示されます。



プロパティ	値
ポート	80
コンテキスト	/
SSLを使用して接続する	<input type="checkbox"/>
認可レルム	tw-app

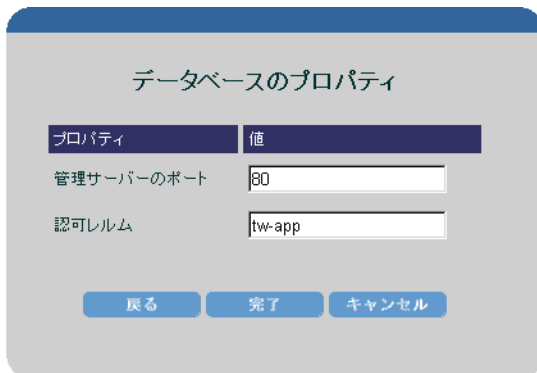
戻る 完了 キャンセル

- 6 必要に応じて、[Web アクセスサーバーのプロパティ] ページのデフォルト値を変更します。

- [ポート] ボックスで、Web アクセスサーバーのポート番号を変更します。
- [コンテキスト] ボックスで、Web アクセスサーバーへのパスを変更します。
- データベースサーバーが SSL を使用しており、そのデータベースサーバーとの安全な通信を望む場合は、[SSL を使用して接続する] ボックスをオンにします。
- [認可レルム] ボックスで、データベースサーバーが認証用に使用するレルム名を変更します。

- 7 [次へ] をクリックします (データベースの役割を選択していない場合は、[完了] をクリックします)。

- 8 データベースの役割を選択している場合は、[データベースのプロパティ] ページが表示されます。



プロパティ	値
管理サーバーのポート	80
認可レルム	tw-app

戻る 完了 キャンセル

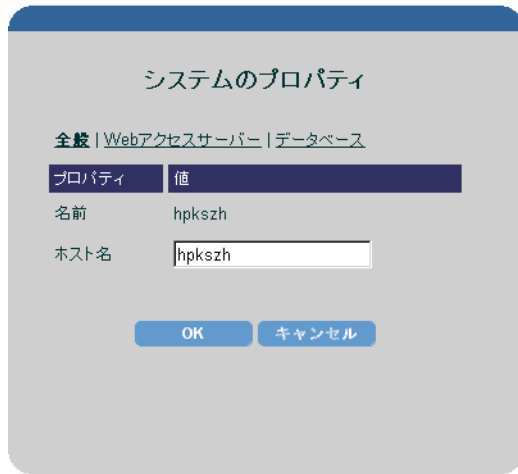
- 9 該当する場合は、[データベースのプロパティ] ページで以下を実行します。
 - a [管理サーバーのポート] ボックスで、**Web** アクセスサーバーが接続をリスンするポート番号を変更します。
 - b [認可レルム] ボックスで、データベースサーバーが認証用に使用するレルム名を変更します。
- 10 [完了] をクリックします。

システムの設定の変更

システムの設定を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 441 ページの「[Performance Insight システム] ページの表示」で説明したように [Performance Insight システム] ページを開きます。
- 2 変更するユーザーの横にある  ([編集] アイコン) をクリックします。

[システムのプロパティ] ページが開きます。



列の見出しのすぐ上に表示されているリンクは、システムに与えられた役割を表しています。

- 3 システムの全般プロパティを変更するには、以下を実行します。
 - a [**全般**] リンクをクリックします。[システムのプロパティ] ページが開きます。
 - b [ホスト名] ボックスで、そのシステムのホスト名を変更します。
 - c [**OK**] をクリックします。
- 4 Web アクセスサーバーのプロパティを変更するには、以下の手順に従います。

- a [Web アクセスサーバー] リンクをクリックします。[システムの Web アクセスサーバーのプロパティ] ページが開きます。

システムのWebアクセスサーバーのプロパティ

全般 | Webアクセスサーバー | データベース

プロパティ	値
システムのWebアクセスサーバーの使用	<input checked="" type="checkbox"/>
ポート	<input type="text" value="80"/>
コンテキスト	<input type="text" value="/"/>
SSLを使用して接続する	<input type="checkbox"/>
SSLポート	<input type="text" value="443"/>
認可レレム	<input type="text" value="tw-app"/>

OK キャンセル

- b 必要に応じて以下を実行します。
- システムを Web アクセスサーバーとしては使用できないようにするには、[システムの Web アクセスサーバーの使用] ボックスをオフにします。
 - システムを Web アクセスサーバーとして使用できるようにするには、[システムの Web アクセスサーバーの使用] ボックスをオンにします。
 - [ポート] ボックスで、Web アクセスサーバーのポート番号を変更します。
 - [コンテキスト] ボックスで、Web アクセスサーバーへのパスを変更します。
 - データベースサーバーが SSL を使用しており、そのデータベースサーバーとの安全な通信を望む場合は、[SSL を使用して接続する] ボックスをオンにします。
 - [SSL ポート] ボックスで、サーバーが SSL 要求の送受信をリスンする TCP/IP ソケットのポートを変更します。

- [認可レلم]ボックスで、データベースサーバーが認証用に使用するレلم名を変更します。

c [OK]をクリックします。

5 データベースのプロパティを変更するには、以下の手順に従います。

a [データベース]リンクをクリックします。[システムデータベースプロパティ]ページが開きます。

プロパティ	値
システムデータベースの使用	<input checked="" type="checkbox"/>
ホスト名	hpkszh
説明	
ポート	1521
ベンダー	Oracle
データベースインスタンス	ovpi
ユーザー名	dsi_dpjpe
パスワード	*****
最大接続数	10

b 以下のいずれかを実行します。

- システムをデータベースとしては使用できないようにするには、[システムデータベースの使用]ボックスをオフにします。
- システムをデータベースとして使用できるようにするには、[システムデータベースの使用]ボックスをオンにします。
- [説明]ボックスに、データベースの説明を入力します。
- [ポート]ボックスにデータベースのポート番号を入力します。
- [データベースインスタンス]ボックスにデータベースインスタンスを入力します。デフォルトでは、これらは、\$ORACLE_SID(Oracleの場合)です。

これが、クライアントアプリケーションが情報を検索するデータベースの名前のデフォルトです。

- [ユーザー名] ボックスに、データベースのユーティリティ名を入力します。
- [パスワード] ボックスに、データベースのパスワードを入力します。
- [最大接続数] ボックスに、このデータベースプールの最大接続数を入力します。


c [OK] をクリックします。

- 6 変更が完了したら、Web アクセスサーバーを停止させてからまた起動します。


OVPI サービスの停止と起動の方法については、65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」を参照してください。

システムの削除

システムを削除するには、以下の手順に従います。

- 1 441 ページの「[Performance Insight システム] ページの表示」で説明したように [Performance Insight システム] ページを開きます。
- 2 削除するシステムの横にある  ([削除] アイコン) をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。

メールサーバーの設定の変更

レポートを表示しているときに、[Email] ボタン  をクリックすると、別のユーザーにレポートの URL を電子メールで送信できます (詳細は、『HP OpenView Performance Insight レポートの作成および表示ガイド』を参照してください)。この機能を使用するには SMTP メールサーバーが必要です。

すべてのユーザーが、[ビューの設定] ページの [レポートの電子メール送信の許可] オプションで、この機能を有効または無効にできます。このページを表示するには、リンクバーから [設定] を選択します。[設定] ツリーで、[配布済み項目] を展開し、次に [表示] をクリックします。

SMTP メールサーバーの設定を変更するには、以下の手順に従います。

- 1 リンクバーから、[管理] を選択します。[管理] ページが開きます。
- 2 [管理] ツリーで、[サービスの構成] を展開し、次に [メールサーバー] をクリックします。

[メールサーバーの設定] ページが表示されます。

属性	値
ホスト	localhost
ポート	25

埋め込みURL

ヘッダーメッセージ: *** このメッセージはHP OVPLユーザーアカウント: <username>から発信されたものです
フレーズ内部のユーザー名を置き換えるには、<username>タグを使用します。

URLメッセージ: レポートリンク: <url>
フレーズ内部のレポートURLを置き換えるには、<url>タグを使用します。

添付ファイル

添付の最大サイズ: 5 MB

警告メッセージを受信する OVP/管理者を選択します。: trendadm

添付サイズ上限を超えた場合、次の宛先に警告を電子メールで通知する:

- 管理者
- 受信者
- 管理者と受信者
- なし

添付が生成されなかった場合、次の宛先に警告を電子メールで通知する:

- 管理者
- 受信者
- 管理者と受信者
- なし

適用

- 3 以下のいずれかを実行します。
 - a [ホスト] ボックスに、SMTP メールサーバーのホスト名を入力します。
 - b [ポート] ボックスに、SMTP メールサーバーのポート番号を入力します。

- c [ヘッダーメッセージ]ボックスに、メールメッセージの[件名]行に表示するメッセージを入力します。

<username> 変数で、メールメッセージの送信元のアカウントのユーザー名をメッセージ内に表示できます。

- d [URL メッセージ]ボックスに、メールメッセージのテキスト内にレポートの URL を提示する形態を入力します。

<url> 変数で、レポートの URL をメッセージ内に表示できます。

- 4 [適用]をクリックします。

グラフの X 軸の時刻フォーマットの変更

Web アクセスサーバーやレポートビルダの、グラフの x 軸の時刻フォーマットを、graph.prp ファイルから編集できます。たとえば、config.prp ファイルの時刻データは、*E hh:mm a* で表されていますが、これは曜日、時:分、A.M. または P.M. に変換されます(たとえば、Wed 12:05 pm)。表 1 に、利用可能な変数を一覧表示します。

表 1 グラフの X 軸の時刻フォーマットの変数

記号	意味	フォーマット	例
G	「紀元後」の記号	テキスト	AD
y	年	数値	1996
M	年内の月	テキストと数値	July & 07
d	月内の日	数値	10
h	A.M. または P.M. での時間 (1~12)	数値	12
H	1 日のうちでの時間 (0 ~ 23)	数値	0
m	時内の分	数値	30
s	分内の秒	数値	55

表 1 グラフの X 軸の時刻フォーマットの変数 (続き)

記号	意味	フォーマット	例
S	ミリ秒	数値	978
E	曜日	テキスト	Tuesday
D	年内の通算日	数値	189
F	月の曜日	数値	2(7月の第2水曜日)
w	年内の週	数値	27
W	月の通し週	数値	2
a	A.M. または P.M.	テキスト	P.M.
k	1 日のうちの時間 (1 ~ 24)	数値	24
K	A.M. または P.M. での時間 (0 ~ 11)	数値	0
z	タイムゾーン	テキスト	太平洋標準時
'	テキスト用エスケープ	区切り記号	
"	単一引用符	リテラル	'

グラフの x 軸の時刻フォーマットを設定するには、以下の手順に従います。

- 1 下の場所にある graph.prp ファイルを編集します。

- UNIX の場合:

`DPIPE_HOME/data/graph.prp`

- Windows の場合:

`DPIPE_HOME\data\graph.prp`

この場合、`DPIPE_HOME` は OVPI がインストールされているディレクトリです。

config.prp ファイルに記載される時刻フォーマットは、たとえば以下のように表示されます。

```
xaxis.hourly.time.format=E hh:mm a
xaxis.daily.time.format=E MMM d
xaxis.weekly.time.format=MMM d
xaxis.monthly.time.format=MMMM
xaxis.summary.hourly.time.format=E hh:mm a
xaxis.summary.daily.time.format=E MMM d
xaxis.summary.weekly.time.format=MMM d
xaxis.summary.monthly.time.format=MMMM
```

- 2 表 1 に挙げた変数を使用して、希望のフォーマットに変更します。
- 3 変更を行った後、以下を実行します。
 - a [ファイル]メニューの[保存]をクリックします。
 - b [ファイル]メニューの[終了]を選択します。
- 4 Web アクセスサーバーを停止させてから起動します。詳細は、65 ページの「OVPI のプロセスの開始および停止」を参照してください。

システムの調整

この章では、HP OpenView Performance Insight(OVPI) システムのパフォーマンスを改善するための方法について説明します。多くの要因が、OVPI のパフォーマンスに、よい影響または悪い影響を与えます。それらの要因は、以下の領域に分類できます。

- ハードウェア
- オペレーティングシステムの設定パラメータ
- OVPI の処理オプション



これらの領域のすべてが、各インストールに影響するわけではありません。プラットフォームや作業負荷といった要因も、ある設定領域の全体効率に影響する可能性があります。

ハードウェアでの検討事項

OVPI は、1 ～多数のデータベースで動作するよう設計されたデータベースアプリケーションです。全体のパフォーマンスに影響するハードウェアの要因は以下のとおりです。

- プロセッサのタイプとクロック速度

- プロセッサの数
- メモリーの量
- ディスクドライブのインタフェース
- 物理ディスクデバイスの数

プロセッサのタイプとクロック速度

一般に、プロセッサの速度が遅い場合は、プロセッサがパフォーマンスの主要な要因となりますが、プロセッサの速度が向上するにつれて、ディスクとネットワーク I/O が OVPI の処理全体の速度に対する制限要因となっていきます。

HP は、選択したプラットフォームで利用可能な最速のプロセッサを使用することをお勧めします。最速のプロセッサを使用している場合、次に要因になると思われるものは、ディスクとネットワーク I/O です。

プロセッサの数

OVPI は、マルチプロセッサ環境を利用し並列 (同時) タスクを実行できるよう設定できます。可能な限り、マルチプロセッサ構成にしてください。

メモリー

Sybase で最大限のパフォーマンスを得るには、プラットフォームが何であれ、なるべく多くのメモリーを確保してください。Sybase は主に、ディスクキャッシュとプロシージャキャッシュのバッファとしてメモリーを使用します。利用可能なディスクキャッシュが多いほど、システムが行う I/O が減るため、パフォーマンスが向上します。

表 1 は、所定の OVPI システムのメモリー容量を選択するためのガイドラインを示しています。

表 1 メモリーのガイドライン

システムのメモリー (1 プロセッサあたり)	アプリケーション
512 MB	小～中規模のインストール
1 GB	中～大規模のインストール
1 GB 超	超大規模なインストール

共有メモリー/スワップファイルのサイズ

共有メモリーの量は、物理メモリー量とスワップファイルサイズとの間の値にしてください。スワップファイルのサイズは、マシン内の物理メモリー量の 2 ～ 3 倍にしてください。

表 2 は、さまざまなオペレーティングシステムにおける、データベースサーバーのための最大メモリー割り当て量を示しています。ここに示されているのは、各タイプのオペレーティングシステムにおいて、Adaptive Server Enterprise 11.9.2.5 ESD 1 で許される共有アドレス指定の可能なメモリーの最大量です。

表 2 データベースサーバーのための最大割り当て

オペレーティングシステム	共有アドレス指定可能メモリーの最大量
HP-UX	2.75 GB
Solaris	4 GB
Windows	2 GB

システムが共有メモリーをスワップアウトしないようにすることで、パフォーマンスを改善できます。各オペレーティングシステムについて、その方法を以下に示します。

- HP-UX の場合

次のパラメータを設定します。

SWAPMEM_ON = 1

ただし、この設定により、利用可能な共有メモリーの量は減少します。

- Solaris の場合

ISM(Intimate Shared Memory) 機能を使用して共有メモリーをロックします。ただし、Sun4c ファミリーのマシンは、現時点ではこの機能をサポートしていません。

ディスクドライブのインタフェース

システム構成に十分なメモリーが備わっている場合、次に要因になると思われるものは、ディスク I/O です。

適切なディスクインタフェース(コントローラ)を選択することで、データがディスクからメモリーに高速に移動できるようにします。一般に、ファイバーチャネルと SCSI のインタフェースは、IDE や Enhanced IDE のインタフェースよりも性能が優れています。メモリーの場合と同様、インタフェースが高速であるほど、I/O バスからメモリーに高速にデータを移動して処理できます。

高速なインタフェースにより、複数の I/O デバイスをインタフェースのコントローラに接続しているシステムのスループットも向上します。一部のプラットフォームベンダーは、オプション(ハードウェア)のキャッシュコントローラを提供しており、非キャッシュコントローラに比べて大幅なパフォーマンス向上を実現できます。より大きなシステムの場合、複数のインタフェースを使用することもできます。

ファイバーチャネルは、中～大規模のほとんどのインストールで採用できるインタフェースです。ファイバーチャネルと SCSI を選択できる場合は、ファイバーチャネルを選択します。それが選択できない場合は、可能な限り SCSI 320/160MB/sec の LVD インタフェースを使用してください。

ハードドライブは少なくとも 10,000RPM が必要です。

物理ディスクデバイスの数

一般に、重要なファイルがディスクドライブ上に計画的に配置されている場合、それらドライブが多いほどスループットは向上します。たとえば、通常のオペレーティングシステムで使用するすべてのデータを単一のデバイスに配置し、残りのデバイスをバックアップとして使用している場合は、複数ディスク構成による利点は得られません。

複数ディスクの使用を検討するときは、データベースのトランザクションログをデータベース自身とは別のデバイスに置いてください。高速な RAID ボリュームがあれば、十分な空き容量がなくても、データベースとトランザクションログとを同じボリュームに配置できます。また、オペレーティングシステムのページ/スワップ/仮想メモリのファイルも別のデバイス(1つまたは複数)に配置します。

一部のベンダーが販売しているディスクアレイ製品には、複数のドライブが備わっているだけでなく、高度なハードウェアが用意されているため、データベーステーブルのハードウェア分割、埋め込みキャッシュ、ディスクミラーリング、RAID、およびその他のオプションに対応でき、スループットとデータの冗長性を向上させることができます。これらのサブシステムは、大規模なインストールで、またはハードウェアの予算が問題とならない小～中規模のインストールで、望ましい選択肢となります。

RAID は、「ミラーリングとストライピング (1+0)」、「ストライピングとミラーリング (0+1)、または「ミラーリング、ストライピング、およびチェックサム (5)」でセットアップする必要があります。1+0 と 0+1 のセットアップは、5 のセットアップよりも多くの容量が必要ですが、より高速です。また、1+0 のセットアップの方が復旧が簡単です。RAID を使用する場合は、ストライプサイズを 128KB に設定し、列の数をボリューム内のディスク数の半分にします。つまり、 $列数 = ディスク数 / 2$ とします。

オペレーティングシステムのパラメータの設定

使用しているオペレーティングシステムの種類に応じて、さまざまな設定パラメータを調整する必要があります。各オペレーティングシステムについて、その方法を以下に示します。

- HP-UX の場合

カーネル全体を通してさまざまなアルゴリズムと式が、**maxusers** パラメータを使用します。このパラメータの値は、システムで許される実際のユーザー数に対してでなくシステムリソース割り当てに対しての制限になります。また、一部のシステムのテーブルサイズやその他のパラメータ (**nproc**、**nccallout**、**ninode**、**nfile** など) の定義の一部でもあります。**nproc**、**nccallout**、**ninode**、**nfile** の各パラメータは固定値である必要があります。**maxusers** は **124** に設定します。

- Solaris の場合

maxusers パラメータのデフォルト値は、物理メモリー (メガバイト単位)、または **1024** のいずれか小さい方です。この値は **2048** より大きく設定することはできません。ユーザー接続数を調整したい場合、**ulimit** ユーティリティを使用して **nfiles (descriptors)** パラメータを設定します。

Oracle パラメータの設定

この章では、Oracle の調整方法は説明していません。OVPI のインストールプログラムは、Oracle データベースのいくつかのパラメータへのデフォルトを提供しています (それらのパラメータについては、『*Performance Insight* インストールガイド』の第 3 章を参照してください)。問題がある場合は、Oracle データベースの管理者に問い合わせてください。

MIB の管理

SNMP プロトコルは、MIB(Management Information Base) というデータ構造を用いたネットワークリソースの管理をサポートしています。MIB には管理対象オブジェクトのグループがあります。これは、ノードの統計値と設定パラメータを含むことのできる変数のテーブルです。ここでいうノードとは、ネットワーク通信でアクセス可能な任意のデバイスであり、SNMP を使用してポーリングできます。

各ノードは、ノードの製造元がそのノードの機能に適切であるとする MIB をサポートしています。標準 MIB の定義は、インターネットエンジニアリングタスクフォースの RFC(Request for Comment) ドキュメントに記載されています。エンタープライズ MIB の定義は、ノードの製造元で規定されています。

ノードからの情報を検証したい場合は、MIB ブラウザを使用して、そのノード上で動作するエージェントに要求を出すことで、そのノードのステータスと設定情報をクエリまたは変更できます。さらに、別のセットのオブジェクトを選択してノードから収集したい場合には、カスタム収集テーブルを作成できます。

利用可能な任意の MIB ブラウザを使用して、ノード上のステータスと設定情報をクエリまたは変更できます。ただし、HP OpenView Performance Insight(OVPI) の MIB ブラウザを使用してカスタム収集テーブルを作成する必要があります。

この章では、OVPI の MIB ブラウザを使用して以下を実行するための方法について説明します。

- 標準のベンダーまたはデバイス固有の MIB をロードする。OVPI に備わっている MIB がデータ収集のニーズに十分に対応できない場合、カスタムの MIB 定義をロードできます。

470 ページの「MIB のロード」を参照してください。

- 現在ロードされている MIB ファイルの内容を、UNIX または DOS のディレクトリ構造に似たグラフィックの MIB マップツリーとして表示する。このツリー構造により、MIB の内容を表示および分析できます。
- SNMP Get 要求を実行してノード上のステータスと設定情報のクエリを実行する。MIB ブラウザには Get 関数と Set 関数があります。MIB ブラウザは、MIB グループまたはオブジェクトについてノードをポーリングし、その応答を画面に表示します。

476 ページの「SNMP データのクエリ」を参照してください。

- SNMP の値を設定する。

481 ページの「SNMP 値の設定」を参照してください。

- ロード済みの MIB からオブジェクトを選択することで、カスタム収集テーブルを作成します。

482 ページの「収集テーブルの作成」を参照してください。



この章でいう、「オブジェクト」と「変数」という用語は、MIB の観点からは同義であり、MIB 管理オブジェクトを指します。

MIB ブラウザの起動

MIB ブラウザは、管理コンソールから、またはコマンド行から起動できます。

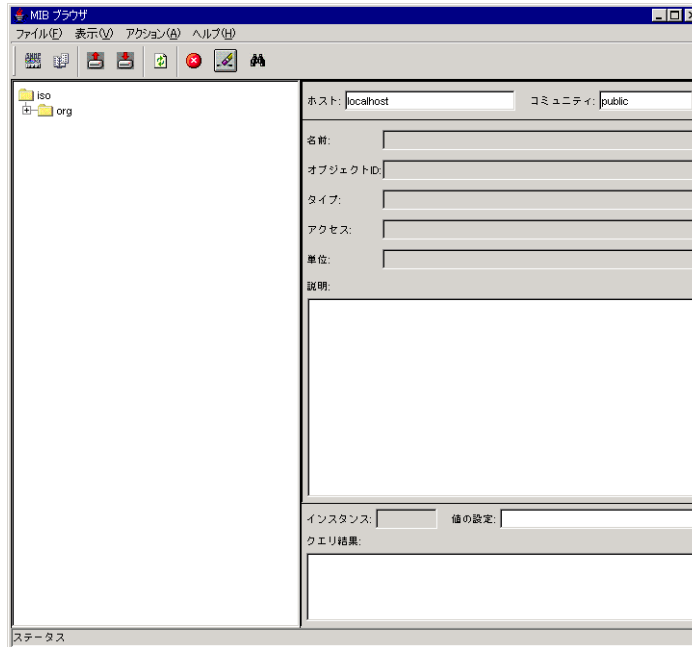
MIB ブラウザを起動するには、以下の方法のうちの 1 つを実行します。

- 管理コンソール
 - a 管理コンソールを起動します。詳細は、79 ページの「管理コンソールの起動」を参照してください。
 - b [ツール] メニューから [MIB ブラウザ] を選択します。MIB ブラウザウィンドウが表示されます。

- コマンド行
以下のコマンドを入力します。

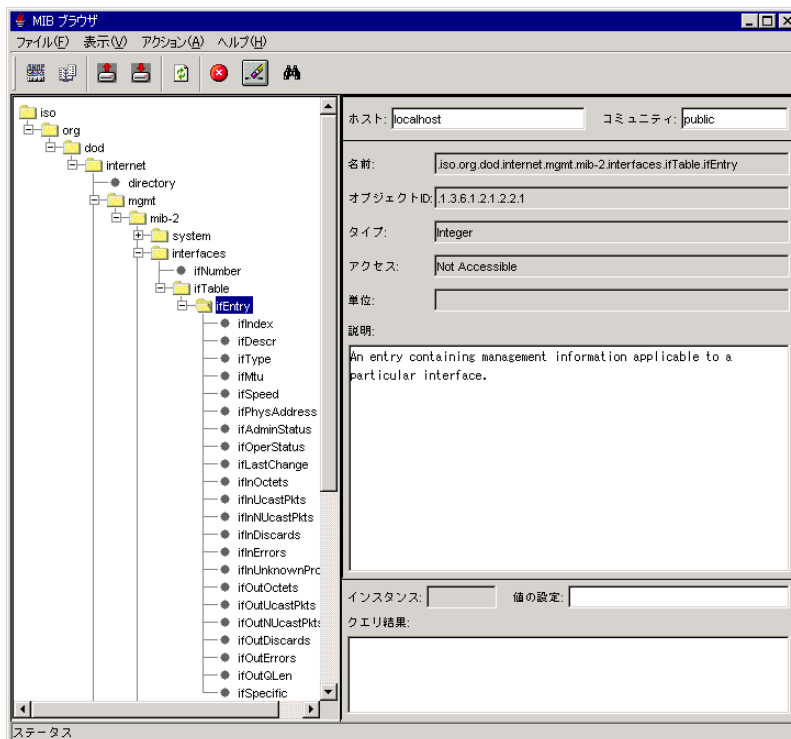
mibbrowser

以下の図は、MIB ブラウザの初期ウィンドウの例を示しています。



MIB ブラウザウィンドウ

MIB ブラウザウィンドウは選択した MIB オブジェクトに関する情報を表示します。以下の図は、MIB ツリーを展開した状態の MIB ブラウザウィンドウの例を示しています。



MIB ブラウザウィンドウには、ナビゲーションペインと表示ペインがあります。

ペインの大きさは、ペインを分割している垂直線をいずれかの方向に希望の大きさまで移動することで調整できます。オペレーティングシステムに応じて、以下のいずれかを実行します。

- **Windows** の場合。ペインを分割している垂直線上にカーソルを置いて両方向の矢印 (⇄) が表示されるようにし、いずれかの方向にこの矢印を希望の大きさまで移動します。

- UNIX の場合。ペインを分割している垂直線上のボックス (■) をポイントし、左クリックして押さえたまま、いずれかの方向に希望の大きさまで移動します。

ナビゲーションペイン

このペインには、MIB ツリーが表示されます。これは、現在ロードされているすべての MIB のマップです。MIB をロードして、ツリーを更新すると、その MIB がツリーに表示されます。ツリーから任意のオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトに関する情報が MIB ブラウザの右ペインに表示されます。

MIB ツリーの階層レベルは、Windows エクスプローラで Windows システムの内容を表示するときとまったく同様に展開できます。フォルダーを展開することで、そのフォルダー内のページやフォルダーを表示できます。また、階層レベルを折りたたむこともできます。

ナビゲーションペインのフォルダーは、以下の手順で開きます。

- フォルダーの内容を見るには、プラス記号 (+) をクリックします。
- フォルダーの内容は表示フレームに表示されます。一部の MIB オブジェクトを表示できない場合は、ナビゲーションペインのスクロールバーを使用してそのオブジェクトを表示します。
- 開いたフォルダーを閉じるには、マイナス記号 (-) をクリックするか、フォルダーをダブルクリックします。

表示ペイン

このペインは、ツリー内で選択したオブジェクトの詳細を表示します。これは、以下の情報を示します。

- ターゲットホストの情報。これは、ノードの名前と、それに対応するコミュニティ文字列を表示します。この情報は、SNMP の Get 関数と Set 関数を使用するときに重要になります。

表示される情報を以下に説明します。

[ホスト] このボックスで、ターゲットノードを指定します。選択する **MIB** オブジェクトを含んだノードの名前または **IP** アドレスを入力します。デフォルト値は **localhost** です。

[コミュニティ] このボックスで、ホストにアクセスする現在のコミュニティ文字列を指定します。デフォルト値は **public** です。読み取りや書き込みなど操作の種類に応じて、適切な値をこのボックスに入力します。

- 選択した **MIB** オブジェクトに関する一般的な情報

表示される情報を以下に説明します。

[名前] 選択した **MIB** オブジェクトのテキスト形式のオブジェクト **ID(OID)** です。これには、パスの各ノードがあつてピリオドで区切られており、末尾はこの管理対象オブジェクトの名前です。

[オブジェクト ID] 数値 **OID** です。これは、選択したオブジェクトまでの **MIB** ツリーのパスであり、ピリオドで区切られた数値で表されています。オブジェクト **ID** の末尾の値は、そのテーブルにおける、このオブジェクトの位置です。

[タイプ] 選択したオブジェクトに割り当てられた **SNMP** データ型です。これは、**OVPI** がレポートデータベースで使用する記憶型と、オブジェクトの処理で使用するアルゴリズムを特定します。**MIB** ファイル内の各オブジェクトについての **SYNTAX** エントリに対応しています。

[アクセス] 選択したオブジェクトから情報を取得する際のパーミッションのタイプです。有効なアクセスモードは、読み取り専用、読み取り / 書き込み、アクセス不能です。

[単位] 選択したオブジェクトの量のタイプです。

[説明] 選択したオブジェクトの説明です。

- **SNMP Get** 要求の結果。これには、**SNMP Set** で値を設定するための領域が含まれています。

表示される情報を以下に説明します。

[インスタンス] 選択した管理対象オブジェクトのインスタンスです。インスタンスは [クエリ結果] ボックスから選択できます。

[値の設定] 選択したオブジェクトのインスタンスの新しい値を入力します。可能ならば、**SNMP Set** アクションを使用して値を実際に変更します。[コミュニティ] フィールドの先頭には、適切なコミュニティ文字列を設定することを忘れないでください。

[クエリ結果] 選択した管理対象オブジェクトに対する **SNMP Get** 要求の結果です。



メニューバーとツールバー

MIB ブラウザには、[ファイル]、[表示]、[アクション]、および [ヘルプ] という各メニューがあります。また、頻繁に行うタスクのためのツールバーボタンがあります。

[ファイル]メニュー

表 1 に [ファイル] メニューのオプションとそれに対応するツールバーボタンを示します。

表 1 MIB ブラウザの [ファイル] メニューのオプション

オプション	説明	ツールバーのボタン
[新規]	[新規] のサブメニューから、[収集] を選択できます。これにより、ロードした MIB からユーザ独自の SNMP 収集テーブルを作成できます。詳細は、482 ページの「収集テーブルの作成」を参照してください。 このオプションは、標準の OVPI インストールでは必須ではありません。OVPI のソリューションレポートを使用する場合には必要ありません。	
[開く]	このオプションにより、MIB 定義ファイルを MIB ブラウザにロードできます。詳細は、470 ページの「MIB のロード」を参照してください。	
[終了]	MIB ブラウザを終了します。	なし

[表示]メニュー

[表示] メニューには以下のオプションが含まれています。




- [更新] このオプションは、ナビゲーションペイン内のツリーを更新し、また表示ペインの SNMP Get 要求結果のセクションに表示されている情報もすべて更新します。



[アクション] メニュー

表 2 に [アクション] メニューのオプションとそれに対応するツールバーボタンを示します。

表 2 MIB ブラウザの [アクション] メニューのオプション

オプション	説明	ボタン
[SNMP Get]	これは、選択したグループまたはオブジェクトの MIB ツリーの、GetNextRequest ツリーウォークを開始します。これは、スカラー形式または列形式の変数に対して機能します。詳細は、 476 ページの「SNMP データのクエリ」 を参照してください。	
[SNMP Set]	これにより、[クエリ結果]ボックスから選択したインスタンスに値を設定できます。これは、スカラー形式または列形式の変数に適用されます。詳細は、 481 ページの「SNMP 値の設定」 を参照してください。	
[停止]	現在の SNMP Get 要求の出力を停止します。	
[クリア]	[クエリ結果]ボックスの出力をクリアします。	
[検索]	このオプションにより、左ペインの MIB マップにある変数を見つけることができます。	

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューには、[MIB ブラウザについて] オプションがあります。これは MIB ブラウザのバージョンと著作権情報を表示します。

MIB のロード

OVPI は、デフォルトの場所 (DPIPE_HOME/mibs) に MIB を格納します。DPIPE_HOME は、OVPI が常駐するディレクトリを指す環境変数です。MIB をロードするとき、このディレクトリからか、または MIB ファイルが格納されている任意のディレクトリから、MIB を選択します。

MIB のアンロードについては、472 ページの「MIB のロード」を参照してください。

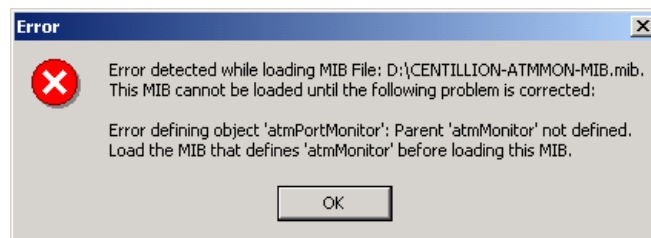
考慮すべき問題

MIB をロードするときには、以下の問題を考慮する必要があります。

- MIB ツリーの最上位を含める
- データの収集と集約のためのオブジェクトタイプを検証する

MIB ツリーの最上位を含める

MIB ファイルには、MIB の先頭までの完全修飾 ISO ツリーを含める必要があります。そうでない場合は MIB ツリーの最上位が前回ロードしたファイル内にある必要があります。MIB ツリーの最上位が欠落している場合、以下のようなメッセージが表示されます。



この例では、MIB ツリーの最上位は別のファイルにあります。

オブジェクトタイプを検証する

場合によっては、**MIB** は不適切なオブジェクトタイプを使用します。この最も一般的な例は、カウンタまたはゲージとして機能するフィールドが **INTEGER** として定義されている場合です。



フィールドのラベルは大文字/小文字を区別します。

これらのフィールドからデータを収集して正しく集約したい場合は、フィールドのラベルを修正する必要があります。

以下の例に示すように、[**DESCRIPTION**] フィールドによってフィールド内のデータの使用方法を指定できます。ここでの、最初の例は **counter** の定義であり、2 番目の例はゲージの定義です。

例：カウンタの [**DESCRIPTION**] フィールド

カウンタとして定義したフィールドは、ある一定の期間にわたって起きる事項の、発生頻度を監視します。これらの [**DESCRIPTION**] フィールドには、多くの場合、「*count*」または「*total number*」という語が含まれています。以下は、このような [**DESCRIPTION**] の例です。

```
Total number of octets since the device booted.
```

以下は、**counter** のフィールド定義の例です。

```
sysLinkCellsTx
SYNTAX INTEGER
ACCESS read-only
STATUS mandatory
DESCRIPTION
「リンク上で送信される ATM セルの件数」
 ::= { sysLinkEntry 10 }
```

以下のように修正します。

```
sysLinkCellsTx
SYNTAX Counter
ACCESS read-only
STATUS mandatory
DESCRIPTION
「リンク上で送信される ATM セルの件数」
 ::= { sysLinkEntry 10 }
```

例：ゲージの [DESCRIPTION] フィールド

ゲージとして機能するフィールドは通常、ある任意の時点におけるある事項の数量を示します。その [DESCRIPTION] フィールドには、多くの場合、「使用中」、「使用される」、または「利用可能」という語が含まれています。たとえば、以下のフィールド定義はゲージです。

```
sysCurrentBuffers
SYNTAX Gauge
ACCESS read-only
STATUS mandatory
DESCRIPTION
「現在使用中のシステムバッファの数」
::= { sysLinkEntry 22 }
```

以下のように修正します。


```
sysCurrentBuffers
SYNTAX INTEGER
ACCESS read-only
STATUS mandatory
DESCRIPTION
「現在使用中のシステムバッファの数」
::= { sysLinkEntry 22 }
```



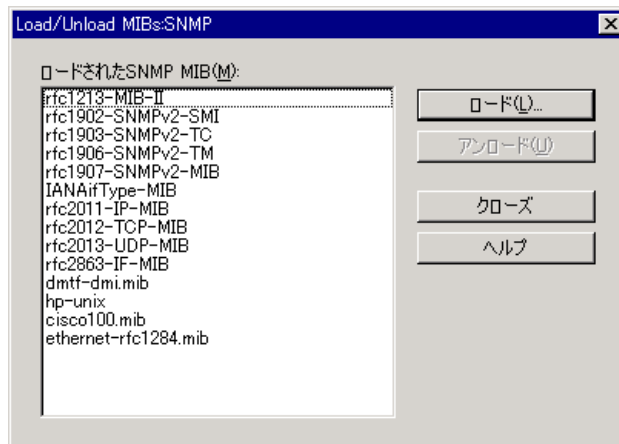
該当するフィールド型のデータベース収集テーブルを作成するには、MIB をロードする前に MIB ファイル内のデータ型を修正します。変更したオブジェクトが SEQUENCE OF リストにある場合、そのシーケンスリスト内の型も変更します。

MIB のロード

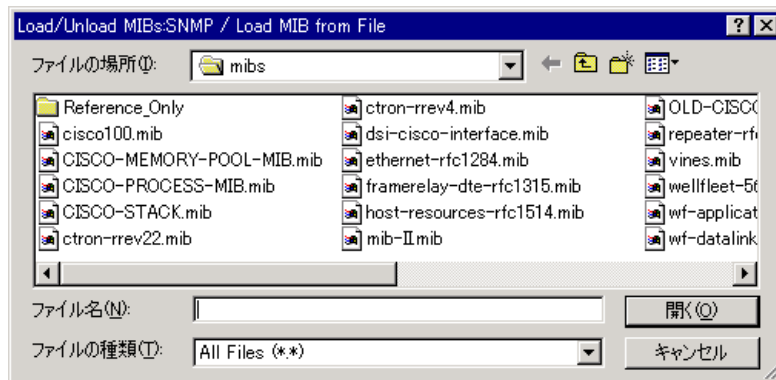
異なる MIB 定義ファイルをロードするには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - [ファイル]メニューの[開く]を選択します。
 -  をクリックします。

[Load/Unload MIBs:SNMP] ダイアログボックスが開きます。現在ロードされている MIB が表示されます。



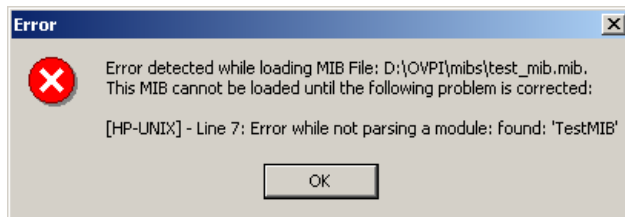
- 2 [ロード] をクリックして、デフォルトの mibs ディレクトリを表示します。
[ロード/アンロード MIB:SNMP/ファイルから MIB をロード] ダイアログボックスが開きます。mibs ディレクトリが表示されます。



この時点で、MIB が異なるディレクトリにある場合、MIB が格納されているディレクトリを選択します。


- 3 MIB を選択し [開く] をクリックします。

MIB がロードされ、[Load/Unload MIBs:SNMP] ウィンドウに表示されま
す。MIB がロードされない場合、以下のようなエラーメッセージが表示され
ます。



この場合のエラーは構文エラーであり、メッセージはエラーの場所を示して
います。エラーを解決できない場合、ベンダーに連絡して問題を解決してく
ださい。


MIB ツリーの最上位が別のファイルにある場合は、MIB ツリーの最上位を
含んでいるファイルを最初に選択し、次に MIB ツリーの最上位が欠落して
いるファイルをロードします。そうしなければエラーが発生します。詳細
は、470 ページの「MIB ツリーの最上位を含める」を参照してください。

- 4 この時点で、別の MIB をロードできます。それをするには、希望の MIB が
すべてロードされるまで、上記の **手順 2** と **手順 3** を繰り返します。
- 5 [閉じる] をクリックします。
- 6 以下のいずれかを実行します。
 -  をクリックします。
 - [表示] メニューの [更新] を選択します。
- 7 新しくロードした MIB の要素に関する情報を表示したい場合、左ペインの
ツリーからその MIB を見つけます。

ロードした MIB は、OVPI で使用できます。MIB をアンロードする場合は、ア
ンロード手順に従って取り除きます。

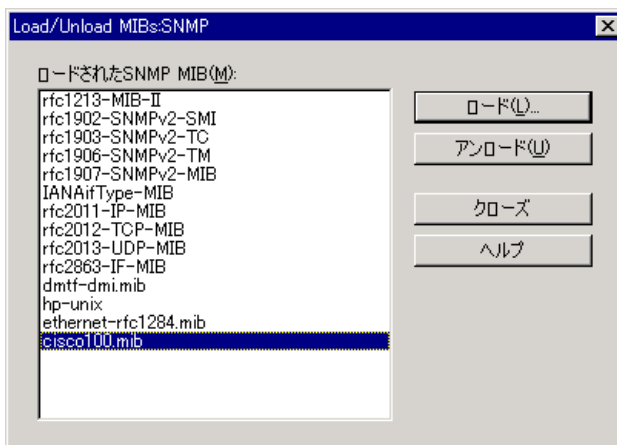
MIB のアンロード

MIB 定義ファイルをアンロードするには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - [ファイル]メニューの[開く]を選択します。
 -  をクリックします。

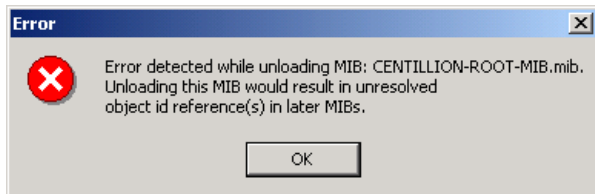
[Load/Unload MIBs:SNMP] ダイアログボックスが開きます。現在ロードされている MIB が表示されます。

- 2 [ロードされた SNMP MIB] ボックスから、アンロードする MIB ファイル (1 つまたは複数) を選択します。



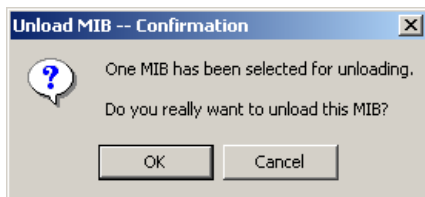
複数の MIB をリストから選択できます。これをするには、最初の MIB をクリックした後、[Shift] キーを使用して連続する MIB を範囲選択するか、または [Ctrl] キーを使用して MIB を個別に選択します。

MIB ツリーの最上位を含む MIB ファイルを選択したが、そのファイルを、別の MIB ファイルが使用しているという場合は、以下のような、解決できなかったオブジェクト ID のエラーメッセージが表示されます。



この場合、アンロードするそれらの MIB ファイルを同時に選択するか、または従属する MIB ファイルを最初にアンロードします。

- 3 [アンロード] をクリックします。以下のような確認メッセージが開きます。



複数の MIB が選択されている場合、選択されている MIB の数がメッセージに表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。その MIB がリストから削除されます。アンロードした MIB は、MIB ブラウザを停止させ、再起動した後にマップから削除されます。
- 5 [閉じる] をクリックします。

SNMP データのクエリ

[アクション] メニューから、[SNMP Get] または [SNMP Set] のいずれかのオプションを選択することで、現在のノードにロードされている MIB のデータを取得および表示できます。このデータにアクセスするには、ノードとコミュニティ文字列を設定する必要があります。

ノードの設定

現在のノードは、表示ペインの [ホスト] ボックスに表示され、SNMP 関数のターゲットになります。ターゲットノードの名前または IP アドレスを [ホスト] ボックスに入力します。デフォルトは **localhost** ですが、変更する場合は、現在の名前を削除し、新しい名前を入力します。

コミュニティ文字列の設定

MIB ブラウザは、ノード用に定義したコミュニティ文字列を使用してそのデータにアクセスします。OVPI が現在のノードを認識していれば、MIB ブラウザはそのノードのコミュニティ文字列を使用します。新しいノードはデフォルトを使用します。デフォルトのコミュニティ文字列の、読み取りは **public**、書き込みは **private** です。


値を変更したい場合は、現在の値を削除し新しい値を入力します。実行したい操作に、適切なコミュニティ文字列を設定してください。たとえば、選択したオブジェクトについて読み取り操作を実行したい場合、[コミュニティ] ボックスの値が **public** (これが適切な値であると仮定) であることを確認します。そうしなければ、以下のようなエラーメッセージが表示されます。



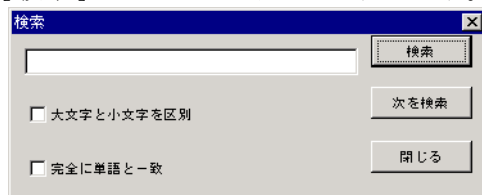
MIB マップでのグループまたはオブジェクトの検索

グループまたはオブジェクトの名前 (全部または一部) がわかっている場合、そのグループまたはオブジェクトを MIB マップ内で検索することができます。

MIB マップ内でグループまたはオブジェクトの名前を検索するには、以下の手順に従います。

- 1 以下のいずれかを実行します。
 - [アクション]メニューから[検索]を選択します。
 -  をクリックします。

[検索]ダイアログボックスが開きます。



- 2 検索したい項目の名前を必要な数だけ [検索] ボックスに入力します。

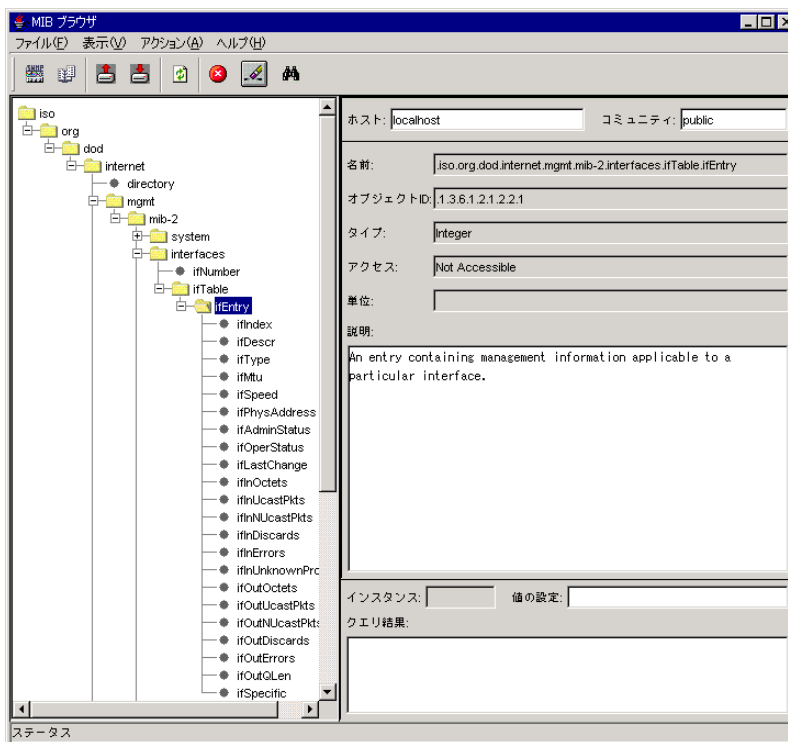
デフォルトの検索では、大文字/小文字は区別されません。SNMP のグループまたはオブジェクトの名前には大文字が埋め込まれていることが多いからです。
- 3 必要であれば、以下を実行します。
 - 大文字と小文字を区別したい場合は、[大文字と小文字を区別]を選択します。
 - ボックスに入力したものと完全に一致する名前だけを検索したい場合は、[完全に単語と一致]をオンにします。デフォルトの検索では、入力した名前は MIB の名前の一部と比較されます。
- 4 [検索] をクリックします。
- 5 入力した項目の別のインスタンスを見つける場合は、[次を検索] をクリックします。
- 6 検索が完了したら、[閉じる] をクリックします。

データの表示

ノード上にあるデータを確認または検証したい場合は、[SNMP Get] オプションを使用してノード上の現在のデータを表示できます。[SNMP Get] オプションによって、スカラー形式または列形式の変数にデータが提供されます。[ホスト] フィールドで指定したノード上にある現在のデータを表示するには、以下の手順に従います。


- 1 MIB マップ内のグループまたはオブジェクトをクリックして選択します。

以下の図は、選択した [ifEntry] グループフォルダーとともにロードされる mib-II.mib ファイルを示しています。

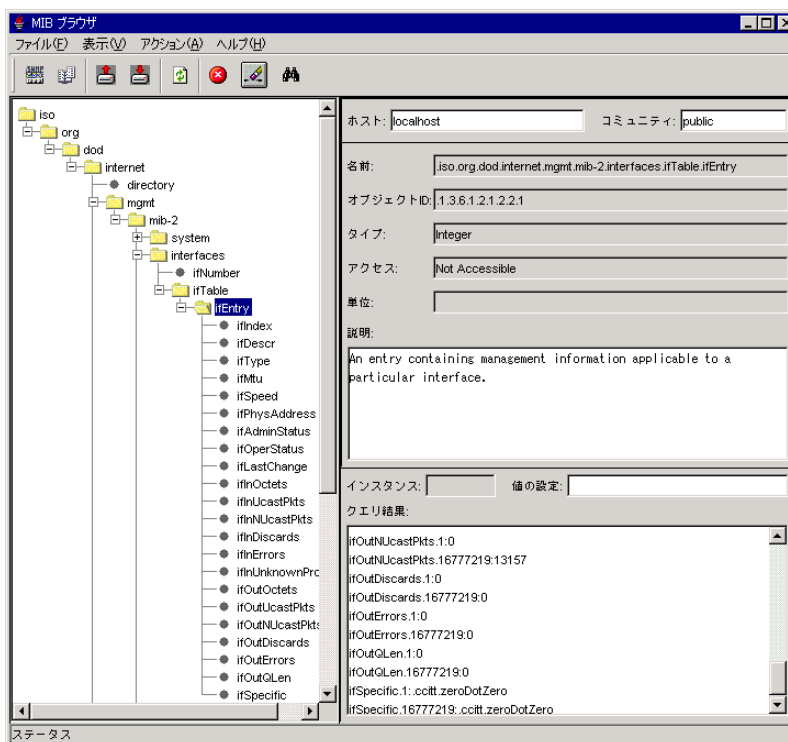


- 2 選択したグループまたはオブジェクトの MIB ツリーの、**GetNextRequest** ツリーウォークを開始するには、以下のいずれかを実行します。

— [アクション] メニューから [SNMP Get] を選択します。

—  をクリックします。

MIB ブラウザの右下隅にある [クエリ結果] フィールドに値が表示されます。以下の例は、*[ifEntry]* グループに対する **GetNextRequest** で受信したエンタリーのリストの一部を示しています。



The screenshot shows the MIB Browser interface. On the left, a tree view displays the hierarchy: iso > org > dod > internet > mgmt > mib-2 > system > interfaces > ifTable > ifEntry. The right pane shows details for the selected object: Host: localhost, Community: public, Name: iso.org.dod.internet.mgmt.mib-2.interfaces.ifTable.ifEntry, Object ID: 1.3.6.1.2.1.2.2.1, Type: Integer, Access: Not Accessible. The 'Query Results' section lists various instance values such as ifOutNUcastPkts.1:0, ifOutNUcastPkts.16777219:13157, etc.



特定のオブジェクトを選択した場合、そのオブジェクトだけがポーリングされますが、そのオブジェクトを含んでいるテーブル内のすべてのオブジェクトのインスタンスと値を取得できます。

グループ (フォルダー) を選択した場合、MIB ブラウザは、そのグループのすべてのオブジェクトをポーリングします。これには、選択したグループの下にあるすべてのグループの内容が含まれています。データは、オブジェクト別に [クエリ結果] フィールドに表示されます。つまり、最初のオブジェクトの値がすべて表示され、その後次に次のオブジェクトの値が表示され、以下同様に他のオブジェクトの値も表示されます。

- 3 ポーリングが終了するまで待てない場合は、[停止] ボタンをクリックするか、[アクション] メニューから [停止] を選択することで、GetNextRequest を停止することができます。ポーリングが停止され、すでに受信した値が [クエリ結果] フィールドに表示されます。

SNMP 値の設定

MIB ブラウザの [値の設定] フィールドを使用して、書き込み可能な MIB オブジェクトの値を設定できます。現在のノードが、SNMP 関数のターゲットです。値を設定するには、以下の手順に従います。

- 1 MIB マップで設定したいオブジェクト名を選択します。
 - 2 以下のいずれかを実行することで、SNMP Get 関数を実行します。
 - [アクション] メニューから [SNMP Get] を選択します。
 -  をクリックします。
- 結果は、[クエリ結果] フィールドに表示されます。
- 3 変更したいインスタンスまたは変数を [クエリ結果] フィールドから選択します。インスタンスまたは変数の名前は [インスタンス] フィールドに表示され、値は [値の設定] フィールドに表示されます。
 - 4 オブジェクトの新しい値を [値の設定] フィールドに入力します。
 - 5  をクリックします。

設定が成功すると、変更した値は [クエリ結果] フィールドに表示されます。

収集テーブルの作成

OVPI MIB ブラウザにより、1 つまたは複数のグループから、指定した MIB 管理対象オブジェクトのセットを選択できます。そうすることで、選択されたオブジェクト群を単一のテーブルで同時にポーリングできます。これを **収集テーブル**と呼びます。

収集テーブルの機能

収集テーブルには以下の機能があります。

- 収集テーブルは、データ収集のために選択した MIB グループまたはオブジェクト（またはその両者）の複合セットです。
- カスタム設計レポートのためのデータソースになります。
- 収集テーブルを使用して、レポートに実際に必要なデータに収集を絞ることができるので、ポーリング効率の向上、データ収集の速度アップ、および使用するデータベース領域の節減を実現できます。
- MIB 内のいろいろなグループからのオブジェクトを含んだ単一のレポートを生成できます。
- 1 対 (ペア) の 32 ビットカウンタを 64 ビットフィールドにオーバーレイできます。483 ページの「SNMPv1 における 64 ビット値」を参照してください。

収集テーブルを作成するには、[**収集**] オプションを使用して収集するオプションを選択します。OVPI の MIB ブラウザから収集テーブルを作成すると、そのテーブルに対応する **TEEL** ファイルが作成されます。



OVPI が提供する既存のソリューションのいずれかを実行する場合、収集テーブルを作成する必要はありません。ソリューションには、必要なあらゆる収集テーブルが含まれています。

SNMPv1 における 64 ビット値

SNMPv2 は、64 ビットカウンタを導入しています。一方、SNMPv1 エージェントは、32 ビットカウンタしかサポートしていません。SNMPv1 エージェントが、64 ビットカウンタに格納された、より高精度の値を返すための、一般的な方法の 1 つは、1 対 (ペア) の 32 ビットカウンタを 64 ビットフィールドにオーバーレイし、2 つに分けて値全体を提供することです。

以下の例では、sitCounter と呼ばれる 64 ビットカウンタが、sitCtrSplit1High という上位の 32 ビットフィールドと、sitCtrSplit1Low という下位の 32 ビットフィールドに分割されています。これら 2 つの 32 ビットフィールドを再び組み合わせることで、OVPI は 64 ビット値をフルに格納し処理できるようになります。

```

sitCtrSplit1High OBJECT-TYPE
    SYNTAX          Counter32
    MAX-ACCESS      read-only
    STATUS           current
    DESCRIPTION
        "The high 32-bits of the 64-bit counter, sitCounter."
    ::= { sitEntry 7 }

sitCtrSplit1Low OBJECT-TYPE
    SYNTAX          Counter32
    MAX-ACCESS      read-only
    STATUS           current
    DESCRIPTION
        "The low 32-bits of the 64-bit counter, sitCounter."
    ::= { sitEntry 8 }

sitCounter OBJECT-TYPE
    SYNTAX          Counter64
    MAX-ACCESS      read-only
    STATUS           current
    DESCRIPTION
        "The SectionInTransit units received since the device booted."
    ::= { sitEntry 9 }

```

半分に分けた 2 つのデータを正しい順序で組み合わせることが重要です。*High Part* は、64 ビットカウンタの上位 32 ビットを表します。*Low Part* は、64 ビットカウンタの下位 32 ビットを表します。

64 ビットカウンタ	
上位 32 ビットカウンタ	下位 32 ビットカウンタ

[新規収集]ウィザードの[高低カウンタペアの定義]ウィンドウを使用して、上位と下位のカウンタのペアの組み合わせを定義します。新しい収集の作成についての詳細は、485 ページの「収集テーブルの作成」を参照してください。この手順の 489 ページの手順 7 に、64 ビットカウンタを定義するための、カウンタのペアを選択する方法が説明されています。

収集テーブルの要件

収集テーブルには以下の要件があります。

- 最大幅は 1,962 文字です。これはすべての列の総文字数です。
- 列の個数は最大 250 です。データテーブルのオブジェクトを選択する場合、デフォルトの列が 13 列あるため、13 列以上を設定してください。プロパティテーブルのオブジェクトを選択する場合、デフォルトの列が 7 列あるため、7 以上を設定してください。
- オブジェクトには共通インデックスが必要です。たとえば、あるオブジェクトがインタフェースごとにエラーをカウントしている場合、すべてのオブジェクトがインタフェースごとのデータを提供する必要があります。同じテーブル内の MIB オブジェクトには、定義別に共通インデックスが備わっています。異なるインデックスを備えたオブジェクトを含む収集テーブルは、データベース内では無効なデータとなります。
- 各データテーブルには、対応するプロパティテーブルが必要です。リストから既存のプロパティテーブルを選択するか、新しいプロパティテーブルを作成することができます。新しいプロパティテーブルを作成する場合は、デフォルトのキー変数を使用するか別のキー変数を選択できます。

このセクションには収集テーブルを作成するための基本情報が含まれています。テーブルの作成に関する情報がさらに必要である場合は、**HP OpenView** 営業担当者に連絡して『*Performance Insight TEEL Reference Guide*』（英語）を入手してください。このマニュアルには、テーブルの属性と **TEEL** ファイルの作成に関する情報が記載されています。

収集テーブルの作成

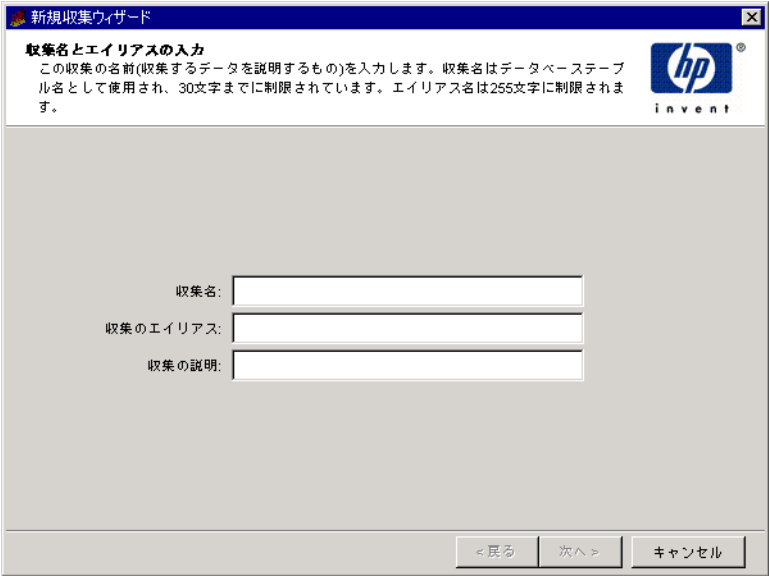
カスタム収集テーブルを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 収集のダイアログを開きます。以下のいずれかを実行します。

-  をクリックします。
- [ファイル]メニューから [新規]⇒[収集]の順に選択します。

(ここで、ログインダイアログが表示される場合があります。ログイン情報を入力して続行してください。)

[**収集名とエイリアスの入力**]ダイアログボックスが開きます。



- 2 収集テーブルの、**SQL**名、エイリアス名、および説明を入力します。

- a [**収集名**] フィールドに、テーブルの **SQL** 名を入力します。名前は一意でなければなりません。最大 **30** 文字までです。入力として有効な文字は、大文字/小文字のアルファベット、数字、特殊文字のアンダースコア (_) です。このフィールドは必須です。
 - b [**収集のエイリアス**] フィールドに、テーブルのエイリアス名を入力します。名前は一意でなければなりません。最大 **255** 文字までです。入力として有効な文字は、大文字/小文字のアルファベット、数字、特殊文字のハイフン (-) およびアンダースコア (_) です。このフィールドは必須です。
 - c [**説明**] フィールドに、テーブルの説明を入力します。最大 **255** 文字までですが、空欄にしておくことも可能です。このフィールドは必須ではありません。
- 3 [**次へ**] をクリックします。[**カテゴリの定義**] ダイアログボックスが開きます。

新規収集ウィザード

カテゴリの定義
テーブルのカテゴリ、時間タイプ、データパイプ、テーブルタイプ、および保持期間を、下の各フィールドから選択します。新規カテゴリまたはデータパイプのエントリを作成する場合は、そのデータだけを適切なフィールドに入力します。

収集テーブルのカテゴリ: default

データパイプ: dpipe_rmon

時間タイプ: 5-minute

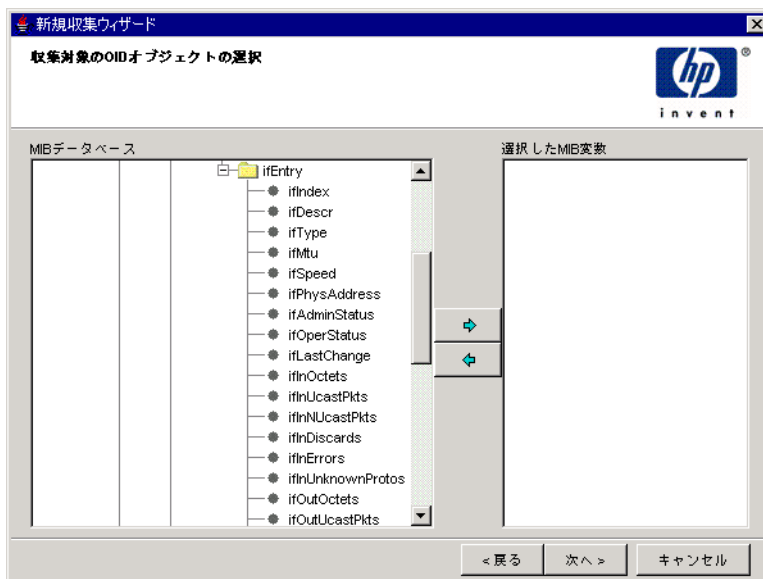
テーブルタイプ: レート

テーブルの保持(日数): デフォルト

< 戻る 次へ > キャンセル

- 4 テーブルカテゴリ、データパイプ、時間タイプ、およびテーブル保持の各テーブル属性を選択します。

- a [**収集テーブルのカテゴリ**] フィールドで、プルダウンリストから既存のカテゴリを選択するか、新しいカテゴリ名を入力します。カテゴリ名は、テーブルのセットをまとめてグループ化します。どの名前を選択すべきかわからない場合は、[**デフォルト**] を選択します。名前は最大 **30** 文字までです。
 - b [**データパイプ**] フィールドで、プルダウンリストから既存のデータパイプ名を選択します。これで、テーブルの収集可能なプロパティを指定します。現在のところ、この名前には `dpipesnmp` だけを使用できます。
 - c [**時間タイプ**] フィールドで、プルダウンリストから、テーブル内のデータの既存の時間特性を選択します。デフォルトは **5 分** です。
 - d [**テーブルタイプ**] ボックスで、テーブルのタイプを選択します。利用可能なテーブルのタイプのオプションについては、[307 ページの手順 4](#) を参照してください。
 - e [**テーブルの保持 (日数)**] フィールドで、テーブル内にデータを保持する日数を、プルダウンリストから選択するか、または入力します。テーブルからデータを削除する期限を設けたくない場合、プルダウンリストから [**デフォルト**] を選択します。
- 5 [**次へ**] をクリックします。[**収集用 OID オブジェクトの選択**] ダイアログボックスが開きます。




6 MIB オブジェクトを選択します。

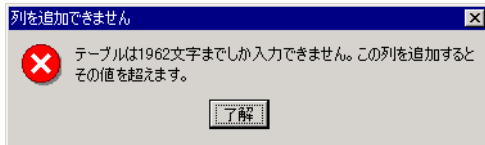
以前に MIB ブラウザからオブジェクトを選択してある場合、それらのオブジェクトは両方のペインに表示されます。強調表示されたオブジェクトは、左ペインのツリーの **[MIB データベース]** フィールドに表示されます。また選択したオブジェクトの名前は右ペインの **[選択した MIB 変数]** フィールドに表示されます。

以前にオブジェクトを選択していない場合、またはオブジェクトを追加したい場合は、この時点で **[MIB データベース]** フィールドのツリーから、1つまたは複数のオブジェクトを選択できます。複数のオブジェクトを選択できます。連続するオブジェクトを範囲選択するには、**[Shift]** キーを押したまま左マウスボタンをクリックします。個別に選択するには、**[Ctrl]** キーを押したまま左マウスボタンをクリックします。各オブジェクトはテーブル内の列になります。

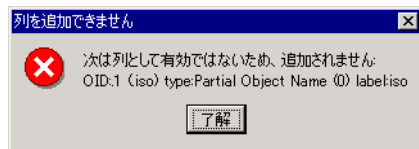
可能な列は全体で **250** であること、またデフォルトの列は **13** であることを覚えておってください。したがって、最大 **237** の列を追加できます。それを超えると、エラーメッセージが表示されます。

オブジェクトを選択した後、右矢印  をクリックして、選択したオブジェクトを **[選択した MIB 変数]** フィールドに追加します。

全体文字数の制限 (**1,962** 文字) を超えるオブジェクトを選択した場合、制限を超えるこのオブジェクトは **[選択した MIB 変数]** フィールドには追加されず、以下のメッセージが表示されます。



列として有効でないオブジェクト (フォルダーなど) を選択した場合、**[列を追加できません]** というタイトルのエラーメッセージが表示され、そのオブジェクトが一覧表示されます。これらのオブジェクトは **[選択した MIB 変数]** リストには表示されません。



選択したオブジェクトが不要な場合、[**選択した MIB 変数**] フィールドでそのオブジェクトを強調表示し、次に左矢印ボタンをクリックして、選択したオブジェクトをリストから取り除きます。

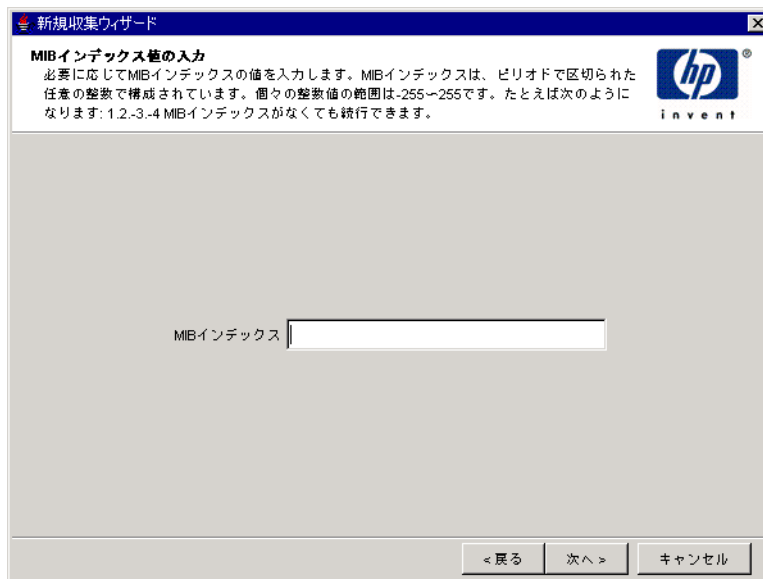
- 7 [**次へ**] をクリックします。[**高低カウンタペアの定義**] ウィンドウが開きます。ここに各列の選択されたカウンタがすべて表示されます。



ここで、2つの 32 ビットカウンタと 64 ビットカウンタとを AND 演算することで、疑似 64 ビットカウンタを作成できます。この手順は省略可能です。

- a 64 ビットカウンタを定義するには、各列からカウンタを選択し、[**ペアの追加**] ボタンをクリックします。
- 必要に応じて引き続きこの方法でペアを追加し、新しい収集テーブルに必要なカウンタをすべて定義します。
- b 誤ってカウンタのペアを追加した場合は、一番下のフィールドでこのペアを強調表示し、[**ペアの削除**] をクリックしてリストからこれを取り除きます。

- 8 [次へ] をクリックします。[MIB インデックス値の入力] ウィンドウが開きます。



▶ MIB インデックスはテーブル化されたエントリーにのみ適用されます。テーブル化されていないエントリーはゼロのインデックスを持つこととなります。

- 9 MIB インデックスフォーマットを入力します。ユーザー自身の MIB を参照してフォーマットを決めてください。

たとえば、MIB インデックスフォーマット **1.1** は、**2**つのインデックスがあってそれぞれの長さが整数であることを示しています。

MIB インデックスフォーマットの入力は省略可能ですが、以下の項目を検討してから、入力するかどうかを決めてください。

MIB インデックスを入力しない場合、以下のようになります。

- 解析されていないインデックスが `dsi_table_key` に挿入されます。
- 複数のインデックスがある場合、連結されて小数で区切られます(たとえば、**1.2**)。

MIB インデックスを入力すると、以下のようになります。

- **mw_collect** が、インデックスに関連付けられた各コンポーネントを、ユーザーが作成したプロパティテーブルの列に挿入します。
- **mw_collect** は、コンポーネントを挿入した後、各コンポーネントを取り上げて、アンダースコアで区切ってこれをテーブルキーに挿入します (たとえば、**1_2**)。

例 : MIB インデックスフォーマットの決定

以下の例は、**rfc2115-FRAME-RELAY-DTE** MIB の **frCircuitTable** グループにある **frCircuitEntry** オブジェクトの MIB インデックスフォーマットを決定するための方法を示しています。

- MIB ファイルを開きます。エントリーを見つけて、そのインデックスが **frCircuitIfIndex**、**frCircuitDlci** であることを確認します。これを以下の図に示します。

```

rfc2115-FRAME-RELAY-DTE-MIB - ワードパッド
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ヘルプ(H)
[Icons]
frCircuitEntry OBJECT-TYPE
    SYNTAX      FrCircuitEntry
    MAX-ACCESS  not-accessible
    STATUS      current
    DESCRIPTION
        "The information regarding a single Data Link
        Connection. Discontinuities in the counters contained
        in this table are indicated by the value in
        frCircuitCreationTime."
    INDEX { frCircuitIfIndex, frCircuitDlci }
    ::= { frCircuitTable 1 }

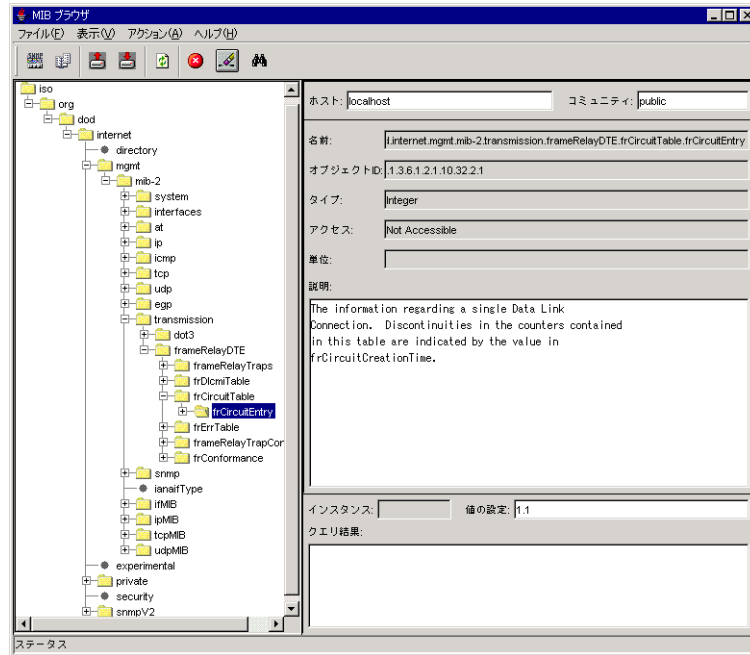
FrCircuitEntry ::=
    SEQUENCE {
        frCircuitIfIndex      InterfaceIndex,
        frCircuitDlci         DLCI,
        frCircuitState        INTEGER,
        frCircuitReceivedFECNs Counter32,
        frCircuitReceivedBECNs Counter32,
        frCircuitSentFrames    Counter32,
        frCircuitSentOctets    Counter32,
        frCircuitReceivedFrames Counter32,
        frCircuitReceivedOctets Counter32,
        frCircuitCreationTime  TimeStamp,
        frCircuitLastTimeChange TimeStamp
    }
ヘルプを表示するには、F1 キーを押してください。
NUM

```

インデックスは、1つの整数値 (**frCircuitIfIndex**) と、それに続くもう1つの整数値 (**frCircuitDlci**) で構成されています。

MIB ブラウザで表示すると、インデックスは整数値を使用してフォーマットされ、ピリオドで区切られ、次に2番目の整数値が続いていることがわかります (たとえば、**n.n**)。

- b MIB ブラウザを使用して MIB を開き、frCircuitTable グループの frCircuitEntry オブジェクトに移動します。これを以下の図に示します。




オブジェクトを選択し **SNMP Get** 要求を実行すると、そのオブジェクトがポーリングされます。[クエリ結果]に、テーブル内の関連するすべてのオブジェクトのインスタンスと値が表示されます。たとえば、frCircuitIfIndex インスタンスの場合、**MIB インデックスフォーマットは 1.1**です。これは、3 と 20 がそれぞれ単一の整数値だからです。frCircuitEntry オブジェクトの場合、**490 ページの手順 9** の **MIB インデックス** のボックスに **1.1** を入力できます。

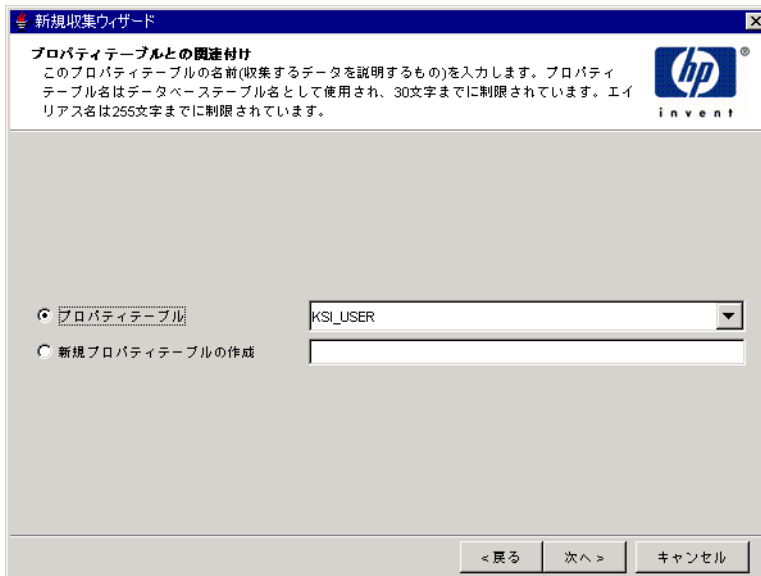
490 ページの手順 9 で **MIB インデックスフォーマット** を入力した場合、以下を実行する必要があります。

- 新しいプロパティテーブル列を作成します。テーブルにはインデックスコンポーネントと同じ名前を付けることをお勧めします (**手順 10**)。
- 正しいデータ型、および長さ (該当する場合) を設定します (**手順 11**)。

- 新しい各列をオブジェクト別変数および収集別変数として指定します(手順 11)。
- 列を指定した後、`dsi_table_key` のオブジェクト別と収集別のオプションをクリアします(手順 11)。

 上記の手順を実行しなければ、収集定義は機能しません。

- 10 [次へ] をクリックします。[プロパティテーブルとの関連付け] ダイアログボックスが開きます。



The screenshot shows a dialog box titled '新規収集ウィザード' (New Collection Wizard) with a sub-title 'プロパティテーブルとの関連付け' (Associate with Property Table). The main text explains that the user should enter a name for the property table (which will be used as the database table name, limited to 30 characters) and a table name (limited to 255 characters). The HP logo is visible in the top right. There are two radio buttons: 'プロパティテーブル' (selected) and '新規プロパティテーブルの作成' (Create new property table). A dropdown menu shows 'KSI_USER' and an empty text field is below it. At the bottom, there are buttons for '< 戻る' (Back), '次へ >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

- 11 プルダウンリストから既存のプロパティテーブルを選択するか、新しいプロパティテーブルを作成します。

[新規プロパティテーブルの作成] オプションを選択した場合、新しいプロパティテーブルの SQL 名を入力します。名前は一意でなければなりません。最大 30 文字までです。使用できるのは、アルファベット、数字、アンダースコア () です。


- a [次へ] をクリックします。[プロパティ属性の定義] ダイアログボックスが開きます。



- b デフォルト列だけのプロパティテーブルを作成することも、さらに列を追加することもできます。いずれの場合も、列の属性を変更できます。属性を変更した場合、[次へ] ボタンをクリックする前に、変更したフィールドの外をクリックして、変更を適用してください。

プロパティテーブル内のデフォルト列だけを使用する場合は、現在の設定を用いてそのデフォルト列を使用でき、また必要に応じて属性の一部を変更できます。各フィールドを変更するには、以下の手順に従います。

プロパティテーブルに新たな列を追加したい場合は、以下の手順に従います。

- [新規] ボタン  をクリックします。既存のリストの末尾に列のラインが現れます。[列] フィールドと [エイリアス] フィールドにデフォルト名が表示されます。column_n という名前です。ここで、n は数値であり、新しい列を追加するたびに増えていきます。
- 列の SQL 名を指定するには、[列] フィールドの既存の名前を強調表示し、新しい名前を入力します。この名前は最大 30 文字までであり、アルファベット、数字、アンダースコアを含めることができます。
- 列のエイリアス名を指定するには、[エイリアス] フィールドの既存の名前を強調表示し、新しい名前を入力します。この名前は最大 255 文字までであり、アルファベット、数字、アンダースコア、ハイフンを含めることができます。

- **[データタイプ]** フィールドのプルダウンリストから列のデータ型を選択します。
 利用可能なデータ型のオプションとそれに対応するデータベースのストレージタイプについては、[308 ページの手順 4](#) を参照してください。
- 該当する場合は、**[データ長]** フィールドに数値を入力します。このフィールドは、データ型が以下のいずれかである場合にのみ値を受け入れます。char_string、hex_string、numeric、octet_string、snmp_char_string、snmp_hex_string、snmp_octet_string
- 列が、プロパティテーブル内の、要素を定義するプロパティの、一意な組み合わせの一部である、ということを示したい場合は、**[オブジェクト別]** フィールド内のボックスをクリックしてチェックマーク (4) が表示されるようにします。この場合、**[ヌル可能]** フィールドと **[デフォルト値]** フィールドは空欄になります。この列をオブジェクト別変数にしたい場合、チェックマークが消去されるようボックスをクリックします。オブジェクト別変数として `[dsi_target_name]` 以外の列を指定した場合は、オブジェクト別変数として `dsi_table_key` は指定できません。ただし、オブジェクト別変数の最初のものとして `dsi_target_name` を指定した場合にのみ、オブジェクト別変数として `dsi_table_key` を指定できます。
- 列が、収集対象要素を定義する列の一意な組み合わせの一部である、ということを示したい場合は、**[収集別]** フィールド内のボックスをクリックしてチェックマーク (4) が表示されるようにします。この場合は、**[ヌル可能]** フィールドと **[デフォルト値]** フィールドは空欄になります。この列を変数別収集にしたい場合、チェックマークが消去されるようボックスをクリックします。変数別収集として `[dsi_target_name]` 以外の列を指定した場合は、変数別収集として `dsi_table_key` を指定できません。ただし、変数別収集の最初のものとして `dsi_target_name` を指定した場合にのみ、変数別収集として `dsi_table_key` を指定できます。
- この列が NULL 値でありうる場合は、**[ヌル可能]** フィールドのボックスにチェックマーク (4) があることを確認してください (これがデフォルトです)。この列に NULL 値を含めたくない場合は、ボック


をクリックして、チェックマークを消去します。[**オブジェクト別**] フィールドまたは [**収集別**] フィールドにチェックマークがある場合、この列は空欄にする必要があります。

- 列にデフォルト値を設定する場合は、[**デフォルト値**] フィールドに値 (最大 **255** 文字まで) を入力します。このフィールドは、この列がオブジェクト別変数または変数別収集である場合には、空欄にする必要があります。
- この列に外部キー参照が含まれている場合は、[**外部キー**] フィールドのプルダウンリストから、キーを持つプロパティテーブルを選択します。この列に外部キー参照を含めたくない場合は、このフィールドのプルダウンリストから [no fk] 値を選択できます。
- キー変数で列を指定する場合、キー変数の順序で列を配置する必要があります。たとえば、リスト内の最初の列は **1** 番目のキー変数に対応させ、**2** 番目の列は **2** 番目のキー変数に対応させ、以下同様に列をキー変数に対応させます。

プロパティテーブル内での列の順序を変更したい場合は、変更したい列を選択して以下を実行します。

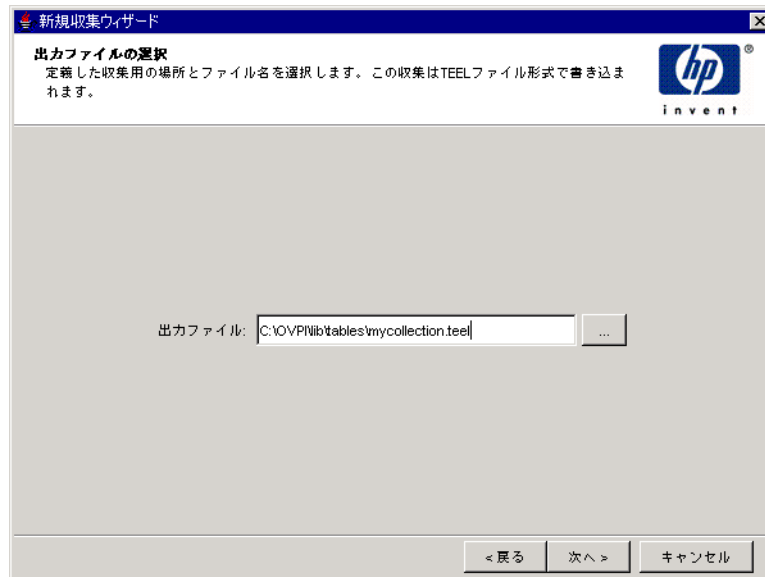
列を上へ移動するには、[**上へ移動**] ボタン  をクリックします。

列を下へ移動するには、[**下へ移動**] ボタン  をクリックします。

プロパティテーブルから列を削除するには、[**削除**] ボタン  をクリックします。


オブジェクト別変数と変数別収集が同じである場合は、プロパティテーブルには **6** つのデフォルト列しかありません。

- 12 [次へ] をクリックします。[出力ファイルの選択] ダイアログボックスが開きます。

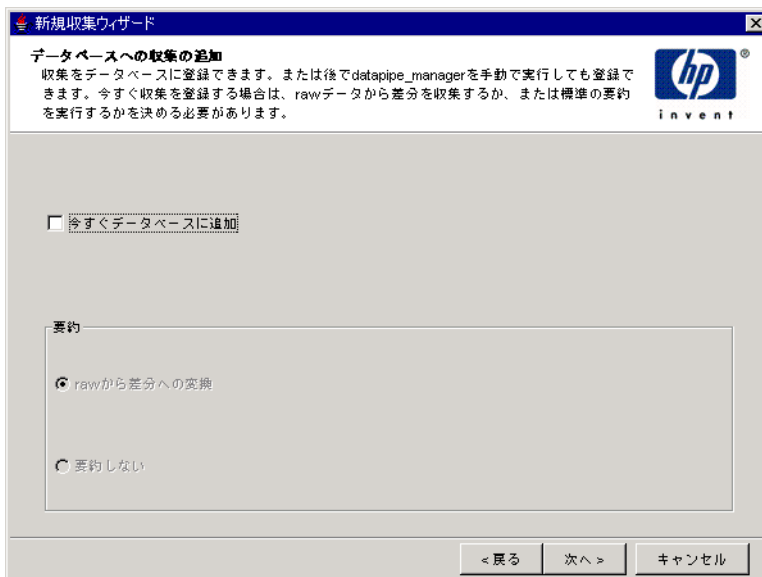


- 13 出力ファイルの名前と場所が正しいことを確認します。

ファイルの名前または場所を変更する必要がある場合は、[出力ファイル] フィールドに新しい名前を入力するか、または以下を実行します。

- a  をクリックします。[開く] ダイアログボックスが開きます。
- b [参照] プルダウンリストからディレクトリを選択します。
- c 該当するディレクトリの場所を指定します。
- d [ファイル名] フィールドに名前を入力します。
- e [開く] をクリックします。[出力ファイルの選択] ダイアログボックスの [出力ファイル] フィールドに新しい名前と場所が表示されます。

- 14 [次へ] をクリックします。[データベースへの収集の追加] ウィンドウが開きます。



- 15 ここでテーブルを生成しそれをデータベースに追加したい場合は、[今すぐデータベースに追加] オプションが選択されていることを確認します。

このオプションの選択を解除する場合は、コマンド行から以下のコマンドを入力する必要があります。

```
datapipe_manager -p create -a teal_file
```

この例で、*teal_file* は、497 ページの手順 13 の出力ファイルの名前です。

このコマンドのオプションの詳細については、『Performance Insight TEEL Reference Guide』（英語）を参照してください。

- 16 テーブル内のデータに対してシステムが実施する要約処理のタイプを、以下のオプションから 1 つ選択します。

一 [raw から差分への変換]

raw から差分への変換処理に必要なデータベースオブジェクトが生成されます。手動で生成する場合は、手順 15 のコマンドに **-r r2d** を付けます。

一 [要約なし]

他のデータベースオブジェクトは生成されません。

- 17 [次へ] をクリックします。[概要] ダイアログボックスが開きます。



- 18 以下を実行します。

- a 要約を確認します。
- b 必要であれば、[戻る] をクリックして前のページに戻り、変更します。
- c [完了] をクリックします。TEEL ファイルは指定した場所に存在します。

ログファイルの解釈

HP OpenView Performance Insight(OVPI) のログファイルは、システムの動作に関するメッセージを常に記録しています。メッセージは、プロセスの開始時と完了時にログに記録されます。メッセージはエラー状態が生じたときにも記録されます。

この章では、ログファイルを示し、それらログファイルに記録されるメッセージの基本フォーマットについて説明します。

OVPI ログファイル

OVPI は以下のログファイルを生成します。

- `audit.log`。このログファイル内の各メッセージは、入力されたコマンドとその開始時刻および終了時刻を示します。
- `builder.log`。レポートビルダの動作に関するメッセージが記録されます。
- `console.log`。管理コンソールの動作に関するメッセージが記録されます。
- `dbmaint.log`。`dbmaint` ユーティリティによって生成されたメッセージが記録されます。このユーティリティは新しいデータベース構造を内部テーブルに反映させます。

- `install.log`。OVPI のインストールまたはアップグレードに関するメッセージが記録されます。
- `metrics.log`。このログ内の各メッセージは、入力されたコマンドとその結果を一覧表示します。
- `ovpi_uninstall.log`。OVPI のアンインストールに関するメッセージが記録されます。
- `report_YMMDDhhmmss.log`。[パッケージマネージャ] を使用したレポートパックのインストールに関するメッセージが記録されます。ファイル名は、そのインストールを実施した年、月、日、時刻を示します。たとえば、`report_20030110131106.log` となります。
- `trend.log`。OVPI のバックエンドプロセス (たとえば `trendtimer`) のすべてについてのメッセージが記録されます。各メッセージは、ログ記録されたプロセスの開始時刻と終了時刻を示します。
- `viewer.log`。レポートビューアの動作に関するメッセージが記録されます。
- `website.log`。Web アクセスサーバーの動作に関するメッセージが記録されます。`website.log` ファイルの表示の詳細については、[414 ページの「ログファイルの表示」](#) を参照してください。

OVPI のログファイルは、1 つを除いてすべて OVPI インストールディレクトリの `log` フォルダーにあります (たとえば、Windows システムの `C:OVPI¥log`)。 `ovpi_uninstall.log` ファイルは、オペレーティングシステムに応じて、以下の場所にあります。

- UNIX の場合
`/var/tmp/ovpi_uninstall.log`
- Windows の場合
`%TEMP%¥ovpi_uninstall.log`



`audit.log` ファイルと `metrics.log` ファイルを除いて、すべてのログファイルはメッセージフォーマットが同じです。`audit` と `metric` のログファイルの詳細は、それぞれ [507 ページの「audit.log ファイル」](#) および [510 ページの「metrics.log ファイル」](#) を参照してください。

ログファイルの表示

ログファイルを表示するには、以下の手順に従います。

- 1 **Windows** エクスプローラ (**Windows** の場合) またはファイルマネージャ (**UNIX** の場合) を使用して、**OVPI** インストールディレクトリの `log` フォルダに移動します。
- 2 表示したいログファイルを開くには、それをダブルクリックします。

この方法でログファイルを開くには、適切なプログラム (たとえば、**Windows** システムでは **WordPad**) を `.log` ファイルの種類に関連付けておく必要があります。

▶ **Windows** では、一部のログファイルを開くことはできません。このログファイルをあるアプリケーションが排他的に使用し続けているからです。それらのログファイルを開くには、そのログファイルのコピーを作成してそのコピーを開きます。

ログファイルのメッセージフォーマット

以下のログファイルはこの項で説明するメッセージフォーマットを使用しています。 `builder.log`、`console.log`、`install.log`、`ovpi_uninstall.log`、`report_YYMMDDhhmmss.log`、`trend.log`、`viewer.log`、`website.log` です。

`audit` と `metric` の各ログファイルのメッセージフォーマットの詳細については、それぞれ [507 ページの「audit.log ファイル」](#) および [510 ページの「metrics.log ファイル」](#) を参照してください。

ログファイル内のすべてのエントリは以下のように、**CSV**(カンマ区切りの値) フォーマットです。

timestamp、*time_zone*、*GMT_offset*、*appl_name*、*module_name*、*severity*、*process_ID*、*parent_proc_ID*、*message_ID*、*message*

各メッセージはカンマで区切られたフィールドを含んでいます。フィールドが欠落している場合は、カンマを代わりに置きます。

timestamp

timestamp フィールドは、ログエントリーが発生したときの時刻を表します。以下のフォーマットによる 24 時間表示です。

YYYY-MM-DD hh:mm:ss:nnn

このフォーマットは、以下を表しています。

- *YYYY* は、4 桁の年です。
- *MM* は、2 桁の月です。
- *DD* は、2 桁の日です。
- *hh* は、2 桁の時間です。
- *mm* は、2 桁の分です。
- *ss* は、2 桁の秒です。
- *nnn* は、3 桁のミリ秒です。この値は、未知の場合は、000 です。

たとえば、以下のタイムスタンプは、2001 年 4 月 19 日午後 4 時 47 分 12 秒 123 ミリ秒です。

2001-04-19 16:47:12:123

time_zone

time_zone フィールドは、ログエントリーが発生したときのタイムゾーンです。

たとえば、米国の **Torrance** にて冬季にエラーが発生した場合、タイムゾーンは太平洋標準時 (PST) です。米国の **Reston** にて夏期にエラーが発生した場合、タイムゾーンは東部夏時間 (EDT) です。

GMT_offset

GMT_offset フィールドは、タイムスタンプのタイムゾーンの、グリニッジ標準時 (GMT) からのオフセットです。このフォーマットは以下のとおりです。

{₊} *hh:mm*

このフォーマットは、以下を表しています。

- *hh* は、2 桁の時間です。
- *mm* は、2 桁の分です。

たとえば、**-05:00** は、グリニッジ標準時よりも 5 時間前であり、米国の、東部夏時間 (EST) または中部夏時間 (CDT) です。

appl_name

appl_name フィールドは、ログエントリーの起因となった OVPI 内のアプリケーションの一意な名前です。

module_name

module_name フィールドは、プログラマが入力した、内容を表した名前です。

severity

severity フィールドは、そのログエントリーの重要度レベルです。重要度レベルは、以下のとおりです。

- **INFO**。このメッセージはアプリケーションに関する情報通知です。特に処置は必要ありません。
- **WARNING**。このメッセージは、より深刻な状況になりうるため回避処置が必要である可能性がある情報です。
- **ERROR**。このメッセージは、アプリケーションの実行時に発生した問題に関する情報です。この場合、問題を解決する処置が必要です。
- **FATAL**。このメッセージは、アプリケーションが失敗して処理が停止した問題についての情報です。この場合、問題を解決する処置が必要です。

メッセージに重要度レベルが指定されていない場合は、以下の値が重要度レベルとして使われます。

- **DEF_ERROR**。このメッセージは、アプリケーションの実行時に発生した問題についての情報です。この場合、問題を解決する処置が必要と思われる。

process_ID

process_ID フィールドは、ログエントリーの起因となったプロセスのプロセス識別番号 (Pid) です。システムは、各プロセスが開始したときにそのプロセスに Pid を割り当てます。

parent_proc_ID

parent_proc_ID フィールドは、ログエントリーの起因となったプロセスの親プロセスのプロセス識別番号 (Pid) です。

message_ID

message_ID フィールドは、メッセージの一意な識別番号です。メッセージに識別番号が割り当てられていない場合、このフィールドは 0 です。

message

message フィールドは、ログエントリの原因に関する説明です。

ログファイルメッセージの例

この項では、ログファイルでのエラー表示のいくつかの例を示します。

WARNING と INFO メッセージ

以下は、ログファイル内の **WARNING** と **INFO** のメッセージの例です。

```
2001-12-06 01:00:17:000,Pacific Standard Time,-8:00,  
bcp_gateway,,WARNING,701,718,0,"no data collected for table  
RIRRouterSystem, Db POWDER2"
```

```
2001-12-06 01:00:17:000,Pacific Standard Time,-8:00,trendtimer  
,,INFO,187,41,0,"[Pid=544] C:¥OVPI/bin/rmon_collect -n -i 60"
```

```
2001-12-06 01:00:18:000,Pacific Standard Time,-8:00,trendpm,,  
INFO,475,718,0,"No procedures found to execute - trying to  
generate one from command line params"
```

ERROR メッセージ

以下は、ログファイル内の **ERROR** メッセージの例です。

```
2001-12-06 01:00:16:000,Pacific Standard Time,-8:00,dpipe_snmp
,,DEF_ERROR,726,718,0,"Error: failed to setup SNMP session with
host rough.hp.com,port 161,comm public (table RIRRouterSystem)"
```

```
2001-12-06 01:00:16:000,Pacific Standard Time,-8:00,dpipe_snmp
,,ERROR,660,718,0,"SNMP request Error[1]. host: 134.70.65.10,
comm: public, timeout: 1000, retries: 5, port 161"
```

```
.
.
.
```

```
2001-12-06 01:00:18:000,Pacific Standard Time,-8:00,trendpm,,
DEF_ERROR,475,718,0,"No output table specified"
```

audit.log ファイル

audit.log ファイルは、バックエンドプロセスの開始時刻、終了時刻、および時間を記録しています。プロセスが始まると、ファイルは **Pid**(プロセス識別番号) を割り当てます。その後、プロセスがいつ終了したかを記録してそのプロセスの **Pid** が終了したことを示します。

ログファイルのフォーマット

ログファイル内のすべてのエントリは以下のように、CSV(カンマ区切りの値)フォーマットです。

message type、*program name*、*pid*、*ppid*、*start date-stamp*、*start time-stamp*、*end date-stamp*、*end time-stamp*、*duration in seconds*、*command line arguments*

Message Type

message type フィールドは、以下のいずれかです。

- dtsys001

これはメッセージの開始を示します。

- **dtsys002**

これはメッセージの終了を示します。

したがって、アプリケーションは、開始時に **dtsys001** メッセージをログ記録し、終了時に **dtsys002** メッセージをログ記録します。

Program Name

program name フィールドは実行可能ファイルの名前です。

PID

PID フィールドは、プロセスの **id** です。

PPID

PPID フィールドは、親プロセスの **id** です。

Start Date Stamp

start date-stamp フィールドは、アプリケーションが開始された日付です。このフォーマットは以下のとおりです。

yyyymmdd

このフォーマットは、以下を表しています。

- *YYYY* は、4桁の年です。
- *MM* は、2桁の月です。
- *DD* は、2桁の日です。

Start Time Stamp

start time-stamp フィールドは、アプリケーションが開始された時刻です。このフォーマットは以下のとおりです。

hh:mm:ss

このフォーマットは、以下を表しています。

- *hh* は、2桁の時間です。
- *mm* は、2桁の分です。
- *ss* は、2桁の秒です。

End Date Stamp

end date-stamp フィールドは、アプリケーションが開始された日付です。このフィールドは、*message type* フィールドが **dtsys001** のときには空です。

このフォーマットは以下のとおりです。

yyyymmdd

このフォーマットは、以下を表しています。

- *YYYY* は、4 桁の年です。
- *MM* は、2 桁の月です。
- *DD* は、2 桁の日です。

End Time Stamp

end time-stamp フィールドは、アプリケーションが終了した時刻です。このフィールドは、*message type* フィールドが **dtsys001** のときには空です。

このフォーマットは以下のとおりです。

hh:mm:ss

このフォーマットは、以下を表しています。

- *hh* は、2 桁の時間です。
- *mm* は、2 桁の分です。
- *ss* は、2 桁の秒です。

Duration in Seconds

duration in seconds フィールドは、プロセスの実行時間です(秒単位)。このフィールドは、*message type* フィールドが **dtsys001** のときには空です。

コマンド行引数

これは、プロセスの実行時に使用されたコマンド行引数です。たとえば、以下に示す `audit.log` ファイルの行は、**mw_collect** プロセスが、`-n`(分散型ポーリング)、`-i`(収集 ID)、および `-κ`(拒否サンプル) という引数を実行時に使用したことを示しています。

```
dtsys001,mw_collect,888,1188,20031210,14:30:07,,,,"-n -i 5 -K 1"
```

▶ 上の例では、*end date-stamp*、*end time-stamp*、*duration in seconds* の各フィールドが空欄です。これは、*message type* フィールドが *dtsys001* に設定されているからです。

プロセスのコマンド行引数の詳細については、『*Performance Insight Reference Guide*』（英語）を参照してください。

metrics.log ファイル

metrics.log ファイルは、*mw_collect*、*bcp_gateway* および *trendcopy* という OVPI プログラムのアカウントリング情報を記録しています。

このログファイルのメッセージと *audit.log* ファイルのメッセージとは互いに関連しています。一般に、関連するメッセージを見つけるにはメッセージのヘッダ部分を使用します。*program name*、*PID*、および *PPID* フィールドは、*audit.log* ファイル内のメッセージと正確に一致します。*metrics.log* ファイルメッセージの *time-stamp* フィールドは、*audit.log* ファイル内のメッセージの、*start time-stamp* フィールドと *end time-stamp* フィールドとの間にあります。

ログファイルのフォーマット

ログファイル内のすべてのエントリは以下のように、CSV(カンマ区切りの値)フォーマットです。

message type、*program name*、*pid*、*ppid*、*date-stamp*、*time-stamp*、*number of objects to process*、*number of objects processed successfully*、*min*、*max*、*avg*、*object description*

▶ *object* の意味は、各プログラムによって異なります。

Message Type

message type フィールドは、以下のいずれかです。

- *dtsys003*
これはメッセージの要約です。

- dtsys004

これはメッセージの詳細です。

Program Name

program name フィールドは実行可能ファイルの名前です。

PID

PID フィールドは、プロセスの *id* です。

PPID

PPID フィールドは、親プロセスの *id* です。

Date-Stamp

date-stamp フィールドは、メッセージが生成された日付です。このフォーマットは以下のとおりです。

yyyymmdd

このフォーマットは、以下を表しています。

- *YYYY* は、4 桁の年です。
- *MM* は、2 桁の月です。
- *DD* は、2 桁の日です。

Time-Stamp

time-stamp フィールドは、メッセージが生成された時刻です。このフォーマットは以下のとおりです。

hh:mm:ss

このフォーマットは、以下を表しています。

- *hh* は、2 桁の時間です。
- *mm* は、2 桁の分です。
- *ss* は、2 桁の秒です。

Message Data

以下のフィールドはメッセージデータのフィールドと見なされます。 *number of objects to process*、 *number of objects processed successfully*、 *min*、 *max*、 *avg*、 *object description* です。これらのメッセージは、使用しているプログラム (*mw_collect*、 *bcp_gateway*、または *trendcopy*) に応じて異なります。これらのメッセージの説明は、それぞれ 512 ページの「*mw_collect* メッセージ」、513 ページの「*bcp_gateway* メッセージ」、または 514 ページの「*trendcopy* メッセージ」を参照してください。

Object Description

object description は、以下に示すようにメッセージタイプに応じて異なります。

- *dtsys003*

動作対象とするオブジェクトが一意に定まらない状態で実行可能ファイルが呼び出されたとき、 *object description* の値は、 *a11* です。オブジェクトを一意に指定した場合は、オブジェクトの名前はオブジェクト名そのものです。

- *dtsys004*

object description の値は、そのオブジェクトそのものです。

mw_collect メッセージ

この項では、使用中のプログラムが *mw_collect* であるときに表示されるメッセージデータについて説明します。この場合、 *object* は収集ノードです。*mw_collect* プログラムは、 *dtsys003* メッセージだけを生成します。このメッセージデータは、以下のとおりです。

- *number of objects to process*

これは、 *mw_collect* がポーリングを試みたノードの数です。

▶ これは各ノードを 1 とカウントするとは限りません。たとえば、複数のテーブルについて同じノードを収集した場合、このノードは複数回カウントされます。

- *number of objects processed successfully*

これは、正常にポーリングされたノードの数です。

正常なポーリングとは、エラー状態を生じることなく、`mw_collect` がすべてのデータを収集できたポーリングです。たとえば、ノード A に 5 つのインタフェースがあり、3 行を収集しただけで SNMP のタイムアウトが生じた場合、そのポーリングは正常でないと見なされます。

- *min*

これは、最小収集時間であり、コレクタの子が実行された最小時間 (秒) です。

- *max*

これは、最大収集時間であり、コレクタの子が実行された最大時間 (秒) です。

- *avg*

これは、平均収集時間であり、コレクタの子が実行された平均時間 (秒) です。

- *object description*

これは、`all` でなければなりません (`mw_collect` プログラムが `-h` オプションで実行された場合を除く)。`mw_collect` コマンド行オプションの詳細は、『*Performance Insight Reference Guide*』(英語)を参照してください。

bcp_gateway メッセージ

この項では、使用中のプログラムが `bcp_gateway` であるときに表示されるメッセージデータについて説明します。この場合、*object* はデータテーブル内の行です。`bcp_gateway` プログラムは、`dtsys003` メッセージだけを生成します。



テーブルをロードするために `bcp_gateway` の複数インスタンスを実行した場合、テーブル/データベースの同じ組み合わせに対して複数のレコードが生成される場合があります。

このメッセージデータは、以下のとおりです。

- *number of objects to process*

これは、プログラムがロードを試みた行の数です。`bcp_gateway` コマンドが `-M` オプションを使用した場合、この値は常に 0 です。

- *number of objects processed successfully*

これは、正常にロードされた行の数です。

- *min*

これは、固定長のトランザクションをロードした最小時間 (秒) です。

- *max*

これは、固定長のトランザクションをロードした最大時間 (秒) です。

- *avg*

これは、固定長のトランザクションをロードした平均時間 (秒) です。

- *object description*

これは、オブジェクトのテーブル名/データベース名の名前です。



bcp_gateway によってロードされた行の総数がトランザクションサイズ (1000 行) よりも少なかった場合、*min*、*max*、*avg* の時間は、この行数のロードを反映したものになります。**bcp_gateway** によってロードされた行の総数がトランザクションサイズよりも大きかった場合、最後のセットがトランザクションサイズよりも小さければ、*min*、*max*、および *avg* の計算時に、最後のセットまたは行が含まれない場合があります。

trendcopy メッセージ

この項では、使用中のプログラムが **bcp_gateway** であるときに表示されるメッセージデータについて説明します。**dtsys003** メッセージの場合、*object* は、各データとプロパティテーブル内でコピーされた行です。**trendcopy** プログラムは、**dtsys003** と **dtsys004** メッセージを生成します。

dtsys004 メッセージは、特定のテーブル名を指定せずに **trendcopy** を起動したときにのみ記録されます。この場合、各プロパティテーブル/データテーブルのコピーごとに **dtsys004** メッセージが生成されます。

このメッセージデータは、以下のとおりです。

- *number of objects to process*

フィールドが欠落している場合は、カンマ "," が代わりに表示されます。

- *number of objects processed successfully*

これは、コピーされた行の総数です。データテーブルとプロパティテーブルが含まれています。

- *min*

これは、固定長のトランザクションをロードした最小時間 (秒) です。これには、キーテーブルとデータテーブルの処理時間が含まれています。

- *max*

これは、固定長のトランザクションをロードした最大時間 (秒) です。

- *avg*

これは、固定長のトランザクションをロードした平均時間 (秒) です。

- *object description*

テーブル名が指定されなかった場合は、`all` です。この場合、テーブル名は以下のように記録されます。

— データだけのコピーの場合、データテーブル名が記録されます。

— プロパティだけのコピーの場合、プロパティテーブル名が記録されます。

— 両方の場合、データテーブル名とプロパティテーブル名が記録されます。



trendcopy によってコピーされた行の総数が、トランザクションサイズよりも小さかった場合、最小、最大、および平均の時間の値は、この行数のロードを反映したものになります。**trendcopy** によってロードおよびコピーされた行の総数がトランザクションサイズよりも大きかった場合、最後のセットがトランザクションサイズよりも小さければ、最小、最大、および平均の計算時に、最後のセットまたは行が含まれない場合があります。

builder.log ファイルと viewer.log ファイル

レポートビルダまたはレポートビューアを使用しているときのレポートの問題の原因を見つけるには、それぞれのログファイル (`builder.log` および `viewer.log`) を確認します。**Web** アクセスサーバーをデバッグモードに設定しているとき、ログファイルは、レポートをロードしたときに **SQL** ステートメントを生成します。

Web アクセスサーバーをデバッグモードで実行するには、以下の手順に従います。

- 1 レポートビルダまたはレポートビューアの [編集] メニューから [オプション] を選択します。[オプション] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [ログ] タブを選択します。
- 3 [デバッグトレースの有効化] オプションをクリックして選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

以下を実行することで、アプリケーション内でログファイルメッセージを確認できます。

- レポートビルダの場合: レポートビルダの [表示] メニューから [ログファイルの表示] を選択します。

[ログビューア] ウィンドウが開きます。ログファイルの内容が表示されます。ログファイルのメッセージは種類別 (すべて、情報、警告、エラー、デバッグ) に分類されています。

ウィンドウ内のメッセージを消去するには、[ログビューア] ウィンドウを右クリックし、ショートカットメニューから [クリア] を選択します。

- レポートビルダとレポートビューアの場合: レポートビルダまたはレポートビューアの [表示] メニューから [ログ出力の表示] を選択します。

[出力ビューア] ウィンドウが開きます。ログファイルに書き込まれたとおりのログファイルメッセージが表示されます。

トラブルシューティング

この付録では、Windows および UNIX システム上で HP OpenView Performance Insight(OVPI) を使用する際に直面する問題について説明します。

OVPI クライアントアプリケーション

この項では、OVPI のクライアントアプリケーションを使用する際に起こりうる問題について説明します。

Oracle がサービス名を解決できない

OVPI アプリケーションで以下のメッセージが表示される場合があります。

```
ORA-12154: TNS: could not resolve service name
```

このエラーメッセージが出た場合、`tnsnames.ora` ファイルを編集し、OVPI を Oracle に接続するエントリーを追加する必要があります。

`tnsnames.ora` ファイルを編集するには、以下の手順に従います。

- 1 `tnsnames.ora` ファイルを見つけてテキストエディタで開きます。このファイルは `$ORACLE_HOME/network/admin` ディレクトリにあります。

- 2 ファイルの末尾に、以下のフォーマットのエントリーを追加します。

```
sid=  
(DESCRIPTION=  
(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)  
(HOST=host)(PORT=port)))  
(CONNECT_DATA=(SID=sid)))
```

ここで、

sid は、Oracle SID の値です。

host は、ローカルシステムのホスト名です。

port は、リスナープロセスのポート番号です。通常は 1521 です。

たとえば、以下のエントリーは、**ovpi** という SID を作成します。これは、Oracle がインストールされているシステムを **squeaky** と指定し、ポート 1521 を Oracle リスナーのポートと指定しています。

```
ovpi=  
(DESCRIPTION=  
(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)  
(HOST=squeaky)(PORT=1521)))  
(CONNECT_DATA=(SID=ovpi)))
```

- 3 変更を保存します。
- 4 オペレーティングシステムに応じて以下のいずれかを実行することで、Oracle Listener プログラムを停止させてから起動します。

Windows の場合

- a Windows のデスクトップで [スタート] ボタンをクリックし、[設定]、[コントロール パネル] の順に選択します。[コントロール パネル] ウィンドウが表示されます。
- b [管理ツール] をダブルクリックし、次に [サービス] をダブルクリックします。[サービス] ウィンドウが開きます。
- c [Oracle TNSListener] を右クリックし、ショートカットメニューから [停止] を選択します。プロセスが正常に停止すると、[状態] 列に停止したことが表示されます。
- d [Oracle TNSListener] を右クリックし、ショートカットメニューから [開始] を選択します。

UNIX の場合

- a Oracle ユーザーとして、コマンド行で以下を入力します。

```
Isnrctl stop
```

コマンドが成功したことを示すメッセージを待ちます。

- b コマンド行で以下を入力します。

```
Isnrctl start
```

- c OVPI データベースの SID 名のサービスが開始されたことを確認します。

Web アクセスサーバーのナビゲーションフレームの表示

Web ブラウザで Java スクリプトをオフにしている場合は、Web アクセスサーバーのナビゲーションフレームを使用できません。

ナビゲーションフレームを使用するには、ブラウザに応じて以下のいずれかを実行します。

- Internet Explorer の場合

Java スクリプトをオンにするには、以下の手順に従います。

- a ブラウザの [ツール] メニューから [インターネット オプション] を選択します。 [インターネット オプション] ダイアログボックスが表示されます。
- b [セキュリティ] タブを選択します。
- c [インターネット] アイコンをクリックし、次に [レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。 [セキュリティの設定] ウィンドウが開きます。
- d ボックスを [スクリプト] オプションまでスクロールダウンし、 [アクティブスクリプト] の [有効にする] を選択します。
- e [セキュリティの設定] ウィンドウの [OK] をクリックします。
- f [インターネットオプション] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

- Netscape Navigator の場合

Java スクリプトをオンにするには、以下の手順に従います。

- a ブラウザの [編集] メニューから [設定] を選択します。[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- b [詳細] までスクロールダウンし、[スクリプト] と [プラグイン] をクリックします。
- c [JavaScript を有効にする] ボックスで [Navigator] チェックボックスをオンにします。
- d [設定] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

website.log ファイルに Java スタックトレースのエントリーがある

website.log ファイルに、`SSLPeerUnverifiedException` によって生じた java スタックトレースのエントリーが含まれている場合、おそらくプロキシを含んだネットワークで Web アクセスサーバーを使用したと思われます。

Web アクセスサーバーの表示に使用した Web ブラウザが、直接インターネット接続ではなく HTTP/HTTPS プロキシサーバーに設定されている場合、プロキシサーバーは、Web アクセスサーバーと Web ブラウザとの間の初期通信中に接続をリセットするおそれがあり、これによってエラーが生じます。

このエラーは無視できます。Web ブラウザと Web アクセスサーバーはネゴシエーションを再開し、SSL 接続は維持されるからです。

Web アクセスサーバーのヘルプが正しく表示されない

Internet Explorer は HTML ページ上の一部のイメージを表示しないことがあります。これは通常、SSL を使用して Web アクセスサーバーに接続するときに生じます。Internet Explorer は Web アクセスサーバーのナビゲーションパネルで、「+」と「-」のアイコンや、フォルダーとファイルのアイコンを表示せず、イメージが欠落したプレースホルダーを表示することがあります。

これが発生した場合、この欠落したアイコンを右クリックし、[画像の表示] を選択します。これによってアイコンがロードされ表示されるようになります。

数字

- 32 ビットカウンタ , 483
- 64 ビットカウンタ , 138, 483, 484, 489
- 64 ビットカウンタ、より高精度の値 , 483

A

- audit.log ファイル , 501

B

- builder.log ファイル , 501

C

- console.log ファイル , 501

D

- dbmaint.log ファイル , 501

E

- ee_collect, 122

G

- groupimport ユーティリティ , 392

H

- High Part、定義 , 484

I

- .ini ファイル、保存 , 87
- install.log ファイル , 502
- ISM(Intimate Shared Memory), 458

J

- [Java の設定]
 - フォルダー , 386
 - 変更 , 415

L

- Low Part、定義 , 484

M

- maxusers パラメータ , 460
- metrics.log ファイル , 502
- MIB
 - アンロード , 475
 - オブジェクト値の設定 , 481
 - オブジェクト、不適切なタイプ , 471
 - 管理対象オブジェクト , 482

収集テーブル, 482
説明, 461
ロード, 470

MIB ブラウザ, 461 - 499

[アクション]メニュー, 469
インタフェース、説明, 464
起動, 462
コミュニティ文字列の変更, 477
[ヘルプ]メニュー, 469
メニューオプション, 467

mw_collect, 122

O

ORA-12154

TNS
サービス名を解決できない, 517

OVPI

機能, 19 - 27

ovpi_uninstall.log ファイル, 502

OVPI データベース

再配置後のチェックリスト, 68

OVPI の調整, 455

R

report.log ファイル, 502

rmon_collect, 122

S

SNMPv3

データの収集, 44

SNMP 検出

起動, 92
機能, 91

SNMP プロファイル

管理, 179

削除, 181

作成, 179

編集, 180

Solaris, 458

SSL

keystore パスワード, 438
インポート、デジタル証明書, 439
デジタル証明書, 436
無効化, 439

[SSL サービス] ページ、説明, 384

Sybase

RAM, 456

[System] フォルダー, 390

T

tempdb データベース

サイズ設定のガイドライン, 253

trend.log ファイル, 58, 502

trendtimer

停止
Windows での, 67

U

URL

配布, 338

[URL の配付] ページ, 390

userimport ユーティリティ, 392

[Users] フォルダー, 391

[Users] フォルダー, 説明, 382

V

viewer.log ファイル, 502

W

website.log ファイル , 502, 520

Web アクセスサーバー

[カタログ] リンク , 380, 389

[管理] リンク , 380, 381

結果フレームのオプションの変更 , 429

設定の変更 , 432

タイトルの変更 , 423

ナビゲーションフレームのオプションの
変更 , 428

ユーザーアカウント , 391

リンクバーのオプションの変更 , 424

リンクバーの別名の変更 , 426

レポートの配布 , 430

[Web アクセスサーバー] ページ、説明 , 383,
386

Windows

サービスの開始または停止 , 66

あ

[アクション] メニュー

MIB ブラウザ , 469

インポート

グループ , 219

ノード , 172, 198

ユーザーとグループ , 392

ウィンドウ

カスケード表示 , 85

縦に並べて表示 , 85

並べて表示 , 85

横に並べて表示 , 85

ウィンドウのカスケード表示 , 85

[ウィンドウ] メニュー

管理コンソール , 85

ウィンドウを並べて表示 , 85

縦方向 , 85

横方向 , 85

エクスポート

グループ , 219

テーブルデータ , 284

ノード , 198

オブジェクト

「管理対象オブジェクト」も参照

オブジェクトマネージャ , 189

起動 , 190

ビューの変更 , 192

ログの表示 , 194

「管理対象オブジェクト」も参照

オペレーティングシステム

パフォーマンスに対する影響 , 460

オンラインマニュアル

表示 , 89

か

[外部キー] , 276

カウンタ

64 ビット , 483

カタログマネージャ

URL の配布 , 338

新しいディレクトリの作成 , 339

起動 , 328

説明 , 327

ディレクトリの移動 , 339

ディレクトリのコピー , 340

[配布済み項目] カタログ、説明 , 327
変更

URL プロパティ , 342

レポートプロパティ , 342

[リンク] カタログ、説明 , 327

レポートの移動 , 339

レポートのコピー , 340

- レポートの配布, 330
- レポートの配布解除, 336
- レポートリンク, 327
- [カタログ] リンク, 380, 389
 - [System] フォルダー, 390
 - [URL の配付] ページ, 390
 - [Users] フォルダー, 391
- カテゴリ
 - グループ化, 206
- 間隔、ポーリング, 153
- 監視
 - データベースの使用状況, 263
- 管理
 - SNMP プロファイル, 179
 - コミュニティ文字列プロファイル, 176
 - データパイプのインストール, 182
 - ノード, 168
- 管理コンソール
 - 起動, 79
 - 終了, 83
 - ツールバー, 86
 - メニューバー, 82 - 85
 - [ウィンドウ] メニュー, 85
 - [ツール] メニュー, 84
 - [ファイル] メニュー, 83
 - [ヘルプ] メニュー, 85
 - [編集] メニュー, 83
 - ログオン, 80
- 管理者、権限のリセット, 435
- 管理対象オブジェクト
 - オブジェクトツリーの変更, 195
 - 関連付けられたフォーム, 191
 - 関連付けられたレポート, 191
 - 検索, 193
 - 作成, 200
 - 定義, 203
- データベース内のデータの変更, 199
- ビュー, 192
- 表示, 190
- プロパティ, 189
 - 「オブジェクトマネージャ」も参照
 - 「オブジェクト」も参照
 - 「グループマネージャ」も参照
- [管理] リンク, 380, 381
 - [Java の設定] フォルダー, 386
 - [サービスの構成] フォルダー, 383
 - [診断] フォルダー, 384
 - [ユーザーアカウント] フォルダー, 382
 - [ログファイル] フォルダー, 385
- キーマップテーブル, 275
- 期間
 - 期間テーブル, 323
- 期間テーブル, 323
 - 保持期間の設定, 323
- 起動
 - カタログマネージャ, 328
 - 管理コンソール, 79
 - [パッケージマネージャ]
 - Performance Insight から, 105
 - Windows デスクトップから, 105
 - コマンド行, 106
- 共通インデックス, 484
- 共有メモリー, 457
 - ISM(Intimate Shared Memory) 機能, 458
 - ロック, 458
- グループ
 - インポート, 219
 - エクスポート, 219
 - 管理, 400

- 管理対象オブジェクト
 - タイプ, 204
 - 定義, 203
 - 内容の表示, 220
 - 編集, 221
 - レポートビルダでの使用, 230
 - 検索, 209
 - 削除, 223
 - 派生
 - 作成, 212
 - 定義, 204
 - フォルダー
 - 作成, 217
 - 定義, 204
 - プロパティ
 - 作成, 214
 - 定義, 204
 - ユーザーアカウント
 - 削除, 405
 - 作成, 401
 - 定義, 41, 401
 - フィルター, 43, 61, 62, 404, 406, 407, 408
 - 変更, 60, 405
 - 列挙リスト
 - 作成, 211
 - 定義, 204
 - [グループ]フォルダー, 383
 - グループマネージャ, 203
 - 起動, 206
 - グループ化の方法, 205
 - グループタイプ, 204
 - グループの削除, 223
 - 表示オプション, 224
 - ポーリングポリシーの管理, 225
 - ログの表示, 223
 - 結果フレームのオプション, 429
 - 検索
 - オブジェクト, 193
 - グループ, 209
 - テーブルエイリアス名, 264
 - ノード, 169
 - 検出、ノード
 - SNMP 検出ウィザードの使用, 92
 - 更新
 - ポーリングポリシールIST, 126
 - コミュニティ文字列
 - 値の変更, 477
 - コミュニティ文字列プロファイル
 - 管理, 176
 - 削除, 178
 - 作成, 177
 - 編集, 177
 - さ
 - サーバー
 - 切断, 83
 - 変更, 83
 - サーバーの変更
 - メニューオプション, 83
 - サービス
 - UNIX の場合
 - 起動, 67
 - Windows の場合
 - 開始または停止, 66
 - ステータスの確認, 66
 - ステータスの変更, 66
 - 設定の変更, 431
 - [サービスの構成]フォルダー, 383
 - 最大カウント, 484
 - 最大列, 484
 - 最大列数, 304
-

サイトのオプション

変更, 423

[サイトの外観]フォルダー, 423

削除

SNMP プロファイル, 181

コミュニティ文字列プロファイル, 178

データパイプのインストール, 184

ノード, 171

ビュー, 422

ポーリングポリシー, 156

作成

SNMP プロファイル, 179

カスタム制約, 297

管理対象オブジェクト, 200

コミュニティ文字列プロファイル, 177

制約, 295 - 298

ノード, 169

派生グループ, 212

ビュー, 420

フォルダーグループ, 217

プロパティグループ, 214

ポーリンググループ, 159

同じタイプのノード, 160

同じビューにあるノード, 161

タイプとビュー, 162

単一のノード, 159

特定のインスタンス, 164

ルールベースの, 164

列挙リストグループ, 211

差分データ、定義, 24

システムマネージャ, 441 - 449

システム設定の変更, 445

システムの削除, 449

システムの追加, 442

設定の変更, 436

[システムマネージャ] ページ、説明, 384

実行頻度、定義, 323

指定インスタンスポーリング, 123

収集データテーブル

定義, 304

収集テーブル

共通インデックス, 484

最大幅, 304, 484

最大列, 484

最大列数, 304

定義, 482

必要なテーブル, 482

出力

表示

オブジェクトマネージャ, 195

使用ピーク値、上書き, 262

情報のソート, 125

[診断]フォルダー, 384

[診断]ページ、説明, 385

スワップファイルのサイズ, 457

制約

作成, 295 - 298

定義, 295

変更, 299

[設定] ページ、説明, 385

セットアップ、プロキシサーバー, 69

ソート

データベース情報, 264

た

タイトル、変更, 423

タイプ検出, 100

機能, 91

タイムアウト値、設定, 434

- タイムラグ
 - 設定, 322
 - 定義, 322
 - 「タイムラグ」を参照
 - タスク(フォーム), 191
 - チェックリスト、再配置後, 68
 - 追加
 - ノード, 300
 - プロパティテーブルの説明, 275
 - ツールバー
 - 管理コンソール, 86
 - [ツール]メニュー
 - 管理コンソール, 84
 - ディスクドライブ
 - パフォーマンスに対する影響, 458, 459
 - データ収集
 - 説明, 21
 - 定義, 20
 - データ処理
 - 説明, 24
 - 定義, 20
 - データセットレポート、定義, 26
 - データテーブル
 - 作成, 304
 - 収集、定義, 304
 - 説明の追加, 271, 275
 - 定義, 24
 - データの表示, 278
 - デフォルトの設定, 322
 - 保持日数, 267
 - 「プロパティテーブル」も参照
 - データテーブルの作成, 304
 - データテーブル、表示
 - カテゴリ別, 265
 - タイプ別, 265
 - データパイプ, 104
 - プロパティインポート, 23
 - データパイプのインストール
 - 管理, 182
 - 削除, 184
 - 作成, 182
 - 編集, 183
 - データベース
 - サイズ設定のガイドライン, 253
 - 使用ピーク値、上書き, 262
 - データ収集の停止, 262
 - 判断
 - 使用可能領域, 263
 - フォーム、変更のための使用, 199
 - 保持日数, 267
 - 「テーブルマネージャ」も参照
 - データベースサーバー
 - 変更, 87
 - データベース情報
 - 表示, 261
 - データベース統計
 - 表示, 262
 - データベースの使用状況
 - 監視, 263
 - データレポート
 - 定義, 20
 - テーブル
 - キーマップ, 275
 - 期間, 323
 - グループメンバー, 275
 - データ、収集, 304
 - 列サイズ、変更, 264
 - 「データテーブル」も参照
 - 「プロパティテーブル」も参照
 - テーブルエイリアス名
 - 検索, 264
-

テーブルデータ
 エクスポート, 284

テーブルのソート基準の設定, 325

テーブルマネージャ, 259 - 326

 監視
 データベースの使用状況, 263

 起動, 260

 検索
 テーブルエイリアス名, 264

 時間タイプ, 266

 設定
 テーブルの表示スタイル, 325

 ソート
 テーブル情報, 264

 ソート規則の設定, 325

 データタイプ, 266

 データテーブル
 カテゴリ別の表示, 265

 タイプ別の表示, 265

 テーブルタイプの設定, 326

 テーブルの作成, 304

 ナビゲーション, 261

 判断
 使用可能領域, 263

 表示
 データベース情報, 261

 データベース統計, 262

 テーブル情報, 263

 プロパティテーブル, 267

 表示オプション, 324

 表示の更新, 264

 ペイン, 260

 変更
 テーブル列のサイズ, 264

 保存期間
 設定, 271

 要約タイプ, 150, 317

 「データテーブル」も参照

 「プロパティテーブル」も参照

デジタル証明書
 CSR、生成, 439

 インポート, 439

デバッグ
 有効化と無効化
 Web アクセスサーバー, 433

デフォルトの設定, 323

トラブルシューティング, 517 - 520

 Web アクセスサーバー
 website.log に java スタックトレース
 のエントリーがある, 520

 ナビゲーションフレームを表示できない, 519

 ヘルプが正しく表示されない, 520

 サービス名のエラーを解決できない, 517

 トランザクションログ
 サイズ設定のガイドライン, 253

な

内部テーブル
 「データテーブル」を参照

ナビゲーションフレームのオプション, 428

認証
 設定の変更, 435

 設定方法, 73, 434

ノード
 インポート, 172, 198

 エクスポート, 198

 カスタムグループ, 153

 管理, 168

 グループ化, 153, 205

 検索, 169

 削除, 171

 作成, 169

 追加, 300

定義, 461
特性, 168
編集, 171

は

- 配布ウィザード, 330 - 338
 - レポートの配布解除, 336
- 配布解除
 - ウィザードの使用, 336
- パスワード
 - 期限の設定, 40, 396
 - 有効期限ルールの設定, 392 - 394
- [パスワードルール] ページ、説明, 382
- 派生グループ
 - 作成, 212
- パッケージ
 - アンインストール, 115
 - 依存関係, 105
 - インストール, 107
- パッケージのアンインストール, 115
- パッケージのインストール, 107
- [パッケージマネージャ], 103
 - 起動
 - Performance Insight から, 105
 - Windows デスクトップから, 105
 - コマンド行から, 106
 - パッケージのアンインストール, 115
- パフォーマンス
 - 影響する要因, 455
 - オペレーティングシステム, 460
 - 共有メモリー, 457
 - スワップファイルのサイズ, 457
 - ディスクドライブ I/O, 458
 - ディスクドライブの量, 459
 - ハードウェアでの検討事項, 455
 - 保持期間の影響, 324
 - メモリーのガイドライン, 457
- パフォーマンスに対するハードウェアの影響, 455
- パフォーマンスの調整, 455
- ビュー
 - 削除, 422
 - 作成, 420
 - 定義, 387, 419
 - ノードグループ, 153
 - 編集, 422
- ビューの編集, 422
- 表示
 - オンラインマニュアル, 89
 - データテーブル, 265
 - データベース情報, 261
 - データベース統計, 262
 - プロパティテーブル, 267
 - ログ情報, 223
- 表示オプション
 - グループマネージャ, 224
 - テーブルマネージャ, 324
- 表示スタイル、テーブルの設定, 325
- [ファイル] メニュー
 - 管理コンソール, 83
- フォーム
 - オブジェクトマネージャでの使用, 199
 - 管理対象オブジェクトに関連付けられた, 191
 - 定義, 190
- フォルダーグループ
 - 作成, 217
- [フォルダの一意性値], 195
- フラットファイル
 - 定義, 20

- データの取得, 23
 - プロキシサーバー、セットアップ, 69
 - プロパティインポートデータパイプ, 23
 - プロパティグループ
 - 作成, 214
 - プロパティテーブル
 - 値の変更, 184
 - キーマップテーブル, 275
 - 最大カウント, 496
 - 最大列, 484, 496
 - 最大列数, 147, 304, 314
 - 作成, 319
 - 詳細の表示, 274
 - 説明の追加, 275
 - デフォルト列, 147, 314, 496
 - 表示, 267
 - 列数, 147, 314
 - 「データテーブル」も参照
 - ヘッドレスサポート
 - 無効化, 434
 - 有効化, 434
 - 別名、変更, 426
 - [ヘルプ]メニュー
 - MIB ブラウザ, 469
 - 管理コンソール, 85
 - 変更
 - 制約, 299
 - データベースサーバー, 87
 - テーブル列のサイズ, 264
 - プロパティテーブル, 184
 - 編集
 - SNMP プロファイル, 180
 - グループ, 221
 - コミュニティ文字列プロファイル, 177
 - データパイプのインストール, 183
 - ポーリングポリシー, 154
 - [編集]メニュー
 - 管理コンソール, 83
 - ポート番号
 - Web アクセスサーバー, 432
 - ポーリング
 - 間隔, 153
 - 頻度, 122
 - 目的, 123
 - ポーリンググループ
 - 管理, 157
 - 作成, 159
 - 同じタイプのノード, 160
 - 同じビューノードにあるノード, 161
 - タイプとビュー, 162
 - 単一のノード, 159
 - 特定のインスタンス, 164
 - ルールベースの, 164
 - 編集, 167
 - ポーリンググループの編集, 167
 - ポーリングポリシー
 - グループ, 225
 - 削除, 229
 - 作成, 225
 - 変更, 228
 - 削除, 156
 - 作成, 151
 - 表示, 127
 - 編集, 154
- ポーリングポリシーマネージャ
 - 間隔, 153
 - 起動, 124
 - 機能の表示, 125
 - 情報のソート, 125
 - ノードのインポート, 172
 - ポリシーリストの更新, 126

列のサイズの変更, 126
 保持期間
 設定, 322
 定義, 322
 保持期間、定義, 25
 保持日数
 データテーブル, 267

保存
 .ini ファイル, 87
 ユーザー設定, 87
 保存期間
 設定, 271

ま

[メールサーバー] ページ、説明, 384
 メニューオプション、MIB ブラウザ, 467
 メニューバー
 管理コンソールの, 82 - 85
 メモリー
 ガイドライン, 457
 共有, 457

や

ユーザーアカウント, 391
 削除, 399
 作成, 394
 電子メール, 399
 電子メールの送信, 399
 パスワードの期限の設定, 40, 396
 パスワードの有効期限ルール, 392 - 394
 変更, 398
 ロック, 397
 [ユーザーアカウント] フォルダー, 382
 ユーザー設定

保存, 87
 ユーティリティ
 groupimport, 392
 userimport, 392
 ユーザーとグループのインポート, 392
 要約、テーブル, 150, 317

ら

履歴単位
 設定, 323
 定義, 323
 リンク
 レポートからアプリケーション, 356
 リンクバー
 オプションの変更, 424
 別名の変更, 426
 列カウント, 496
 列挙リストグループ
 作成, 211
 列数, 304
 列のサイズ、変更, 126
 [レベルあたりのツリーノード数値], 195
 レポート
 管理対象オブジェクト, 191
 デモパッケージ, 104
 配布, 430
 配布解除, 336
 ファイルの種類, 26
 有効化, 430
 レポートの設定
 変更, 416
 レポートの配布, 330
 複数の Web アクセスサーバーへの, 110
 レポート、配布, 330

- レポートバック , 104
 - 準備 , 23
- レポートビルダ
 - 制約の作成 , 295 - 298
- レポートファイル、定義 , 26
- レポートリンク
 - インポート , 375
 - エクスポート , 375
 - 作成 , 347 - 369
 - 開く , 369
 - レポートから URL へ、作成 , 362
 - レポートからアプリケーション、作成 , 356
 - レポートからレポート、作成 , 347
- レポートリンク、説明 , 327
- レルム名、Web アクセスサーバー , 432
- ログオン
 - 管理コンソール , 80
- ログ記録、有効化と無効化
 - Web アクセスサーバー , 433
- ログ情報
 - 表示 , 223
- ログファイル , 501 - 516
 - audit.log, 501
 - builder.log, 501
 - console.log, 501
 - dbmaint.log, 501
 - install.log, 502
 - metrics.log, 502
 - ovpi_uninstall.log, 502
 - report.log, 502
 - trend.log, 58, 502
 - viewer.log, 502
 - website.log, 502, 520
 - 設定の変更 , 412
 - の名称 , 501
 - の場所 , 501
 - 表示 , 414, 503
 - フォーマット , 503 - 506
 - 例 , 506
- [ログファイル] フォルダ , 385
- ロック
 - ユーザーアカウント , 397